



PROG

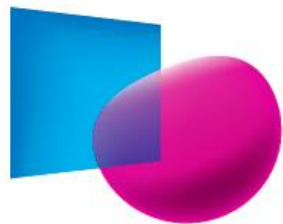
PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

北翔大学 御中

基礎力測定テスト

PROG 全体傾向報告書 (2019)

2020.03
株式会社リアセック



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

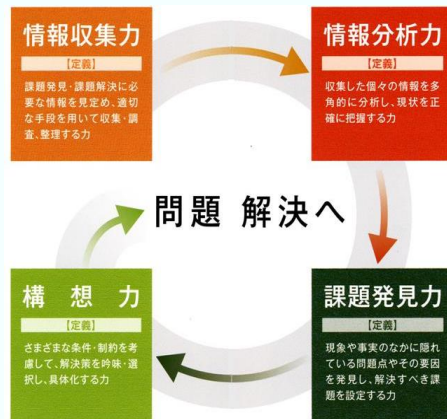
ジェネリックスキル アセスメント PROGについて

- 「PROG」とは、社会で求められている能力（ジェネリックスキル）を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメントテストです。

PROGテストで測定している能力要素

※リテラシーの測定方法

- ・単なる知識の定着ではなく、知識を実践的に活用する力を測るため、現実的な場面を想定したオリジナル問題について、最適解を求めます。
- ・測定する能力は、問題解決のプロセスに必要な以下の4要素です。



リテラシー

知識を活用して課題を解決する力
(≒思考)

- ・ 情報収集力
- ・ 情報分析力
(言語処理力、非言語処理力)
- ・ 課題発見力
- ・ 構想力

コンピテンシー

経験を積むことで身についた行動特性
(≒態度、技能)

- ・ 対人基礎力
(親和力、協働力、統率力)
- ・ 対自己基礎力
(感情制御力、自信創出力、行動持続力)
- ・ 対課題基礎力
(課題発見力、計画立案力、実践力)

※コンピテンシーの測定方法

- ・ 普段の行動特性について、どれが正解と決められない質問を多数出題し、実際に社会で活躍する若手社会人とどれだけ近い回答をしたかにより、判定します。
- ・ 測定する能力は、以下の要素です。

PROGのコンピテンシー (リクルートと共同定義した基礎力)		内容	構成要素
対課題基礎力	課題発見力	問題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	情報収集・本質理解・原因分析 など
	計画立案力	問題解決のための効果的な計画を立てる	目標設定・シナリオ構築・計画評価・リスク分析 など
	実践力	効果的な計画に沿った実践行動をとる	実践行動・修正・調整・検証・改善 など
対人基礎力	親和力	円満な人間関係を築く	親しみ易さ・気配り・対人興味・多様性理解・人間形成 など
	協働力	協力的に仕事を進める	役割理解・連携行動・相互支援・相談・指導・他者の動機付け など
	統率力	場をよみ、目標に向かって組織を動かす	意見を主張する・創造的な計画・意見の調整・交渉・説得 など
対自己基礎力	感情制御力	気持ちの揺れをコントロールする	セルフアウェアネス・ストレスコーピング・ストレスマネジメント など
	自信創出力	ポジティブな考え方やモチベーションを維持する	独自性理解・自己効力感・実効性・機会による自己変革 など
	行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける(学習行動を含む)	主体的行動・完遂・良い行動の習慣化 など

構成概念について

■ 社会ニーズを網羅した設問項目

2000年以降に実施された9種類の社会ニーズアンケートで収集した全407の項目をリクルートワークス研究所と協力して「社会人として成果をあげるために必要な要素」として整理しました。多様な領域を網羅的に測定している為、大学独自で定義するジェネリックスキルとの対応付けも行い易いです。

大阪におけるキャリア教育 (大阪商工会議所)	若者が自立できる社会へ (経済同友会)	企業が求める人材の能力など に関する調査(厚生労働省)	人材ニーズ調査 (経済産業省)
摩擦や競争を避けず 自分の考え・意見を 伝える	協調性	自分とは異なる考え を理解する能力	先入観を持たずに相 手の話を受け止め、 信頼構築に役立て ることができる
人に関心があり 世代や価値観を 越えてコミュニケー ションする	環境適応力	誠実さ	自分の所属する組 織・チーム全体の業 績や成長を意識した 行動ができる
組織の一員として の役割を果たす	忍耐力	自分の意見をはっき りと主張すること	立場や状況に応じて 自分の感情をコント ロールし、ストレスや プレッシャーに負けず に行動できる
目標を高く掲げて 誠実に努力して 達成している	責任感	リーダーシップを発揮 すること	現状に満足せず、継 続的に学習し、自ら を高めてゆく
変化にスピーディ に対応する	課題発見能力	自分の責任で決定 を下す能力	
	問題解決能力	自発性・学習能力	
	チャレンジ精神	情報やアイデアを収 集し整理する能力	
⋮	⋮	⋮	



領域	構成要素
問題解決力	情報収集力 幅広い視点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力
	情報分析力 事実・情報を思い込みや憶測でなく客観的にかつ多角的に整理・分析し、それらを統合した隠れた構造を捉え、本質を見極める力(言語・数的処理能力含む)
	課題発見力 様々な角度と広い視野から現象や事象を捉え、背景に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力
	構想力 様々な条件や制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクや対処方法を構想する力

リテラシー
(受験時間 45分)

※コンピテンシーは、9つの構成要素の下位に33の項目があります。

コンピテンシー
(受験時間 40分)

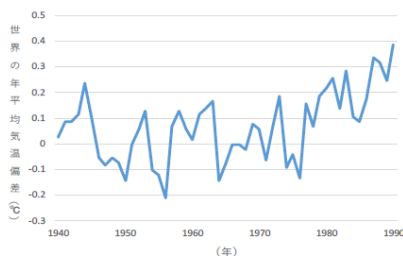
領域	構成要素
対人基礎力 他の人と信頼を築き、チームとして動かす力	親和力 人に興味を持ち、共感・信頼する力
	協働力 役割を理解し、相互に助け合う力
	統率力 意見を主張し、チームを高める力
對自己基礎力 自分の感情ややる気をコントロールする力	感情制御力 自分の感情を適切に制御する力
	自信創出力 自分を知り、自信を引き出す力
	行動持続力 主体的に取り組み、完遂する力
対課題基礎力 課題解決に向けた行動を考え起こす力	課題発見力 情報を集め、本質に迫る力
	計画立案力 目標を設定し、計画を立てる力
	実践力 考えを行動に移し、振り返る力

■設問の工夫

複数の知識を総合して、与えられた条件のもとで、妥当解を選択する問題。知識の活用力を見ていきます（一部、言語、非言語の処理力の問題含）。

～情報分析力の設問サンプル～

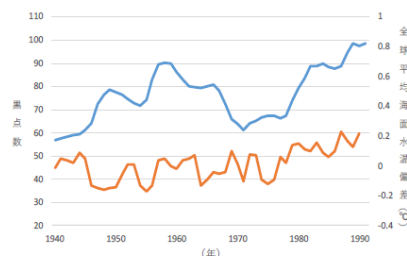
Aさんは地球温暖化が二酸化炭素濃度の上昇と密接に関連していることを学校で習い、興味を持った。インターネットで2つの関連性を調べていたところ、図1、図2のグラフを発見し、注目した。Aさんが図1、図2に注目したのはどのような点であったと思われるか。後の①～⑤のうちから1つ選べ。



【図1】世界の平均気温の変動（地表）

* 図1：縦軸は1951～1960年の平均値をゼロとした気温のずれ（°C）

〔出所：気象庁 世界の年平均気温偏差（°C）〕



【図2】太陽黒点数の変化（上）と
全球平均海面水温の変化（下）

* 図2：縦軸（左）は黒点の移動平均（11年）の数

縦軸（右）は1951～1960年の平均値をゼロとした気温のずれ（°C）

〔出所：（上）国立天文台 黒点相対数 （下）気象庁 全休の海面水温の変動〕

* 太陽黒点：太陽表面を観測したときに黒い点のように見える部分。周りの太陽表面温度より低いためにみられる。

- ① 地表の平均気温変動と二酸化炭素濃度変化には関連があるのではないか
- ② 二酸化炭素濃度変化と太陽黒点数変動には関連があるのではないか
- ③ 地表の平均気温変動と太陽黒点数変動には関連があるのではないか
- ④ 地表の平均気温変動と平均海水温偏差には関連があるのではないか
- ⑤ 平均海水温偏差と二酸化炭素濃度変化には関連があるのではないか

問題の特徴

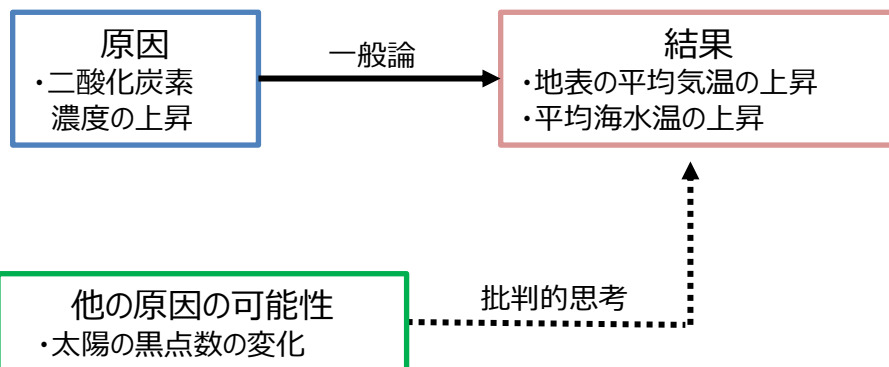
事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に情報を整理し、論理的に思考できるかを確認する。

問題例では地球温暖化と二酸化炭素濃度の関連性を批判的に考えることができるかどうかを問う問題である。

考え方のポイント

批判的思考とは物事の結論を導く過程において、「なぜ」「本当にそうなのか」と批判的に問うことで納得のいく結論に到達するための思考法である。

問題例では一般的に因果関係があると言われている地球温暖化（結果）と二酸化炭素濃度（原因）の関連性を鵜呑みにするのではなく、「他の原因の可能性」について考えることができるかを問っている。各グラフの本質を理解し、結果、原因、他の原因に整理できるかが解答のポイントとなる。



■設問の工夫

恣意的に回答できないよう（本音で回答せざるを得ない）、両義性のある設問を採用しています。

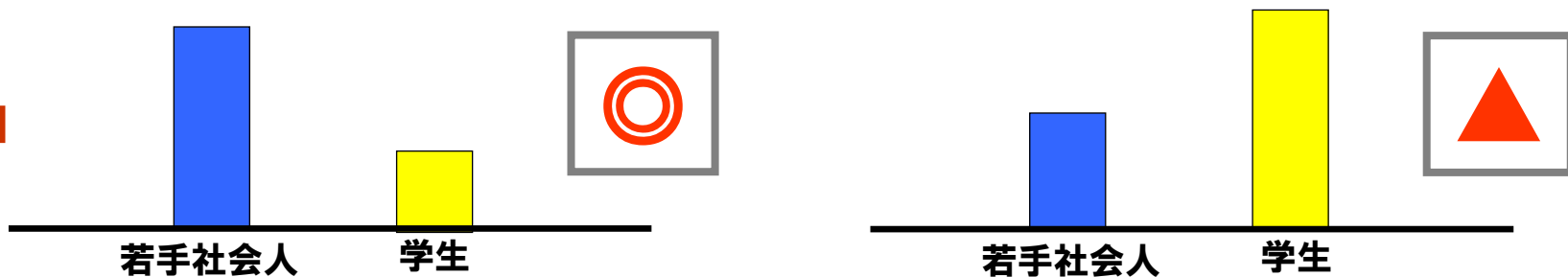
■採点の工夫

「コンピテンシー」を社会で活躍する若手社会人と比較（外的基準に基づいて採点）しています。

社会で活躍する若手社会人(4000人)と学生の回答のパターンを比較し、統計的に違いがある設問項目を抽出する(特性抽出)

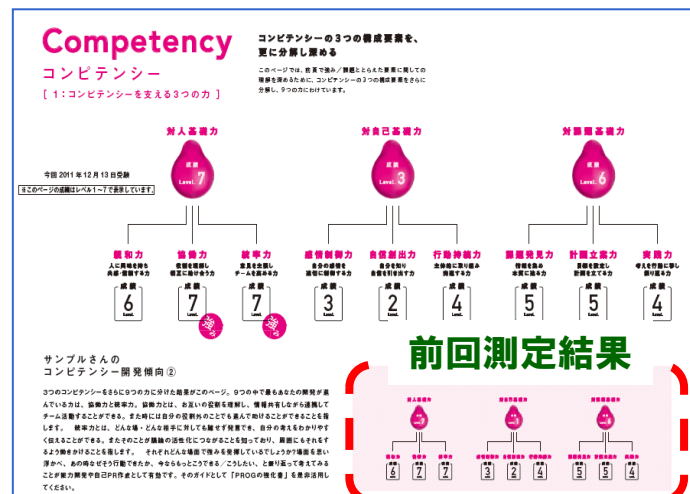
連番	A	B
1	感情に流されず、客観的な状況を分析して判断を下してきた	客観的な情報よりも、人の気持ちや人間関係に配慮して判断してきた

設問1



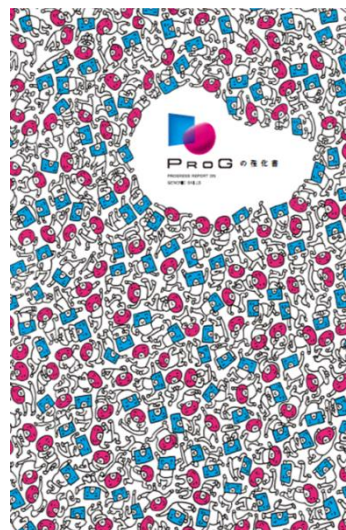
■学生向け 診断結果

学生のジェネリックスキルを最大40の項目にて提示。
経年受験の場合は、前回の測定結果も提示し、成長を確認できます。



■能力開発ハ ンドブック

今後の学生生活でジェネリックスキルを醸成させる方法をたくさんアドバイスを含め、解説しています。ワークシートも付いており、3年生向けには、測定結果から分かった自己の強みを自己PRに繋げていきます。



協働性UP [10のアドバイス]

- 1. 自分の役割を考える** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
ゼミやサークル、バイト、ボランティアなど、自分が所属する組織の中での自分の役割を紙に書き出してみよう。キミが担っていることは、組織にどんな貢献をしているのかを考えてみるのだ。また、仲間ひとりひとりについても同じように、それぞれの役割を書き出してみ、本人たちにも考えを聞いてみよう。
- 2. チームワークの原則を知る** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
チームワークを上手に行っていくルールがある。たとえば、「指示待ちの行動をとらないで、積極的に自分の役割を担う」「自分の役割と責任の範囲を知る」「雑談を避けて、チームメンバー間のコミュニケーションをとる」「チームメンバーをよく知り、理解するよう努める」「ひとりよがりな行動をとらない」といったことだ。チームに参加するときは、これらを頭に置いておこう。
- 3. チームの決定に納得がいけないときには、納得できるまで話す** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
自分の意見とは違う決定がチームでされたときに、いやいやや取り繕んでしまったり、手を引いてしまうようなことはないだろうか？ もし、そんなことがまたあったら、まずは納得がいくまで話し合ってみてはどうだろう。意見をたがわせることで、チームにとってよりよい意思決定ができる可能性もあるからだ。何より納得して取り組んだほうがキミも気持ちいいはず。
- 4. 伝えるべき情報をきちんと伝えるように意識する** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
たとえばバイト先で次のシフトの人に引き継ぎをするとき、そのときは、相手の立場に立て、丁寧な引き継ぎをするように心がけよう。また、問題が起こったときに「これくらいのことは責めなくても大丈夫だろう」と勝手に判断しないで、次の人がやりやすいように伝えておく。その問題が大きくなることだからだ。みんなが働きやすいようにする心がけが大切だ。
- 5. 情報共有を積極的にやってみる** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
キミから情報や知識を共有することを希望してくる人を見ているだろうか？「聞かれたらちゃんと答えるし」なんて思っていたり、逆に「自分が持っている情報なんてないよ」とか「なんで思っているかもしれないし」もし思いついたら、まずは積極的な情報提供を心がけてみよう。トライ＆エラーを繰り返していくうちに、どういった情報は共有すべきか、コツがわかってくるからだ。
- 6. ボランティア活動に取り組んでみよう** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
ぜひ、人を支援することに取り組んでみよう。自治体が行っている清掃活動や、地域ボランティアなどなんでもいい。きっと、「人を助けているつもりがいつの間にか助けられている」経験をするだろう。一人で行く勇気がないキミは、友達を誘って行ってみるのも手。貴重な体験ができるはずだ。
- 7. チームで困っている人がいたら積極的に「何か手伝えることはある?」と聞いてみる** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
「チームは、メンバーそれぞれが自分の役割を果たしていることが大事」とか、「相手から責められない限り自分から手を貸すべきではない」といった考えかもしれない。それは一度脇に置いて、ほかの人が足りない部分を積極的にサポートするようにしてみよう。ぜひ、困っているチームメンバーがいたら、「何か手伝えることはある?」と聞いてみることを習慣にしたい。
- 8. 常に「何か困ったことがあったら声をかけてね」と言っておく** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
日頃から、お互いに助け合える関係性を築くことを心がけよう。特に、「自分には人と積極的にかかわる気持ちがある」ことを、周囲に伝えておく。そして、ときどき「最近調子はどう?」「何か困っていることはない?」などと聞いてみよう。あまりしつこく聞くと相手もひるむだろうから、後輩の表情や様子をよく観察して、タイミングよく声をかけるようにしよう。
- 9. ポジティブな言葉を使うようにする** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
人と何かに取り組むときは「ポジティブな言葉」を使う。メンバーのいい点をできる限り見つけ、積極的にほめるのだ。たとえば、「〇〇さんは、△△が得意だね」とか、「□□さんがいつも細やかにサポートしてくれて助かる」といったカンジだ。また、「できない」「だめだ」とみんなが責めようとするときにはあえて「どうしたらできるかな?」と質問してあげられるようにしてみよう。
- 10. 後輩の相談を受けたり、教える時間と機会をもつ** 【傾聴力/協働性】 傾聴力共有
バイト先やサークルなどで後輩と接するチャンスがある人は、後輩に「何かわからないこと、困ったことがあったらいつでも声をかけてね」と伝えておくのだ。そして、ときどき「最近調子はどう?」「何か困っていることはない?」などと聞いてみよう。あまりしつこく聞くと相手もひるむだろうから、後輩の表情や様子をよく観察して、タイミングよく声をかけるようにしよう。

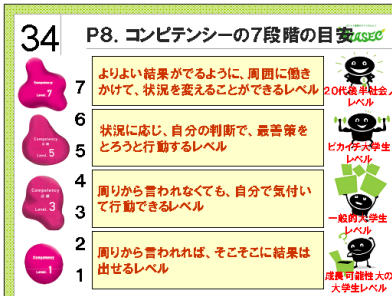
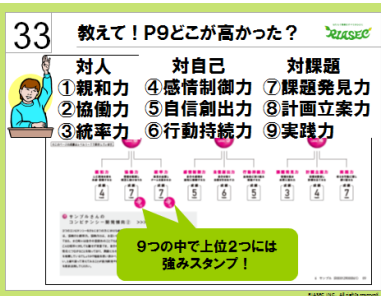
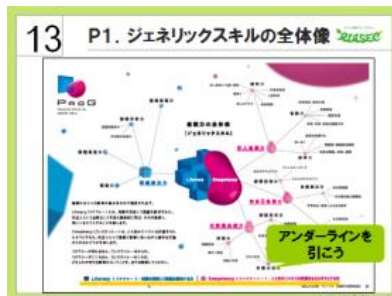
主体的に行動させる為の学生向け解説会

- ・受験後、学生向けに解説会を通じて、下記テーマの目標に近づけていきます。
- ・講座テーマ
 - Ｌ 1年生 自分の強み・弱みを確認し、今後開発していく為の行動計画を立てる
 - Ｌ 3年生 自分の成長を振り返り、自己PRにつなげていく為の自己分析支援

【他大学の解説会終了後の学生アンケート一部抜粋】

- 自分に何が足りなかったとか、これがいいと言う事が分かりました。
また、これが、**社会に出ていくにおいて、とてもためになる授業**だと思いました。
- 自分では**分からない、知らなかった、自分に気付けた、知れた**、ことによってこれからの大学生活が楽しくなりそう。**そして頑張ろうと思わせてくれたから。**
- この授業に参加した理由が、「自分をもっと知りたい」だったので今回の結果で、**自分のいい所も、これから伸ばす所も知れたので今後にいかしたい**と思った。
- 自分が今まで**大切にしてきたものの再確認**や、これから自分が**どんなアクションを起こせばいいのかわかった。**
- 最初は面倒くさそうだなと正直思ったけれど自分を知ることは大切だしすごい自分のためになったから。今の**自分を見つめ直す時間**なんてそうそうないから**貴重な時間だった**と思ったから。
- 自分の強みと弱みを知ることができて**ためになりました。特に私は計画立案力が欠けていることを学び、**今後改善していくきっかけ**となりました。

受講者の多くが、強みだけではなく、弱みも肯定的にとらえ、能力開発の為の次の行動のヒントを得られている様子が伺える。



信頼性と妥当性①

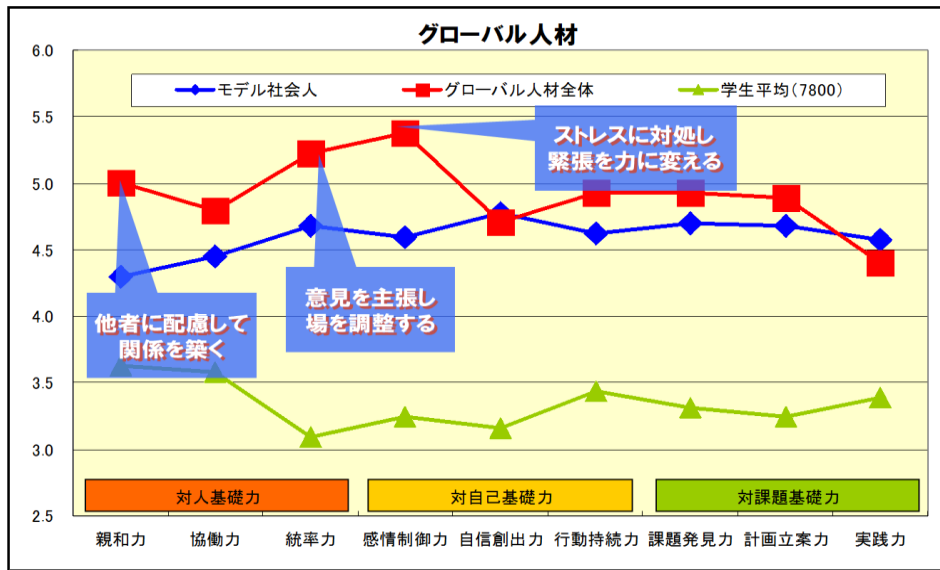
■ 信頼性と妥当性

信頼性係数を公表しています。(β版の回答傾向で分析)
又、外的基準と照らし合わせても妥当性が高いと考えます。

	信頼性係数 (α)
リテラシー(問題解決力_総合)	0.78

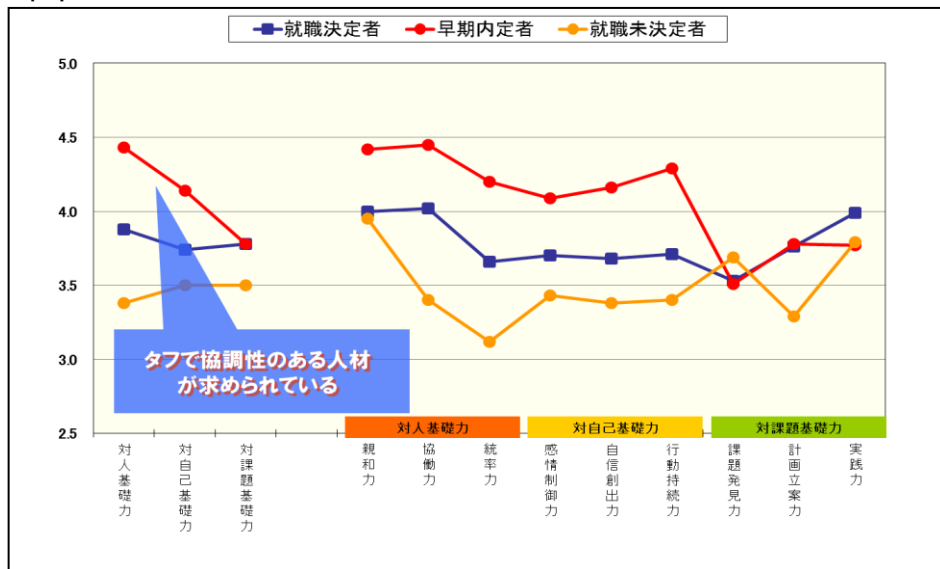
コンピテンシー	対課題基礎力	課題発見力	0.80
		計画立案力	0.83
		実践力	0.79
	対人基礎力	親和力	0.83
		協働力	0.86
		統率力	0.88
	対自己基礎力	感情制御力	0.79
		自信創出力	0.82
		行動持続力	0.75

図 1

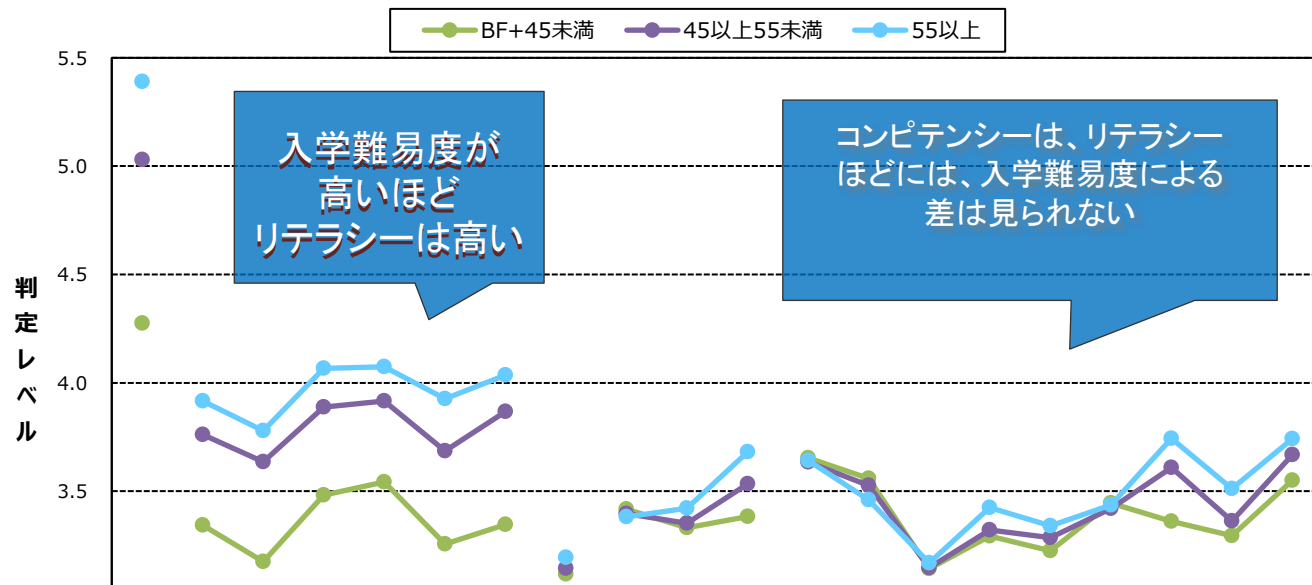


※グローバル人材: 25歳~49歳の日本人ビジネスパーソン。アジアにおいて、外国人のマネジメント経験があり、かつ、その当時のマネジメントに満足している者(735人、平均駐在期間は約4年)。

図 2



信頼性と妥当性②



	N数 3.0		リテラシー							コンピテンシー												
	リテラシー	コンピテンシー	総合							総合				対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
				情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理能力	非言語処理能力		対人基礎力	対自己基礎力	対課題基礎力	親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
四年制大学全体	280,103	323,610	4.86	3.66	3.51	3.79	3.82	3.60	3.72	3.15	3.41	3.37	3.50	3.65	3.54	3.15	3.34	3.29	3.44	3.54	3.36	3.65
BF+45未満	57,558	73,989	4.28	3.34	3.17	3.48	3.54	3.26	3.35	3.12	3.42	3.33	3.38	3.65	3.56	3.14	3.29	3.23	3.45	3.36	3.29	3.55
45以上55未満	93,616	100,433	5.03	3.76	3.64	3.89	3.92	3.68	3.87	3.14	3.40	3.35	3.53	3.63	3.53	3.15	3.32	3.29	3.42	3.61	3.36	3.67
55以上	35,718	36,306	5.39	3.92	3.78	4.07	4.07	3.93	4.04	3.19	3.38	3.42	3.68	3.64	3.46	3.17	3.42	3.34	3.44	3.74	3.51	3.74
なし（偏差値不明）	93,211	112,882	4.85	3.65	3.50	3.77	3.79	3.60	3.68	3.16	3.42	3.40	3.50	3.67	3.55	3.15	3.37	3.32	3.45	3.53	3.35	3.67

■ 受験実績(2018年度)

294大学178,877名受験

■ 主な導入校（関東圏）

～関東圏～

- ・東洋大学
- ・芝浦工業大学
- ・東京都市大学
- ・東海大学
- ・大東文化大学
- ・明星大学
- ・大正大学
- ・日本大学

～関東圏 女子大学～

- ・東京女子大学
- ・実践女子大学
- ・東洋英和女学院大学
- ・相模女子大学
- ・共立女子大学
- ・大妻女子大学
- ・昭和女子大学
- ・津田塾大学
- ・清泉女子大学

他多数

図1：国公立別

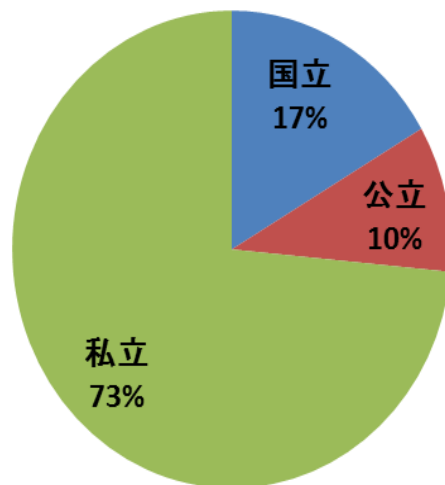


図3：学問系統別

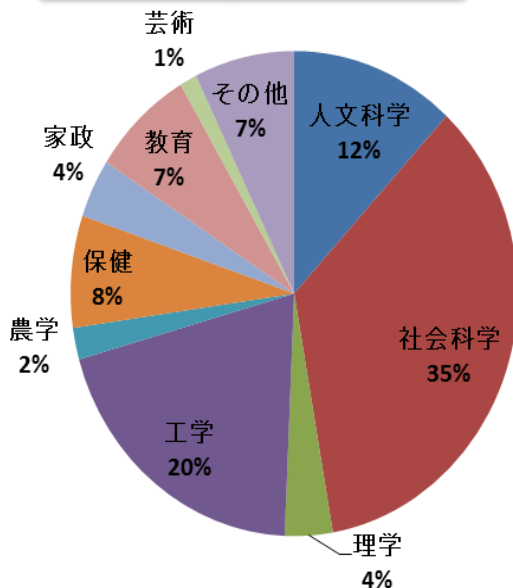


図2：偏差値別

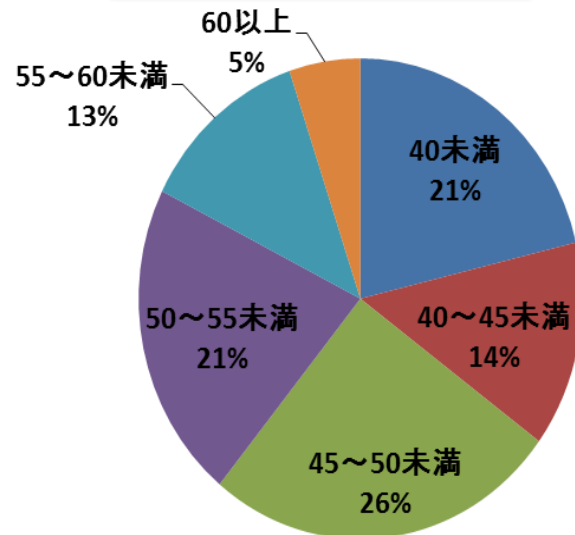
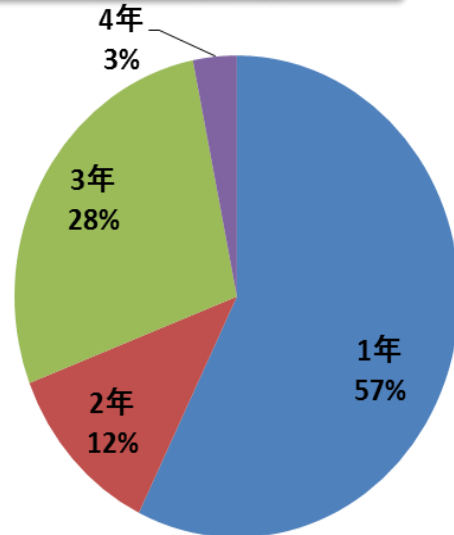


図4：学年別



多くの大学でPROGを活用した論文を学会で発表されています。

No	論文タイトル	発表年	氏名	大学	掲載誌
1	中学・高校時代の生徒会活動及び部活動がリーダーシップに及ぼす影響について -PROGテストのデータを用いて-	2017.3	州 雅明	大分県立芸術文化短期大学	大学の研究紀要
2	enPiTの成果と今後の展望	2017.2	井上克郎	大阪大学	コンピュータソフトウェア
3	大阪成蹊大学芸術学部における企業連携PBLの運営と学修成果について -キャリア教育科目として実施したアクティブラーニングの取組-	2016	福本 章ほか	大阪成蹊大学	大学の紀要
4	アクティブ・ラーニング型授業の教育効果に関する考察 -「自律と体験2」のアンケート調査結果から-	2016	波田野匡章	明星大学	大学の研究紀要
5	大学IR推進上の課題	2016.3	中島ゆり	長崎大学	大学の紀要
6	大学入学時のジェネリック・スキルを規定する要因分析 -北海道大学1年生に対する調査結果をもとに-	2016	亀野 淳	北海道大学	高等教育ジャーナル
7	共通科目の質保証と評価 -「キャリアデザイン」授業を通して得られた資料-	2015	松本幸一	九州国際大学	大学紀要
8	学士課程教育を通じたジェネリックスキル育成に対する評価の課題 -豊橋創造大学「地域産業界連携教育力改革プロジェクト」の事例から-	2015	森田佐知子	豊橋創造大学	大学紀要
9	インターンシップ評価に関する効果検証についての一考察	2015	須永一道ほか	新潟青陵大学短期大学部	短大紀要
10	PROGテストを利用した学生の能力伸長分析について	2015	笹川篤史	長崎大学	大学紀要
11	enPiTにおける教育効果測定の実践と評価	2015	山本雅基ほか	東京理科大	コンピュータソフトウェア
12	チーム基盤型学習(TBL)と問題基盤型学習(PBL)を統合した授業「プレゼンテーション」の実践	2014	中越元子ほか	いわき明星大学	京都大学高等教育研究
13	ジェネリックスキルによる領域横断型大学院教育プログラムのアセスメント	2013	長谷川浩志ほか	芝浦工大	工学教育(学会誌)
14	PROGテストと初年次文章表現科目によるジェネリックスキルの測定と育成	2013	山本啓一ほか	九州国際大学	法学論集
15	分野横断教育の体系的カリキュラム構築とその学習成果のアセスメント	2013	井上雅裕ほか	芝浦工大	工学教育(学会誌)
16	能動的学修科目を選択する学生の特性—PBL科目を選ぶ動機とコンピテンシー	2017	栗津俊二ほか	実践女子大学	大学紀要

✓ 全ての能力が最高レベルである必要はない

※全ての能力項目がレベル7である必要はなく。4～5レベルで十分社会通用性はあります。まずは、自分の特徴（強み・弱み）を把握する事が大事。その上で、本人が「もっと伸ばしたい」、「克服したい」と意識する事が重要です。

✓ 先天的なものでなく学習や経験によるスキルを測定している

※性格や気質ではなく、学修によって変化する可変な能力を測定しています。スコアが低いというのは、経験や学習が足りなかっただけ。これからの授業や課外活動等を通じ、大学生活でどう伸ばすかが重要です。

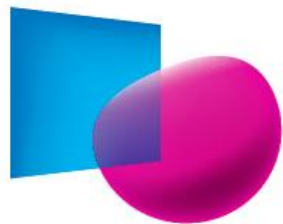
✓ 学生の特性の一部であり人格や社会性を制限するものではない

※人の能力とは多様でありその価値は一義的なものではありません。PROGが測定している「ジェネリックスキル」とは個人の一部の特性を捉えているに過ぎません。この結果が学生個人の人格を否定したり、将来の選択に制限を加えるのではなく、あくまで今後の学習活動の参考として活用してください。

受験日： 2019年4月 ～ 2020年1月

学部	学科	1年	2年	3年	4年	合計
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科	216	0	171	2	389
	健康福祉学科	34	0	22	0	56
		250	0	193	2	445
教育文化学部	教育学科	149	0	125	0	274
	芸術学科	37	0	31	0	68
	心理カウンセリング学科	54	0	46	1	101
		240	0	202	1	443
合計		490	0	395	3	888

※4年の受験者3名は、今回の集計対象から外しております。

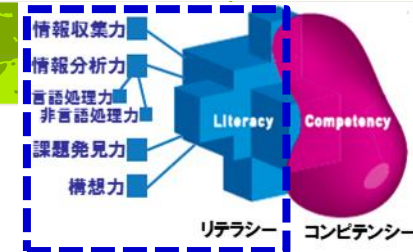


PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

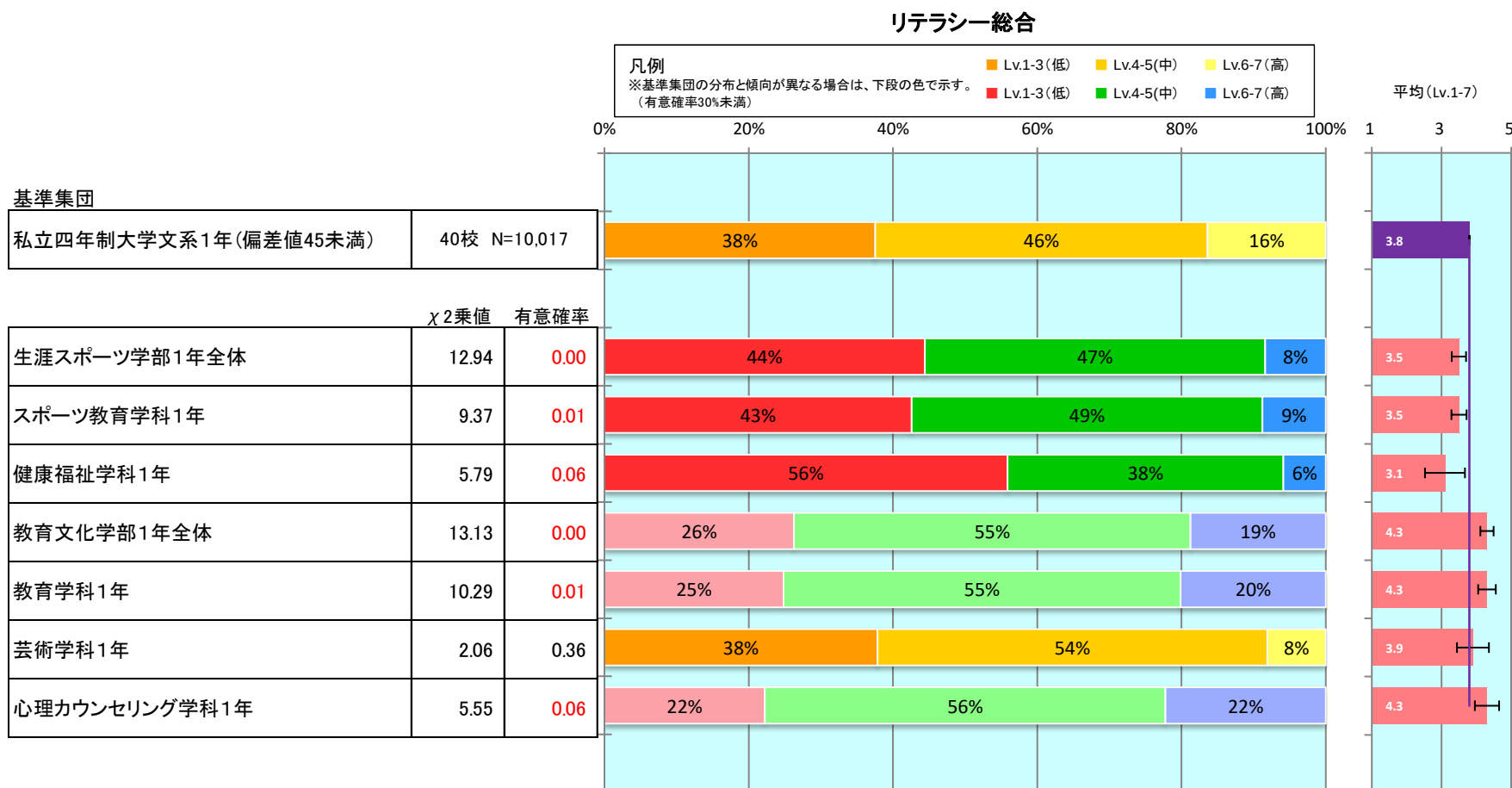
Part.1

1年生全体集計

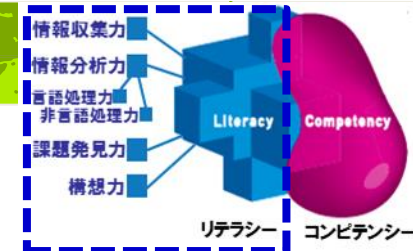


【リテラシー総合】

- 基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれるのは、生涯スポーツ学部1年全体、健康福祉学科1年
 - 基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれるのは、スポーツ教育学科1年
- ※健康福祉学科1年、芸術学科1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①



【生涯スポーツ学部1年全体】

基準集団と比較して、情報分析力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、情報収集力、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は低い。

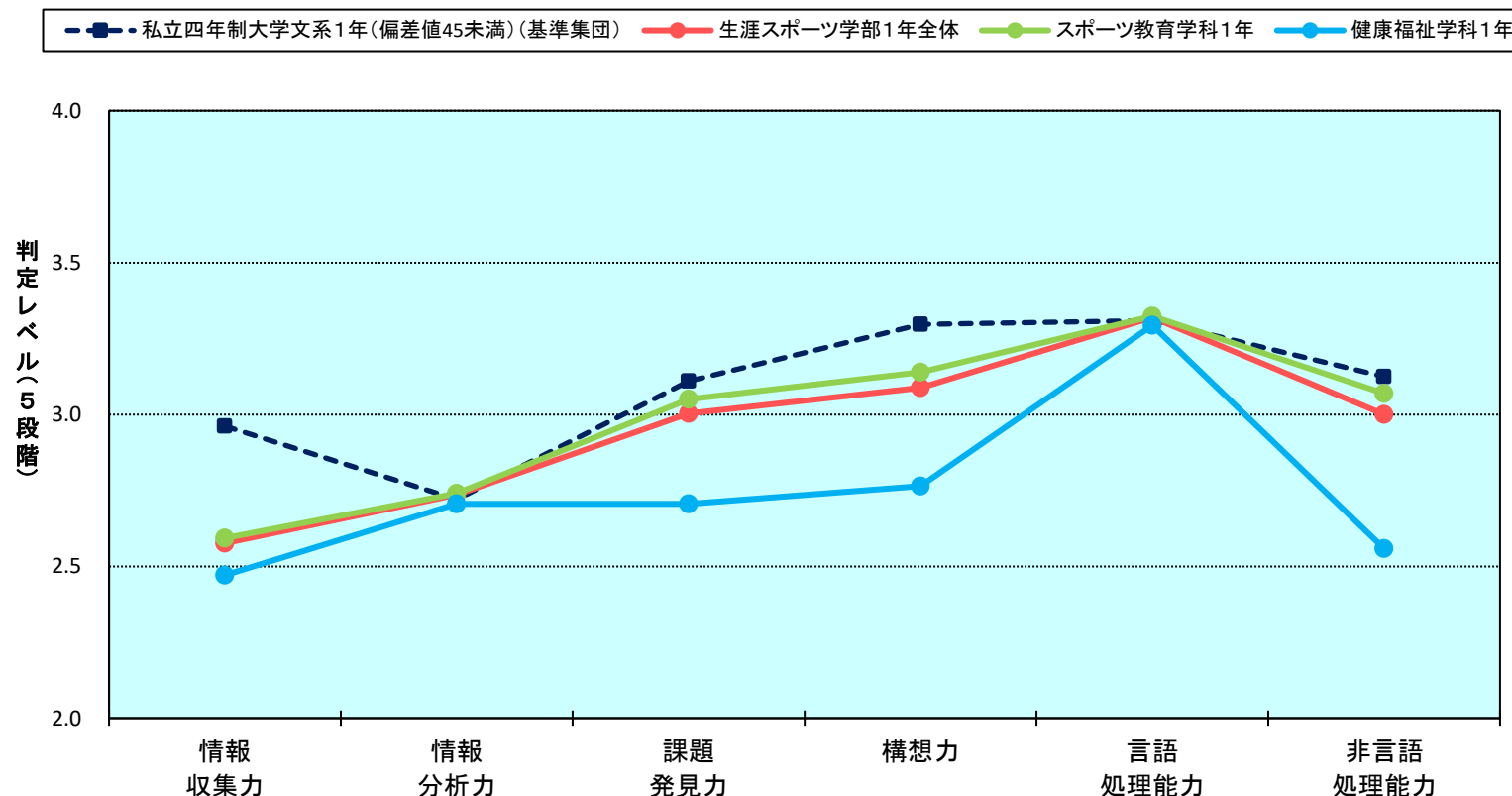
【スポーツ教育学科1年】

基準集団と比較して、情報分析力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。
一方、課題発見力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、構想力の平均値は低い。

【健康福祉学科1年】

基準集団と比較して、情報分析力、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は低い。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

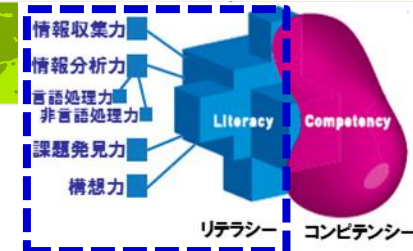
1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②



【教育文化学部1年全体】

基準集団と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【教育学科1年】

基準集団と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高い。

【芸術学科1年】

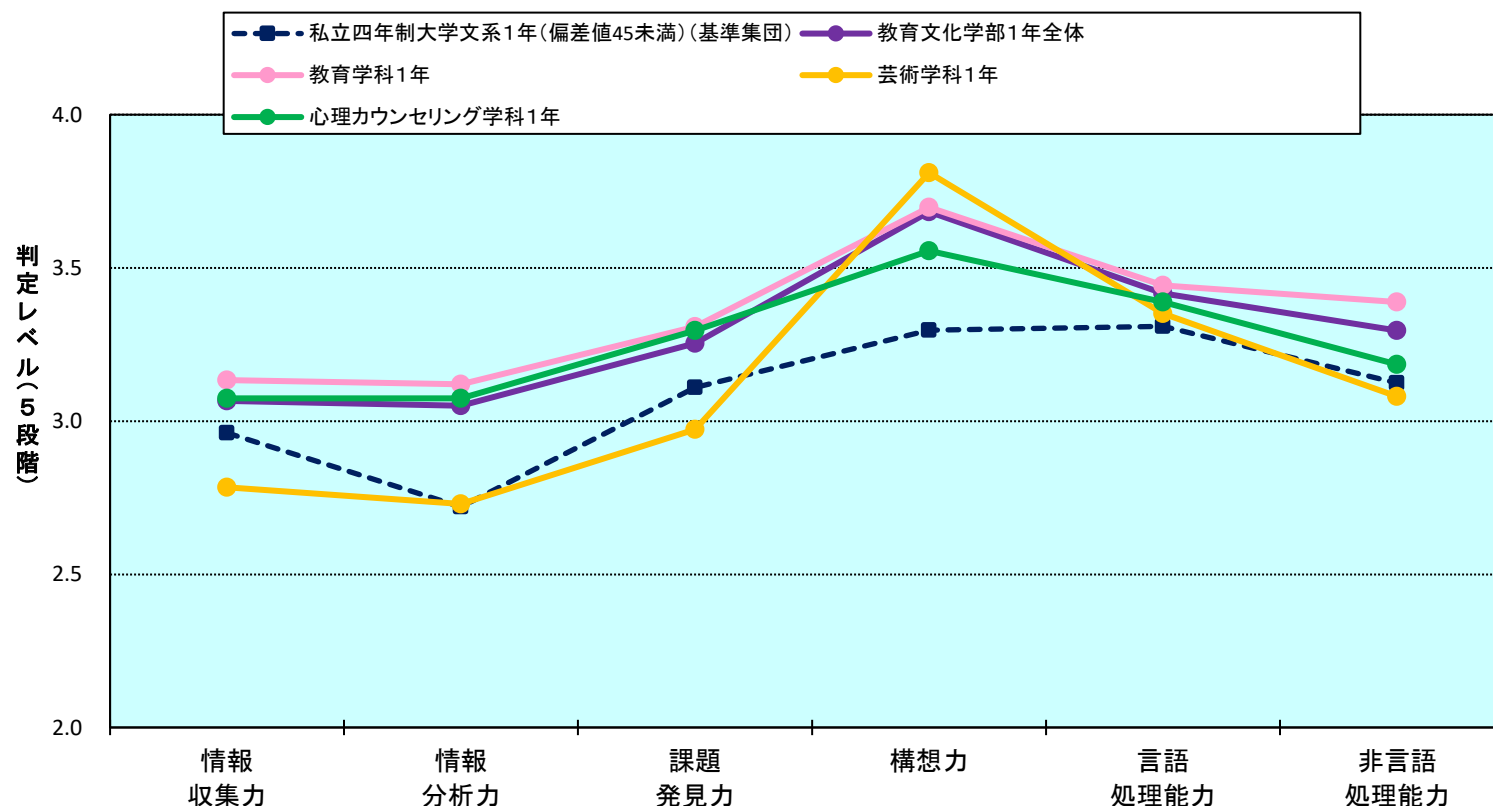
基準集団と比較して、構想力の平均値は高く、情報分析力、言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

一方、情報収集力、課題発見力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にある。

【心理カウンセリング学科1年】

基準集団と比較して、情報分析力、課題発見力、構想力の平均値は高く、情報収集力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は上回る傾向にある。

リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

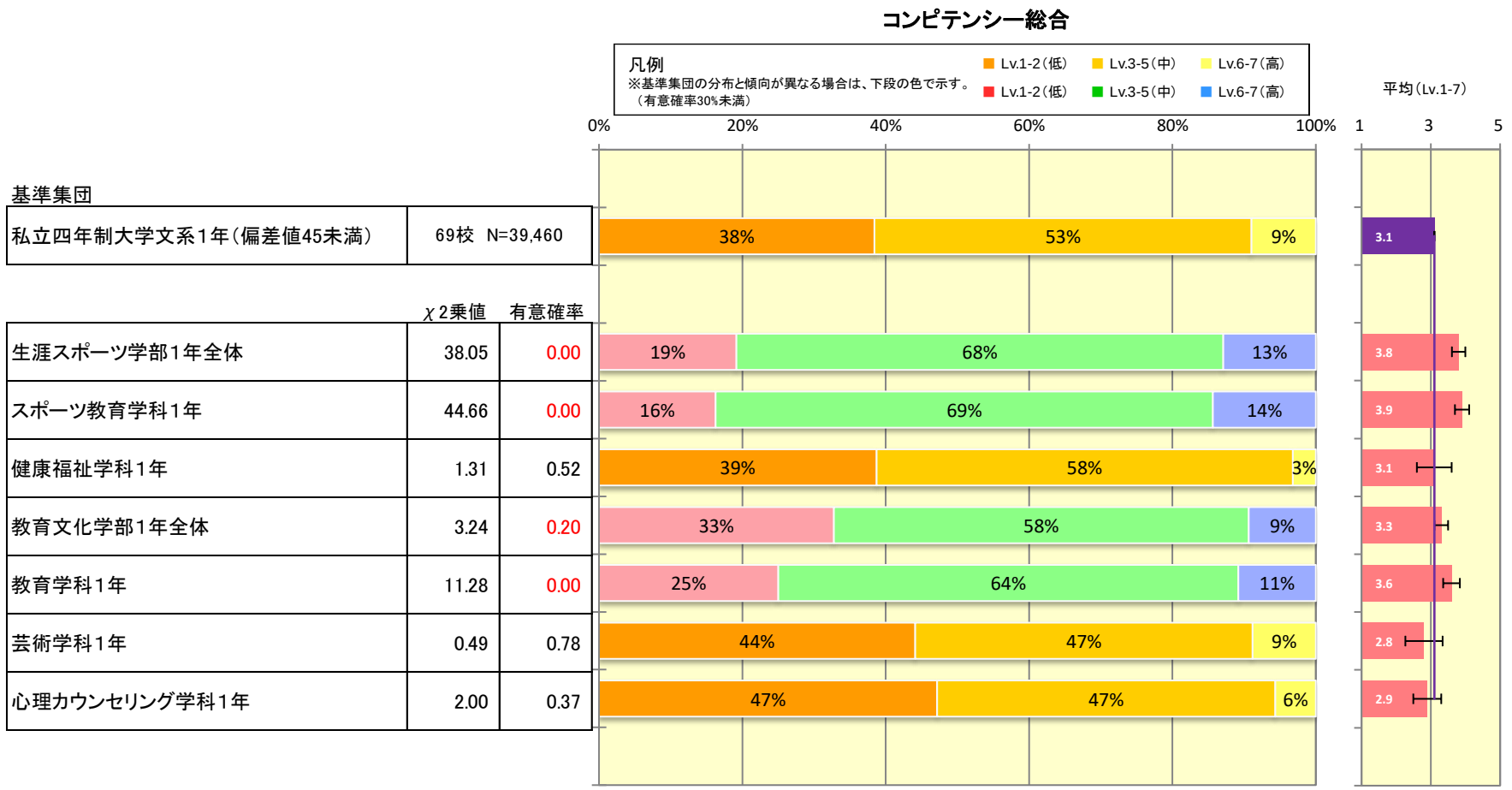
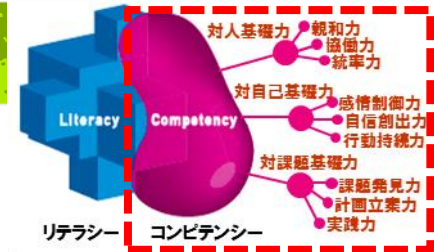
2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

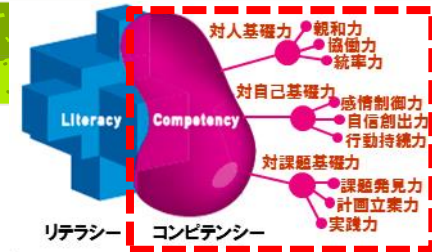
【コンピテンシー総合】

●基準集団と比較して、特に課題は見当たらない

※健康福祉学科1年、芸術学科1年、心理カウンセリング学科1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向



【対人基礎力】

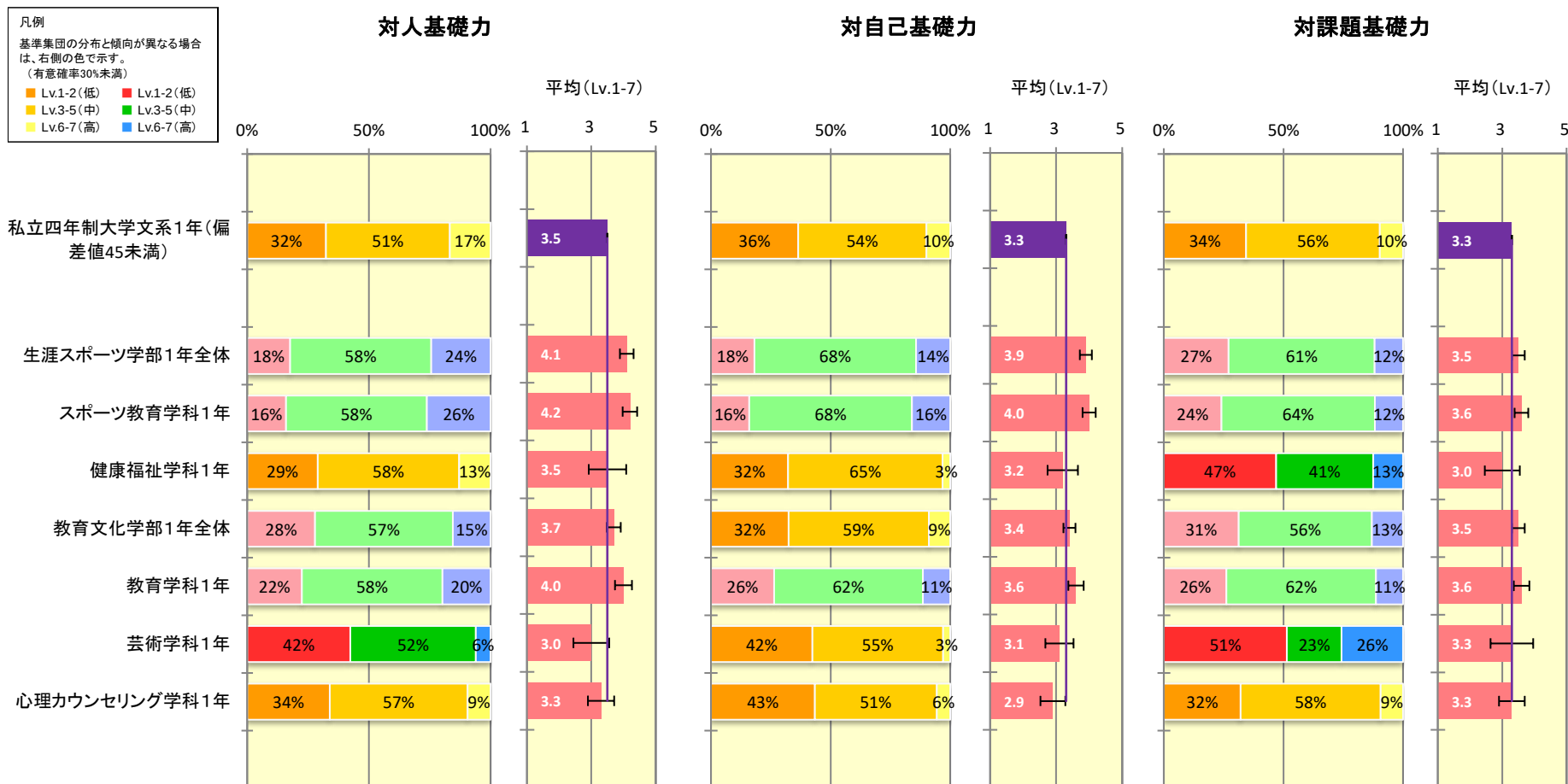
●基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれるのは、芸術学科1年
※健康福祉学科1年、芸術学科1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対自己基礎力】

●基準集団と比較して、特に課題は見当たらない
※健康福祉学科1年、芸術学科1年、心理カウンセリング学科1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

●基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれるのは、健康福祉学科1年、芸術学科1年
※健康福祉学科1年、芸術学科1年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



【生涯スポーツ学部1年全体】

基準集団と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、実践力の平均値は高く、課題発見力、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

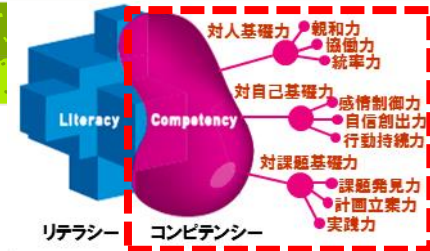
【スポーツ教育学科1年】

基準集団と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力の平均値は高く、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

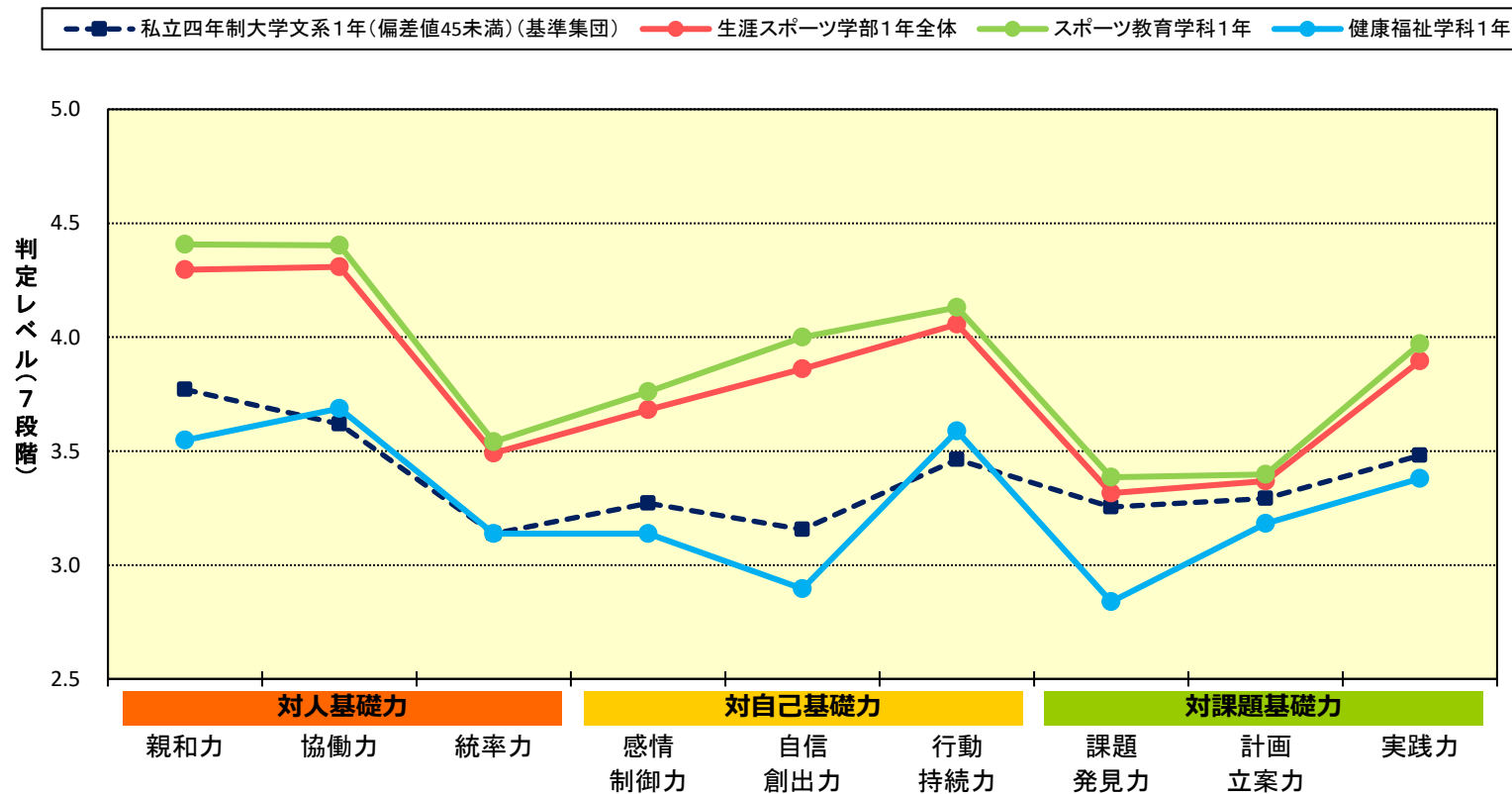
【健康福祉学科1年】

基準集団と比較して、協働力、行動持続力の平均値は上回る傾向にある。

一方、親和力、統率力、感情制御力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、自信創出力、課題発見力の平均値は低い。



コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

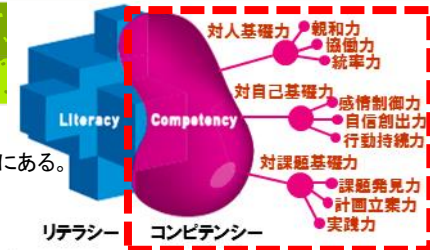
1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ②



【教育文化学部1年全体】

基準集団と比較して、親和力、協働力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力の平均値は高く、感情制御力、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。
一方、統率力の平均値は低い。

【教育学科1年】

基準集団と比較して、親和力、協働力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高い。
一方、統率力の平均値は下回る傾向にある。

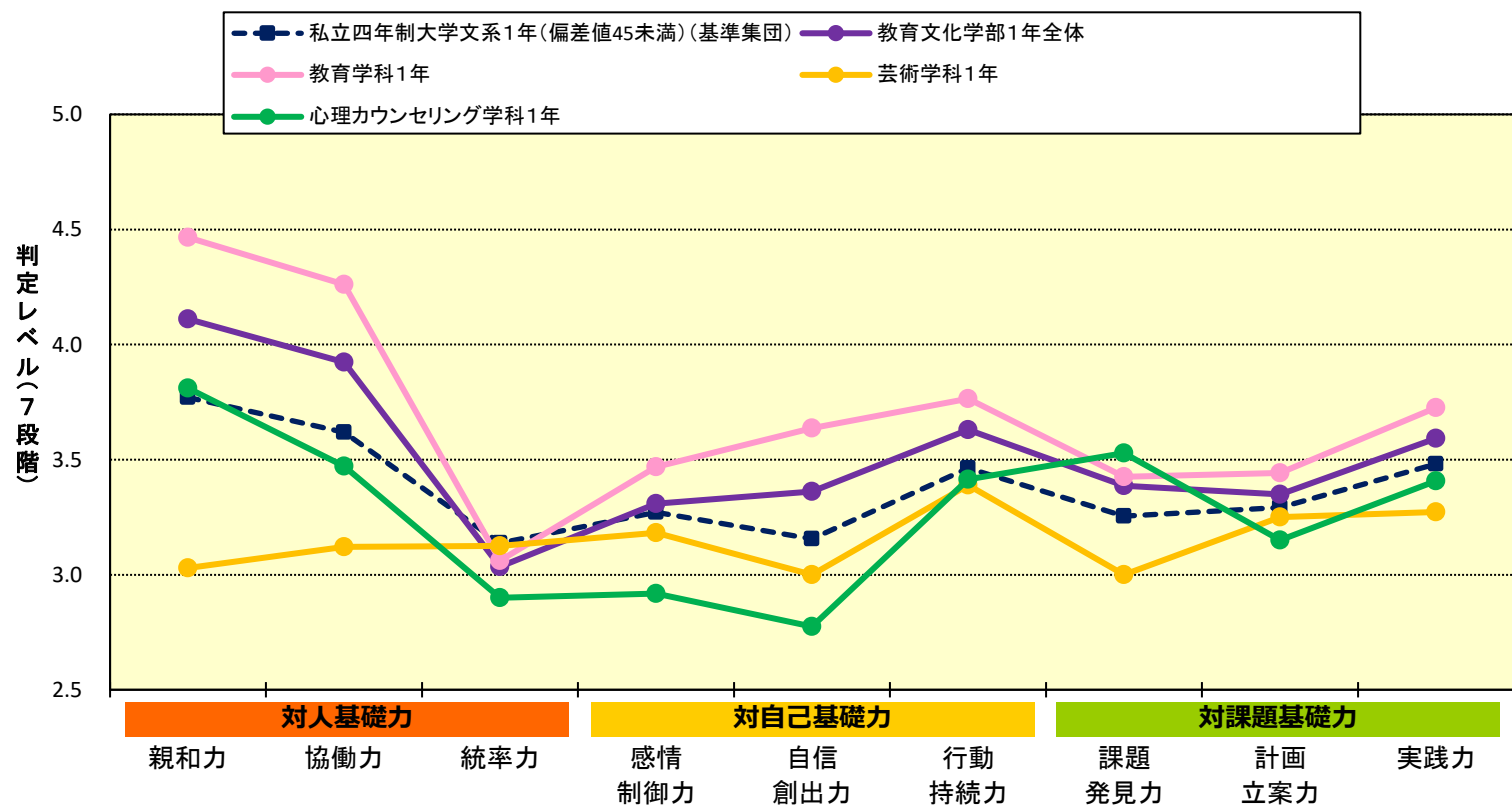
【芸術学科1年】

基準集団と比較して、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、親和力、協働力の平均値は低い。

【心理カウンセリング学科1年】

基準集団と比較して、課題発見力の平均値は高く、親和力の平均値は上回る傾向にある。
一方、協働力、行動持続力、計画立案力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、統率力、感情制御力、自信創出力の平均値は低い。

コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

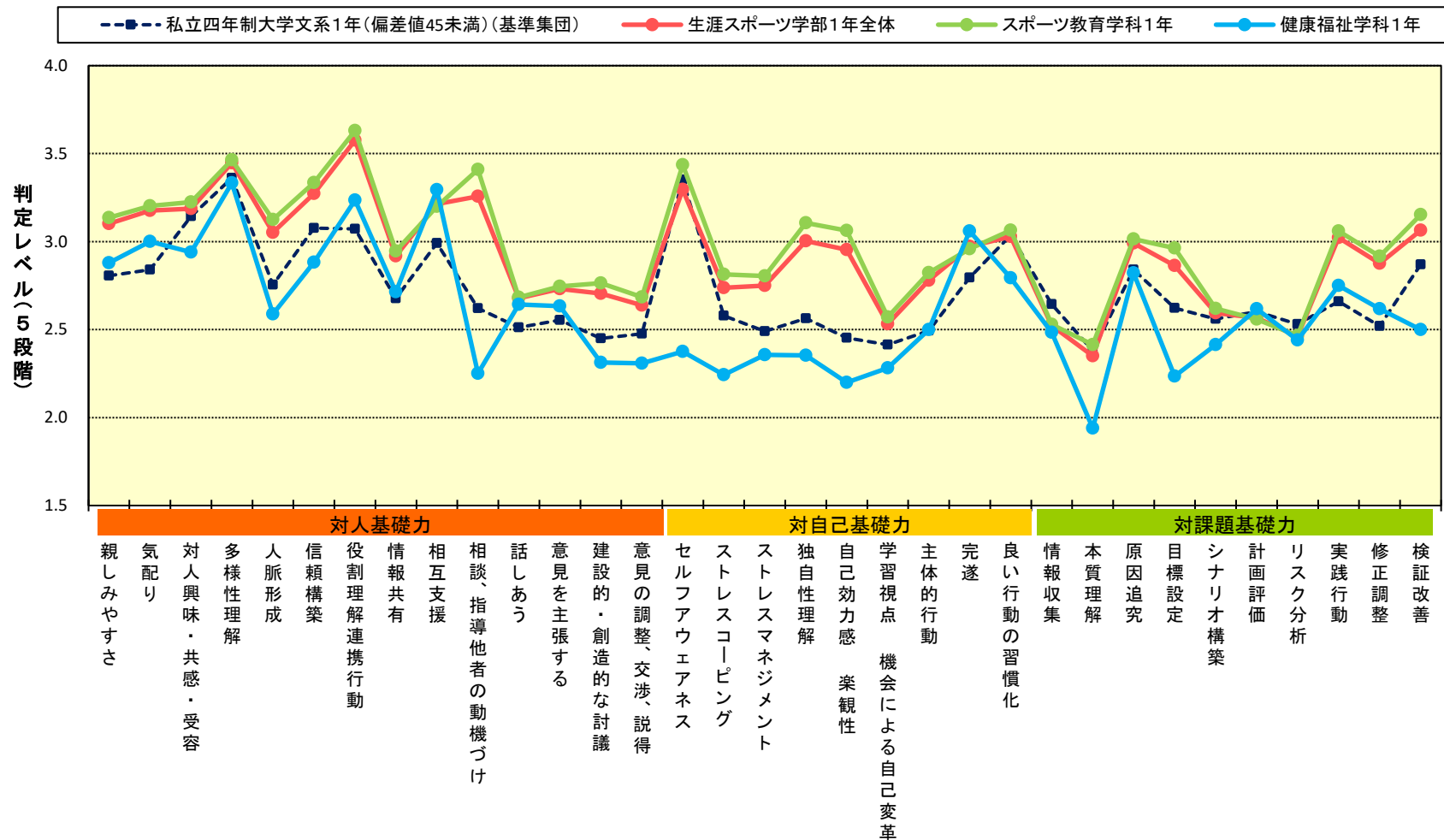
3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

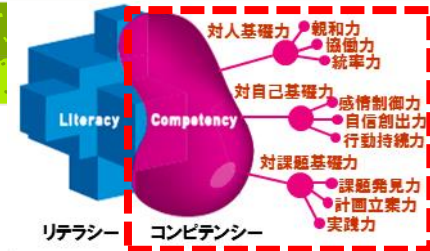
2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

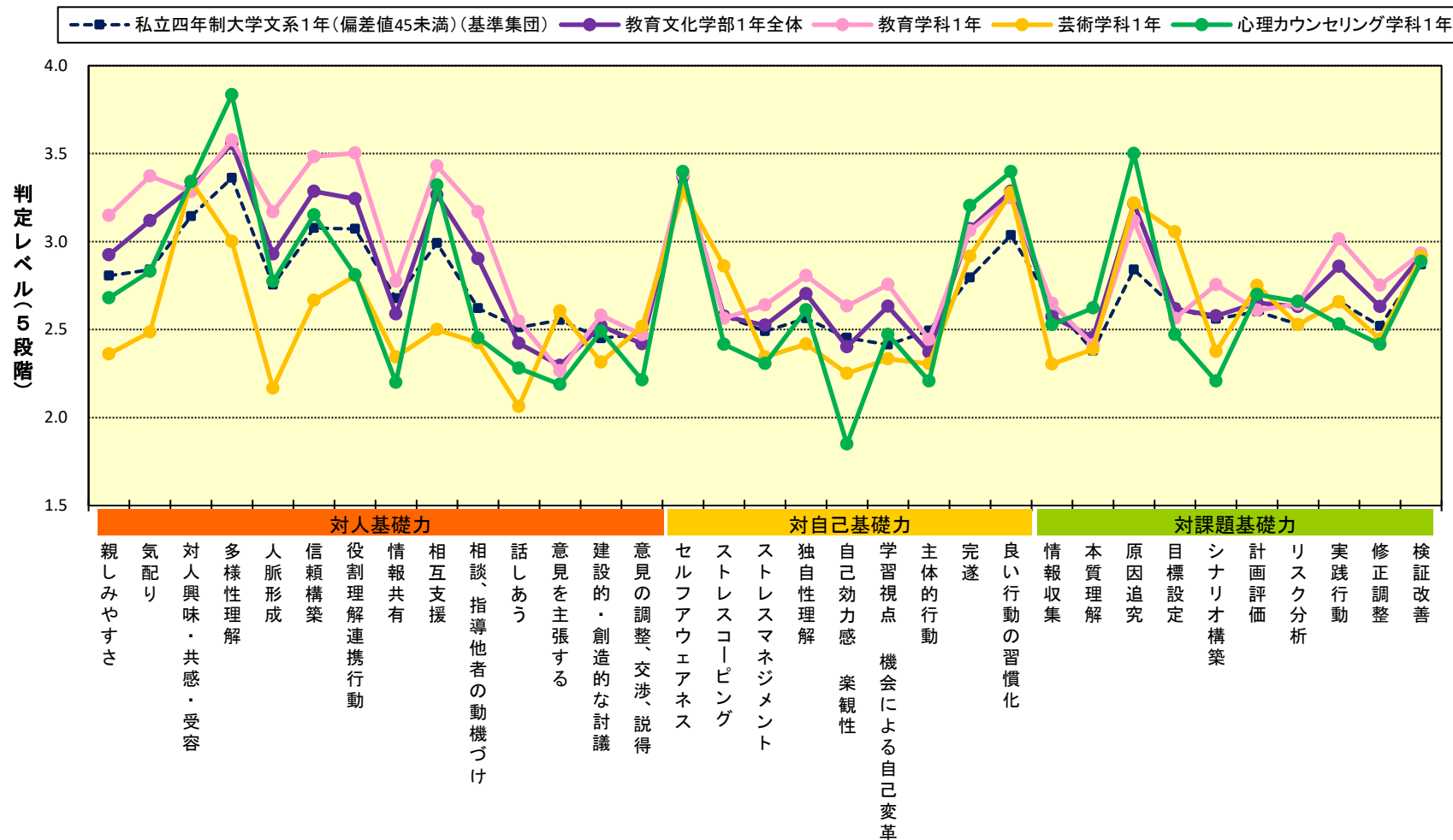


コンピテンシー小分類要素





コンピテンシー小分類要素



ループリックで見る1年生の状態について(リテラシー領域①)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5							
情報 収 集 力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	・情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる ・情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする ・アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う	簡単な情報収集の仕方について、理解している		様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信頼性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる							
									生涯スポーツ学部1年全体	2.6					
									スポーツ教育学科1年	2.6					
									健康福祉学科1年	2.5					
									教育文化学部1年全体	3.1					
									教育学科1年	3.1					
									芸術学科1年	2.8					
									心理カウンセリング学科1年	3.1					
									私立四年制大学文系1年（偏差値45未満）	3.0					

情報 分 析 力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	・表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る ・文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える ・批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方	簡単な図表や文章を読み取ることができる	図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる							
								生涯スポーツ学部1年全体	2.7					
								スポーツ教育学科1年	2.7					
								健康福祉学科1年	2.7					
								教育文化学部1年全体	3.1					
								教育学科1年	3.1					
								芸術学科1年	2.7					
								心理カウンセリング学科1年	3.1					
								私立四年制大学文系1年（偏差値45未満）	2.7					

ループリックで見る1年生の状態について(リテラシー領域②)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
課題 発見 力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	・広い観点から問題点を洗い出す 1) 拡散思考について 2) ブレーンストーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる
		生涯スポーツ学部1年全体	3.0			●		
		スポーツ教育学科1年	3.1			●		
		健康福祉学科1年	2.7		●			
		教育文化学部1年全体	3.3			●		
		教育学科1年	3.3			●		
		芸術学科1年	3.0			●		
		心理カウンセリング学科1年	3.3			●		
		私立四年制大学文系1年（偏差値45未満）	3.1			●		
構 想 力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる 1) 必要な作業をもなく洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる
		生涯スポーツ学部1年全体	3.1			●		
		スポーツ教育学科1年	3.1			●		
		健康福祉学科1年	2.8		●			
		教育文化学部1年全体	3.7				●	
		教育学科1年	3.7				●	
		芸術学科1年	3.8				●	
		心理カウンセリング学科1年	3.6			●		
		私立四年制大学文系1年（偏差値45未満）	3.3			●		

ループリックで見る1年生の状態について(コンピテンシー対人領域)

コンピテンシー (対人)		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感を受けとめる、また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えた言動をとることが苦手	・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている	・相手に対して自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる	・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる	・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる	・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
		生涯スポーツ学部1年全体	4.3				●			
		スポーツ教育学科1年	4.4				●			
		健康福祉学科1年	3.5			●				
		教育文化学部1年全体	4.1				●			
		教育学科1年	4.5				●			
		芸術学科1年	3.0			●				
		心理カウンセリング学科1年	3.8			●				
		私立四年制大学文系1年 (偏差値45未満)	3.8			●				
協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づけする力		・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくることができる
		生涯スポーツ学部1年全体	4.3				●			
		スポーツ教育学科1年	4.4				●			
		健康福祉学科1年	3.7			●				
		教育文化学部1年全体	3.9			●				
		教育学科1年	4.3				●			
		芸術学科1年	3.1			●				
		心理カウンセリング学科1年	3.5			●				
		私立四年制大学文系1年 (偏差値45未満)	3.6			●				
統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活性化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理しきれず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べることができる	・自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話す	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあって孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を発展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる
		生涯スポーツ学部1年全体	3.5			●				
		スポーツ教育学科1年	3.5			●				
		健康福祉学科1年	3.1			●				
		教育文化学部1年全体	3.0			●				
		教育学科1年	3.1			●				
		芸術学科1年	3.1			●				
		心理カウンセリング学科1年	2.9		●					
		私立四年制大学文系1年 (偏差値45未満)	3.1			●				

ループリックで見る1年生の状態について(コンピテンシー対自己領域)

コンピテンシー (対自己)		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
感情制御力	気持ちの揺れを制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力		・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことで、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなしていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる
			生涯スポーツ学部1年全体	3.7						
			スポーツ教育学科1年	3.8						
			健康福祉学科1年	3.1						
			教育文化学部1年全体	3.3						
			教育学科1年	3.5						
			芸術学科1年	3.2						
			心理カウンセリング学科1年	2.9						
			私立四年制大学文系1年（偏差値45未満）	3.3						
自信創出力	前向きな考え方ややる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学が姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力		・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことや難しいことには、なかなか挑戦する気になれない	・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことも、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぶとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組む	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる
			生涯スポーツ学部1年全体	3.9						
			スポーツ教育学科1年	4.0						
			健康福祉学科1年	2.9						
			教育文化学部1年全体	3.4						
			教育学科1年	3.6						
			芸術学科1年	3.0						
			心理カウンセリング学科1年	2.8						
			私立四年制大学文系1年（偏差値45未満）	3.2						
行動持続力	主体的に動き、良い行動を習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力		・人からの指示を待って行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い	・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みよう心がけている	・任せられたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	・何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している
			生涯スポーツ学部1年全体	4.1						
			スポーツ教育学科1年	4.1						
			健康福祉学科1年	3.6						
			教育文化学部1年全体	3.6						
			教育学科1年	3.8						
			芸術学科1年	3.4						
			心理カウンセリング学科1年	3.4						
			私立四年制大学文系1年（偏差値45未満）	3.5						

ループリックで見る1年生の状態について(コンピテンシー対課題領域)

コンピテンシー (対課題)	定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
課題 発 見 力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力	・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる
計画 立 案 力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力	・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組む ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえた具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的に適切な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で妥当な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの負担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる
実践 力	実践行動をとる	計画をすすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力	・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできても当初のやりかたで進めがちな、のちに振り返ることも少ない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功か失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予測し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる

今後の課題と対策 まとめ

	リテラシー					コンピテンシー										
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力			
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力	
生涯スポーツ学部 1 年全体	■	▲	-	▲	▲	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	-	◎	
スポーツ教育学科 1 年	▲	▲	-	-	▲	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	
健康福祉学科 1 年	■	▲	-	▲	▲	-	-	-	-	-	▲	-	▲	-	-	
教育文化学部 1 年全体	-	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	▲	-	◎	◎	◎	-	◎	
教育学科 1 年	-	◎	◎	◎	◎	-	◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
芸術学科 1 年	-	-	-	-	◎	-	▲	▲	-	-	-	-	-	-	-	
心理カウンセリング学科 1 年	-	-	◎	◎	◎	-	-	-	▲	▲	▲	-	◎	-	-	

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【生涯スポーツ学部1年全体】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
●課題発見力	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	整理・分析した情報の中から、隠れた問題点や解決すべき問題を発見させる／複雑な文脈の中で、物事の因果関係を深く考えさせる
●構想力	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	解決策を実行するために必要な作業を漏れなく洗い出すようにする／制約条件の下で、実行可能な行動計画を立てさせる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【スポーツ教育学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
●構想力	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	解決策を実行するために必要な作業を漏れなく洗い出すようにする／制約条件の下で、実行可能な行動計画を立てさせる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

今後の課題と対策 ②

【健康福祉学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
●課題発見力	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	ブレインストーミングなどの手法を用い既概念に囚われず広く深く発想させる／SWOT分析などの手法をも用いて問題点を洗い出させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
●構想力	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	解決のためアイデアを自由に発想させる／フローチャートやロジックツリー、マトリクスなどを用いて、プロセス、因果関係、優先順位などを整理させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
■コンピテンシー ●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する
●課題発見力	課題に対し自分なりに情報を集めることができる 集めた情報を客観的に整理しようとする 興味のある分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理・分析することができる 分析を基に自分なりに因果関係の仮説を立てることができる	様々な情報源を適切に活用できるよう指導する 思い込みや常識に捉われず、本質を深く考えるよう指導する 原因を明らかにするために、さまざまな角度から検討・分析するよう指導する

【教育文化学部1年全体】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●統率力	相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる 相手の立場や背景も考慮しながら、意見調整することができる 周囲の反対に合って孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる 建設的かつ創造的な議論を意識した発言ができる	クラス討議の中で、自分の意見を主張する機会を設ける 理解が得られるまで、粘り強く周囲を説得させる 討議を活発にしたり、議論が進展するような発言を指導する

今後の課題と対策 ③

【教育学科1年】

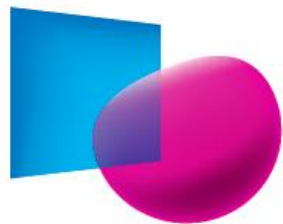
強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【芸術学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●親和力	親しくない人にも、自分から気軽に話しかけることができる 人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる 個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる 自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げることができる	他者の話に注意を傾けて聞く(傾聴する)ようにする 他者の意見を尊重し、柔軟に受け入れる大切さを指導する 文化や価値観の違いを学ぶ機会を設ける 自己と他者「良い点」を認め合い、信頼の基盤を作るようにする
●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる

【心理カウンセリング学科1年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー ●統率力	自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる 話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるができる 自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる 意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを伝えることができる	自分の考えを整理して、相手にわかり易く伝えられるようにする 周囲に対して、自分の要望をはっきり伝えるようにする 表現豊かに話したり、書いたりする機会を設ける 粘り強く周囲に説明をするような機会を設ける
●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する
●自信創出力	仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる 自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる 機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	自分のオリジナリティにこだわるように指導する 自分の意見や提案が、周囲から受け入れられる経験をさせる 与えられたことでも、自分の成長のチャンスだと考えるよう指導する



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

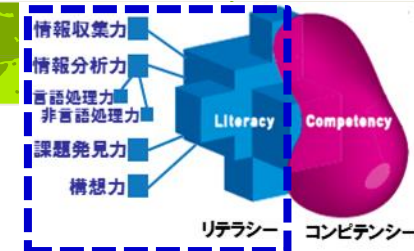
Part.2

3年生全体集計

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向

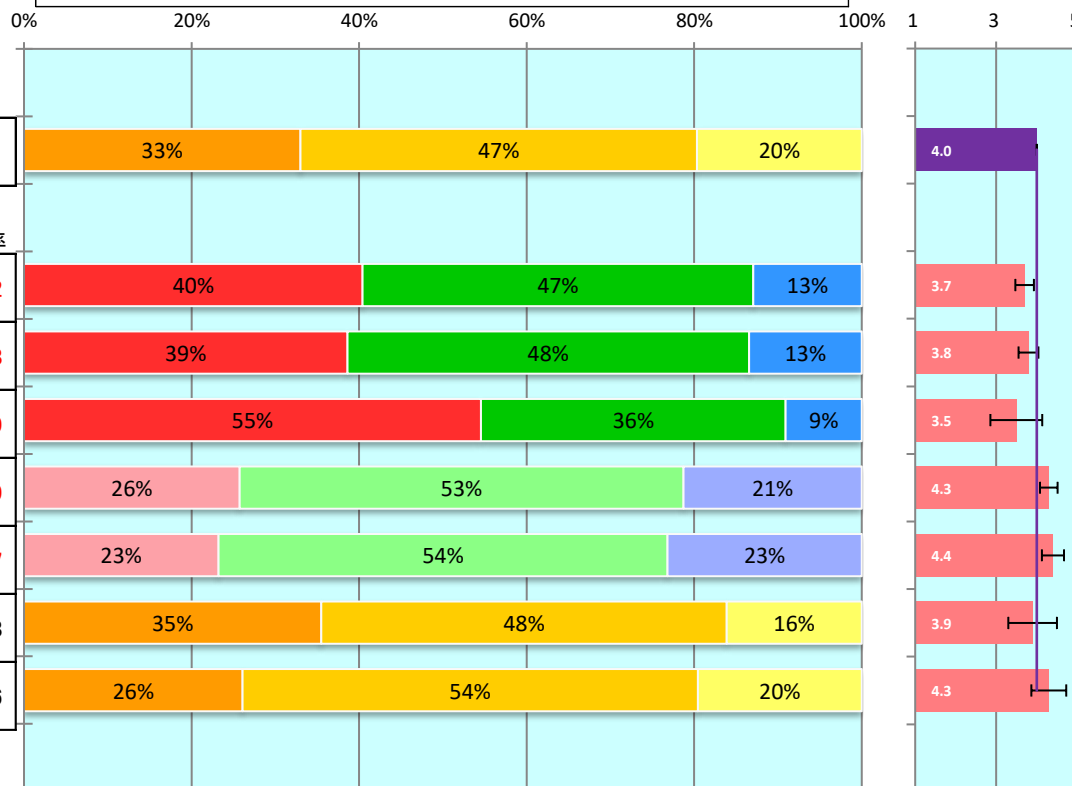
【リテラシー総合】

●基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれるのは、生涯スポーツ学部3年全体、スポーツ教育学科3年、健康福祉学科3年
※健康福祉学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



リテラシー総合

凡例
※基準集団の分布と傾向が異なる場合は、下段の色で示す。
(有意確率30%未満)



基準集団

私立四年制大学文系3年(偏差値45未満)	35校	N=5,303
----------------------	-----	---------

χ²乗値 有意確率

生涯スポーツ学部3年全体	7.68	0.02
スポーツ教育学科3年	5.02	0.08
健康福祉学科3年	4.91	0.09
教育文化学部3年全体	4.85	0.09
教育学科3年	5.47	0.07
芸術学科3年	0.26	0.88
心理カウンセリング学科3年	1.15	0.56

※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差(SE)×2を表す。

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ①

【生涯スポーツ学部3年全体】

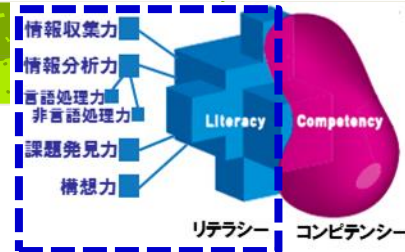
基準集団と比較して、課題発見力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力の平均値は低い。

【スポーツ教育学科3年】

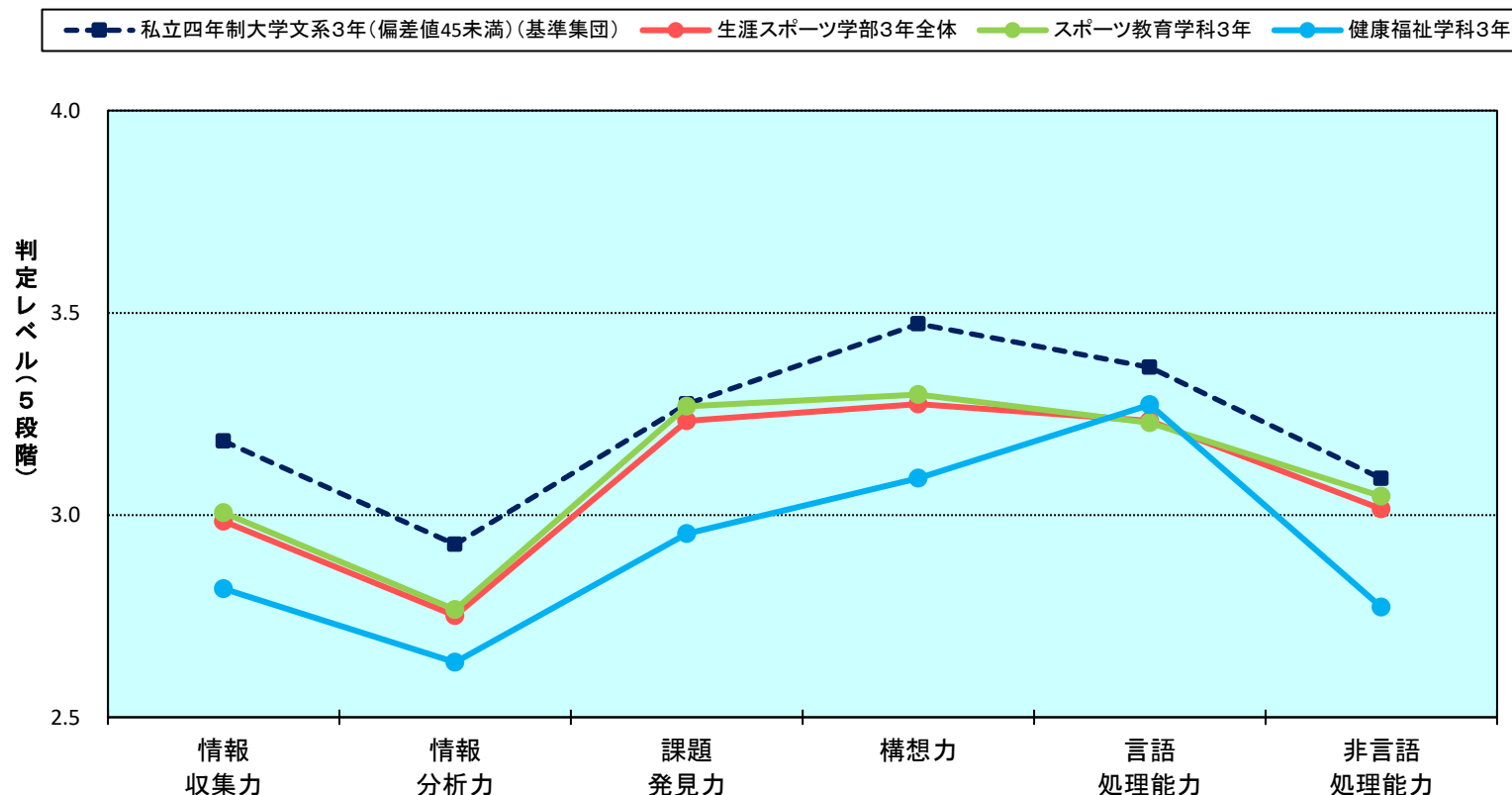
基準集団と比較して、課題発見力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、情報分析力、構想力、言語処理能力の平均値は低い。

【健康福祉学科3年】

基準集団と比較して、言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、非言語処理能力の平均値は低い。



リテラシー要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

リテラシー要素 判定レベルに見る全体傾向 ②

【教育文化学部3年全体】

基準集団と比較して、情報収集力、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高く、情報分析力の平均値は上回る傾向にある。

【教育学科3年】

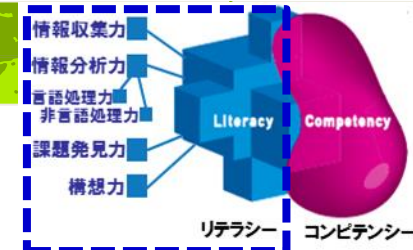
基準集団と比較して、情報収集力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高く、情報分析力、課題発見力の平均値は上回る傾向にある。

【芸術学科3年】

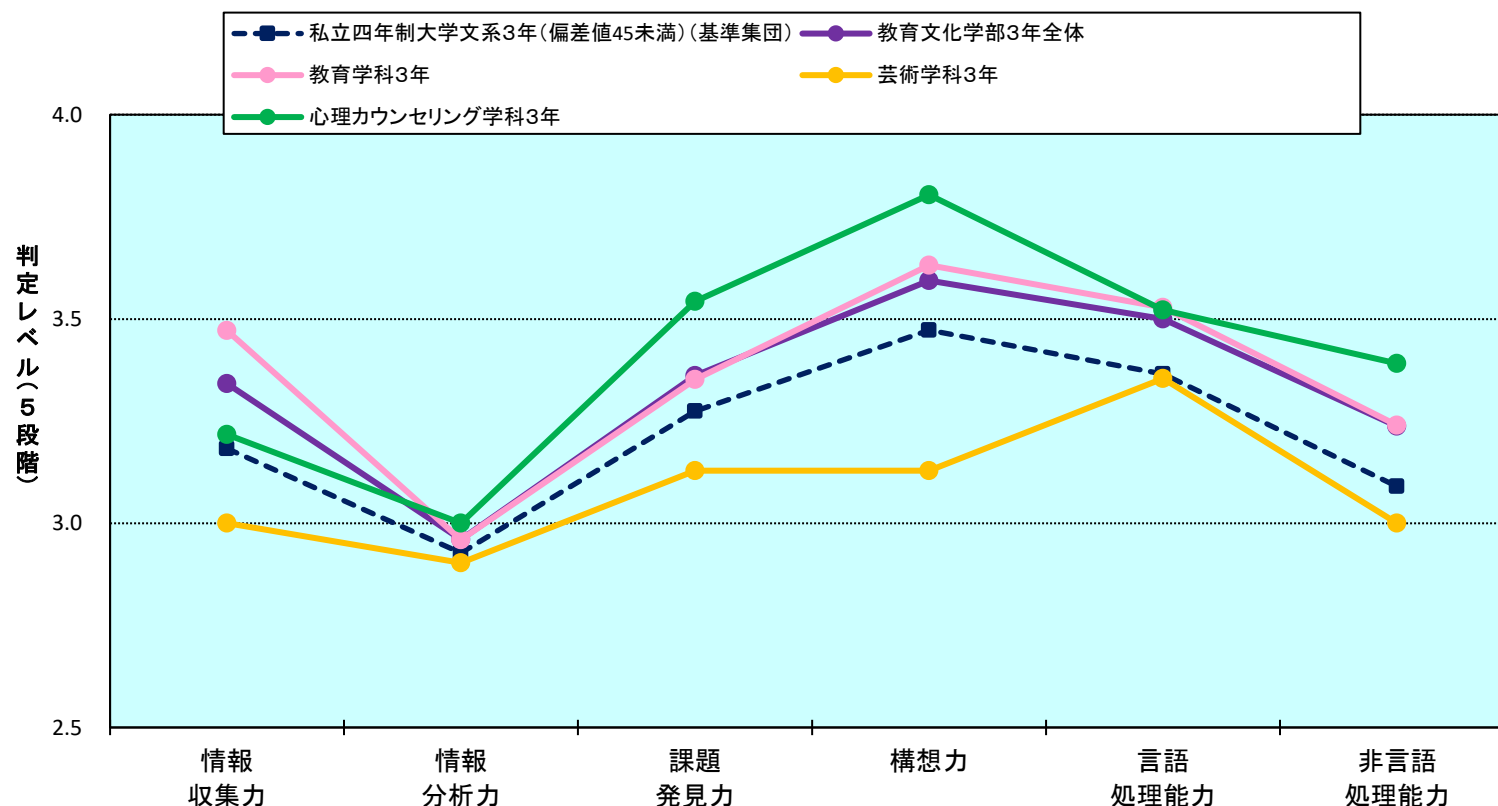
基準集団と比較して、情報収集力、情報分析力、課題発見力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は下回る傾向にあり、構想力の平均値は低い。

【心理カウンセリング学科3年】

基準集団と比較して、課題発見力、構想力、言語処理能力、非言語処理能力の平均値は高く、情報収集力、情報分析力の平均値は上回る傾向にある。



リテラシー要素



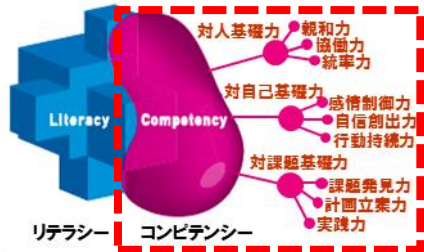
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

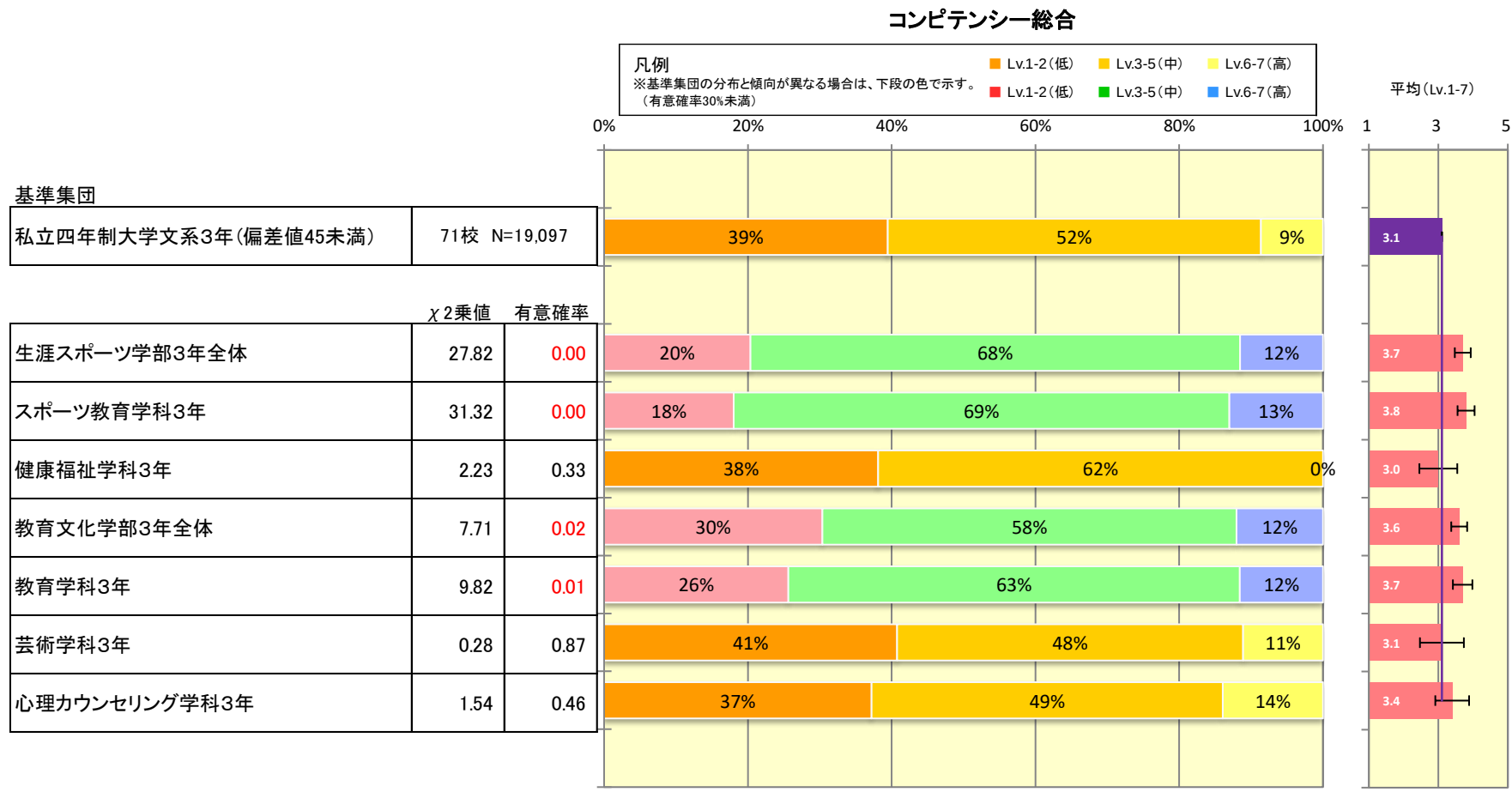
4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」



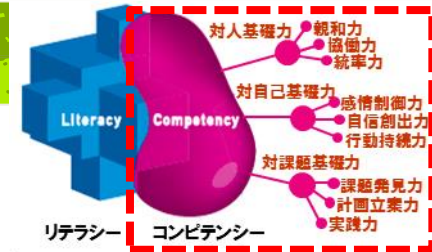
【コンピテンシー総合】

●基準集団と比較して、特に課題は見当たらない

※健康福祉学科3年、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



コンピテンシー大分類要素 判定レベルに見る全体傾向



【対人基礎力】

●基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれるのは、健康福祉学科3年

※健康福祉学科3年、芸術学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対自己基礎力】

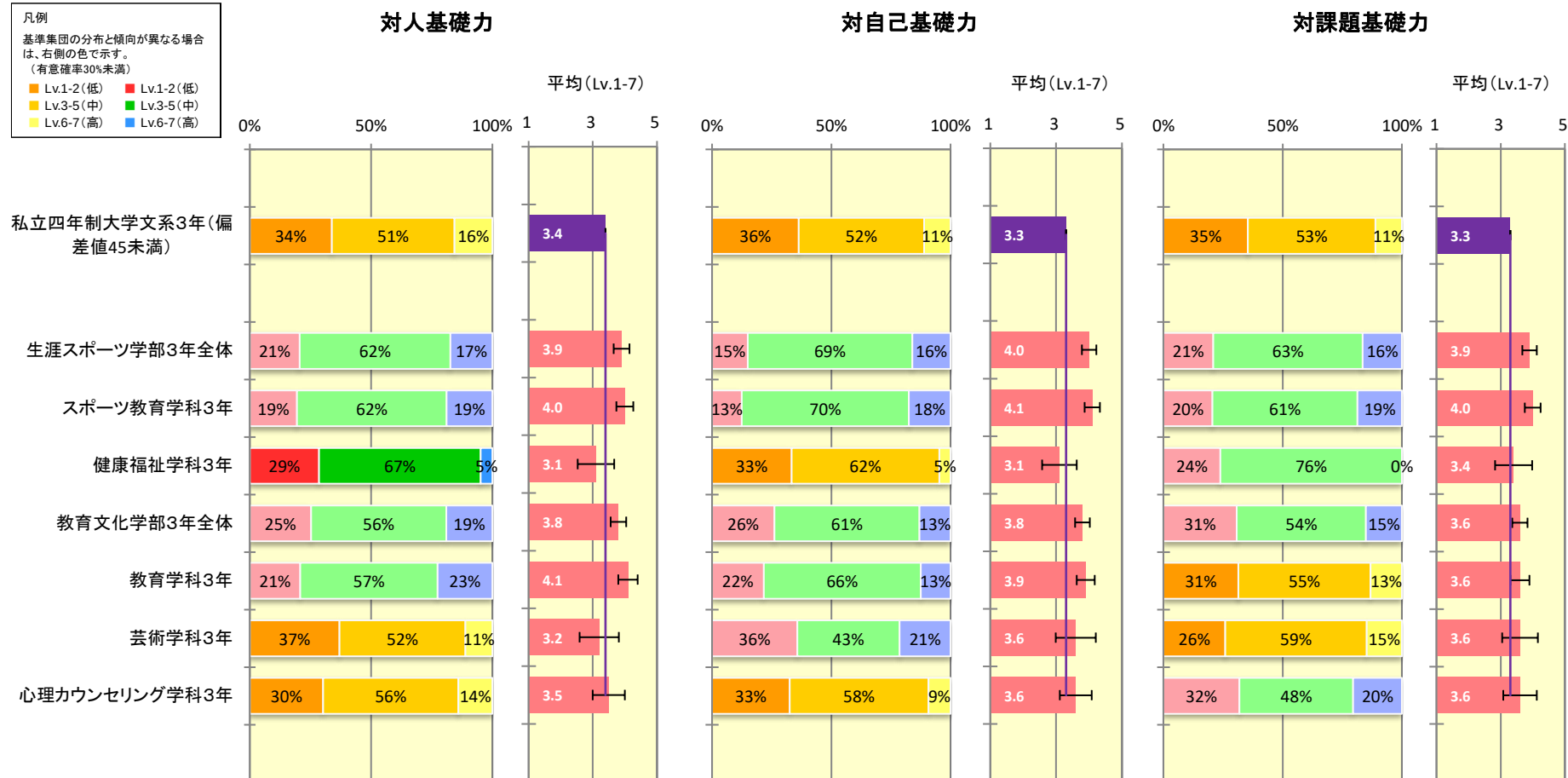
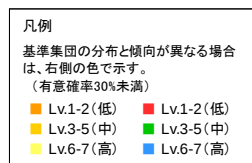
●基準集団と比較して、特に課題は見当たらない

※健康福祉学科3年、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。

【対課題基礎力】

●基準集団と比較して、特に課題は見当たらない

※健康福祉学科3年、芸術学科3年、心理カウンセリング学科3年は、サンプル数が5を下回るものがあるため、参考値とお考えください。



【生涯スポーツ学部3年全体】

基準集団と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高い。

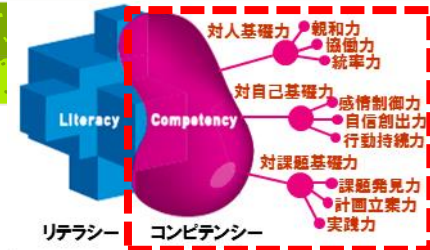
【スポーツ教育学科3年】

基準集団と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、計画立案力、実践力の平均値は高い。

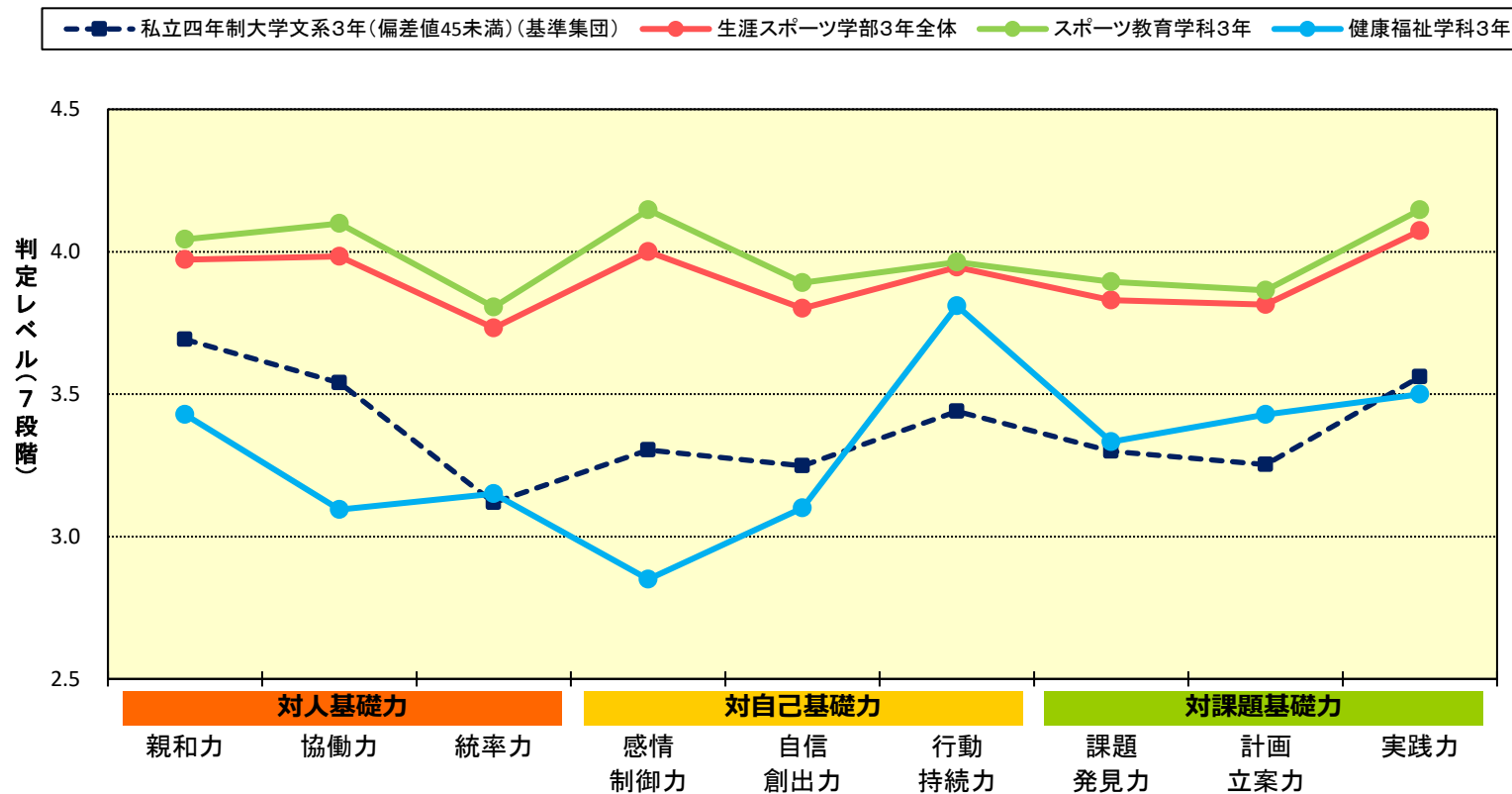
【健康福祉学科3年】

基準集団と比較して、行動持続力の平均値は高く、統率力、課題発見力、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

一方、親和力、自信創出力、実践力の平均値は下回る傾向にあり、協働力、感情制御力の平均値は低い。



コンピテンシー中分類要素



※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

【教育文化学部3年全体】

基準集団と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力の平均値は高く、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

【教育学科3年】

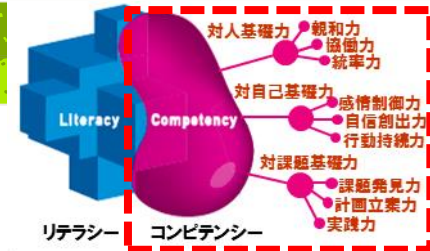
基準集団と比較して、親和力、協働力、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、課題発見力、実践力の平均値は高く、計画立案力の平均値は上回る傾向にある。

【芸術学科3年】

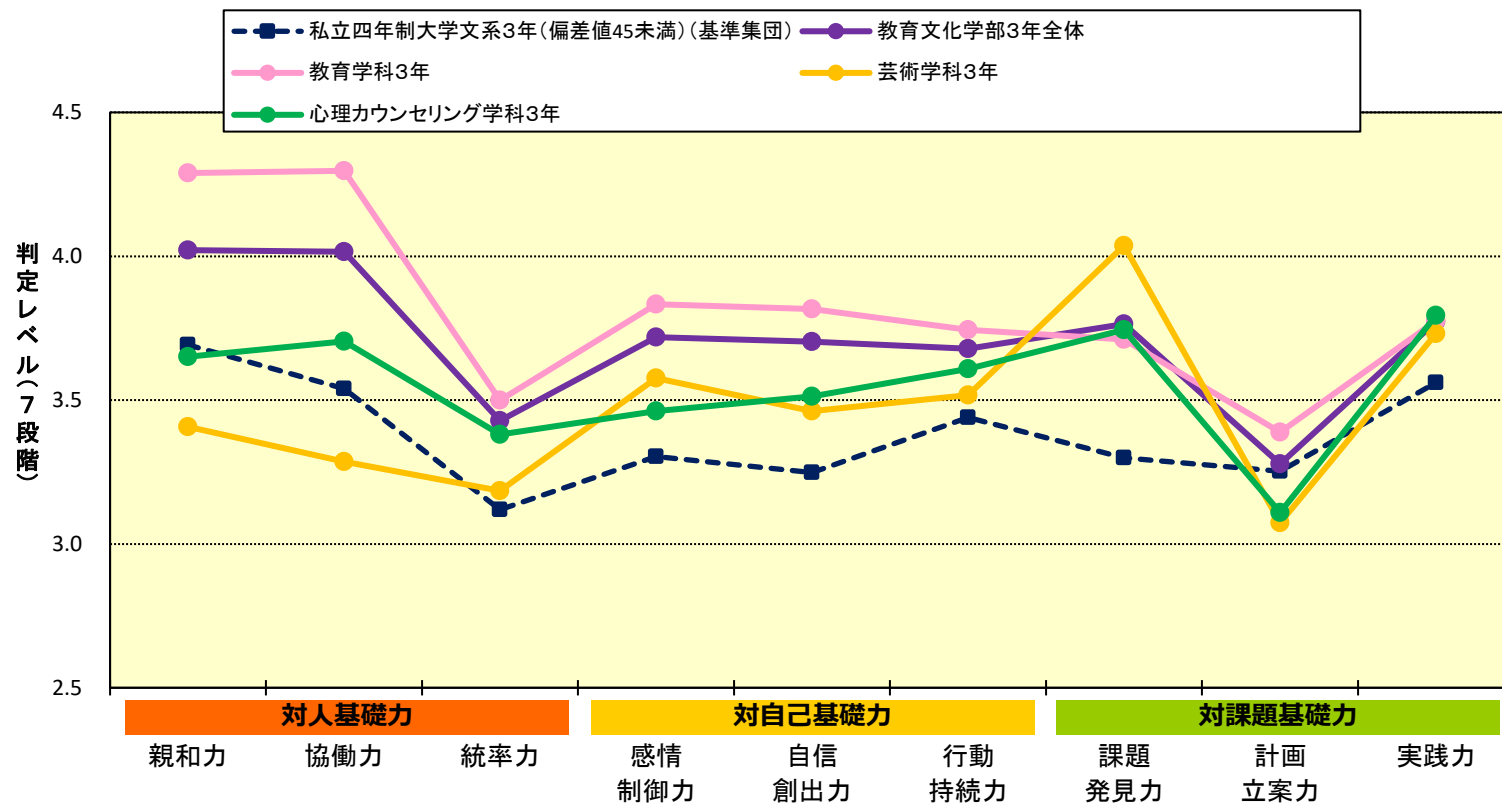
基準集団と比較して、課題発見力の平均値は高く、統率力、感情制御力、自信創出力、行動持続力、実践力の平均値は上回る傾向にある。一方、親和力、協働力、計画立案力の平均値は下回る傾向にある。

【心理カウンセリング学科3年】

基準集団と比較して、統率力、自信創出力、課題発見力の平均値は高く、協働力、感情制御力、行動持続力、実践力の平均値は上回る傾向にある。一方、親和力、計画立案力の平均値は下回る傾向にある。



コンピテンシー中分類要素



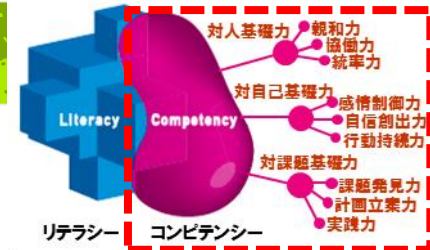
※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

1) 標準誤差の下限が基準値を上回る場合→「高い」

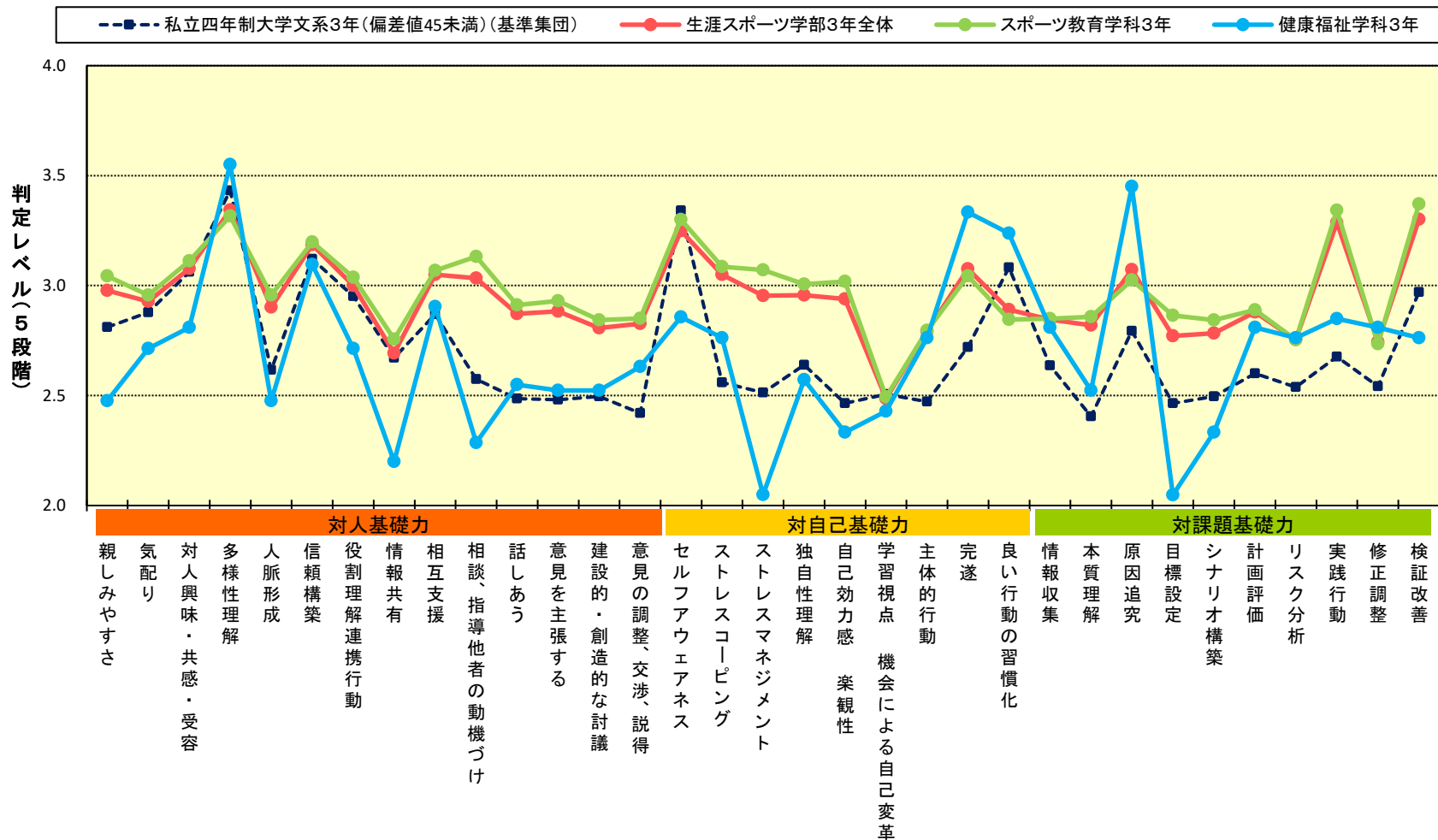
3) 基準値よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」

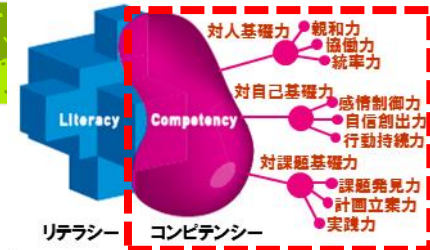
2) 標準誤差の上限が基準値を下回る場合→「低い」

4) 基準値よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

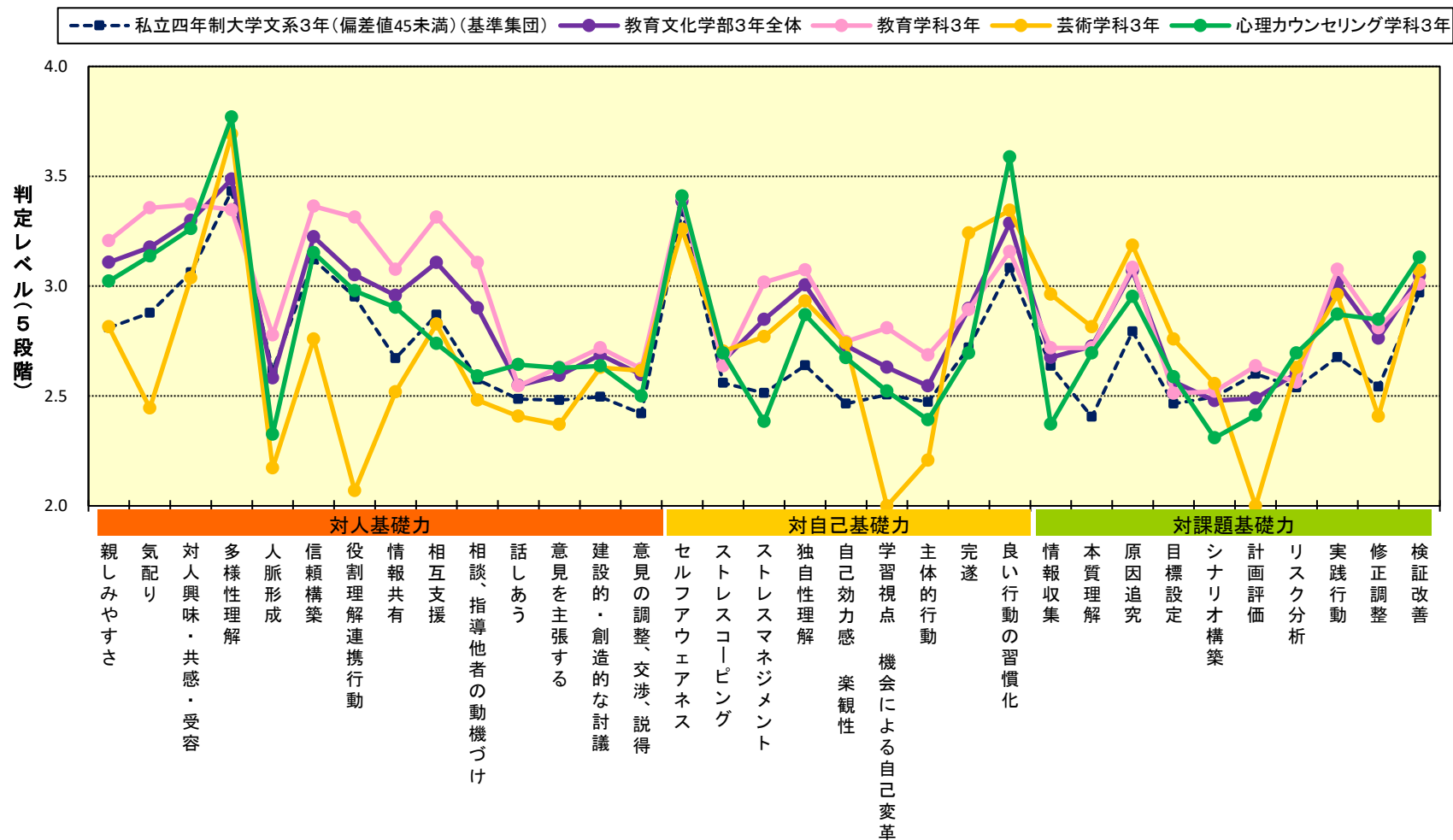


コンピテンシー小分類要素





コンピテンシー小分類要素



ループリックで見る3年生の状態について(リテラシー領域①)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5							
情報 収 集 力	課題発見・課題解決に向けて、幅広い観点から適切な情報源を見定め、適切な手段を用いて情報を収集・調査し、それらを適切に整理・保存する力	・情報源の特性を知る 1) さまざまな情報源 2) インターネットで検索する 3) 図書館で調べる ・情報を整理・保存する 1) ノートテイキング（講義を聴く） 2) 情報をファイリングする ・アンケートとインタビュー 1) アンケートを実施する 2) インタビューを行う	簡単な情報収集の仕方について、理解している		様々な情報収集の手段について、その利便性と問題点を理解できる	収集すべき情報の特性や情報源の信頼性が理解できる	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な文脈の中で、仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる							
									生涯スポーツ学部3年全体	3.0			●		
									スポーツ教育学科3年	3.0			●		
									健康福祉学科3年	2.8		●			
									教育文化学部3年全体	3.3			●		
									教育学科3年	3.5			●		
									芸術学科3年	3.0			●		
									心理カウンセリング学科3年	3.2			●		
									私立四年制大学文系3年（偏差値45未満）	3.2			●		

情報 分 析 力	事実・情報を思い込みや憶測ではなく、客観的かつ多角的に整理・分類し、それらを統合して隠れた構造を捉え、本質を見極める力	・表やグラフを読み取る 1) 図表・グラフの種類と特性 2) グラフの「読み取り」「分析」のポイント 3) 複数のグラフや表を総合して読み取る ・文献・資料を読む 1) 論理的なテキストの特性 2) 論理的なテキストの読解 3) 見出しをつける 4) 全体像を捉える ・批判的・多角的に分析する 1) 批判的読解とは 2) 批判的読解の具体的あり方	簡単な図表や文章を読み取ることができる		図表や文章から、客観的な事実や因果関係を読み取ることができる	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる	複雑な文脈の中で、情報を多角的に理解し、それらを統合して本質をとらえることができる							
									生涯スポーツ学部3年全体	2.8		●			
									スポーツ教育学科3年	2.8		●			
									健康福祉学科3年	2.6		●			
									教育文化学部3年全体	3.0			●		
									教育学科3年	3.0			●		
									芸術学科3年	2.9		●			
									心理カウンセリング学科3年	3.0			●		
									私立四年制大学文系3年（偏差値45未満）	2.9		●			

ループリックで見る3年生の状態について(リテラシー領域②)

リテラシー		定義	レベル	1	2	3	4	5
課題 発見 力	さまざまな角度、広い視野から現象や事実を捉え、それらの背後に隠れているメカニズムや原因について考察し、解決すべき課題を発見する力	・広い観点から問題点を洗い出す 1) 拡散思考について 2) ブレーンストーミングで発想を広げる 3) フレームワークで考える ・問題点を整理・分析する 1) 収束思考について 2) 収束思考に必要な観点 3) マップ化による整理 ・発見された問題の中から、解決すべき課題を設定する 1) 問題点から課題への絞り込み 2) 課題への絞り込みに必要な観点		簡単な問題において、解決すべき課題を選択することができる	複数の情報を整理し、解決すべき課題を設定することができる	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる	複雑な文脈の中で、複数の情報から問題の本質を見極め、解決すべき課題を設定できる
		生涯スポーツ学部3年全体	3.2			●		
		スポーツ教育学科3年	3.3			●		
		健康福祉学科3年	3.0			●		
		教育文化学部3年全体	3.4			●		
		教育学科3年	3.4			●		
		芸術学科3年	3.1			●		
		心理カウンセリング学科3年	3.5			●		
		私立四年制大学文系3年（偏差値45未満）	3.3			●		
構 想 力	さまざまな条件・制約を考慮しながら問題解決までのプロセスを構想し、その過程で想定されるリスクやその対処方法を構想する力	・広い観点から解決策を考える ・現実味のある解決策を考える ・計画を立てる 1) 必要な作業をもれなく洗い出す 2) 具体的な行動計画を考える		簡単な問題において、解決策を選択することができる	問題解決のプロセスに即して、解決策を構想することができる	いくつかの解決策の中から、制約条件を踏まえて有効な解決策を選択することができる	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	複雑な文脈の中で、制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる
		生涯スポーツ学部3年全体	3.3			●		
		スポーツ教育学科3年	3.3			●		
		健康福祉学科3年	3.1			●		
		教育文化学部3年全体	3.6			●		
		教育学科3年	3.6			●		
		芸術学科3年	3.1			●		
		心理カウンセリング学科3年	3.8			●		
		私立四年制大学文系3年（偏差値45未満）	3.5			●		

ループリックで見る3年生の状態について(コンピテンシー対人領域)

コンピテンシー (対人)		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
親和力	他者との豊かな関係を築く	人に対して、興味をもって相手の話を聞き、相手の立場や気持ちを思いやり、共感を受けとめる、また多様な価値観を受け入れる。さらに、そうした関わりから、相手と信頼関係を築いたり、人脈を広げていく力		・親しくない人には無愛想になりがち ・興味をもって相手の話をきいたり相手の立場を考えた言動をとることが苦手	・人に対して笑顔で接することができる ・相手の立場や気持ちを考えたり、人間関係に配慮した言動を心がけている	・相手にに対して自然な気配りができる ・自分と異なる考えや意見でも興味深く相手の話を聞き、理解を示すことができる	・親しくない人に対しても、自分から気軽に話しかける ・人から相談された際は相手の話を一生懸命聴き、信頼を得ることができる	・個人や周囲の状況に対して細やかな気遣いができる ・必要に応じて自分の気持ちを素直に表現し人脈を広げる行動をとることができる	・相談された際は、相手の置かれた立場や背景をも汲み取って理解しようとする ・誰に対しても臆せず接し人脈を広げていくことができる	・築いた人脈や関係性の維持に努めることができる ・人脈ネットワークを広げるために自ら場を創り、維持・運営することができる
				生涯スポーツ学部3年全体	4.0					
				スポーツ教育学科3年	4.0					
				健康福祉学科3年	3.4					
				教育文化学部3年全体	4.0					
				教育学科3年	4.3					
				芸術学科3年	3.4					
				心理カウンセリング学科3年	3.7					
				私立四年制大学文系3年 (偏差値45未満)	3.7					
協働力	目標に向けて協力的に仕事を進める	周囲や集団において、自分の役割を理解した上で互いに連携・協力、助け合ったり、情報を共有して一緒に物事を進めていく。さらに、他者の相談に乗るなど働きかけ、動機づける力		・他の人と一緒に物事に取り組むのが苦手 ・周囲の人が困っている状況に気づかないことが多い	・集団の中で、割り当てられたことは自分なりに工夫しながら取り組む ・周囲に気を配り、困っている人には手を貸そうとする	・チームで課題に取り組む場合には、自ら情報発信するなど、チームへの貢献を考えて行動することができる	・人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけをすることができる ・雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献することができる	・誰かを支援する時には全力でサポートする ・周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	・リーダーとして、周囲の状況への気配りや働きかけをすることができる ・チーム全体のやる気を高めることができる	・リーダーとして、状況や相手に応じチームのメンバーを動機づけることができる ・相互支援や情報を共有しあう環境をつくること
				生涯スポーツ学部3年全体	4.0					
				スポーツ教育学科3年	4.1					
				健康福祉学科3年	3.1					
				教育文化学部3年全体	4.0					
				教育学科3年	4.3					
				芸術学科3年	3.3					
				心理カウンセリング学科3年	3.7					
				私立四年制大学文系3年 (偏差値45未満)	3.5					
統率力	場をよみ、組織を動かす	集団の中で、自分の意見を主張すると同時に、議論の活発化や発展のために集団に働きかける。また、必要に応じて、意見の調整、交渉、説得し、集団を合意に導く力		・話し合いの場では議論に消極的なことが多い ・発言の際、考えが整理しきれず相手に言いたいことが伝わらないことが多い	・自分の考えを整理し、筋道を立てて伝えることができる ・話し合いの場では、議論の目的を見失わずに意見を述べるることができる	・自分の考えを論理的かつ気持ちを込めて相手にわかりやすく伝えることができる ・意見の異なる相手でも、粘り強く自分の考えを話す	・相手や状況に関係なく、はっきりとした主張ができる ・相手の立場や背景も考慮しながら意見調整を進めることができる	・周囲の反対にあって孤立しても、正しいと思うことは粘り強く主張できる ・建設的、かつ創造的な議論を意識した発言ができる	・全員に発言を促し、整理や方向づけによって議論を発展させていくことができる ・リーダーとして、チームの結論を導くことができる	・意見が対立する中でも、建設的に議論を導くことができる ・聴衆を引き込み納得させるようなプレゼンテーションをすることができる
				生涯スポーツ学部3年全体	3.7					
				スポーツ教育学科3年	3.8					
				健康福祉学科3年	3.2					
				教育文化学部3年全体	3.4					
				教育学科3年	3.5					
				芸術学科3年	3.2					
				心理カウンセリング学科3年	3.4					
				私立四年制大学文系3年 (偏差値45未満)	3.1					

ループリックで見る3年生の状態について(コンピテンシー対自己領域)

コンピテンシー (対自己)	定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
感情制 御力	気持ちの揺れを 制御する	自分の感情や気持ちを認識して客観的に言動をコントロールしたり、ストレスをうまく処理することができる。また、プレッシャーを感じる場面でも、感情をコントロールして力を発揮する力	・自分の感情をコントロールするのが苦手 ・些細なことでも、動揺したり落ち込んだりして、なかなか立ち直れないことが多い	・人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする	・感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる ・やらなければならないことがたくさんあるような状況でも、こなしていくことができる	・ストレスやプレッシャーがかかる場面でも、落ち着いて対処できる ・難しい課題に対しても前向きに取り組むことができる	・自分がストレスを感じやすい場面を知っており、対処法を考えておくことができる ・失敗に向き合い原因を徹底的に考えることができる	・心を落ち着かせる、自分なりの方法をもっている ・緊張やプレッシャーを感じる場面でも、落ち着いて、かつ集中して取り組むことができる	・ストレスの原因に自ら働きかけ、解消することができる ・必要に応じて自分の感情を率直に伝えることで、相手との信頼関係を築くことができる
			生涯スポーツ学部3年全体	4.0					
			スポーツ教育学科3年	4.1					
			健康福祉学科3年	2.9					
			教育文化学部3年全体	3.7					
			教育学科3年	3.8					
			芸術学科3年	3.6					
			心理カウンセリング学科3年	3.5					
			私立四年制大学文系3年 (偏差値45未満)	3.3					
自信 創出力	前向きな考え方や やる気を維持する	自己の強み弱みを認識した上で、自分に自信をもって物事に取り組むことができる。また、常に学ぶ姿勢をもち、経験の機会をうまくとらえて挑戦していく力	・自分の強みがわからず、自信をもって行動できない ・初めてのことが難しいことには、なかなか挑戦する気になれない	・自分では強みがわからないが、人からほめられることで自信をもつことができる ・仕事や課題に対して前向きに取り組むことができる	・自分の強み・弱みを知っており、多少見通しが立たないことでも自分を信じて行動できる ・機会をチャンスと捉え、楽しんで取り組むことができる	・自分ならではの強みや持ち味を活かせる場面をイメージすることができる ・初めてのことも、臆せず取り組むことができる	・難しいことでも、積極的に挑戦し、失敗しても何かを学ぶとする ・好きではない仕事でも、自分なりに工夫して取り組む	・自分ならではの強みや持ち味を活かす機会を見逃さない ・常に良い結果をイメージして、自信をもって取り組むことができる	・どんな仕事や課題でも主体性と好奇心をもって取り組むことができる ・成長の機会を自ら創り出していくことができる
			生涯スポーツ学部3年全体	3.8					
			スポーツ教育学科3年	3.9					
			健康福祉学科3年	3.1					
			教育文化学部3年全体	3.7					
			教育学科3年	3.8					
			芸術学科3年	3.5					
			心理カウンセリング学科3年	3.5					
			私立四年制大学文系3年 (偏差値45未満)	3.2					
行動 持続力	主体的に動き、 良い行動を 習慣づける	主体的に行動し、物事には最後まで粘り強く取り組むことができる。また、良い行動を習慣化する力	・人からの指示を待って行動することが多い ・何かに取り組んでも、最後までやり切れないことが多い	・良いやり方や習得した技術・知識は、すぐに試みよう心がけている	・任せられたことは、できるだけ自分でやるべきことを考え行動するようにしている ・常に良いやり方を追求し、能力向上を心がけている	・何かに取り組む時には、自発的に考え行動に移す ・取り組んだことに対しては、自分なりに工夫しながら最後までやり抜くようにしている	・すべきことや他者の期待を自ら考え、責任をもって行動することができる ・周囲からの期待以上のことを主体的に行う	・目標を定め、最後まで諦めずにやり遂げる ・行動の検証と改善を繰り返しながら、より良い行動に結びつけることができる	・課題には期限ぎりぎりまで、自分が納得できる結果が出るまで粘り強く取り組む ・検証と改善を常に繰り返すことを習慣化している
			生涯スポーツ学部3年全体	3.9					
			スポーツ教育学科3年	4.0					
			健康福祉学科3年	3.8					
			教育文化学部3年全体	3.7					
			教育学科3年	3.7					
			芸術学科3年	3.5					
			心理カウンセリング学科3年	3.6					
			私立四年制大学文系3年 (偏差値45未満)	3.4					

ループリックで見る3年生の状態について(コンピテンシー対課題領域)

コンピテンシー（対課題）		定義	レベル	1	2	3	4	5	6	7
課題 発見 力	課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う	適切な方法で情報を収集し、事実に基づいて客観的に分析、本質的な問題を見極める。さらに、様々な角度から課題を分析し、原因を明らかにする力		・課題に対しての情報収集が、適切な方法でない場合が多い	・課題に対し、自分なりに情報を集めることができる ・集めた情報を、客観的に整理しようと努める	・興味のある特定の分野ならば、情報を集めて客観的に事実を整理、分析することができる ・分析を基に、自分なりに因果関係の仮説を立てられる	・課題に応じ、様々な方法で情報を集めることができる ・定性的データを客観的に整理し、複数の因果関係の仮説を立てることができる	・課題に応じて、定性的な情報や、定量的なデータを収集し、適切に整理、分析できる ・より現実的な視点で、複数の因果関係の仮説を立てられる	・事実が複雑に絡み合っている問題でもデータを客観的に整理、分析できる ・因果関係を整理し課題解決につなげることができる	・関心分野については、常日頃から情報収集している ・合理的な判断だけでは難しい問題に対して、関係者の心情を汲んで結論を出すことができる
			生涯スポーツ学部3年全体	3.8						
			スポーツ教育学科3年	3.9						
			健康福祉学科3年	3.3						
			教育文化学部3年全体	3.8						
			教育学科3年	3.7						
			芸術学科3年	4.0						
			心理カウンセリング学科3年	3.7						
			私立四年制大学文系3年（偏差値45未満）	3.3						
計画 立案 力	課題解決のための適切な計画を立てる	明確な目標を立て、その実現に向けて効果的な計画を立てる。また、立てた計画に対して目標の実現や課題解決に向けての見通しを立てたり、どんな問題が起こり得るかのリスクを想定して事前に対策を講じる力		・自分で目標や計画を立てずに課題に取り組み ・立案した計画や目標が現実的でないなど適切でないことが多い	・課題に対して、目標と計画を大まかに立てることができる ・立案した計画や目標に、自分なりに取り組むことができる	・条件が明確な課題であれば目標や発生しそうな問題を予め考えることができる ・予測をふまえた具体的な計画を立て取り組むことができる	・経験のあることならば不確定な部分があっても具体的に適切な計画を立てられる ・情報整理・分析が甘くなりがちになる	・経験のないことでも、現実的で適切な計画と複数のシナリオを考えることができる ・事前にリスクを検討、想定し、手を打つことができる	・長期的な目標と同時に、途中段階の具体的な目標も設定し、実現性を高めることができる ・チームでの取り組みの際、メンバーの負担を適切に行う	・自身やチームにとって挑戦的な目標を設定し挑む ・制約条件や資源を考慮した計画を立て、状況に応じて柔軟に修正することができる
			生涯スポーツ学部3年全体	3.8						
			スポーツ教育学科3年	3.9						
			健康福祉学科3年	3.4						
			教育文化学部3年全体	3.3						
			教育学科3年	3.4						
			芸術学科3年	3.1						
			心理カウンセリング学科3年	3.1						
			私立四年制大学文系3年（偏差値45未満）	3.3						
実践 力	実践行動をとる	計画をすすんで実行し、状況に応じて柔軟に行動を修正する。また、行動を振り返って検証し、次の行動の改善に結びつける力		・やるべきことでも、なかなか実行に移せない・実行はできても当初のやりかたで進めがちで、おちに振り返ることも少ない	・やるべきことに対して、自分なりに試行錯誤しながら物事を進めていくことができる	・制約条件を考えて、試行錯誤しながら物事を進めることができる ・終了後には、成功か失敗かを振り返る	・計画を実行しながら、遅れや予想外の事態に応じて行動を修正することができる ・うまくいかなかった場合、原因を追求し次に役立てる	・チームの他の人の様子に気を配りながら、物事を進めることができる ・進捗状況を確認しつつ、自ら率先して行動することができる	・計画の実行中、全体の状況に気を配ることができる ・先行きを予測し必要に応じて、早めに全体の動きを修正することができる	・チームでより良い成果を挙げるため、即行動できる ・活動の振り返りを次に活かして、チームの成果を高めることができる
			生涯スポーツ学部3年全体	4.1						
			スポーツ教育学科3年	4.1						
			健康福祉学科3年	3.5						
			教育文化学部3年全体	3.8						
			教育学科3年	3.8						
			芸術学科3年	3.7						
			心理カウンセリング学科3年	3.8						
			私立四年制大学文系3年（偏差値45未満）	3.6						

	リテラシー					コンピテンシー										
	総合	情報 収集力	情報 分析力	課題 発見力	構想力	総合	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力			
							親和力	協働力	統率力	感情 制御力	自信 創出力	行動 持続力	課題 発見力	計画 立案力	実践力	
生涯スポーツ学部 3 年全体	■	▲	▲	-	▲	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
スポーツ教育学科 3 年	■	▲	▲	-	▲	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
健康福祉学科 3 年	■	▲	▲	▲	▲	-	-	▲	-	▲	-	◎	-	-	-	
教育文化学部 3 年全体	-	◎	-	◎	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	
教育学科 3 年	-	◎	-	-	◎	-	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	-	◎	
芸術学科 3 年	-	-	-	-	▲	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	
心理カウンセリング学科 3 年	-	-	-	◎	◎	-	-	-	◎	-	◎	-	◎	-	-	

記号のみかた

【リテラシー総合・コンピテンシー総合】

- ・・・基準集団と比較して、低レベルの分布が多く、当該能力の底上げが望まれる
- ▲・・・基準集団と比較して、低・中レベルの分布が多く、当該能力の全体的な引き上げが望まれる
- △・・・基準集団と比較して、中レベルの分布が多く、当該能力の一層の伸長が望まれる

【リテラシー要素・コンピテンシー要素】

- ◎・・・標準誤差の下限が、基準集団を上回る
- ▲・・・標準誤差の上限が、基準集団を下回る

今後の課題と対策 ①

【生涯スポーツ学部3年全体】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
●情報分析力	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	データ・グラフから読み取れる事実の背景や要因を考察させる／語彙を理解し概念を正確に捉えるようにする／書かれている内容を客観的に捉えるようにする／客観的な事実と主観的な意見とを区別させる／論理の矛盾や飛躍がないかを検証させる
●構想力	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	解決策を実行するために必要な作業を漏れなく洗い出すようにする／制約条件の下で、実行可能な行動計画を立てさせる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【スポーツ教育学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●情報収集力	仮説を検証するために必要な情報を見定めて収集し、整理保存ができる	複雑な問題を整理し複数の仮説を立てさせる／限られた時間の中で仮説を検証するために必要な情報を優先順位をつけて収集させる／情報の真偽や有用性を考え整理させる／調べたい情報が得られるようにアンケート項目を考えさせる／人に直接面会してインタビューをさせる
●情報分析力	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	データ・グラフから読み取れる事実の背景や要因を考察させる／語彙を理解し概念を正確に捉えるようにする／書かれている内容を客観的に捉えるようにする／客観的な事実と主観的な意見とを区別させる／論理の矛盾や飛躍がないかを検証させる
●構想力	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	解決策を実行するために必要な作業を漏れなく洗い出すようにする／制約条件の下で、実行可能な行動計画を立てさせる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

今後の課題と対策 ②

【健康福祉学科3年】

強化すべき要素		目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	●情報収集力	収集すべき情報の特性や情報源の信憑性が理解できる	目的に応じた検索方法・情報源の活用を求める／書籍や雑誌、新聞などの特性を理解し活用させる／インターネットの問題点を認識させた上で活用させる／情報の作成者や発信元を調べ情報の信頼性を確認させる／知識をノートにまとめ整理させる／情報をテーマごとに分類しファイルリングさせる
	●情報分析力	図表や文章から読み取った内容の関係を論理的に思考し、構造化することができる	データ・グラフから読み取れる事実の背景や要因を考察させる／語彙を理解し概念を正確に捉えるようにする／書かれている内容を客観的に捉えるようにする／客観的な事実と主観的な意見とを区別させる／論理の矛盾や飛躍がないかを検証させる
	●課題発見力	いくつかの問題点の中から、解決すべき課題の優先順位を理解することができる	ブレインストーミングなどの手法を用い既存概念に囚われず広く深く発想させる／SWOT分析などの手法をも用いて問題点を洗い出させる／親和図法・KJ法などの手法を用いて情報を分類・結合し、階層化・構造化させる
	●構想力	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	解決策を実行するために必要な作業を漏れなく洗い出すようにする／制約条件の下で、実行可能な行動計画を立てさせる
■コンピテンシー	●協働力	人から相談された際に、本人がやる気が出るよう働きかけることができる 雰囲気づくりなどを通じてチームに貢献できる 誰かを支援する時には全力でサポートする 周囲との協力や働きかけを通じて、チームの成果に貢献することができる	相手の意図をよく考えて返答するように指導している 各自が持っている知識や情報を体系立てて整理し発表する機会を設ける 互いに協力し、補い合いながら、課題を遂行するようにさせる
	●感情制御力	人間関係など身近な問題が発生した時には、落ち着いて自分なりに対処しようとする 感情が多少乱れても、冷静になって行動することができる やらなければならないことが沢山あるような状況でも、こなしていくことができる	想定外のことが起こっても、目的を見失わず、次善策を考えさせる プロジェクトや研究・実験の進捗状況を客観的に把握し、冷静に事後の策を考えさせる 白熱した議論の中でも、冷静さを保つよう指導する

今後の課題と対策 ③

【教育文化学部3年全体】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【教育学科3年】

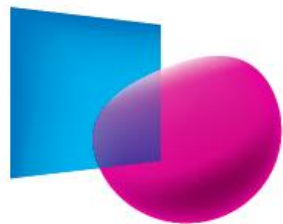
強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【芸術学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー ●構想力	制約条件やリスク等をふまえ、有効な解決策や行動計画を構想できる	解決策を実行するために必要な作業を漏れなく洗い出すようにする／制約条件の下で、実行可能な行動計画を立てさせる
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	

【心理カウンセリング学科3年】

強化すべき要素	目指す状態	対応策のヒント
■リテラシー	基準集団と比較して、特に課題感のある要素は見当たらないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	
■コンピテンシー	基準集団と比較して、統計的に課題のある要素を特定することは出来ないが、低・中レベル学生の一層の能力引き上げが望まれる	



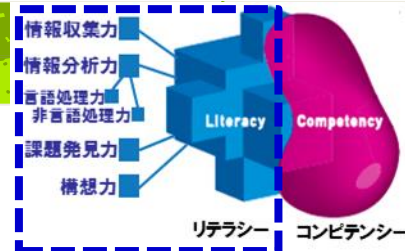
PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

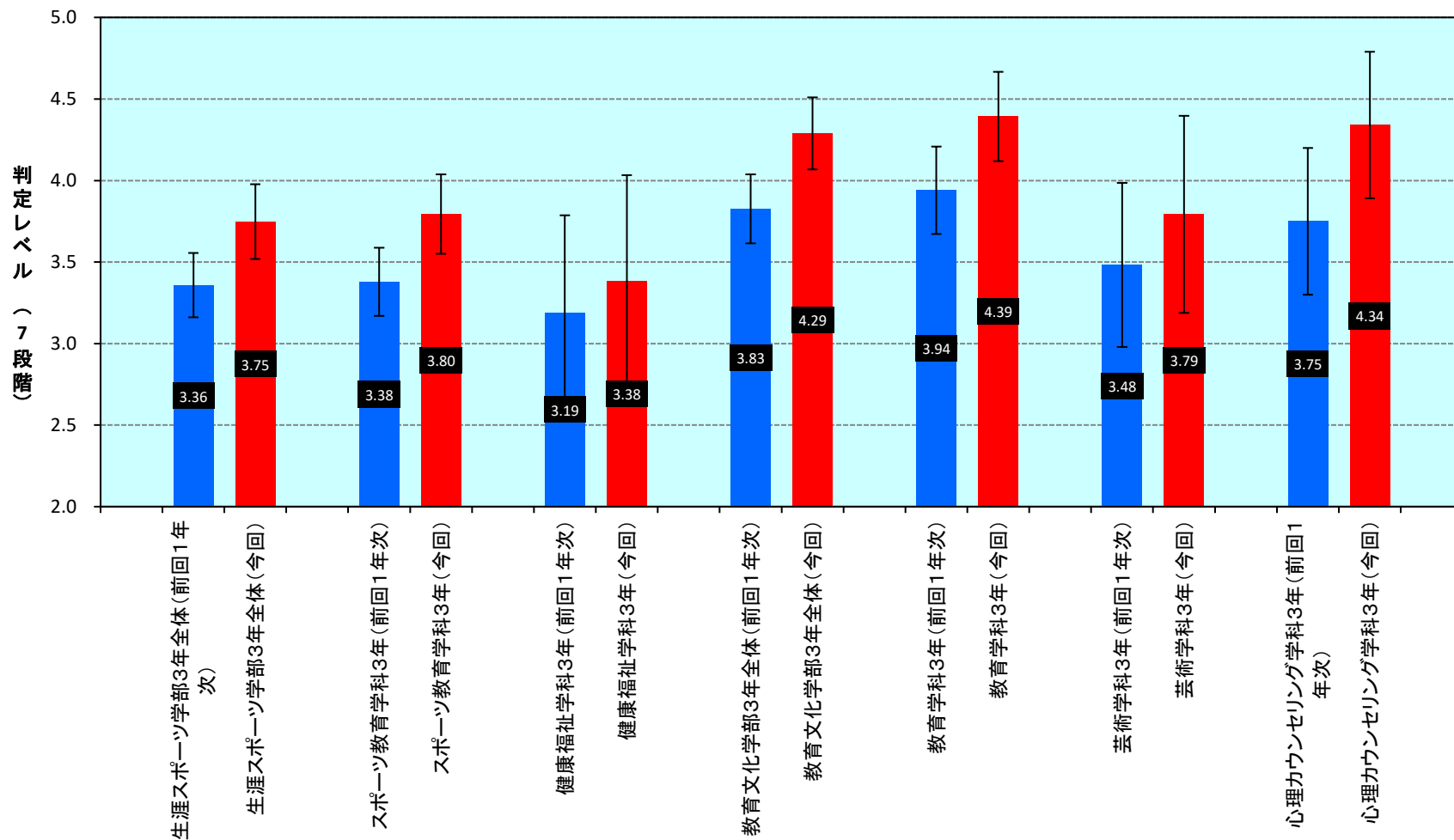
Part.3 3年生成長分析

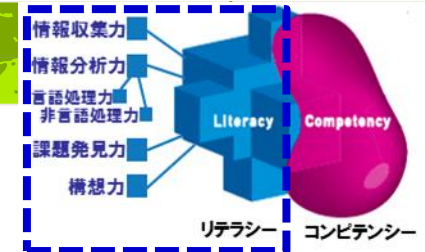
受験者プロフィール

学部	学科	前回(1年次) 2017年12月受験	今回 2019年11月 ～2020年1月受験	集計対象者 (前回・今回 いずれも受験)
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科 3年	182	171	166
	健康福祉学科 3年	24	22	21
		206	193	187
教育文化学部	教育学科 3年	128	125	117
	芸術学科 3年	32	31	29
	心理カウンセリング学科 3年	45	46	44
		205	202	190
合計		411	395	377

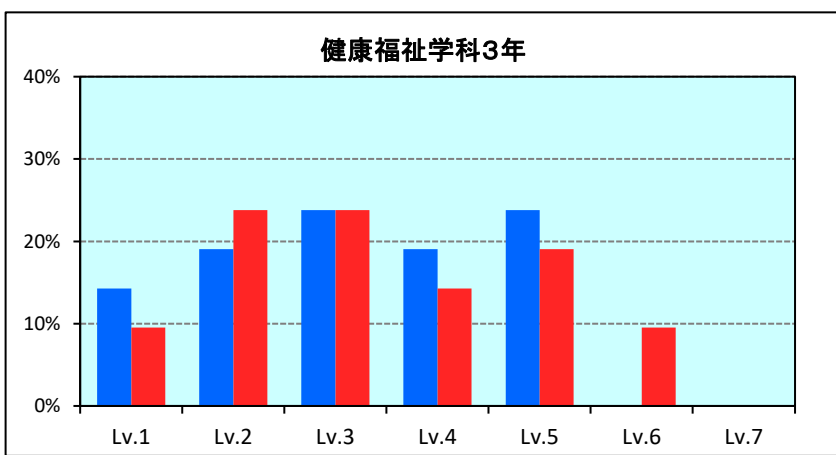
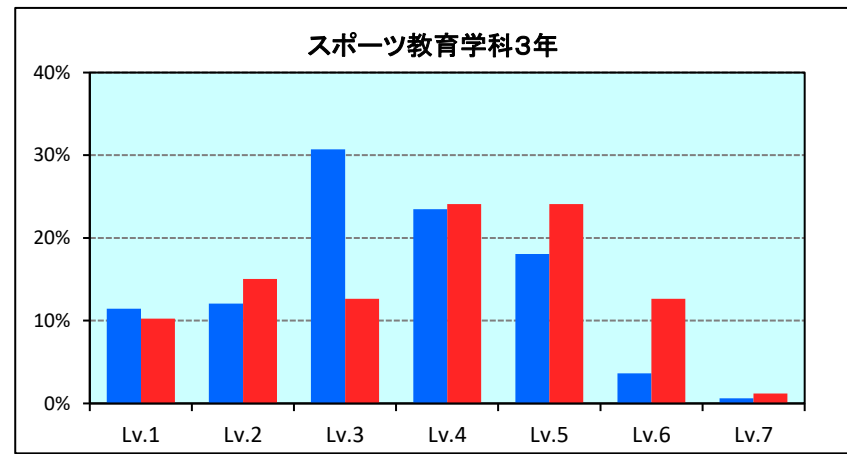
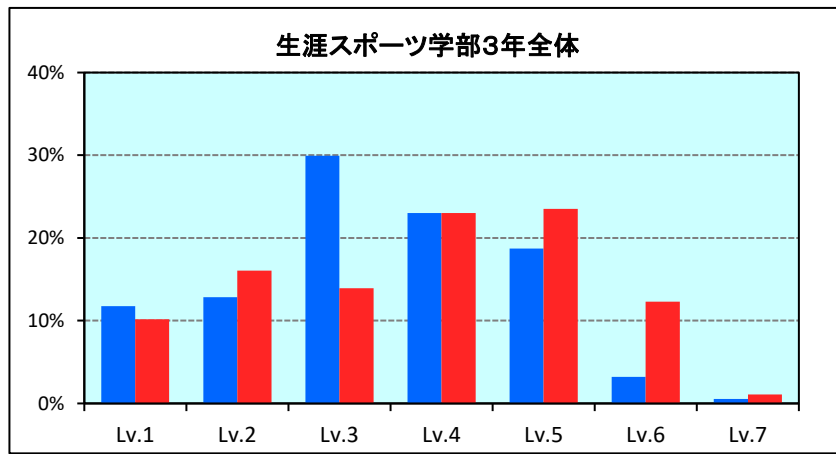


リテラシー総合

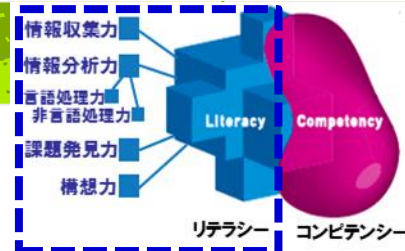




■ 前回1年次受験 ■ 今回受験

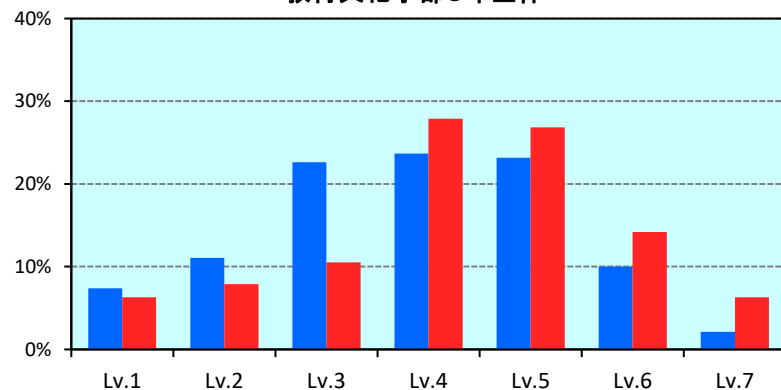


リテラシー総合 判定レベルの分布（成長分析）②

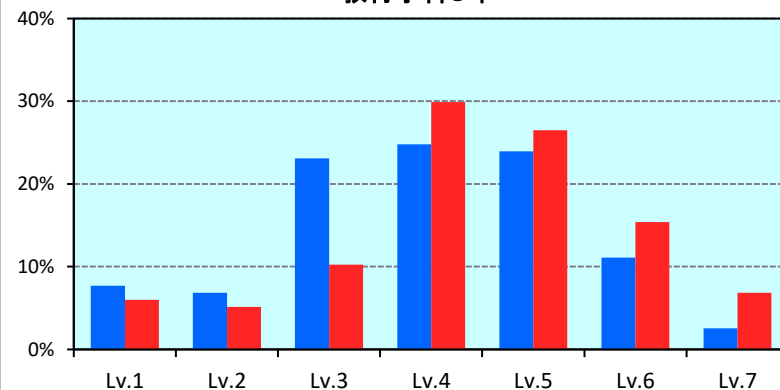


■ 前回1年次受験 ■ 今回受験

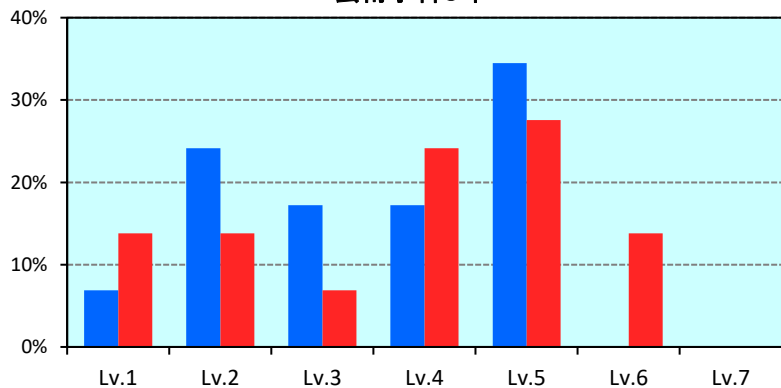
教育文化学部3年全体



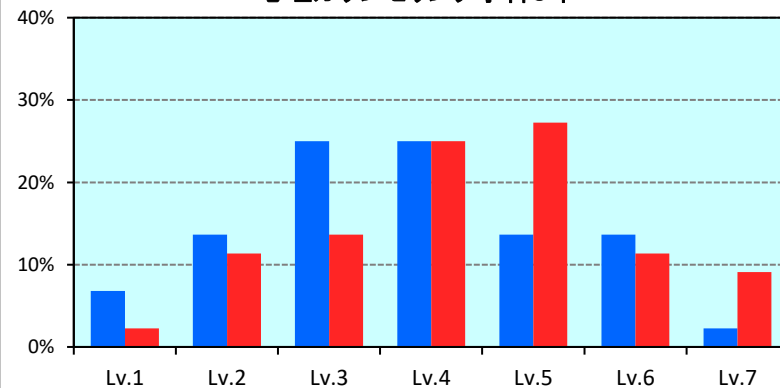
教育学科3年



芸術学科3年

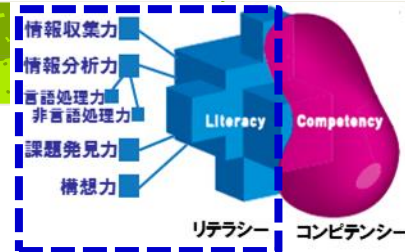


心理カウンセリング学科3年



リテラシー要素（成長分析）①

【生涯スポーツ学部3年全体】

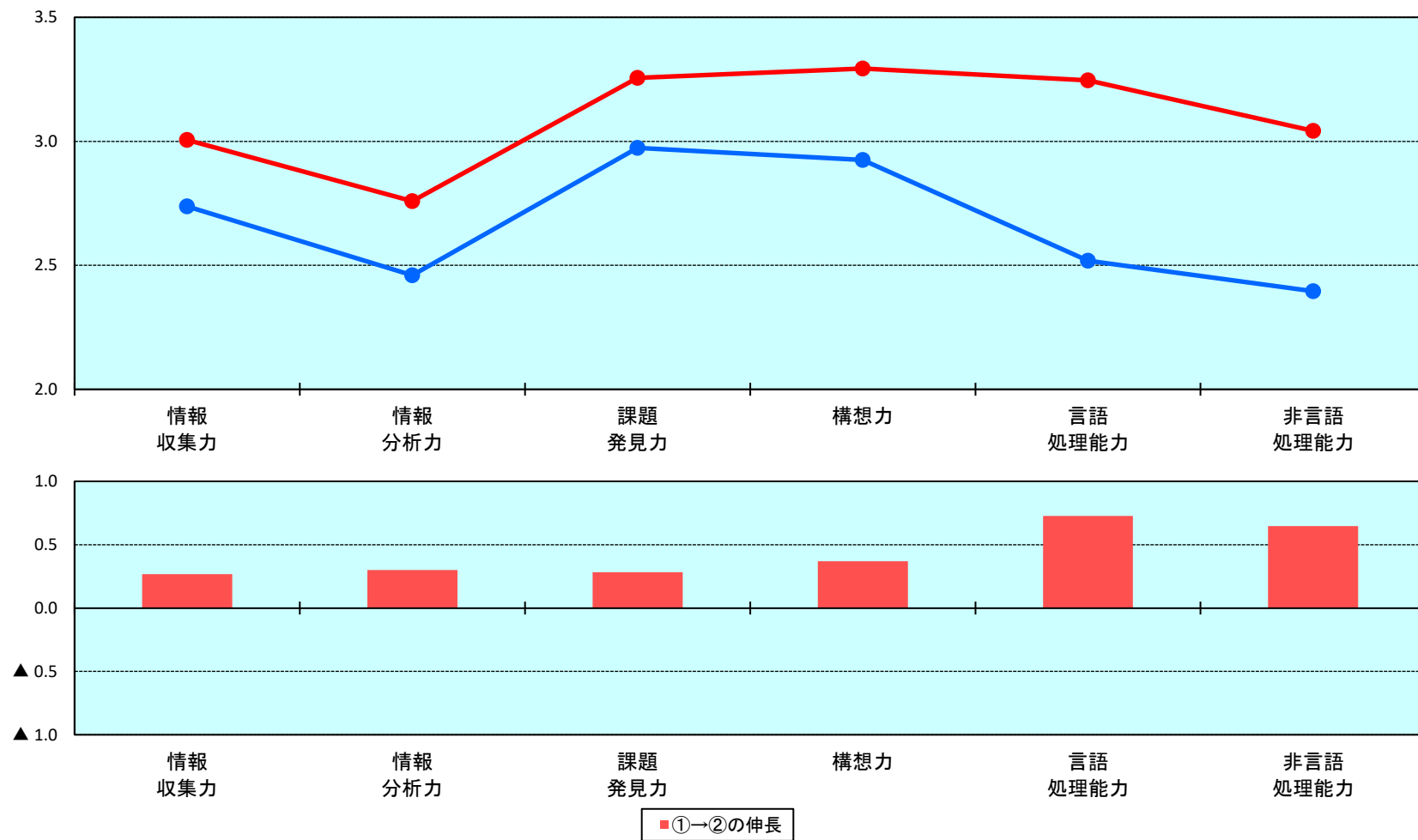


リテラシー要素 の伸長

判定レベル（5段階）

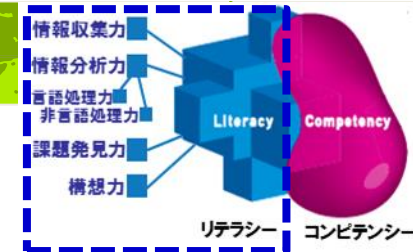
①生涯スポーツ学部3年全体（前回1年次） ②生涯スポーツ学部3年全体（今回）

伸長度

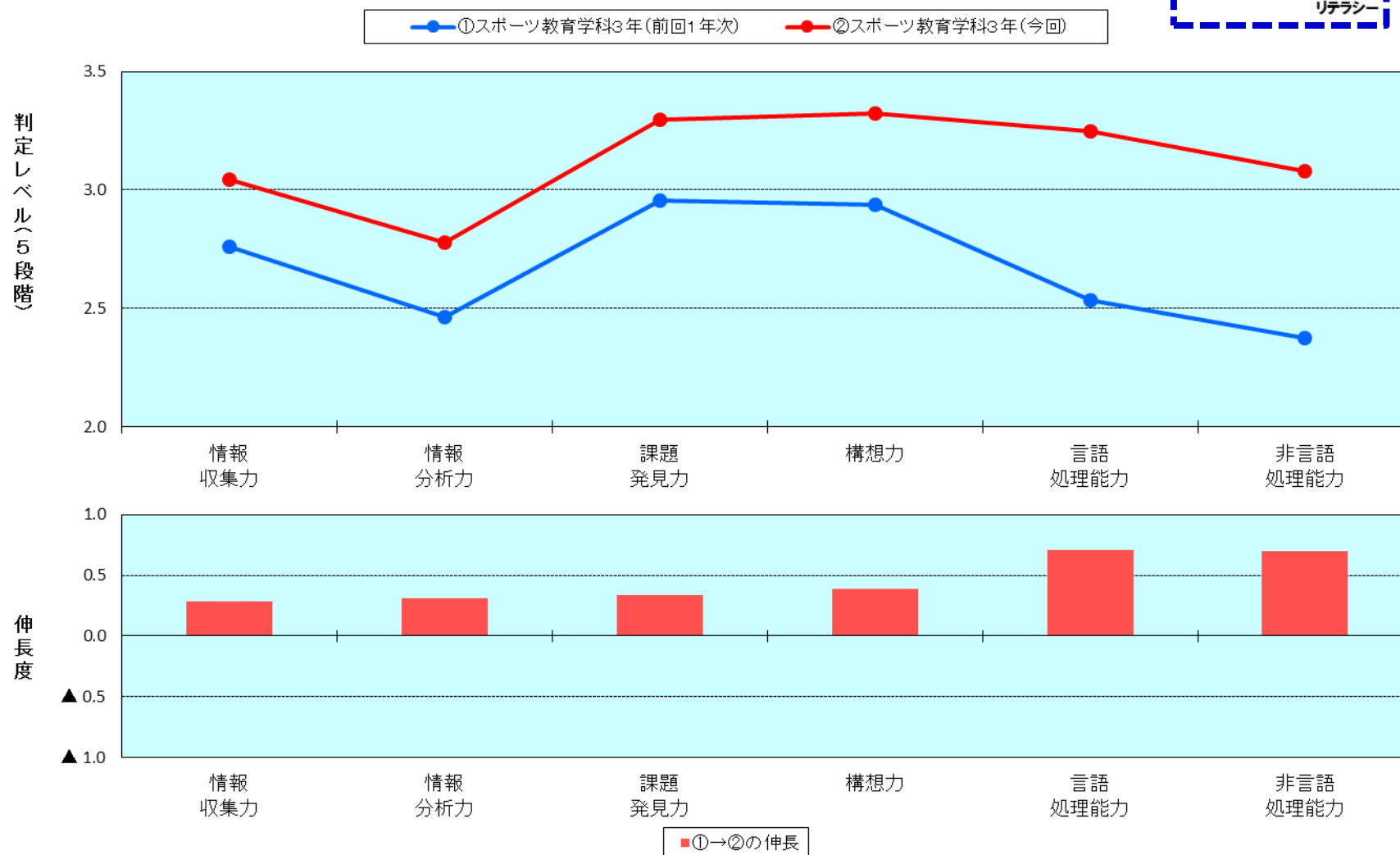


リテラシー要素（成長分析）②

【スポーツ教育学科3年】

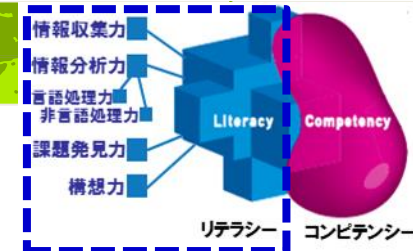


リテラシー要素 の伸長



リテラシー要素（成長分析）③

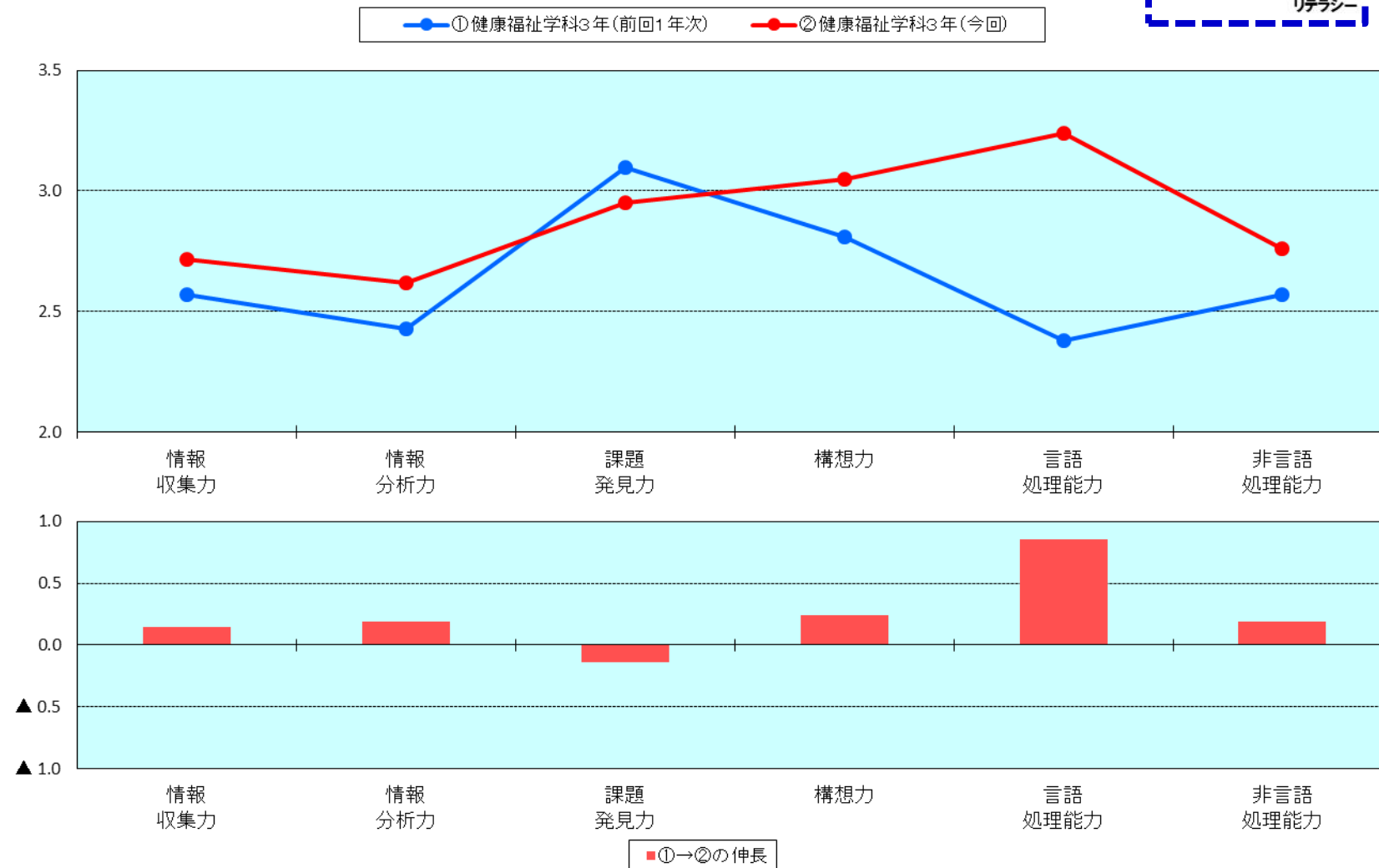
【健康福祉学科3年】



リテラシー要素 の伸長

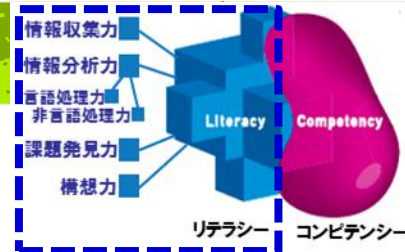
判定レベル(5段階)

伸長度

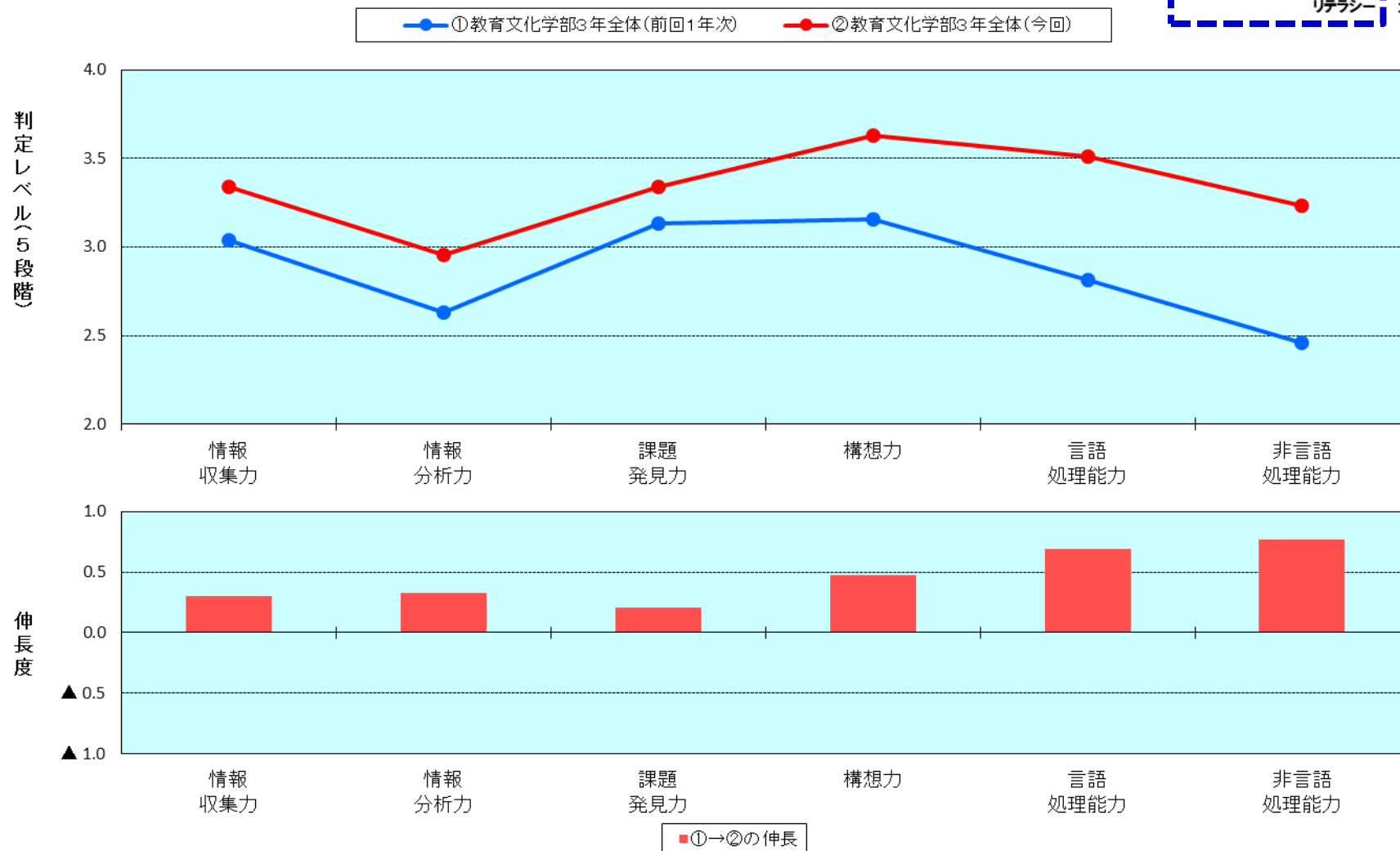


リテラシー要素（成長分析）④

【教育文化学部3年全体】

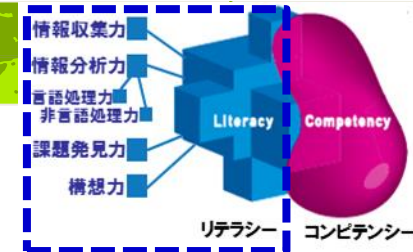


リテラシー要素 の伸長



リテラシー要素（成長分析）⑤

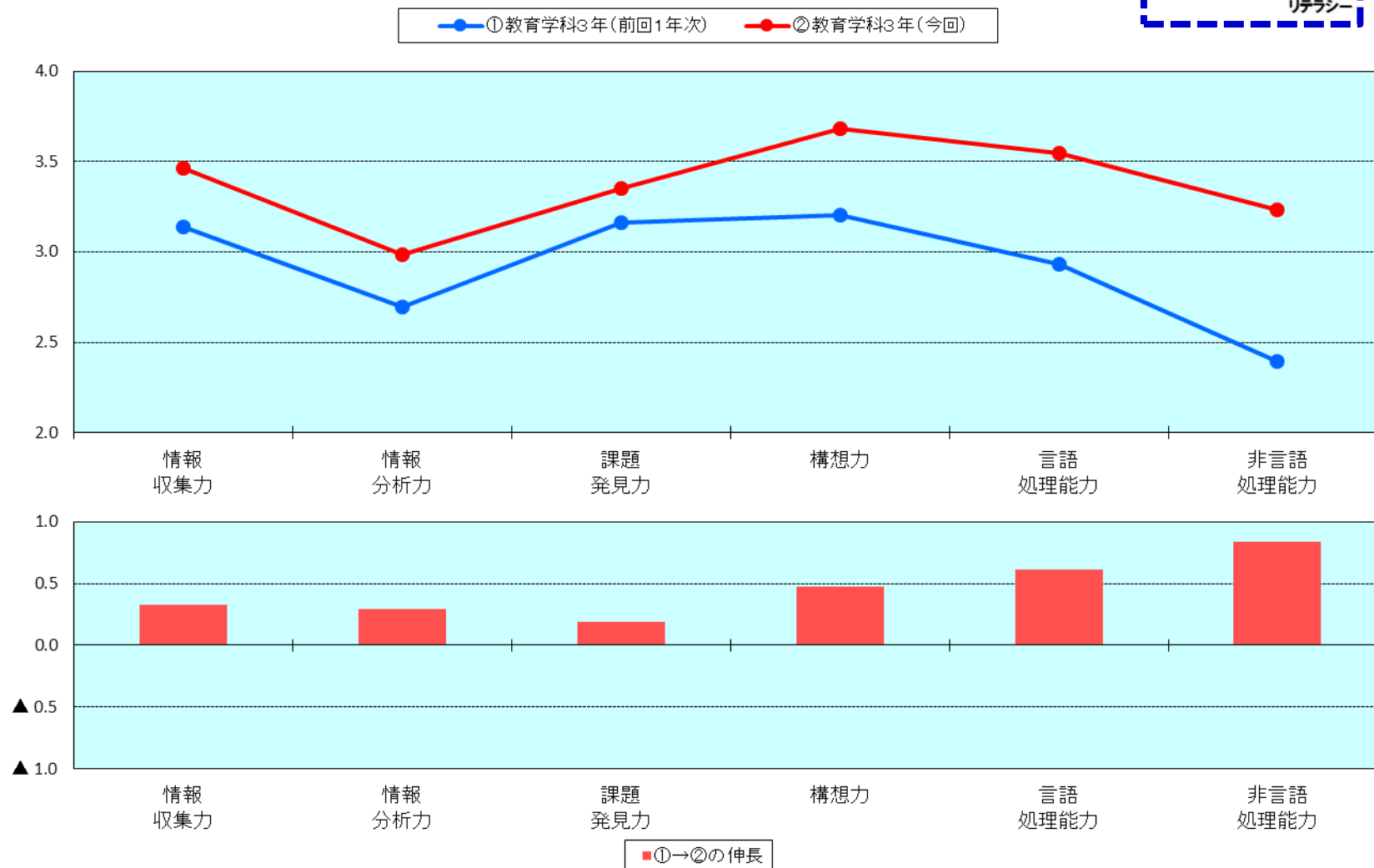
【教育学科3年】



リテラシー要素 の伸長

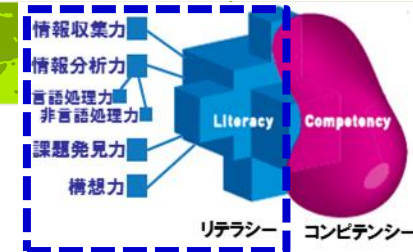
判定レベル(5段階)

伸長度



リテラシー要素（成長分析）⑥

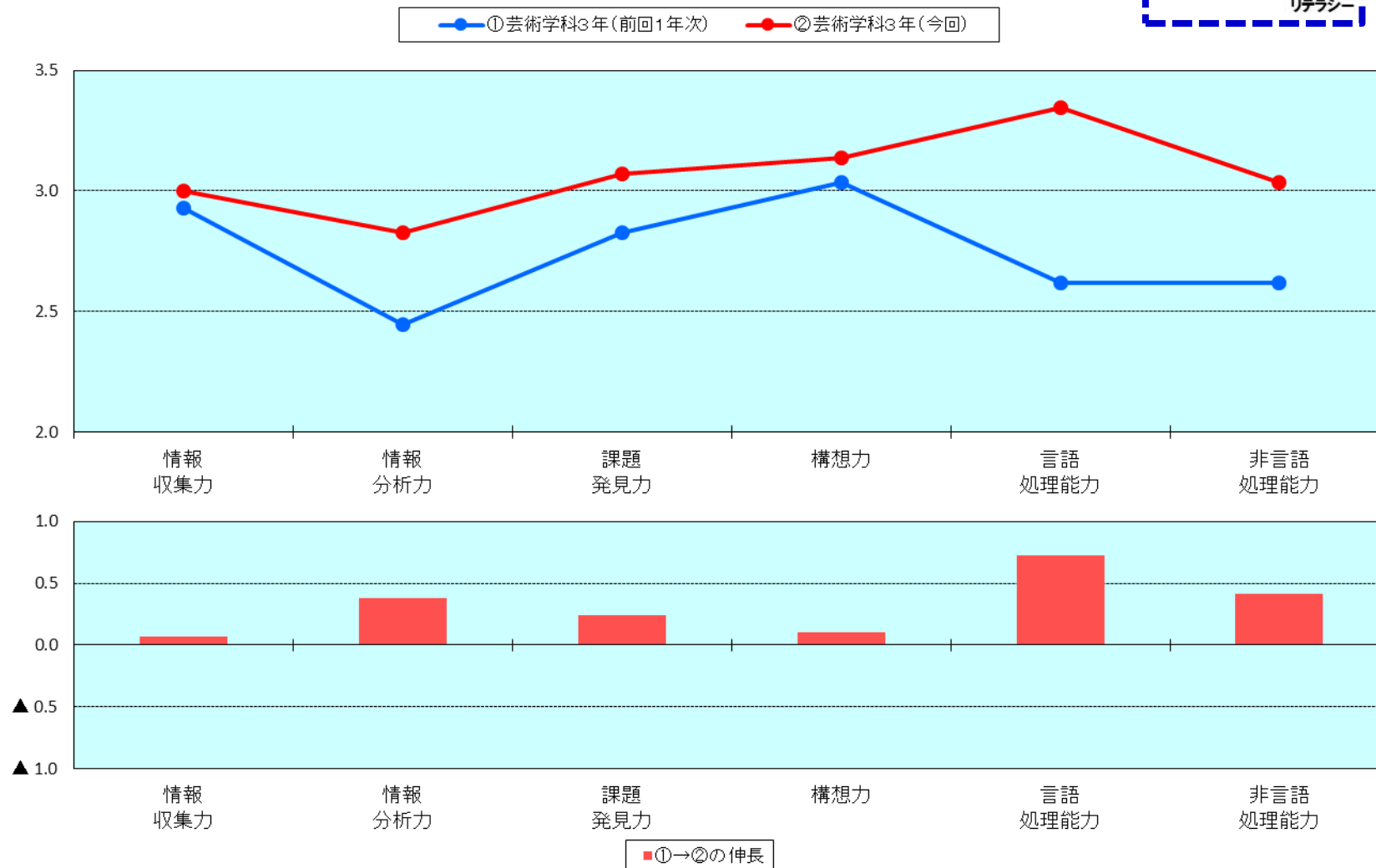
【芸術学科3年】



リテラシー要素 の伸長

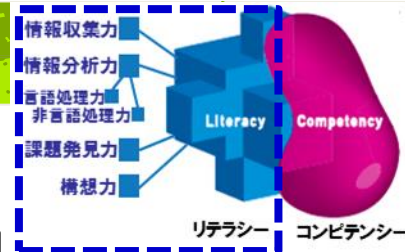
判定レベル(5段階)

伸長度



リテラシー要素（成長分析）⑦

【心理カウンセリング学科3年】

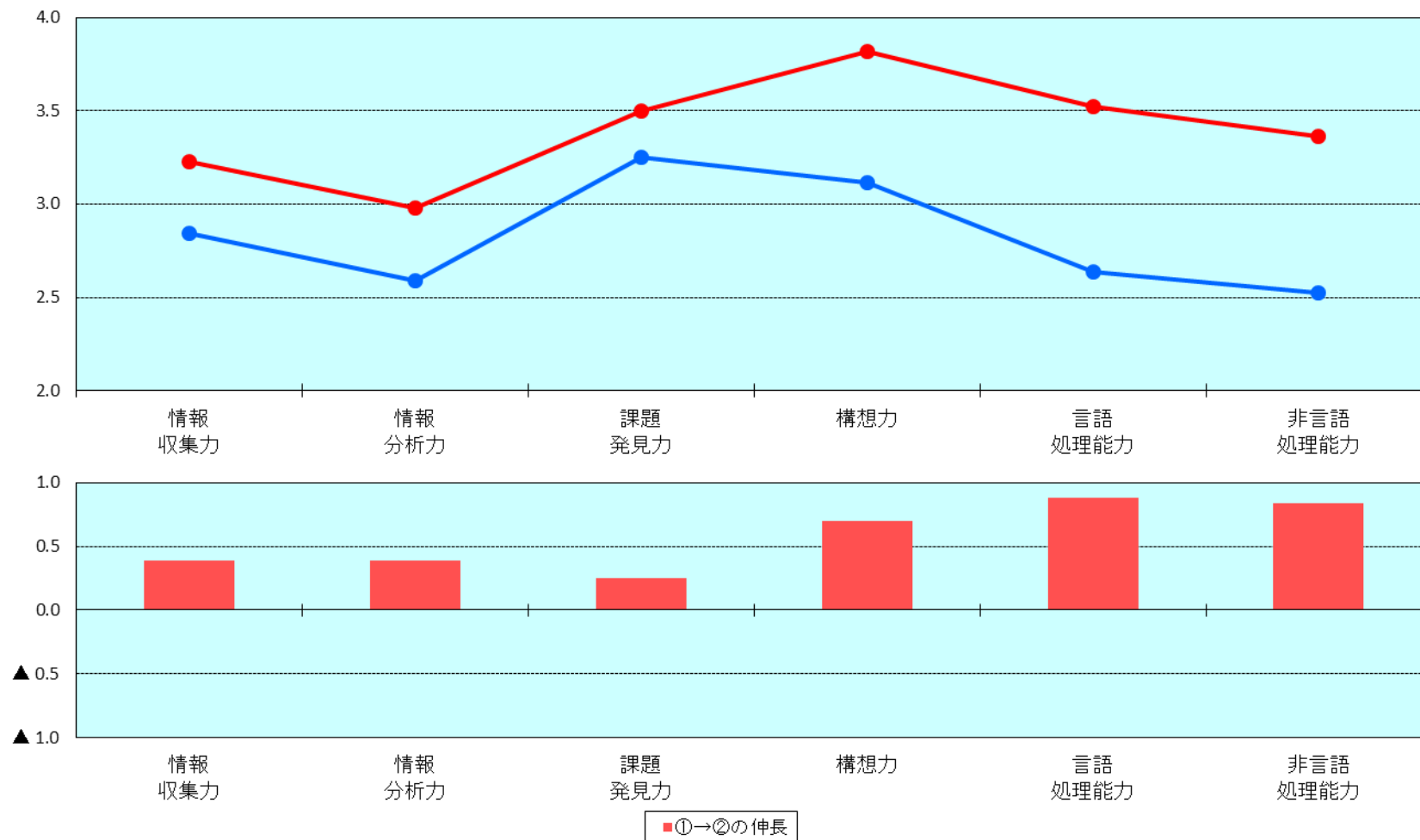


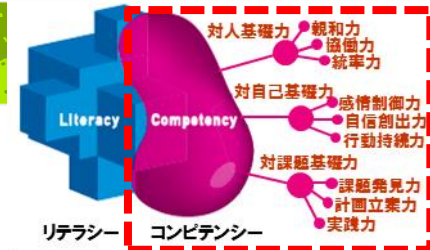
リテラシー要素 の伸長

判定レベル(5段階)

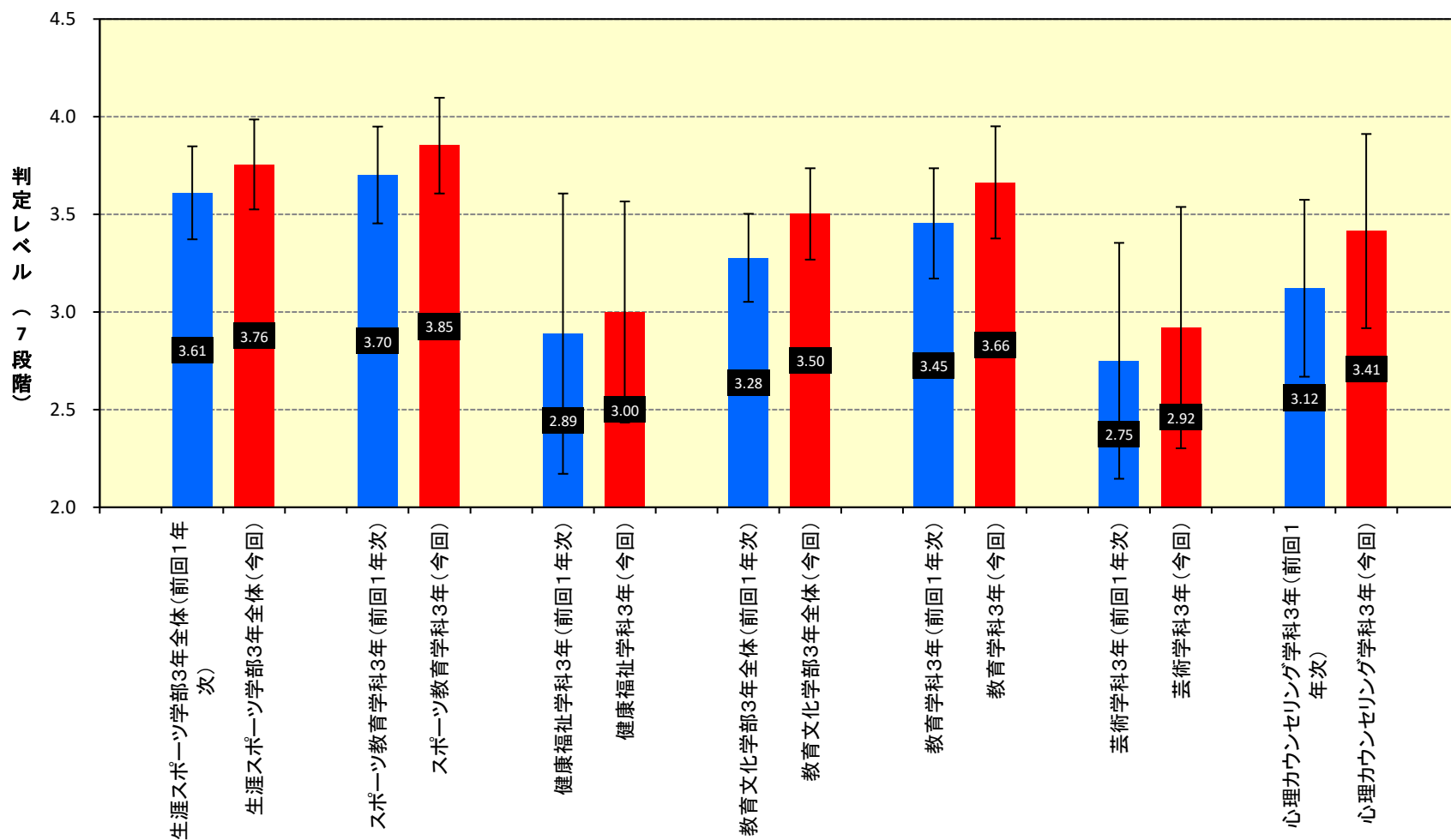
①心理カウンセリング学科3年(前回1年次) ②心理カウンセリング学科3年(今回)

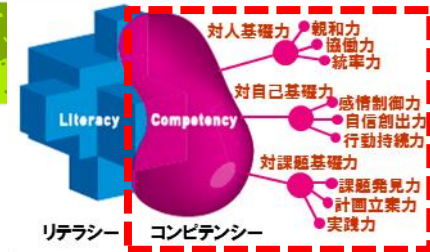
伸長度





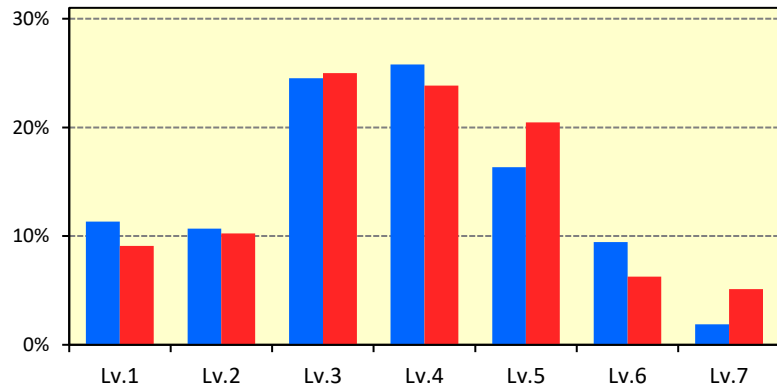
コンピテンシー総合



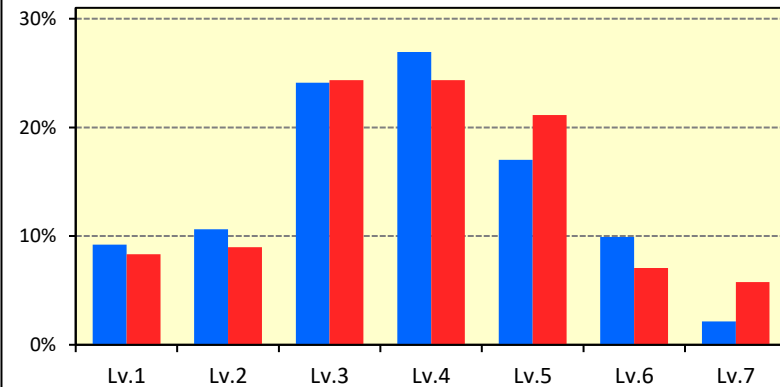


■ 前回1年次受験 ■ 今回受験

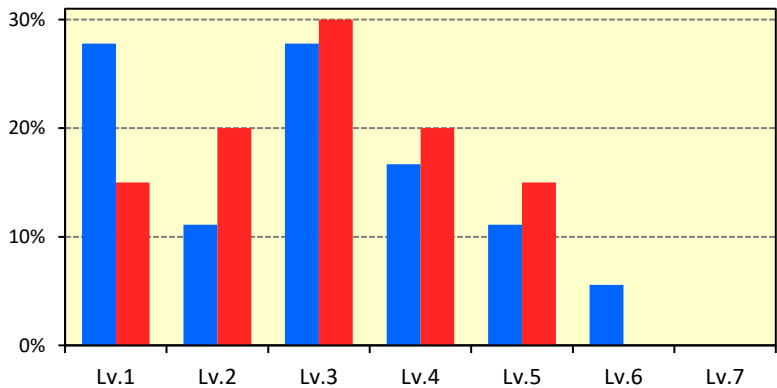
生涯スポーツ学部3年全体

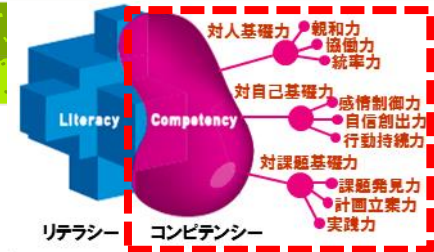


スポーツ教育学科3年



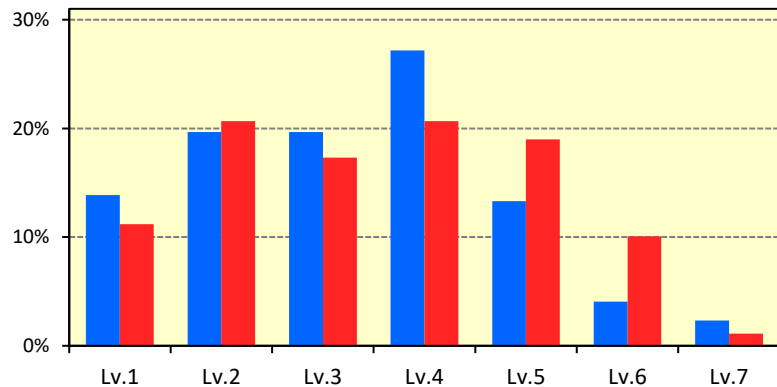
健康福祉学科3年



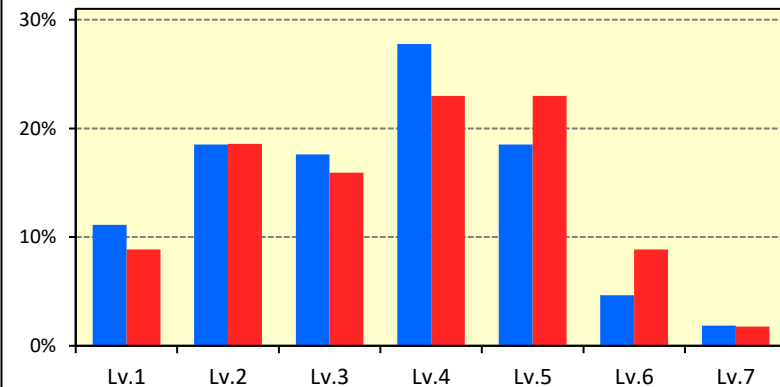


■ 前回1年次受験 ■ 今回受験

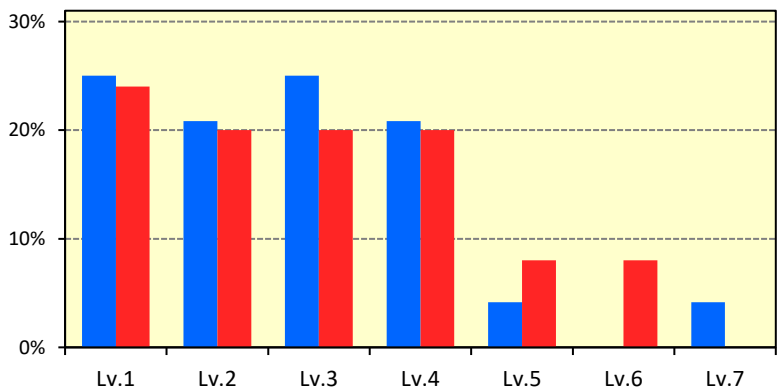
教育文化学部3年全体



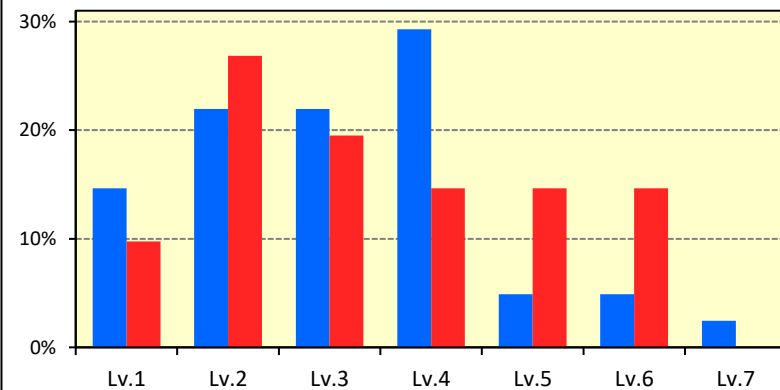
教育学部3年



芸術学部3年

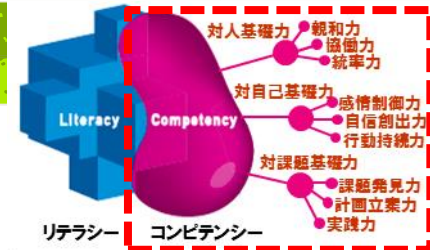


心理カウンセリング学科3年

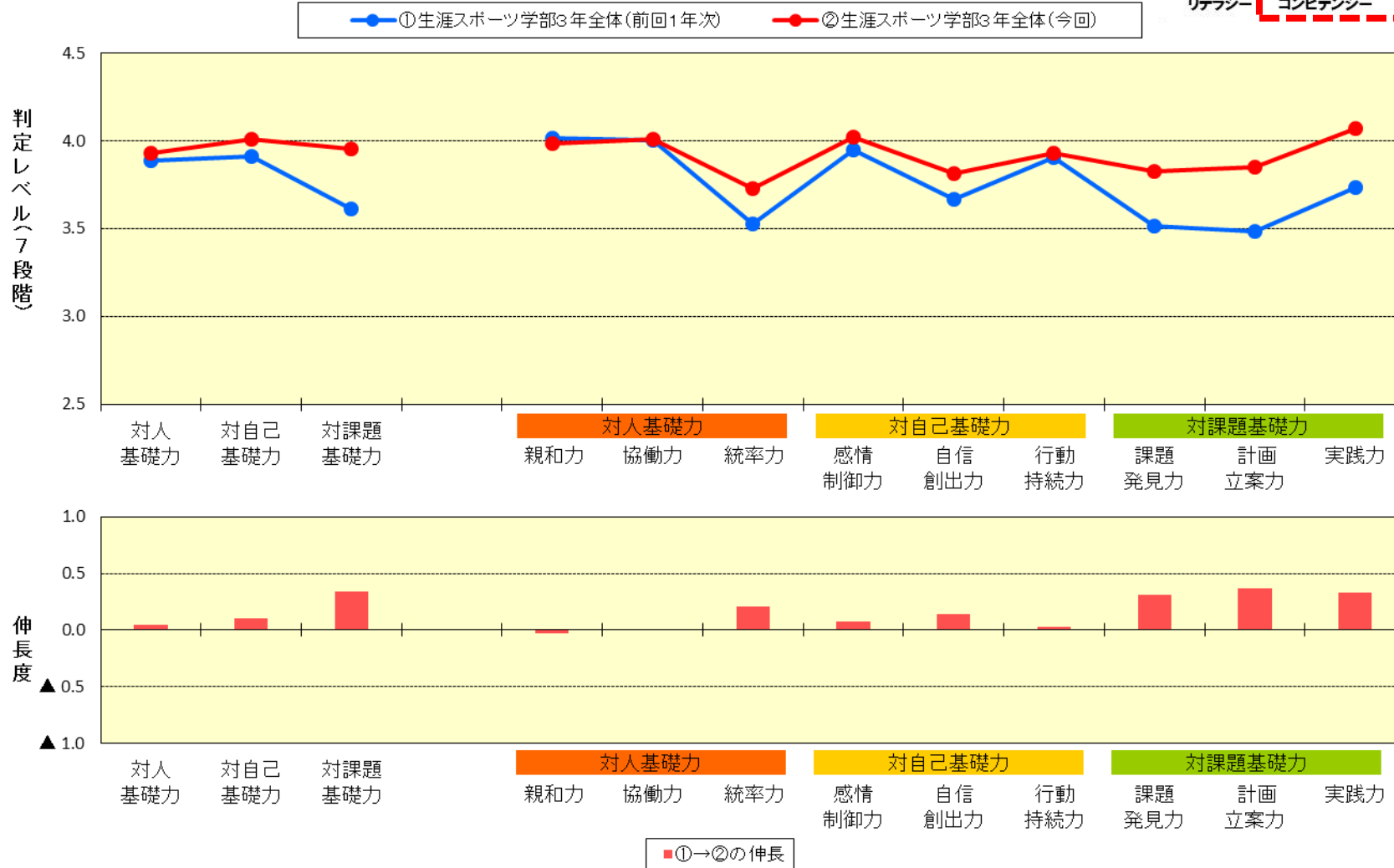


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）①

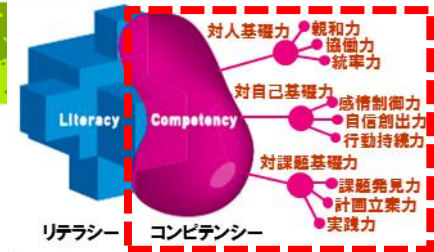
【生涯スポーツ学部3年全体】



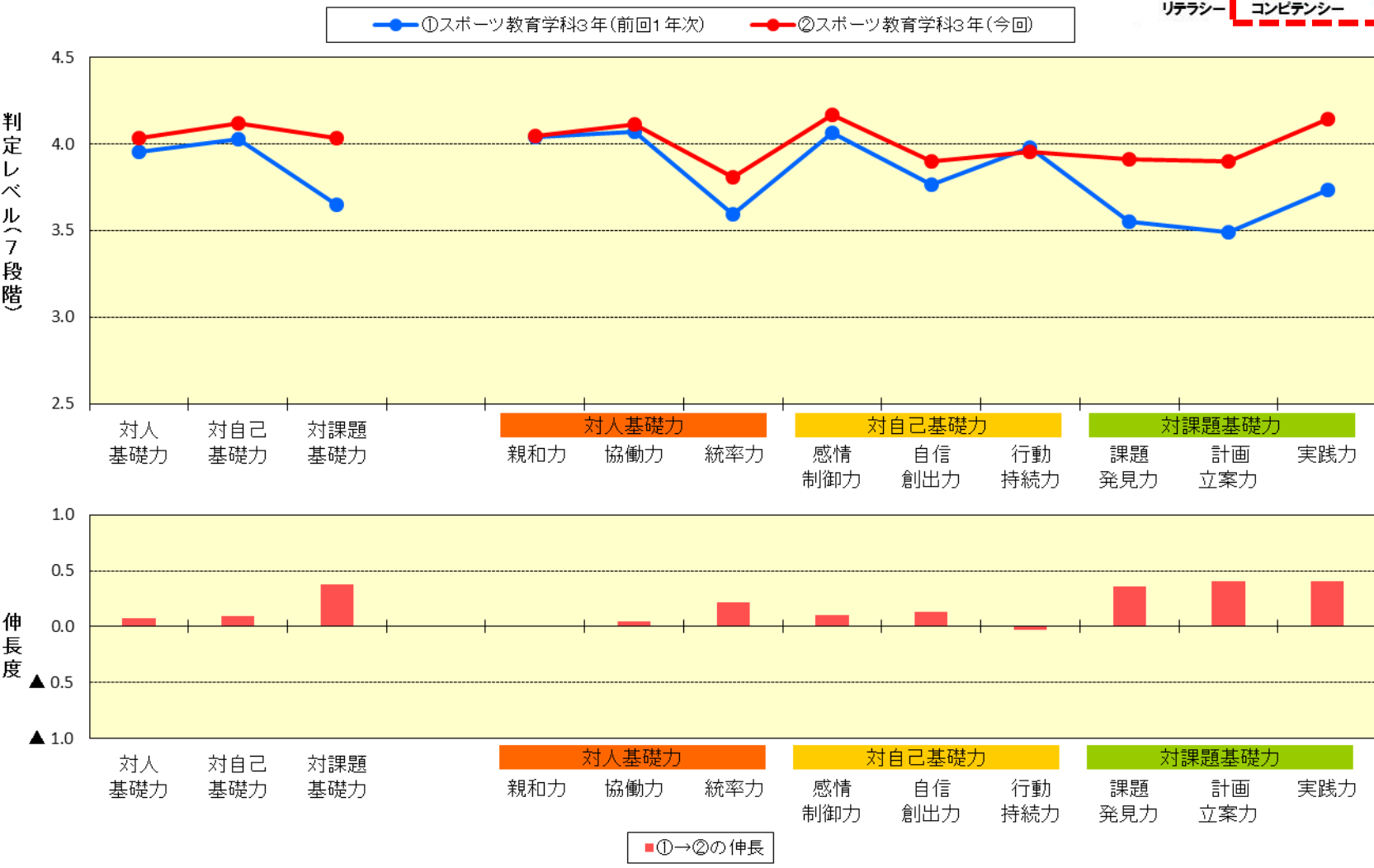
コンピテンシー要素の伸長



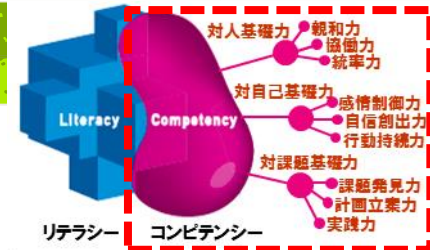
【スポーツ教育学科3年】



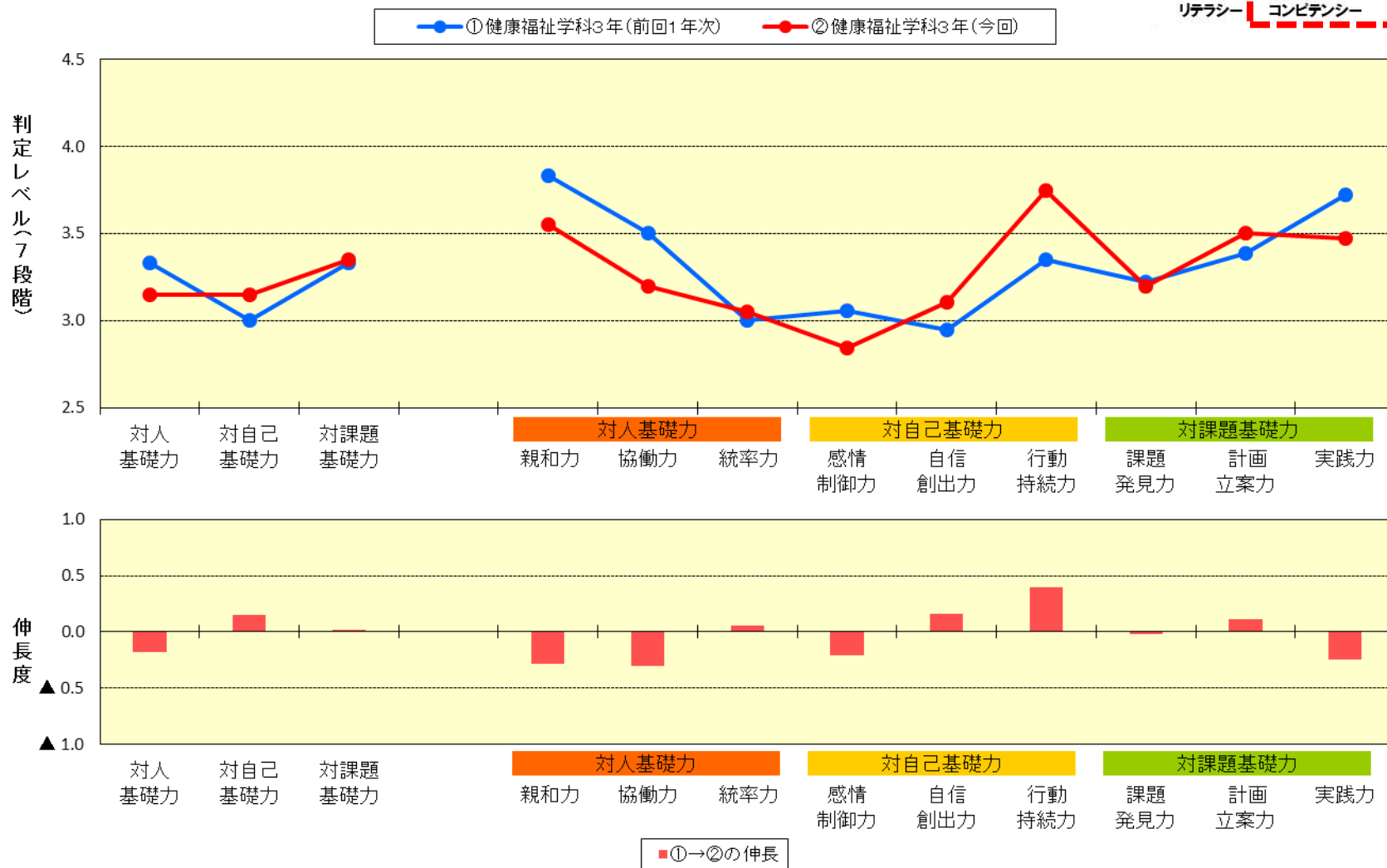
コンピテンシー要素の伸長



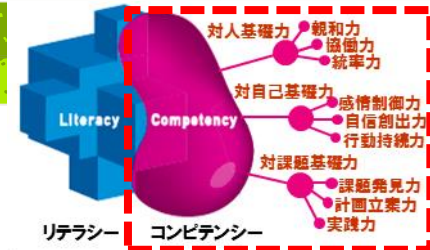
【健康福祉学科3年】



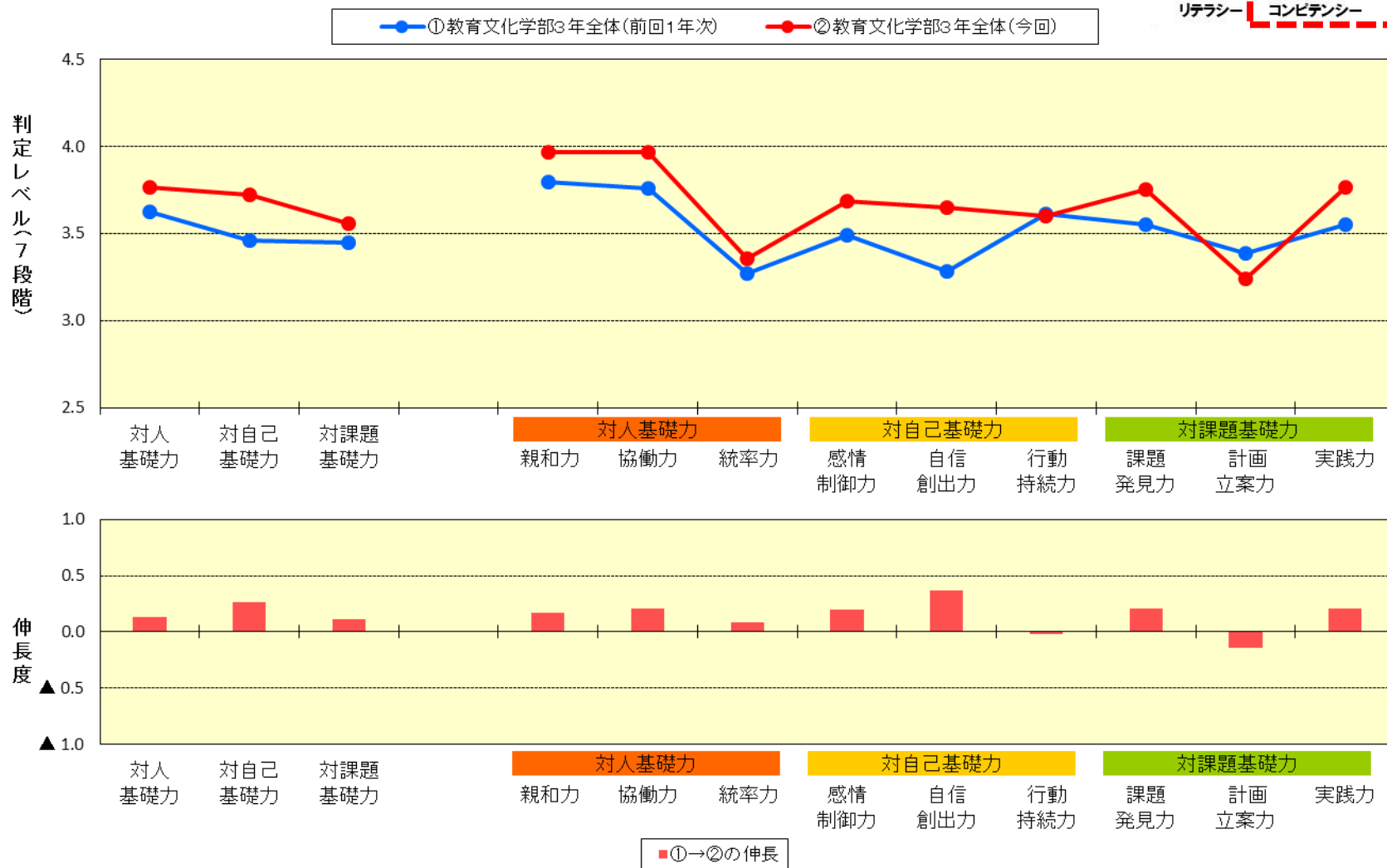
コンピテンシー要素の伸長



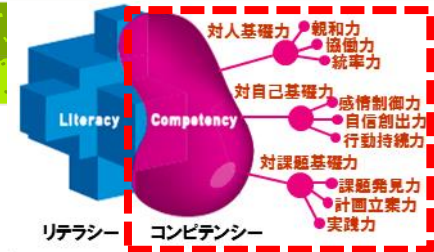
【教育文化学部3年全体】



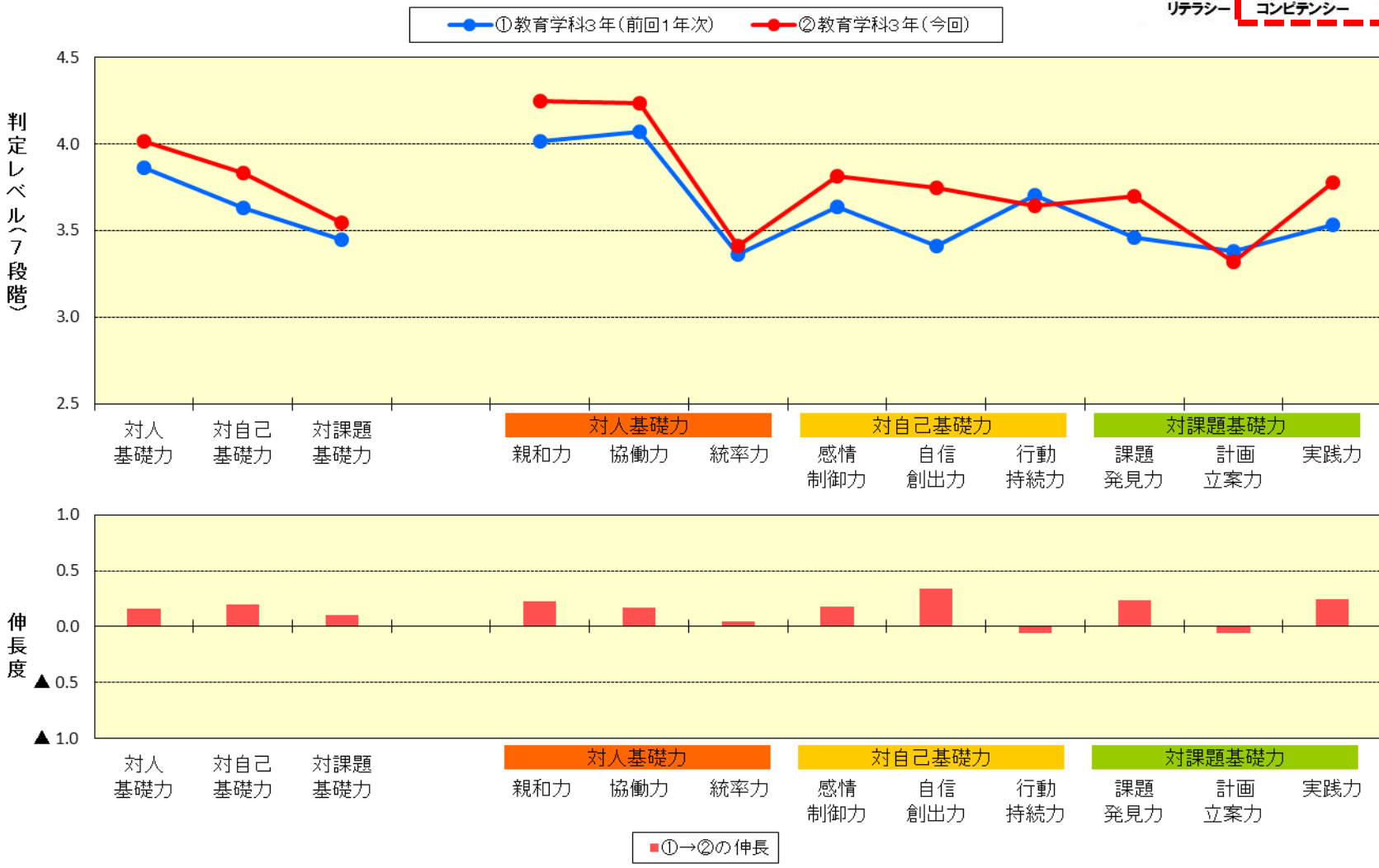
コンピテンシー要素の伸長



【教育学科3年】

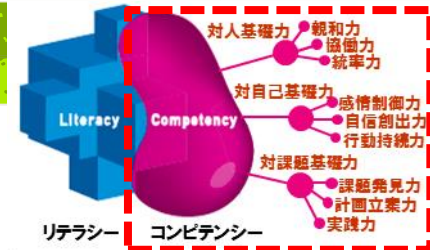


コンピテンシー要素の伸長

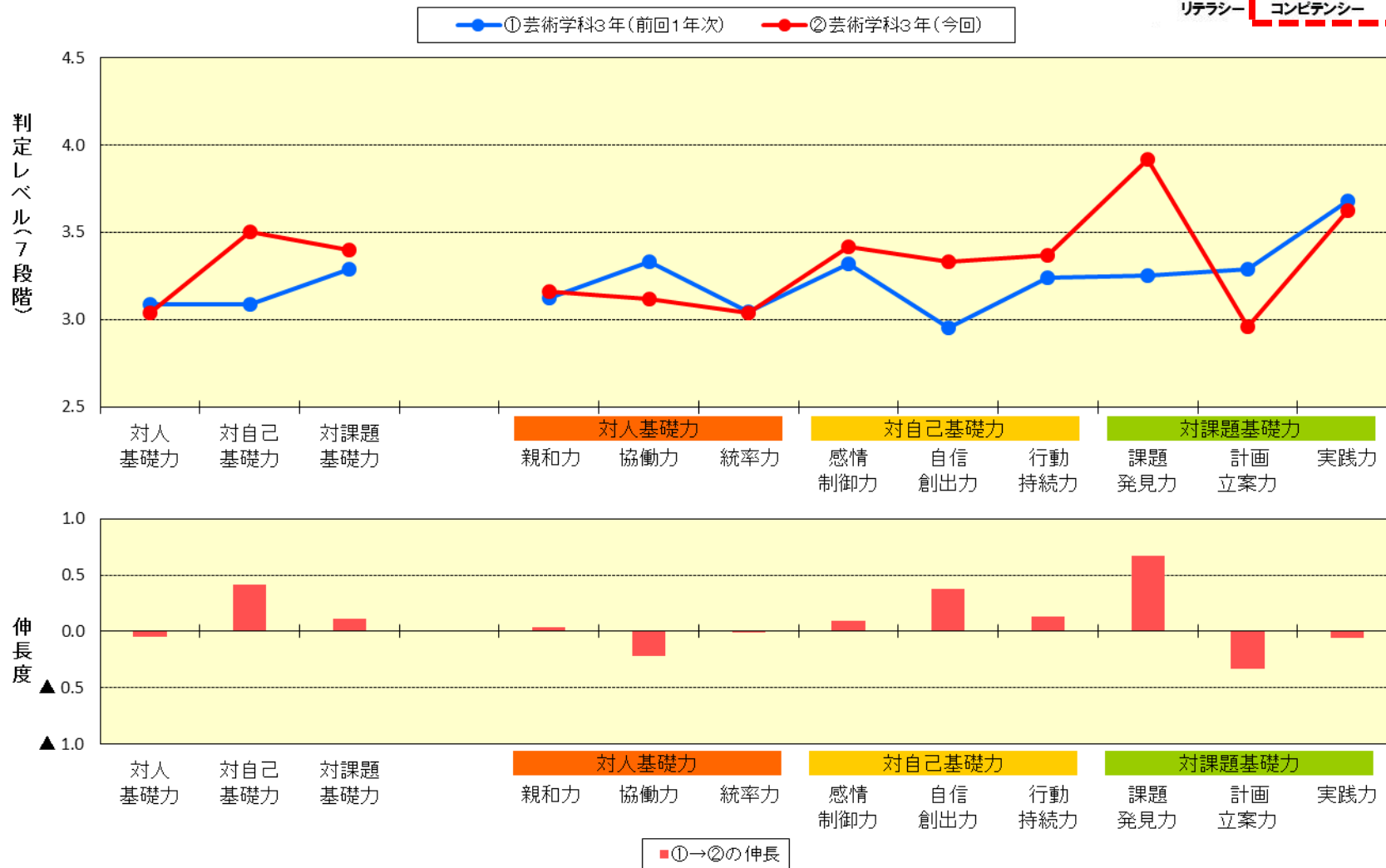


コンピテンシー大分類要素（成長分析）⑥

【芸術学科3年】

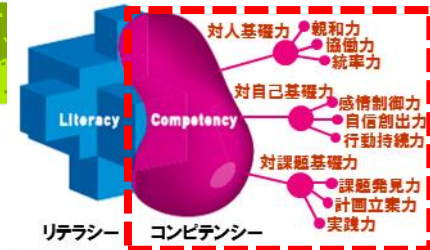


コンピテンシー要素の伸長

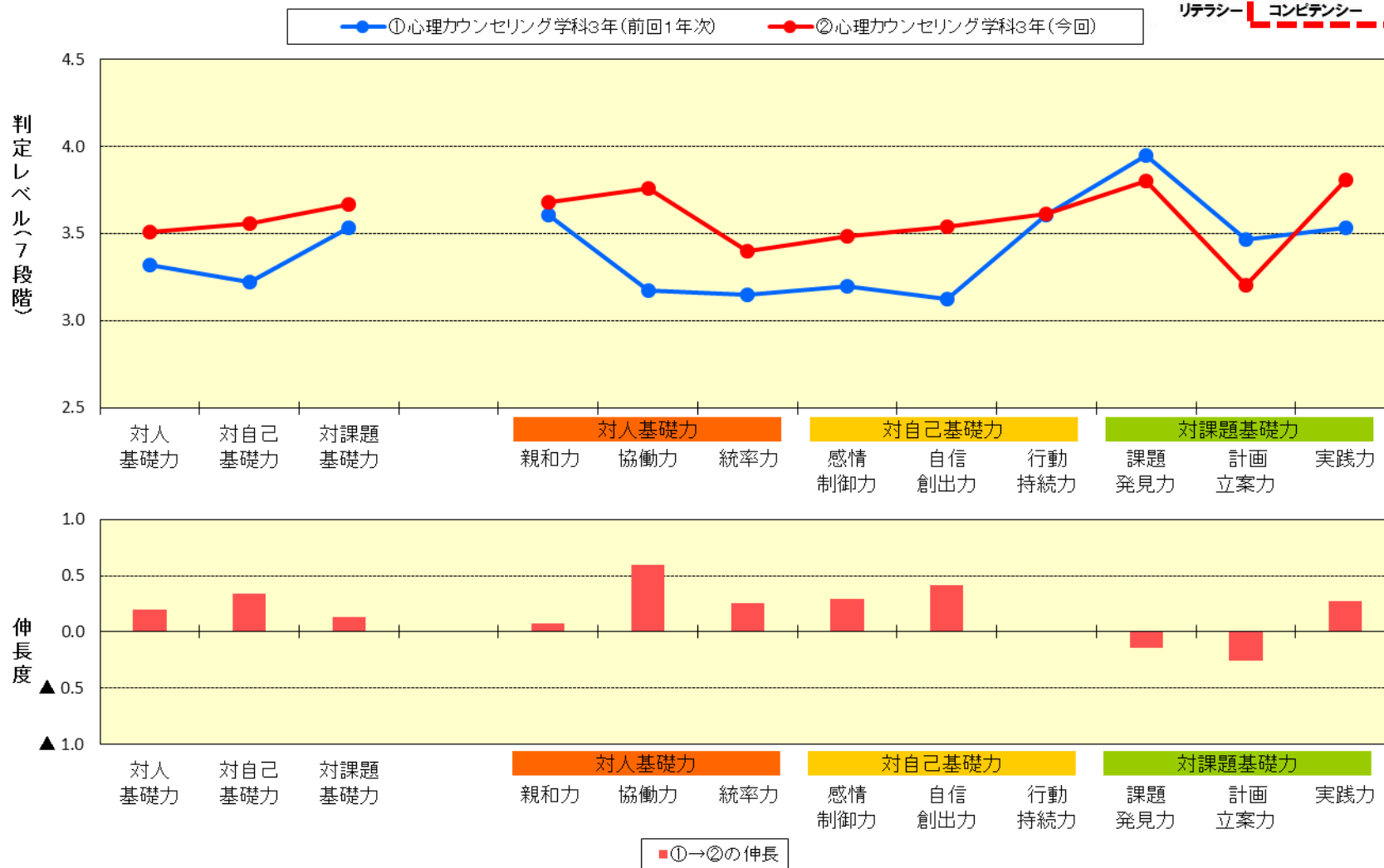


コンピテンシー大中分類要素（成長分析）⑦

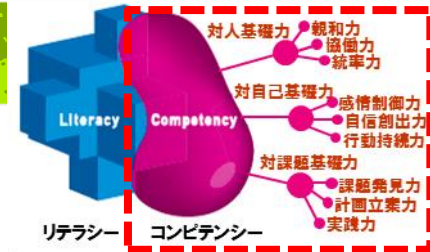
【心理カウンセリング学科3年】



コンピテンシー要素の伸長

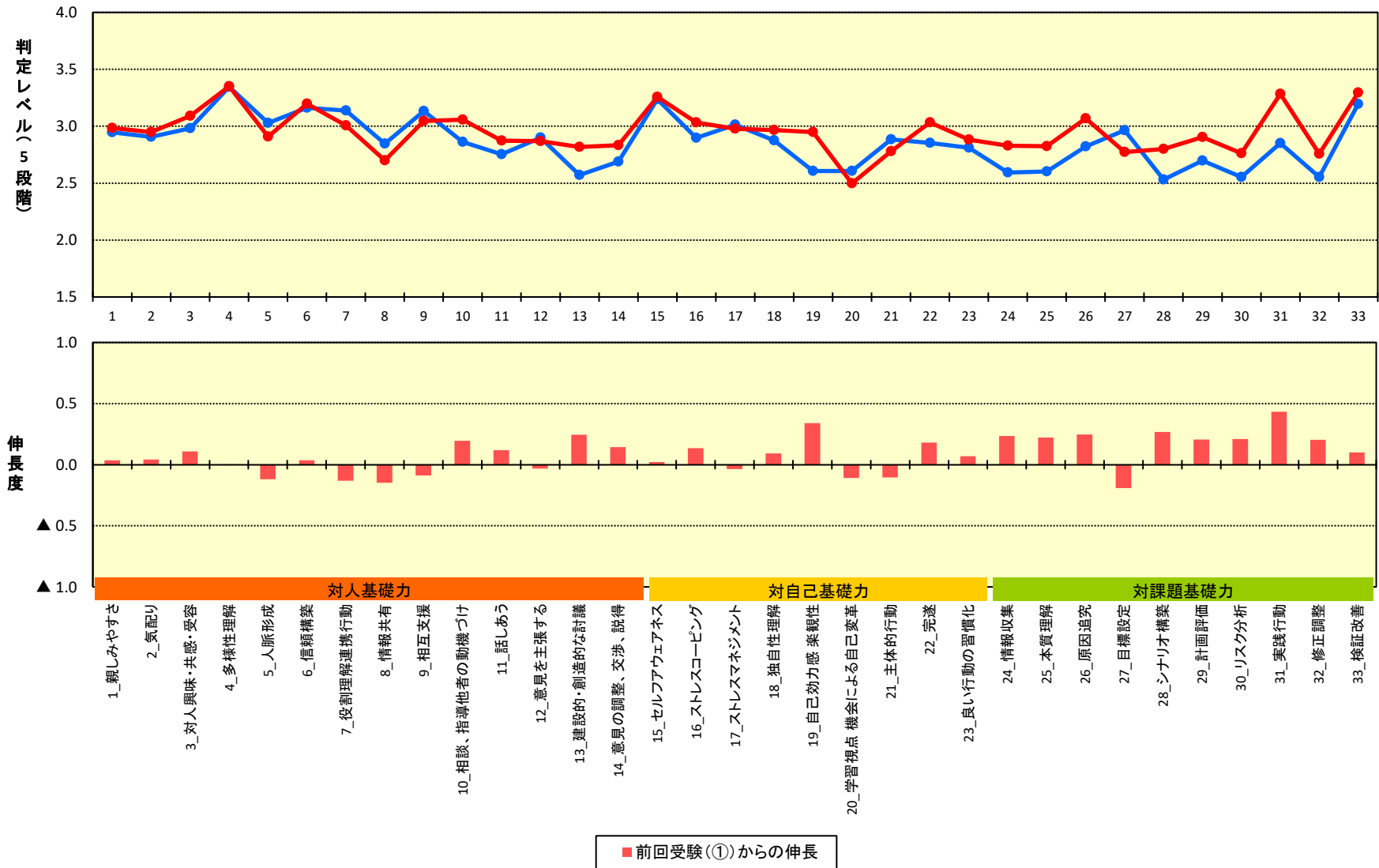


【生涯スポーツ学部3年全体】



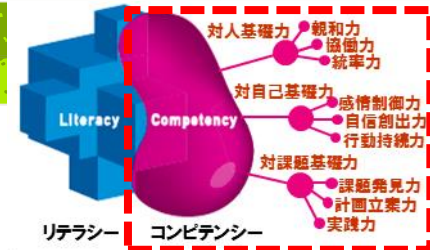
コンピテンシー小分類要素

①生涯スポーツ学部3年全体(前回1年次) ②生涯スポーツ学部3年全体(今回)



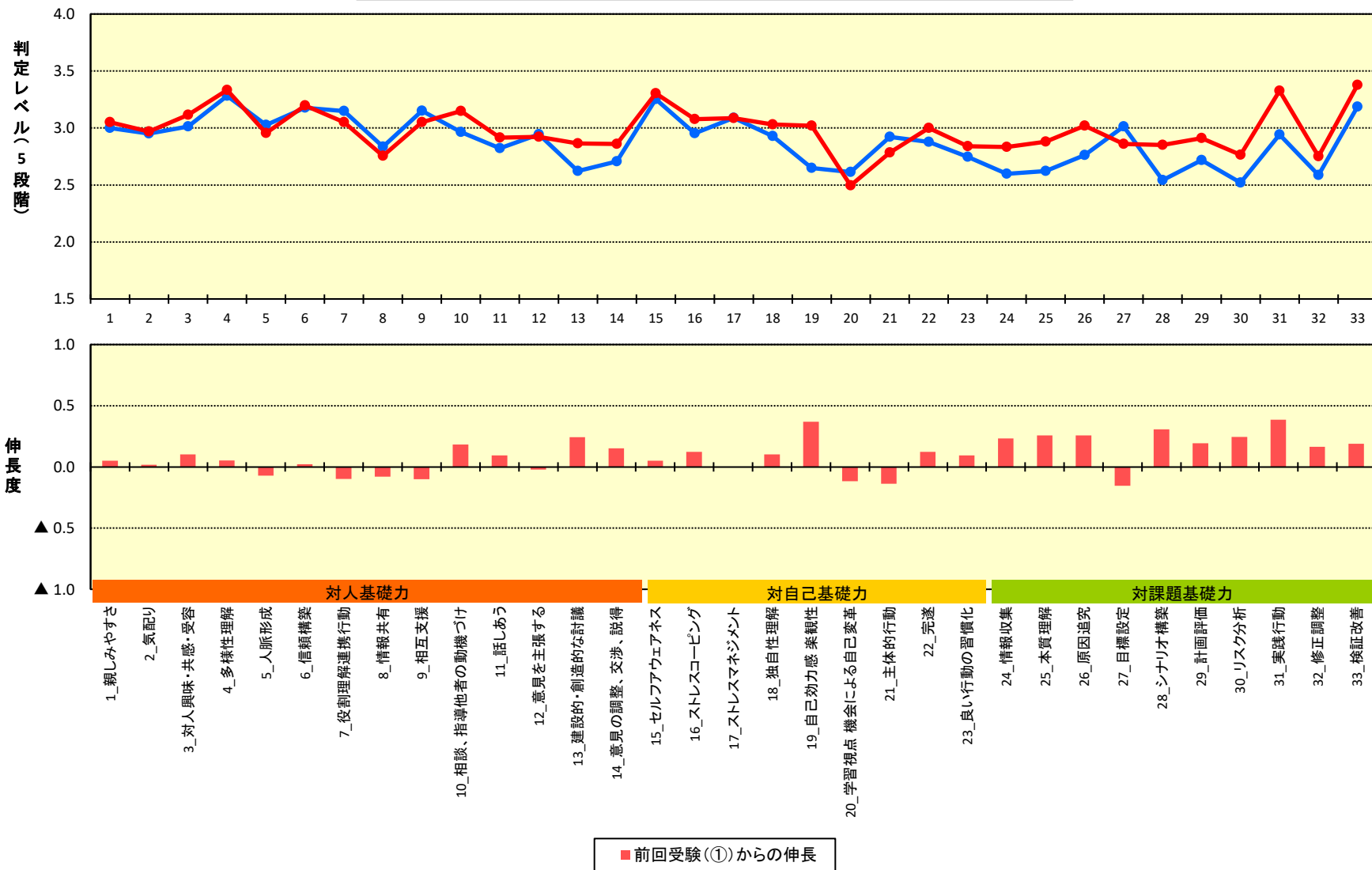
コンピテンシー小分類要素（成長分析）②

【スポーツ教育学科3年】



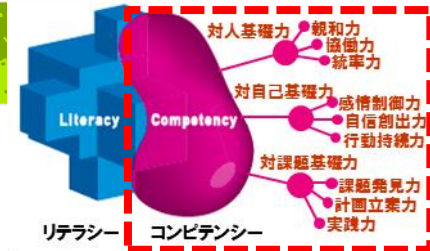
コンピテンシー小分類要素

①スポーツ教育学科3年(前回1年次) ②スポーツ教育学科3年(今回)

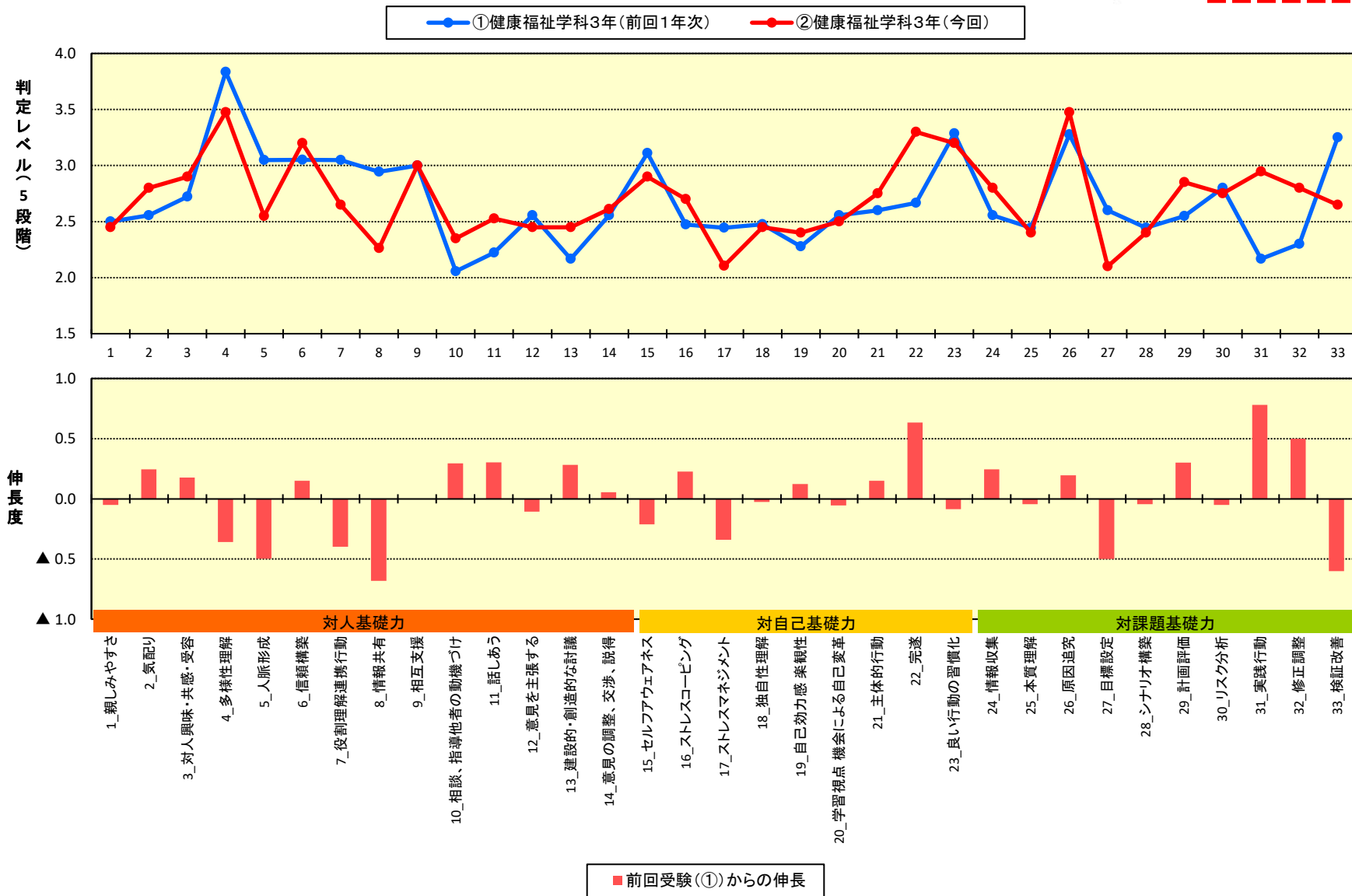


コンピテンシー小分類要素（成長分析）③

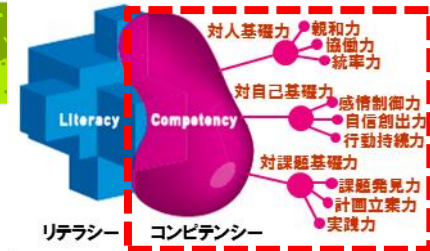
【健康福祉学科3年】



コンピテンシー小分類要素

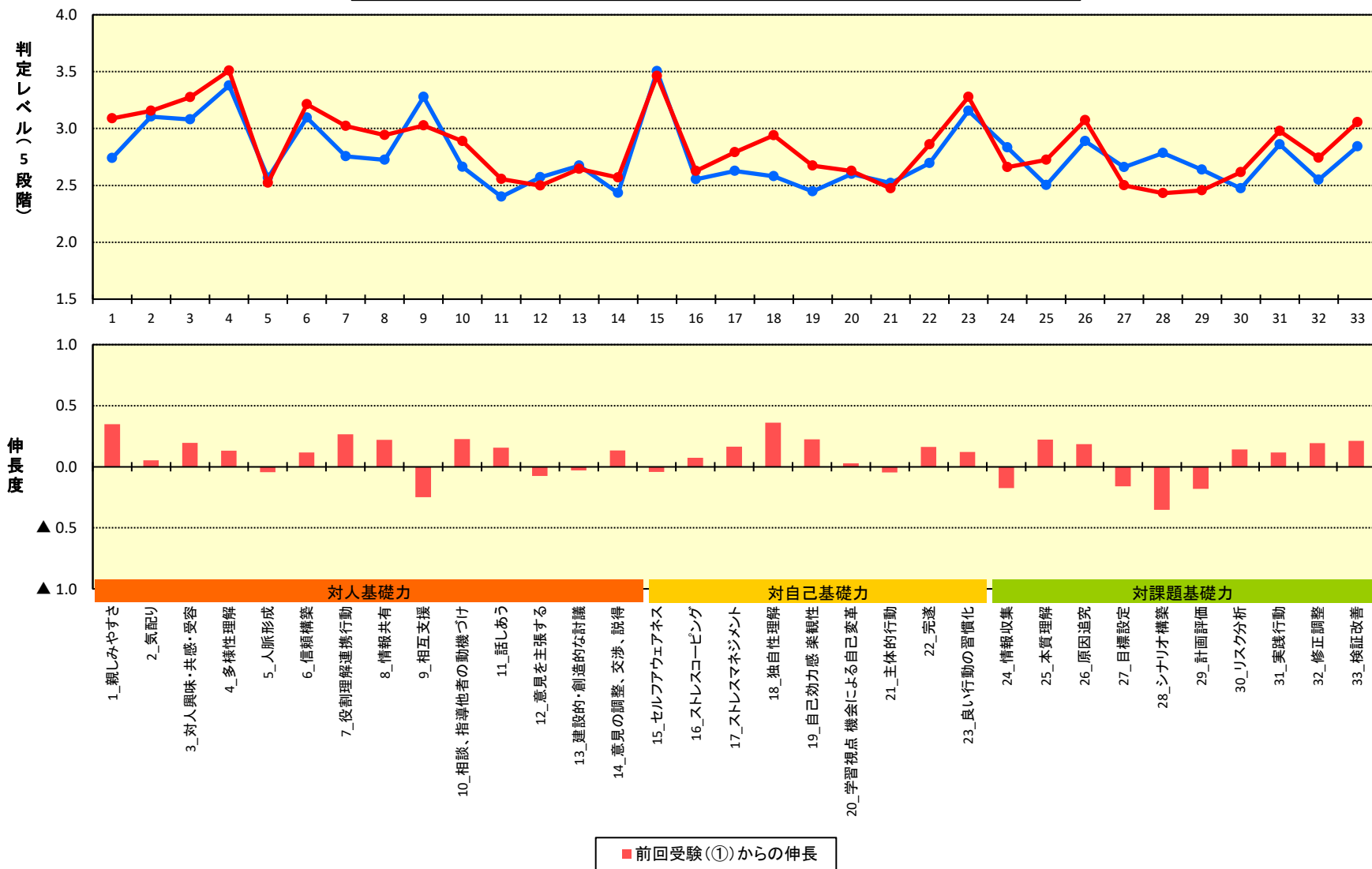


【教育文化学部3年全体】

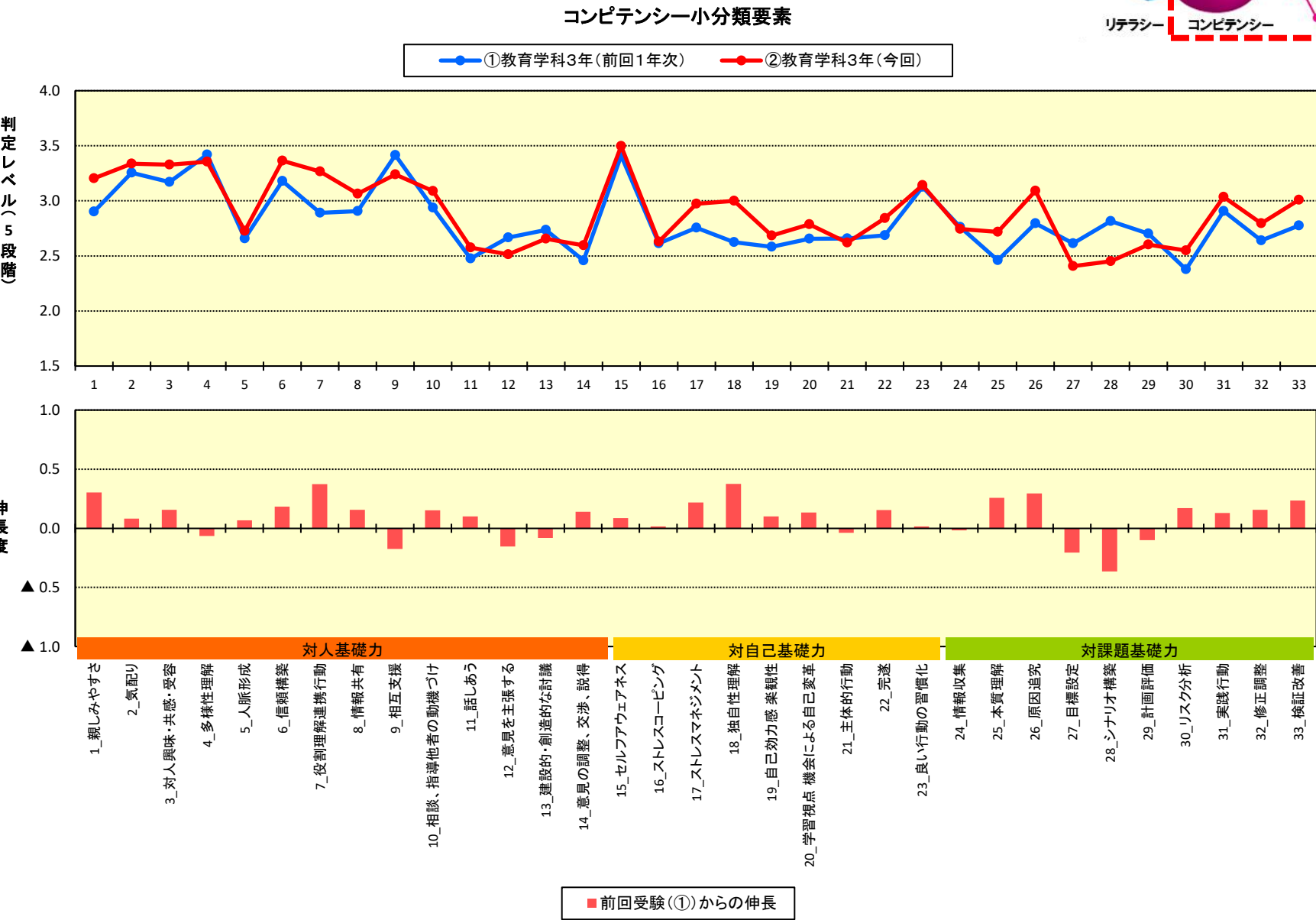
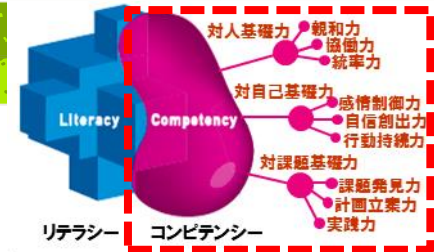


コンピテンシー小分類要素

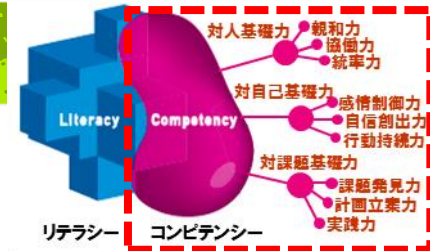
①教育文化学部3年全体(前回1年次) ②教育文化学部3年全体(今回)



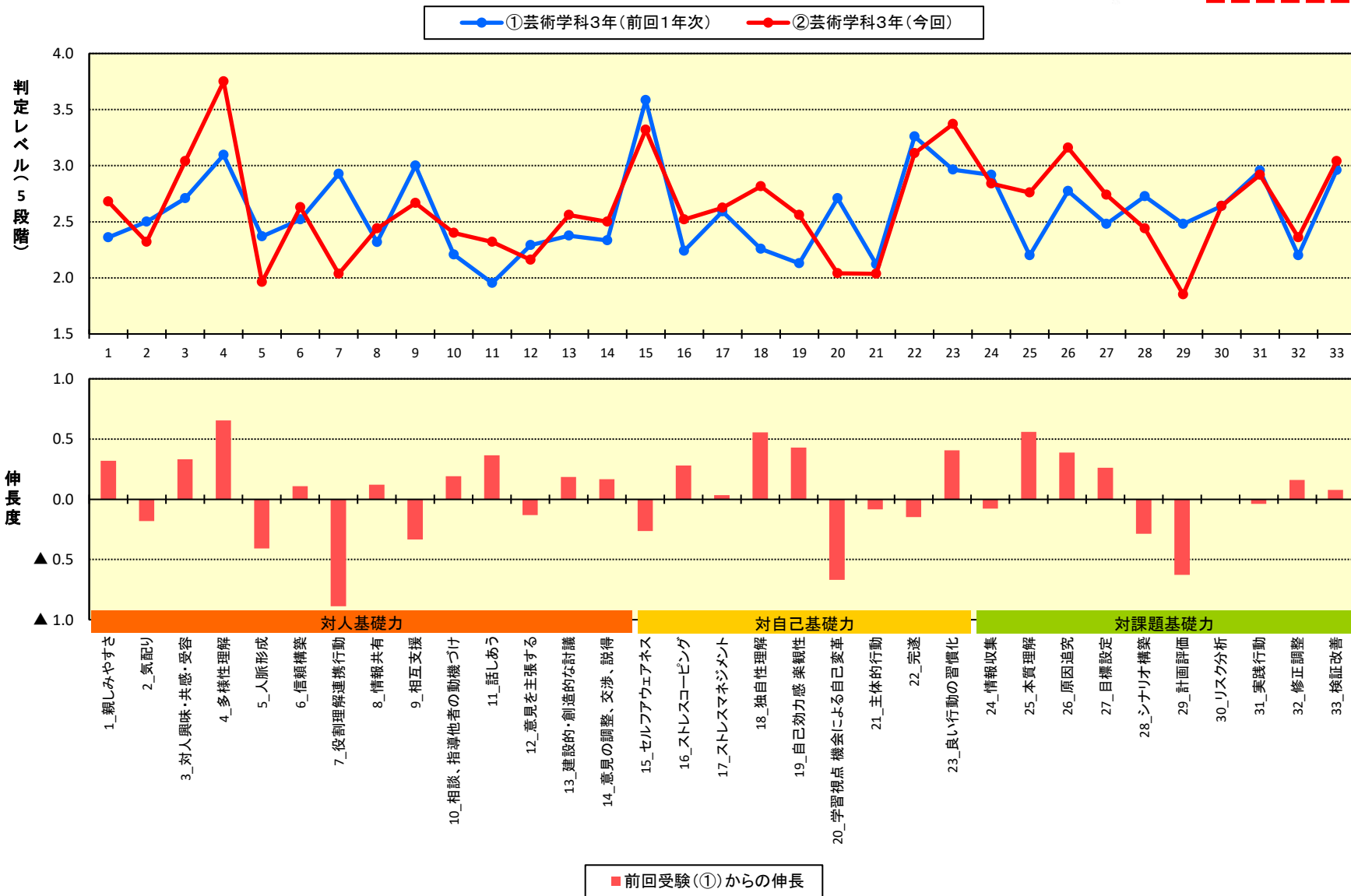
【教育学科3年】

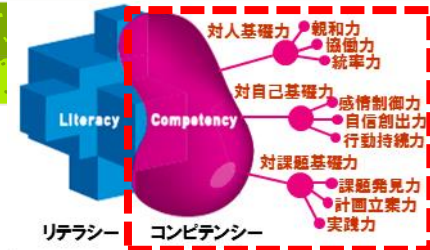


【芸術学科3年】



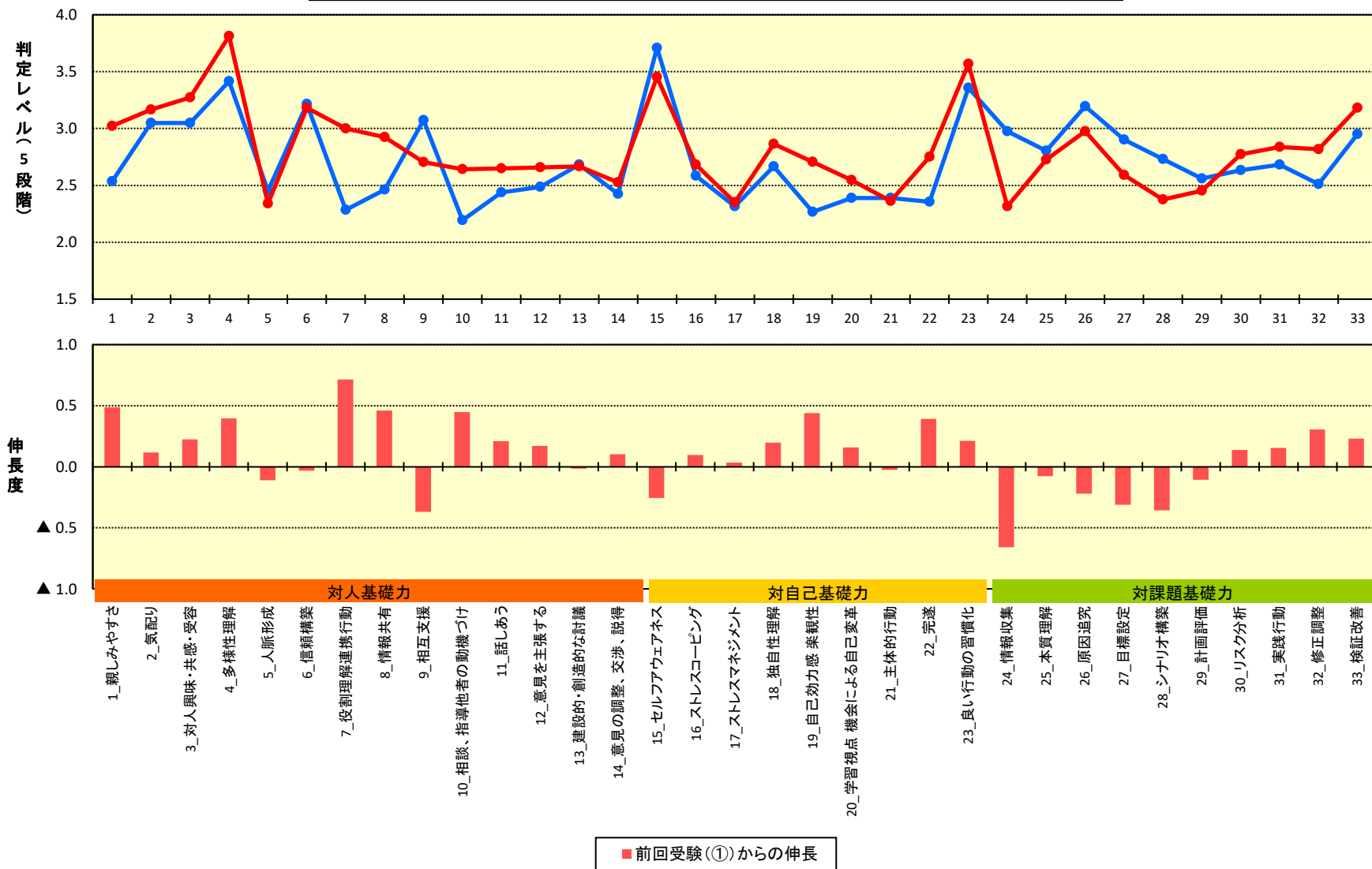
コンピテンシー小分類要素

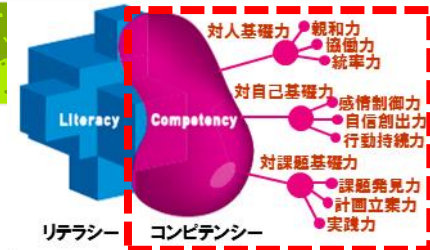




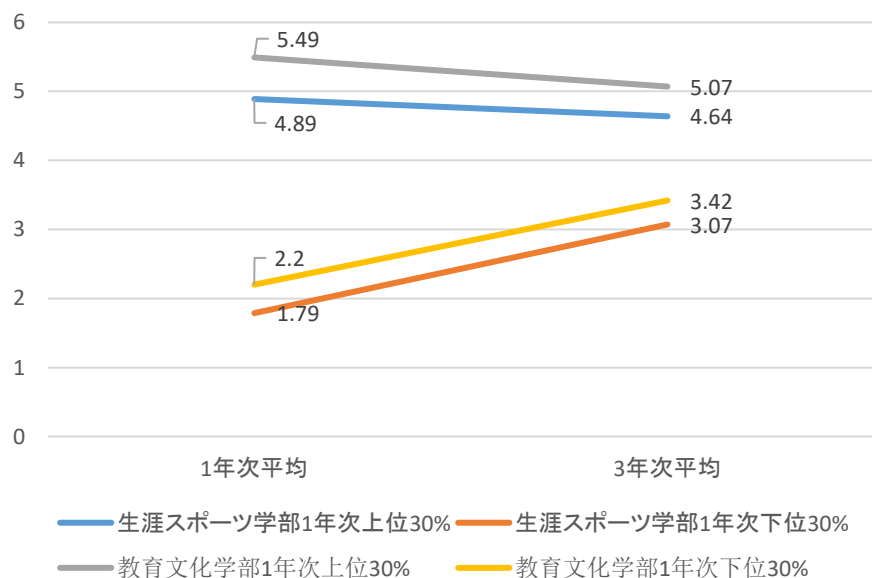
コンピテンシー小分類要素

①心理カウンセリング学科3年(前回1年次) ②心理カウンセリング学科3年(今回)



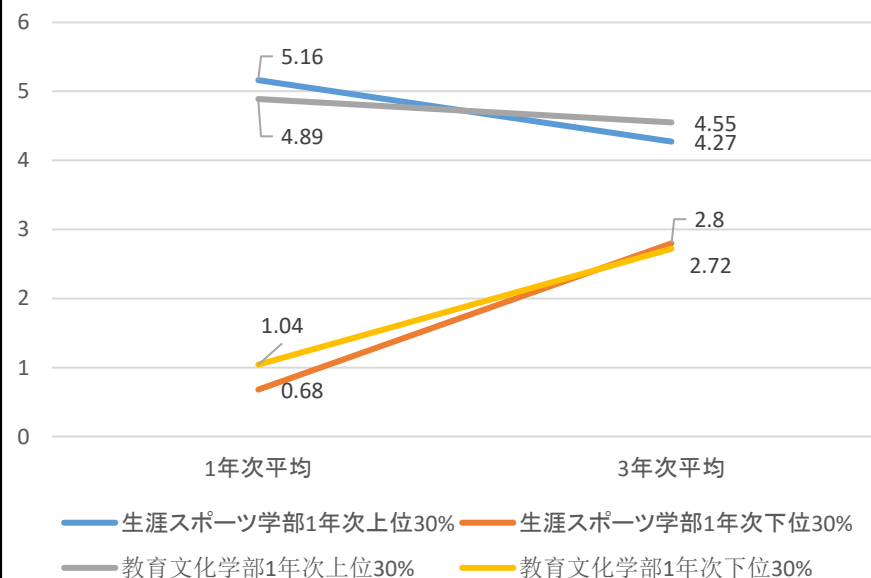


リテラシー総合

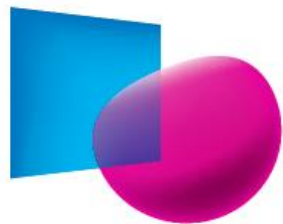


	1年次平均	3年次平均
生涯スポーツ学部1年次上位30%	4.89	4.64
生涯スポーツ学部1年次下位30%	1.79	3.07
教育文化学部1年次上位30%	5.49	5.07
教育文化学部1年次下位30%	2.20	3.42

コンピテンシー総合



	1年次平均	3年次平均
生涯スポーツ学部1年次上位30%	5.16	4.27
生涯スポーツ学部1年次下位30%	0.68	2.80
教育文化学部1年次上位30%	4.89	4.55
教育文化学部1年次下位30%	1.04	2.72



PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.4

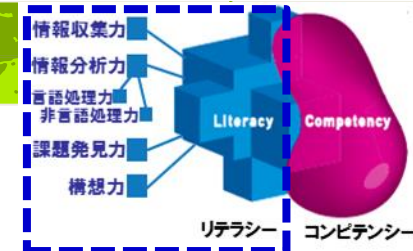
1年生

過去の1年生との比較

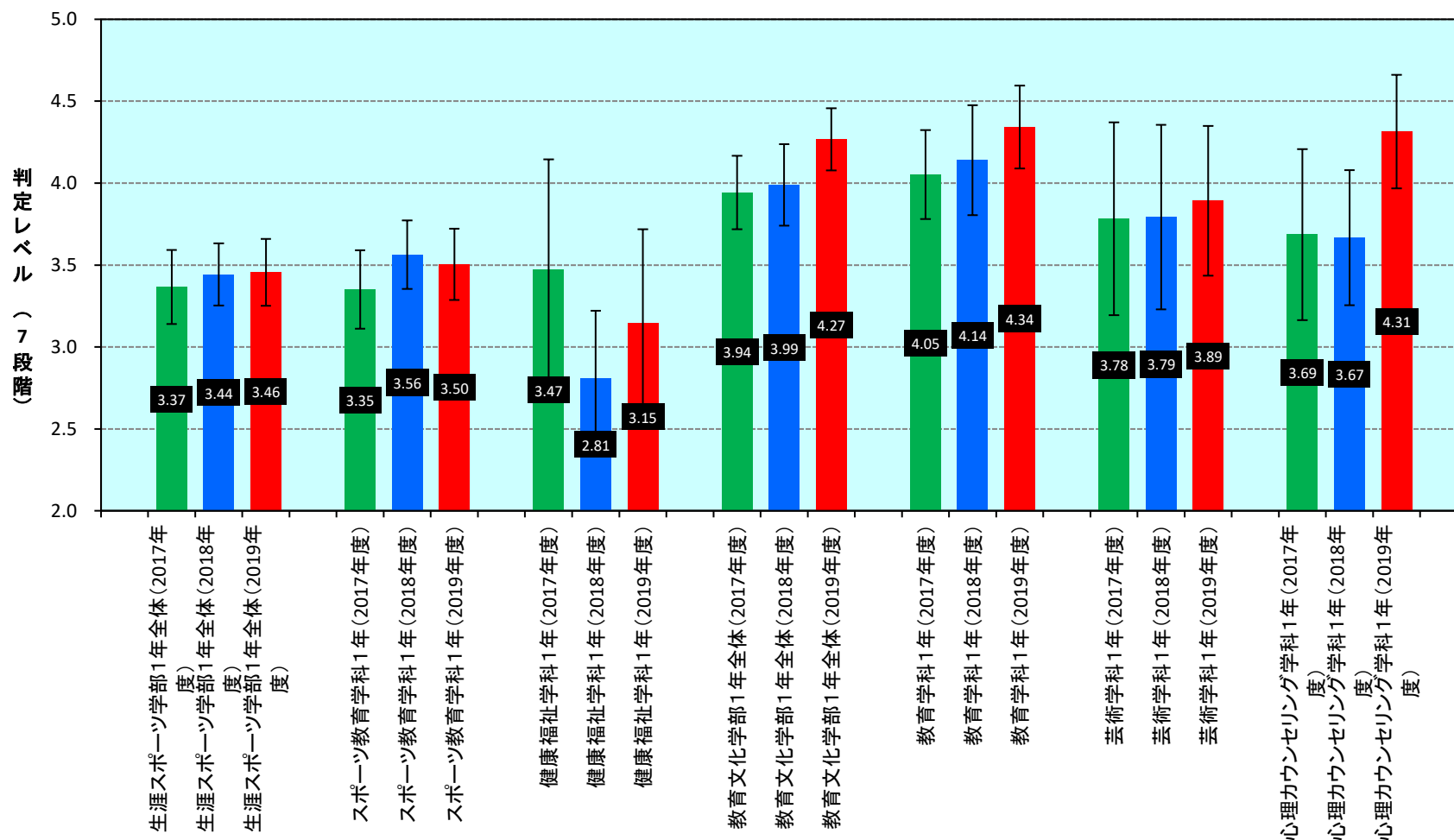
受験者プロフィール

学部	学科	2017年度 2017年12月受験	2018年度 2018年5月 ～7月受験	2019年度 2019年4月受験
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科 1年	137	220	216
	健康福祉学科 1年	19	42	34
		156	262	250
教育文化学部	教育学科 1年	116	122	149
	芸術学科 1年	23	29	37
	心理カウンセリング学科 1年	35	39	54
		174	190	240
合計		330	452	490

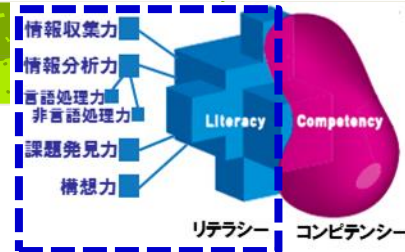
リテラシー総合（過去の受験者との比較）



リテラシー総合

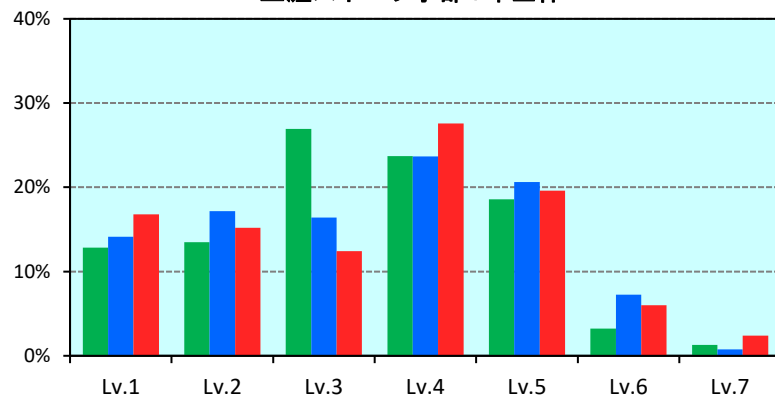


リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ①

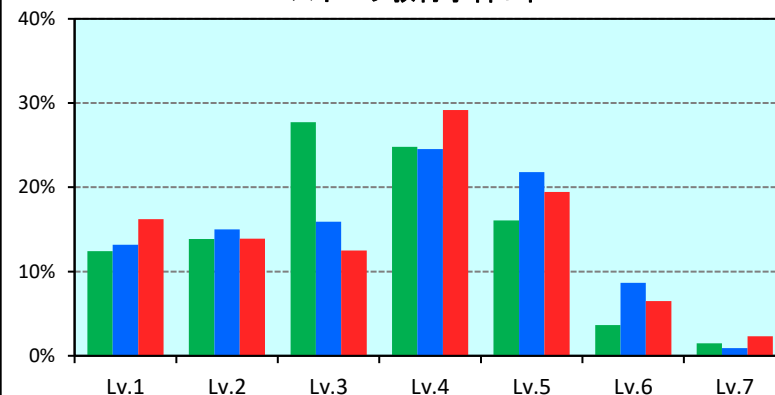


■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

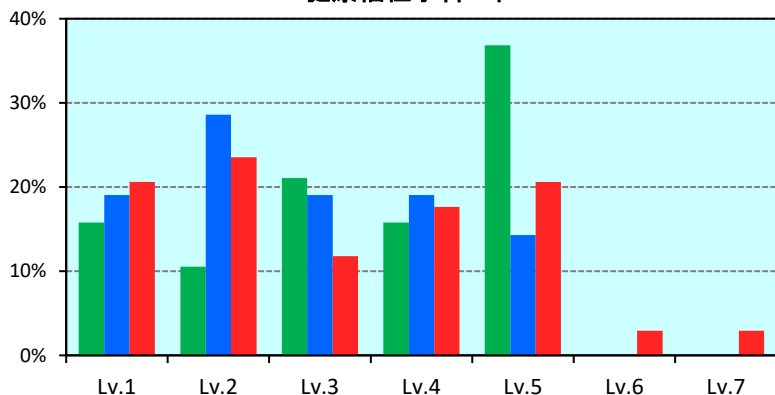
生涯スポーツ学部1年全体



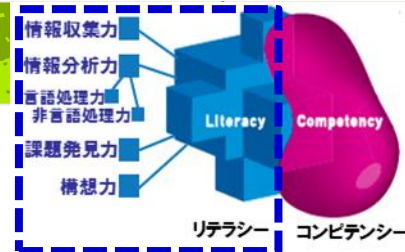
スポーツ教育学科1年



健康福祉学科1年

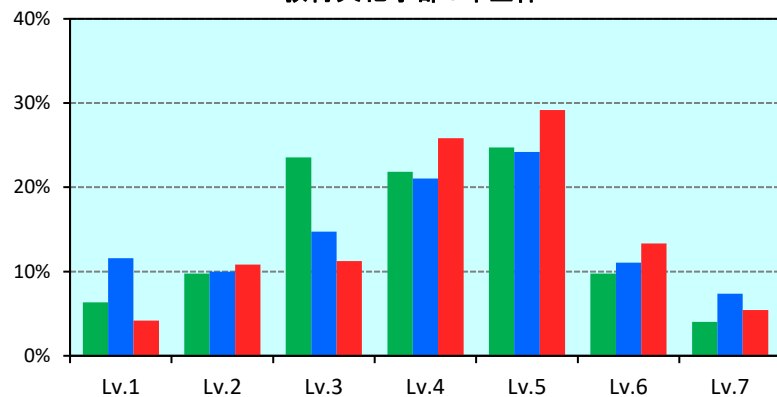


リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ②

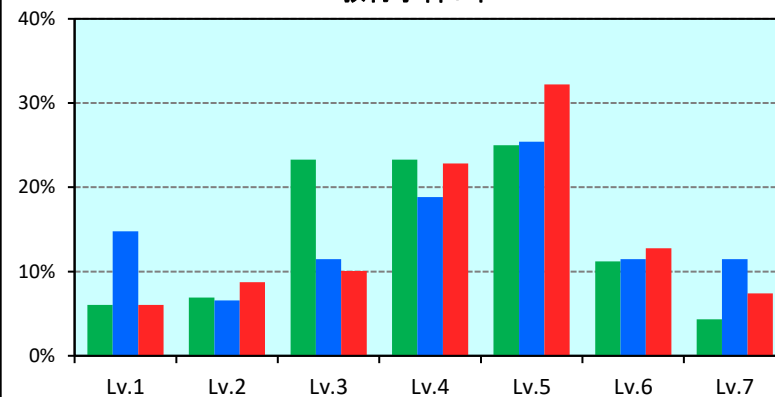


■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

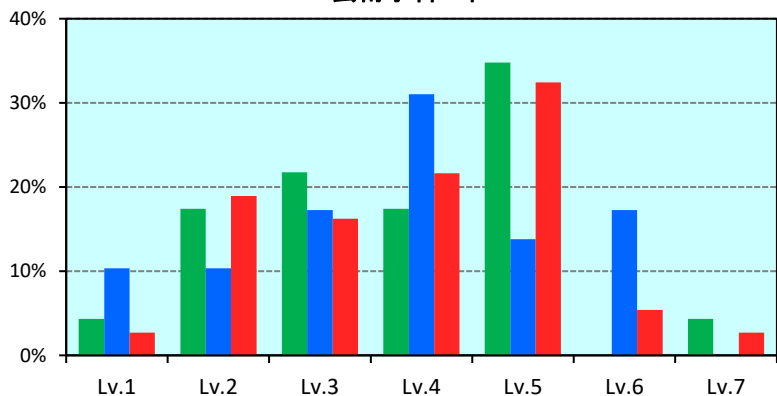
教育文化学部1年全体



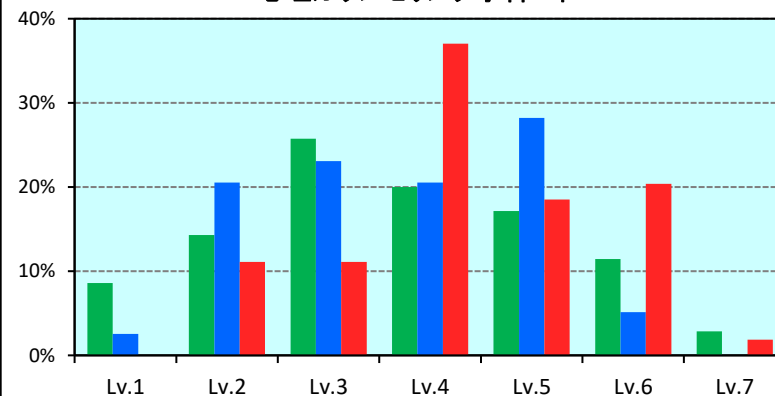
教育学部1年



芸術学科1年

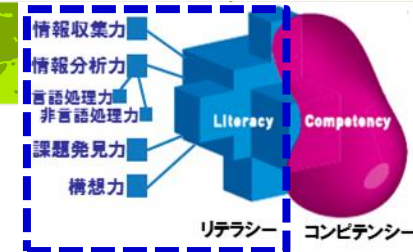


心理カウンセリング学科1年

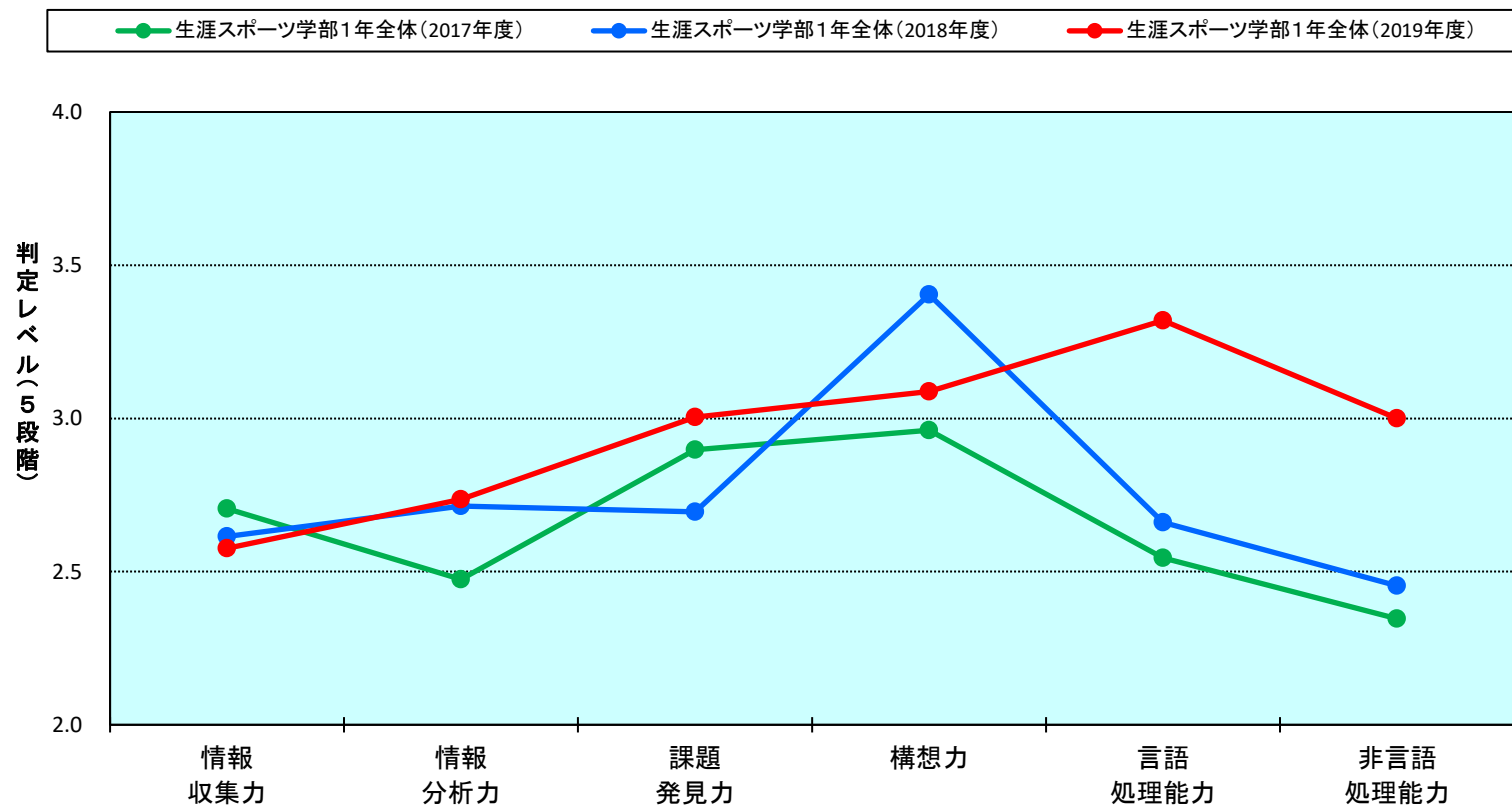


リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部1年全体】

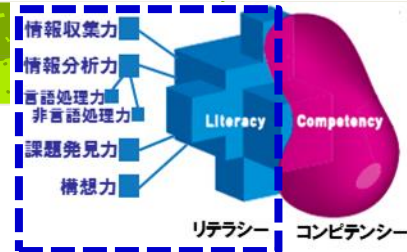


リテラシー要素

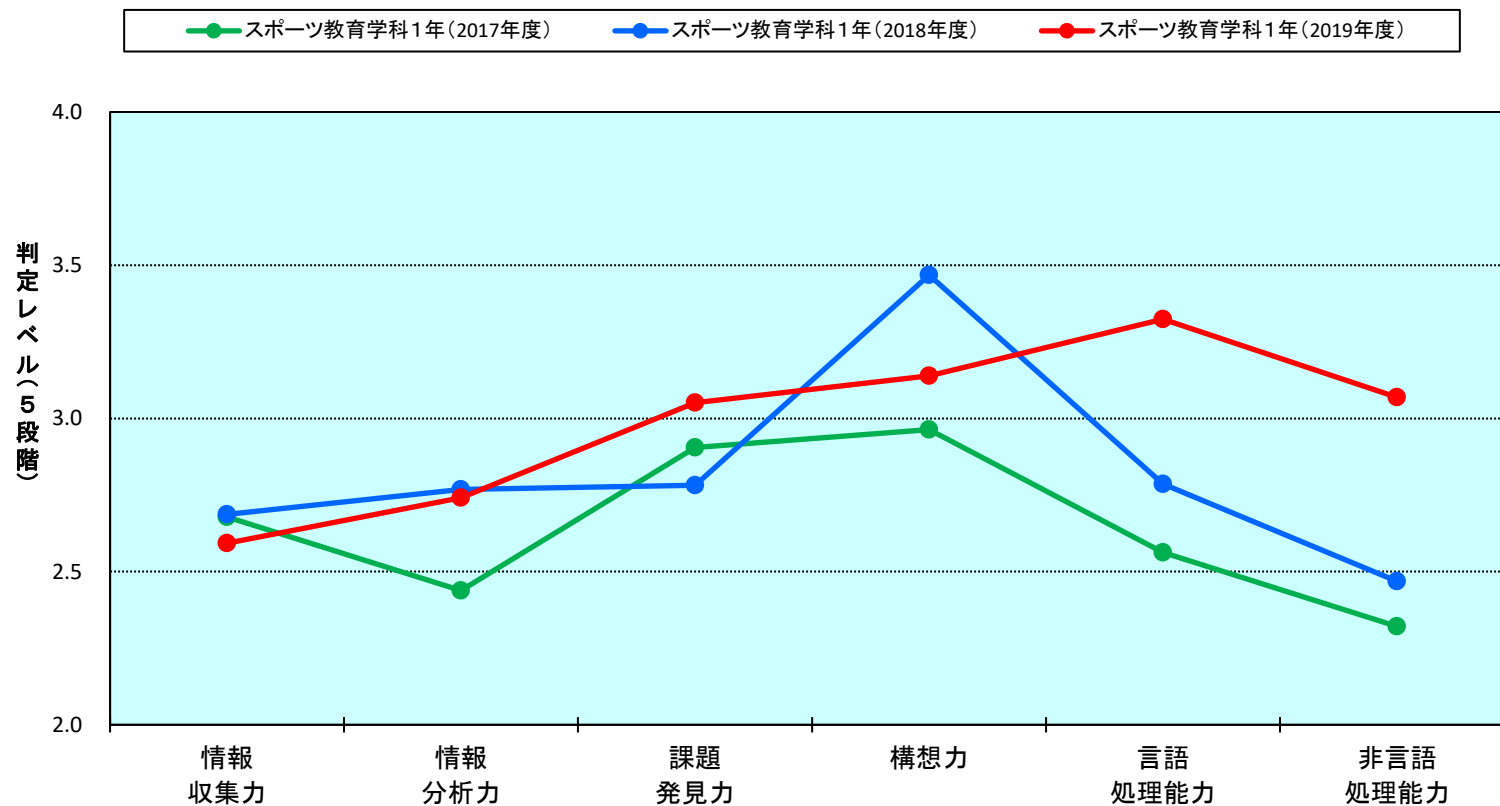


リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科1年】

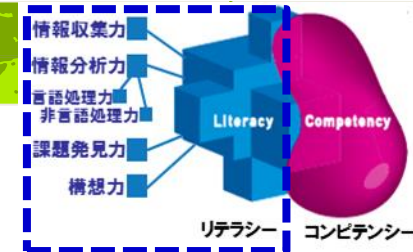


リテラシー要素

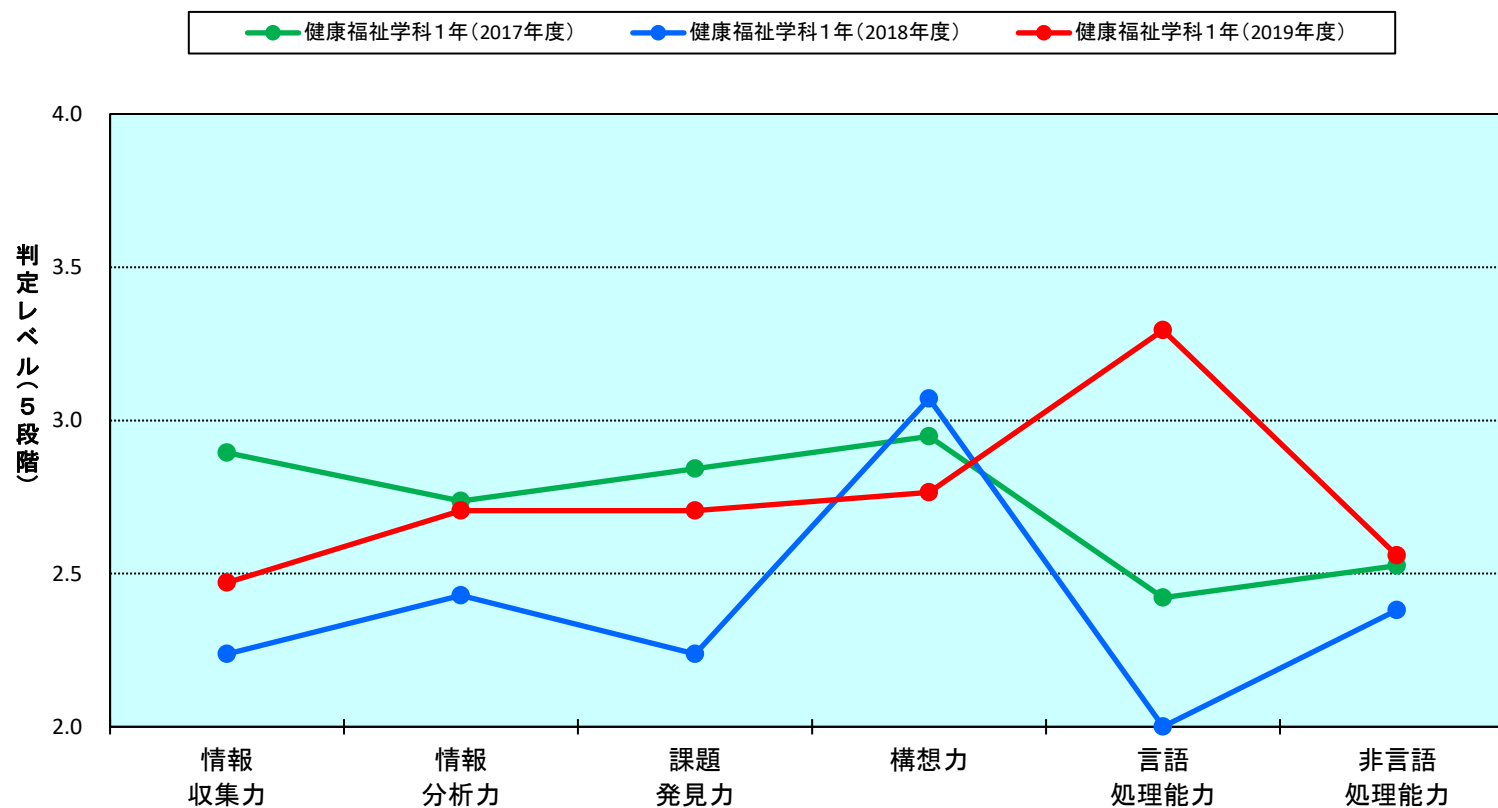


リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【健康福祉学科1年】

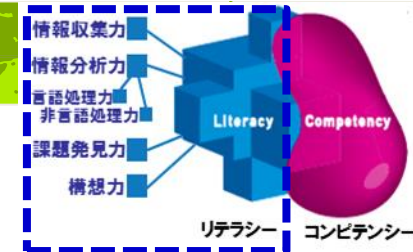


リテラシー要素

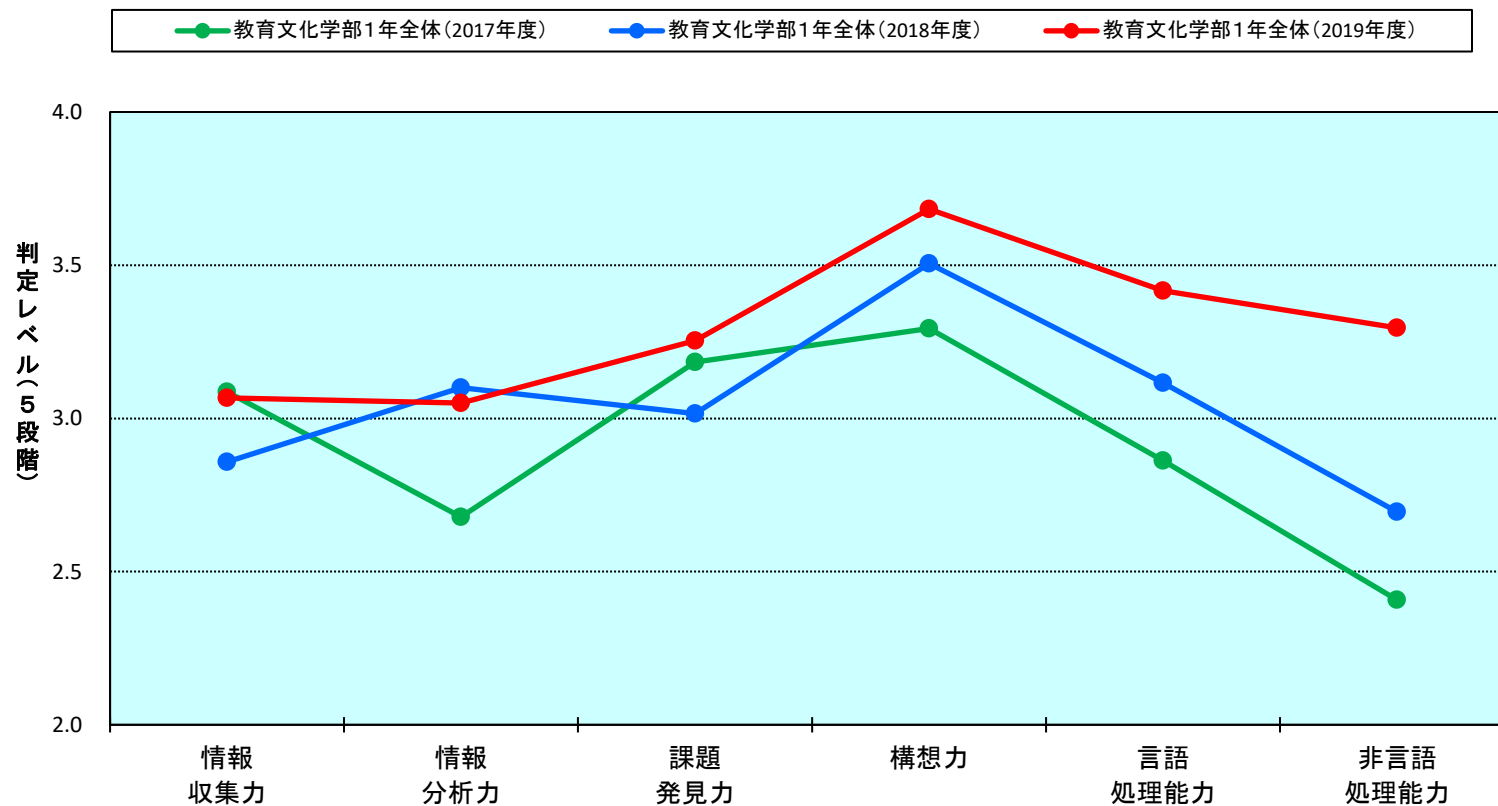


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部1年全体】

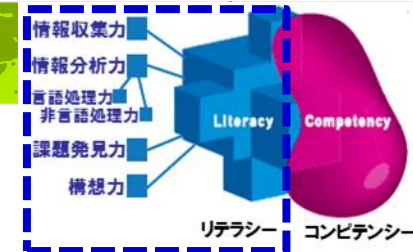


リテラシー要素

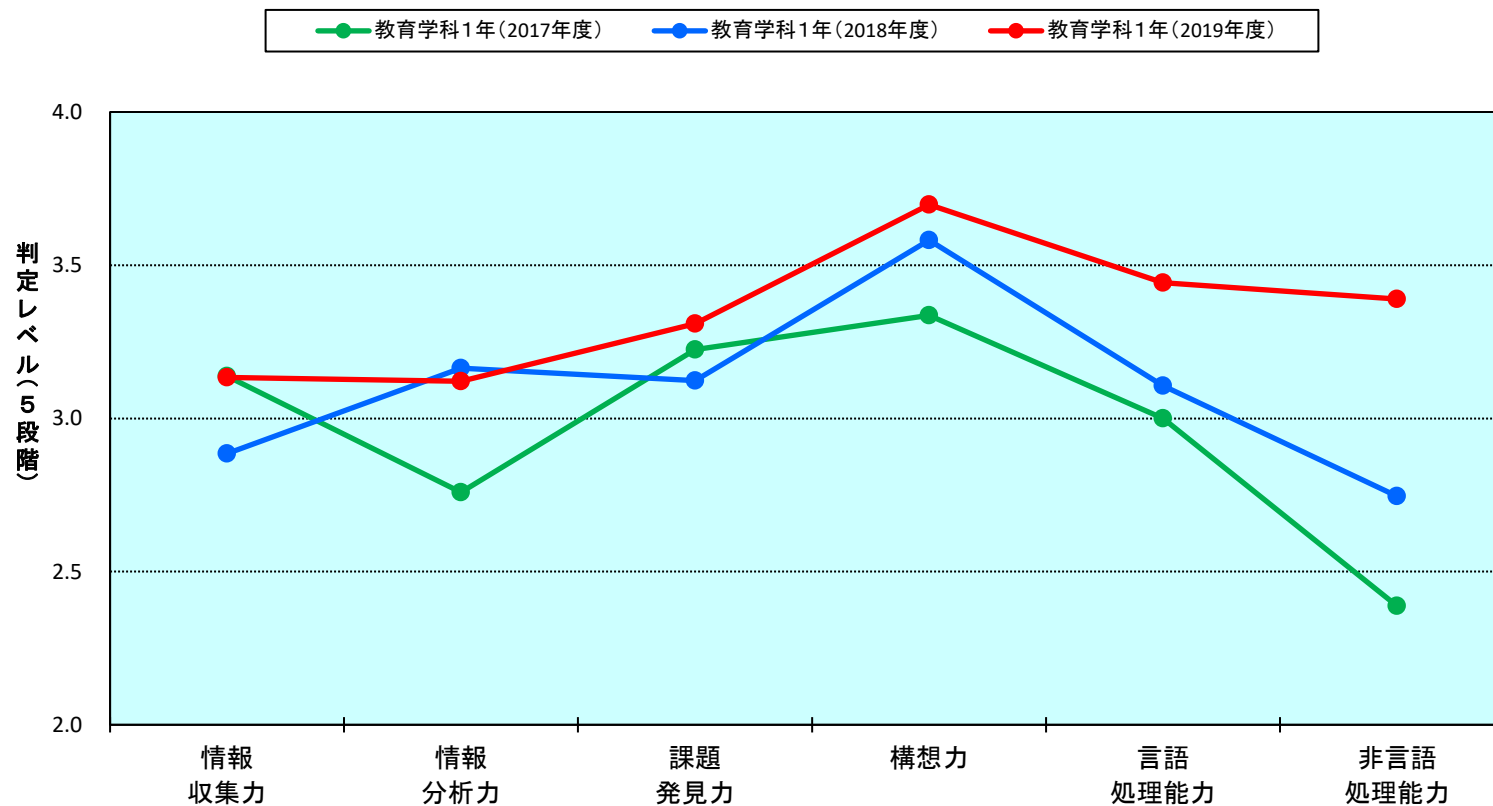


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科1年】

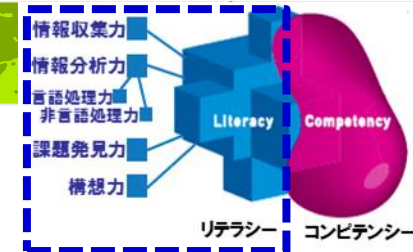


リテラシー要素

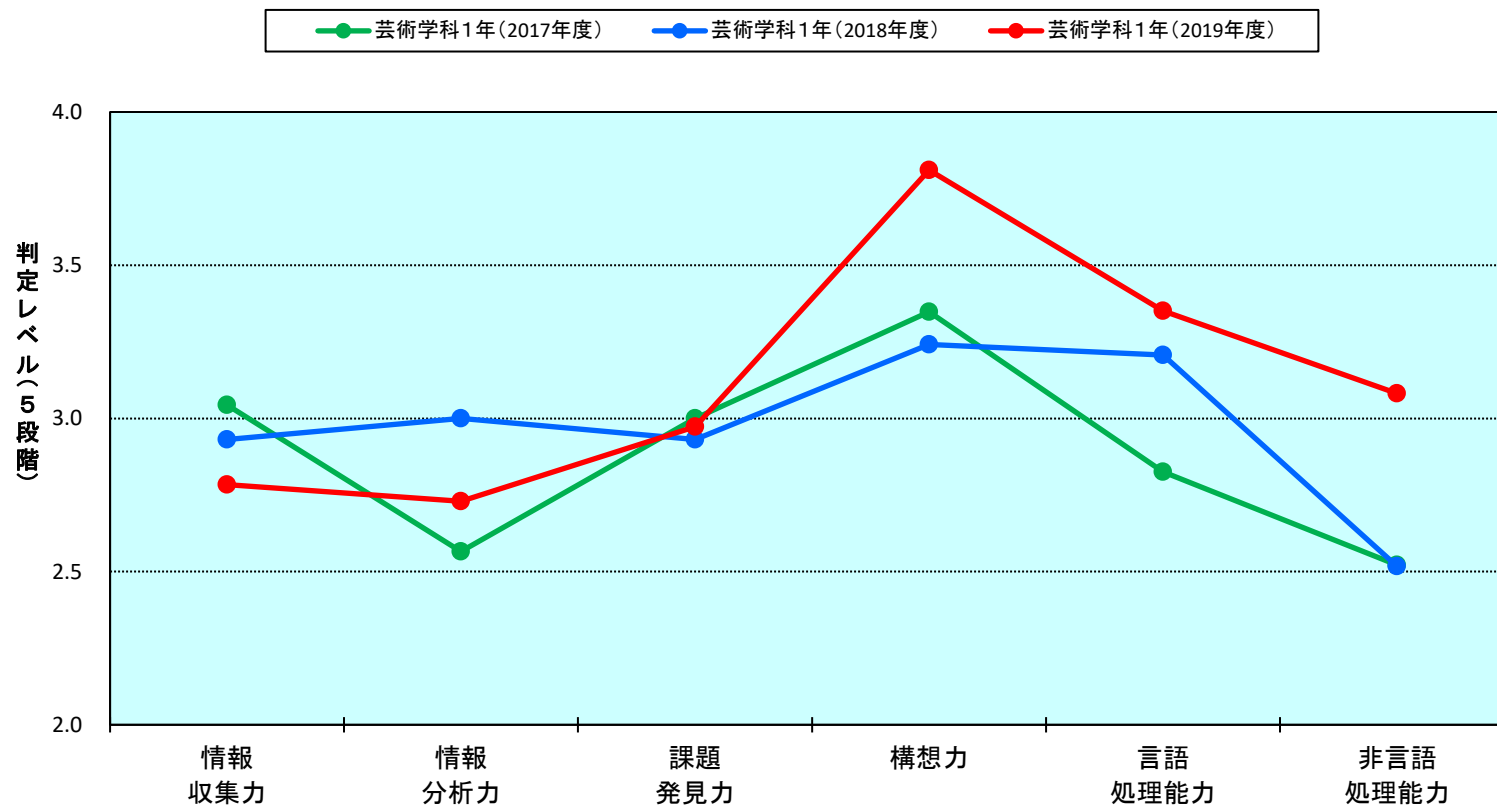


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科1年】

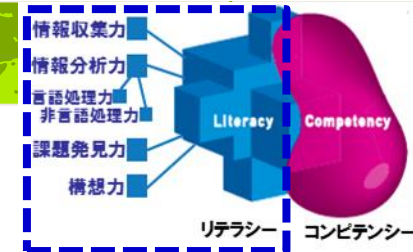


リテラシー要素

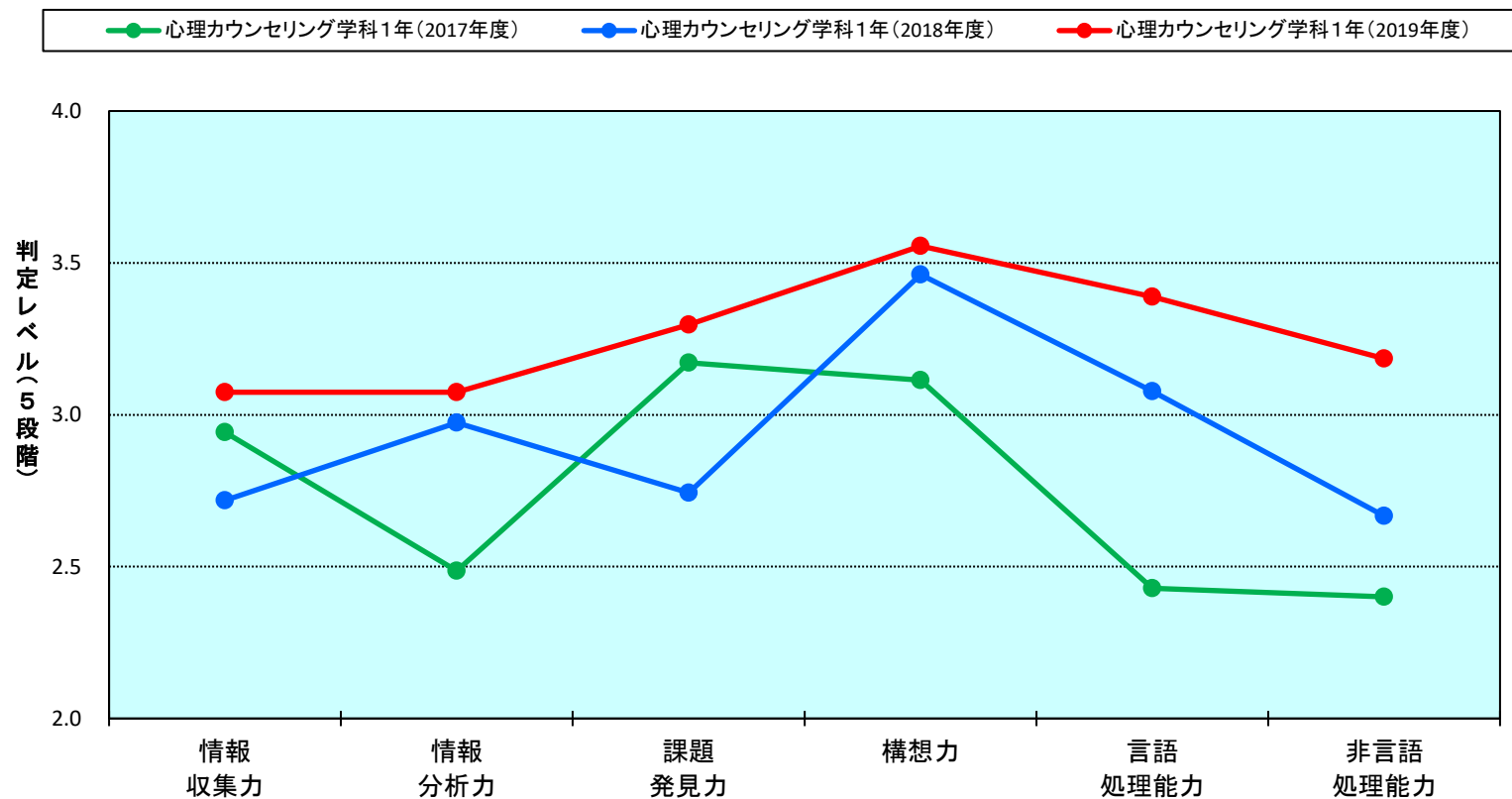


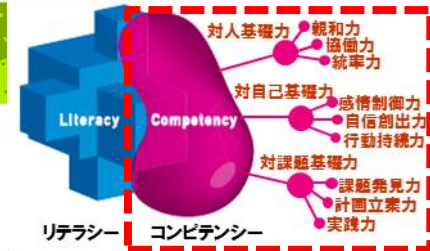
リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑦

【心理カウンセリング学科1年】

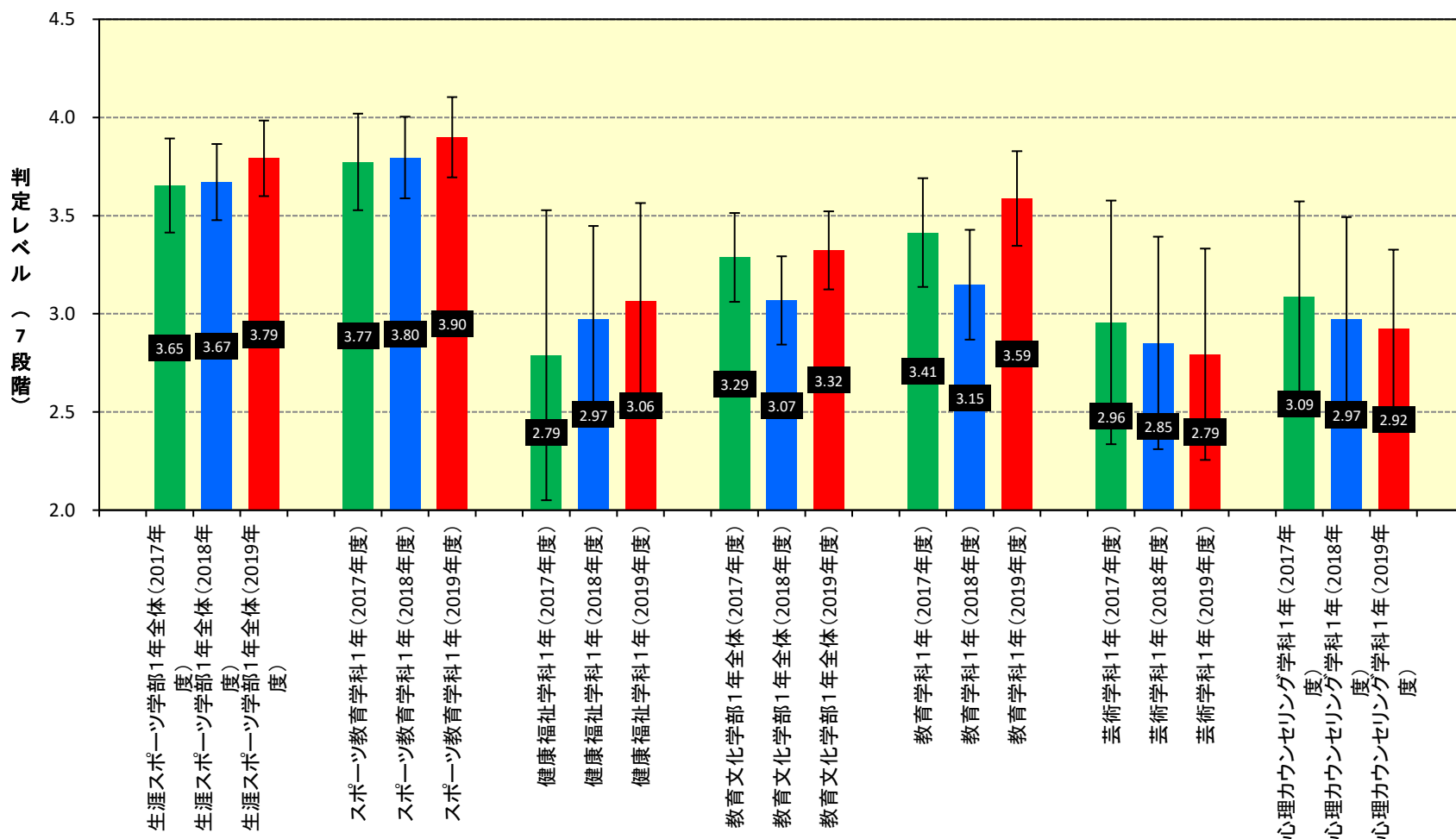


リテラシー要素

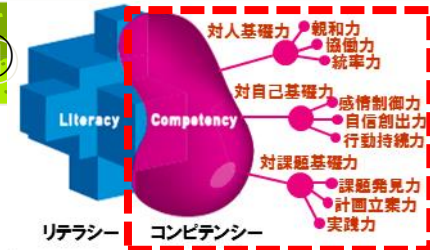




コンピテンシー総合

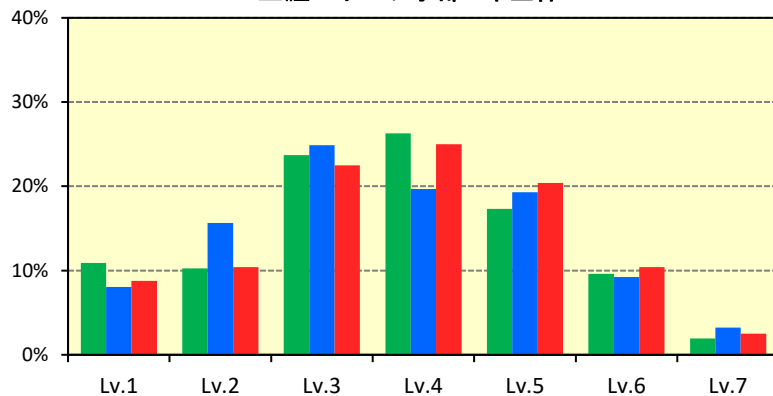


コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)①

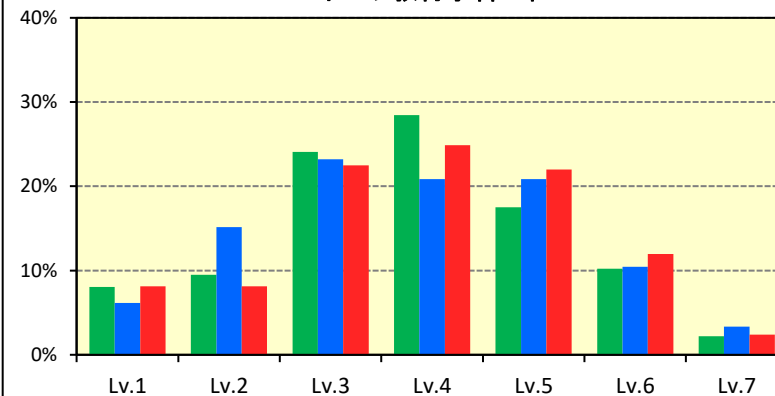


2017年度 2018年度 2019年度

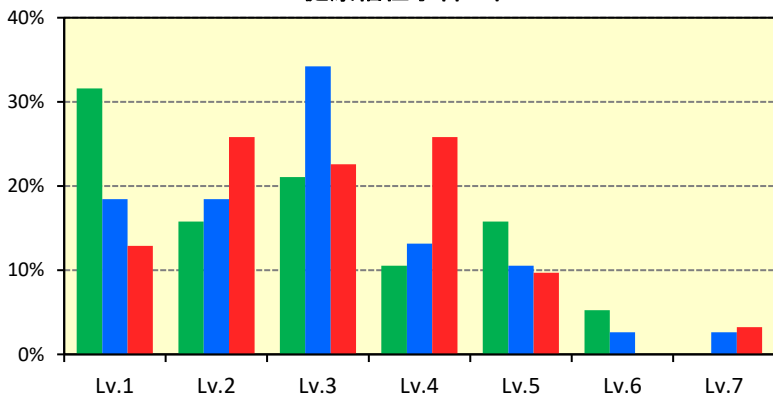
生涯スポーツ学部1年全体



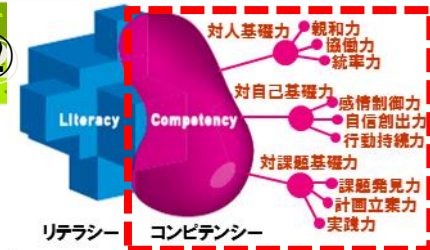
スポーツ教育学科1年



健康福祉学科1年

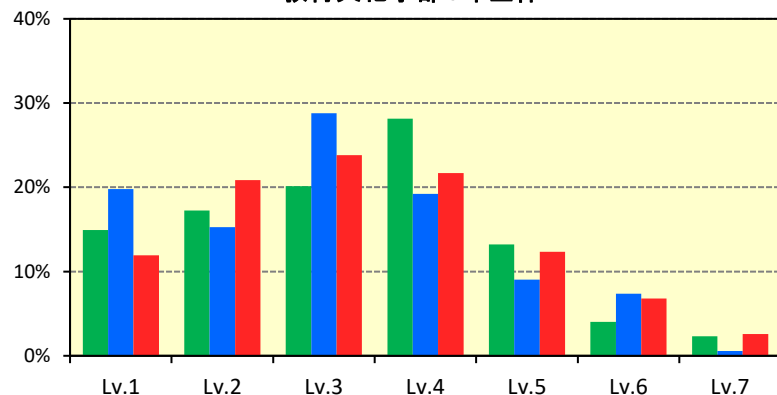


コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)②

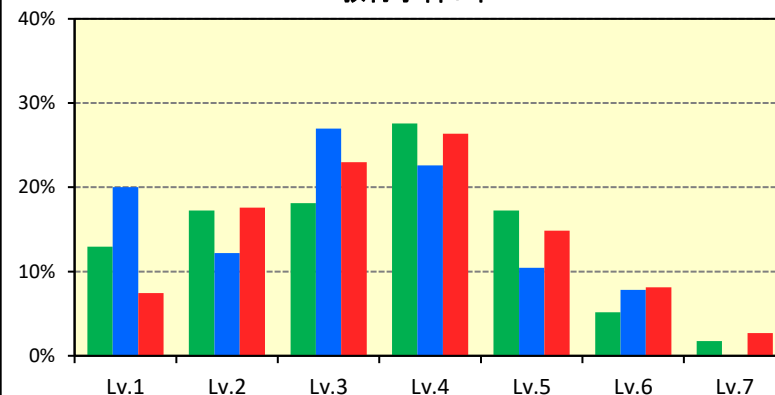


■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

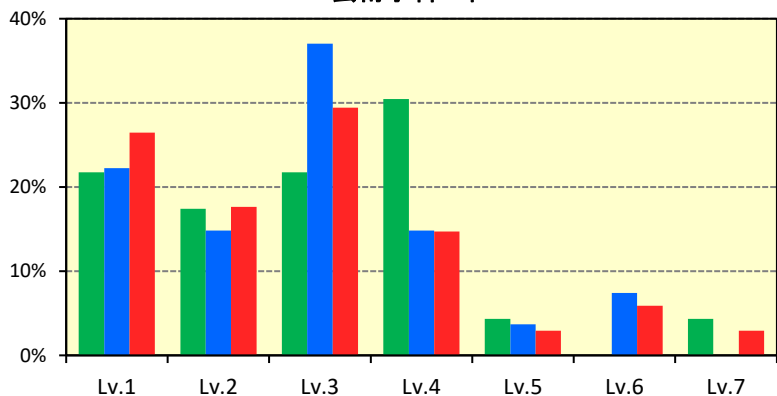
教育文化学部1年全体



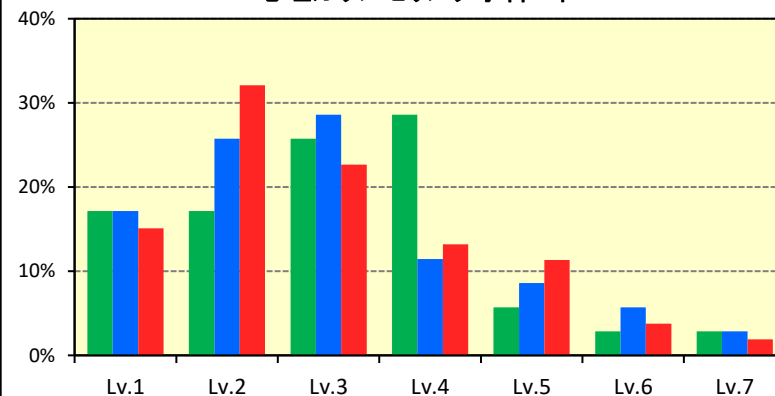
教育学部1年



芸術学科1年

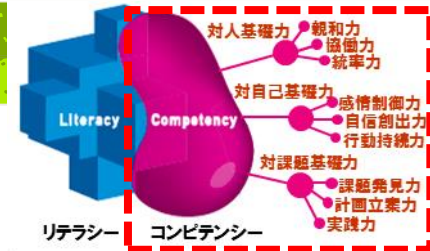


心理カウンセリング学科1年

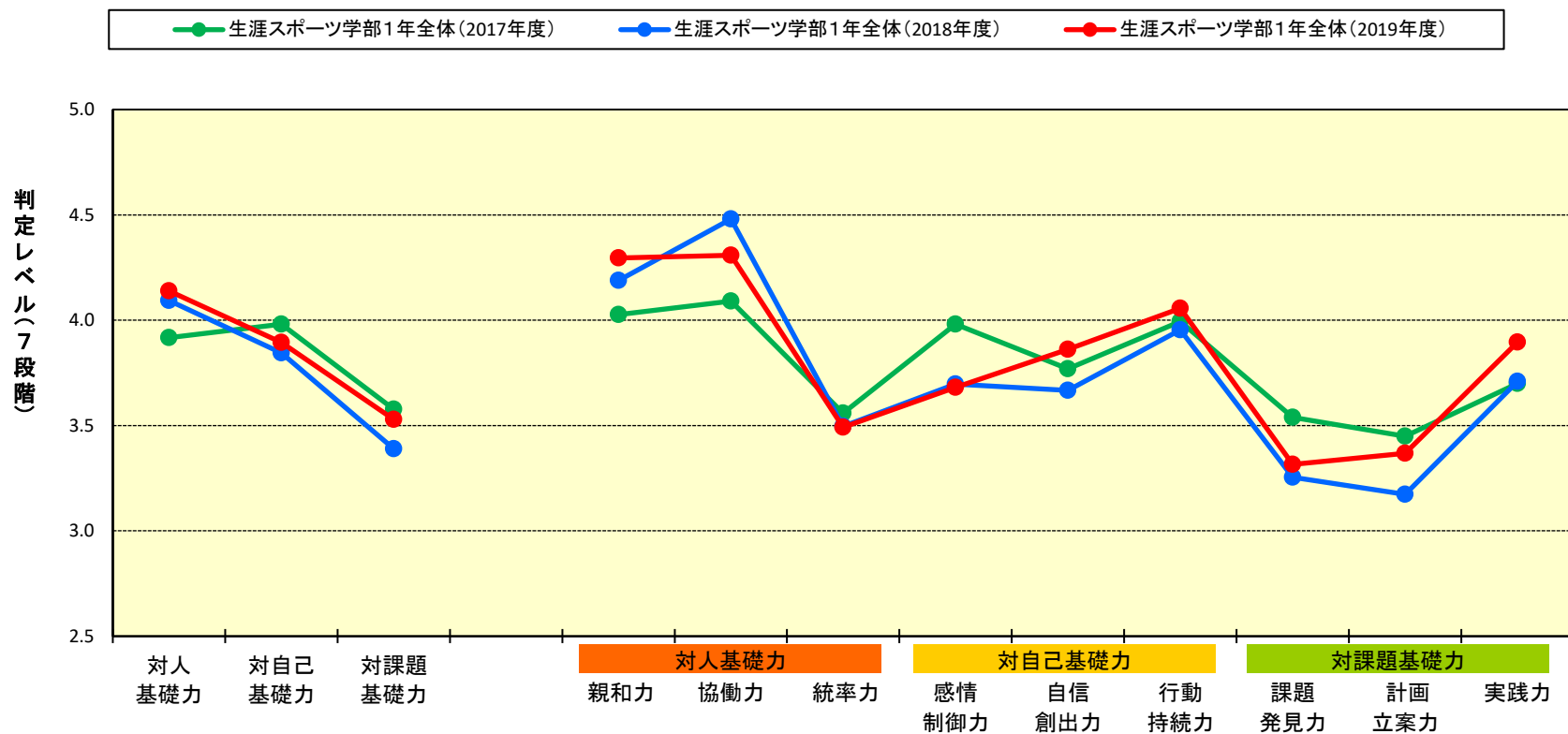


コンピテンシー大中分類要素（過去の受験者との比較）①

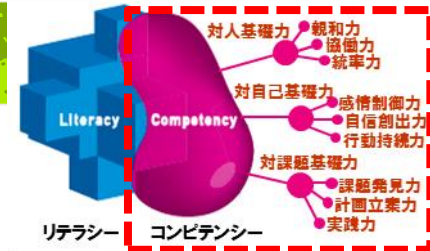
【生涯スポーツ学部1年全体】



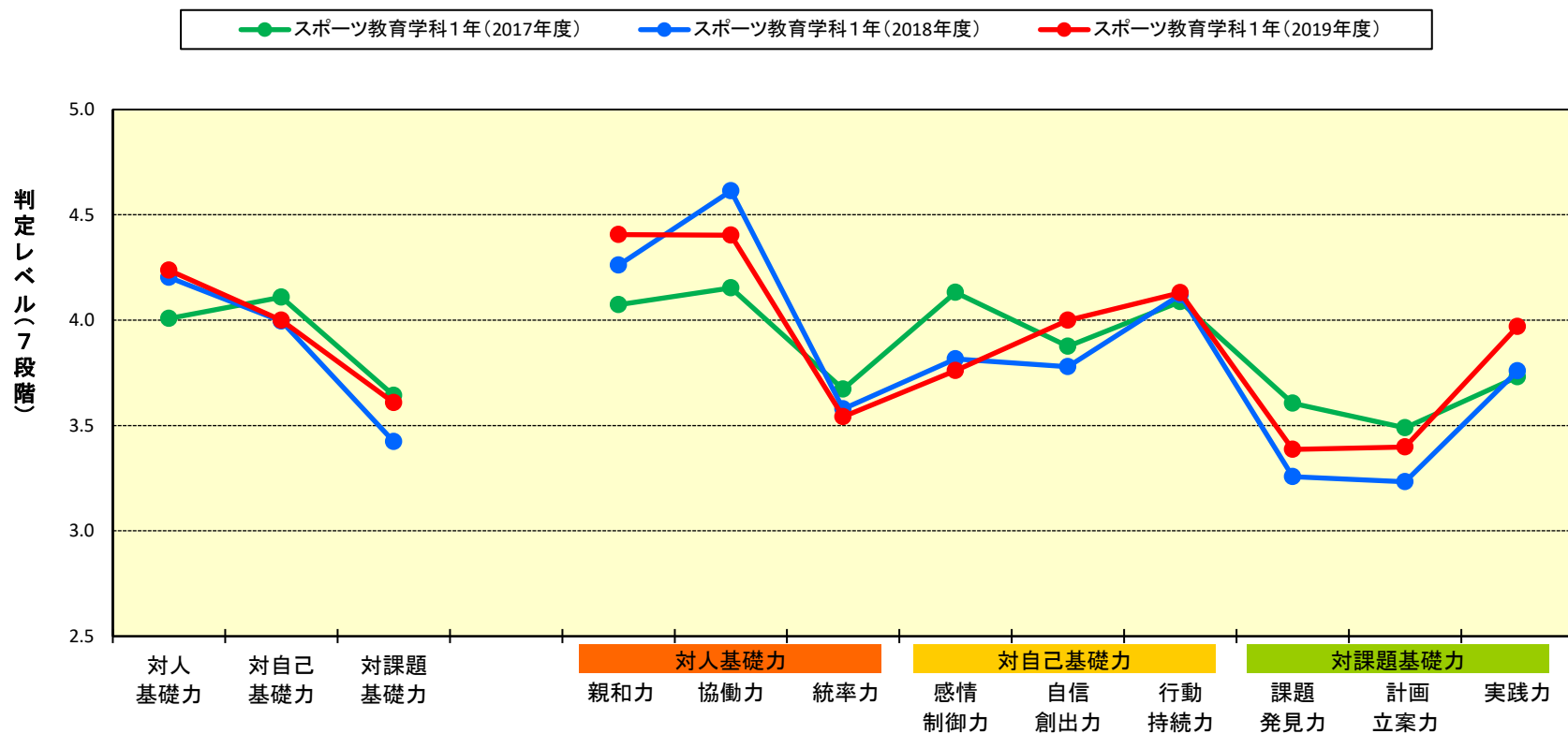
コンピテンシー要素の伸長

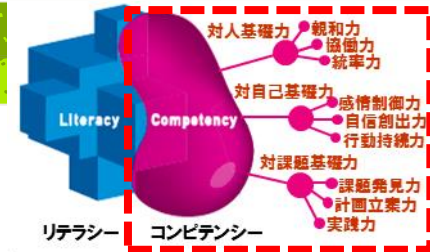


【スポーツ教育学科1年】

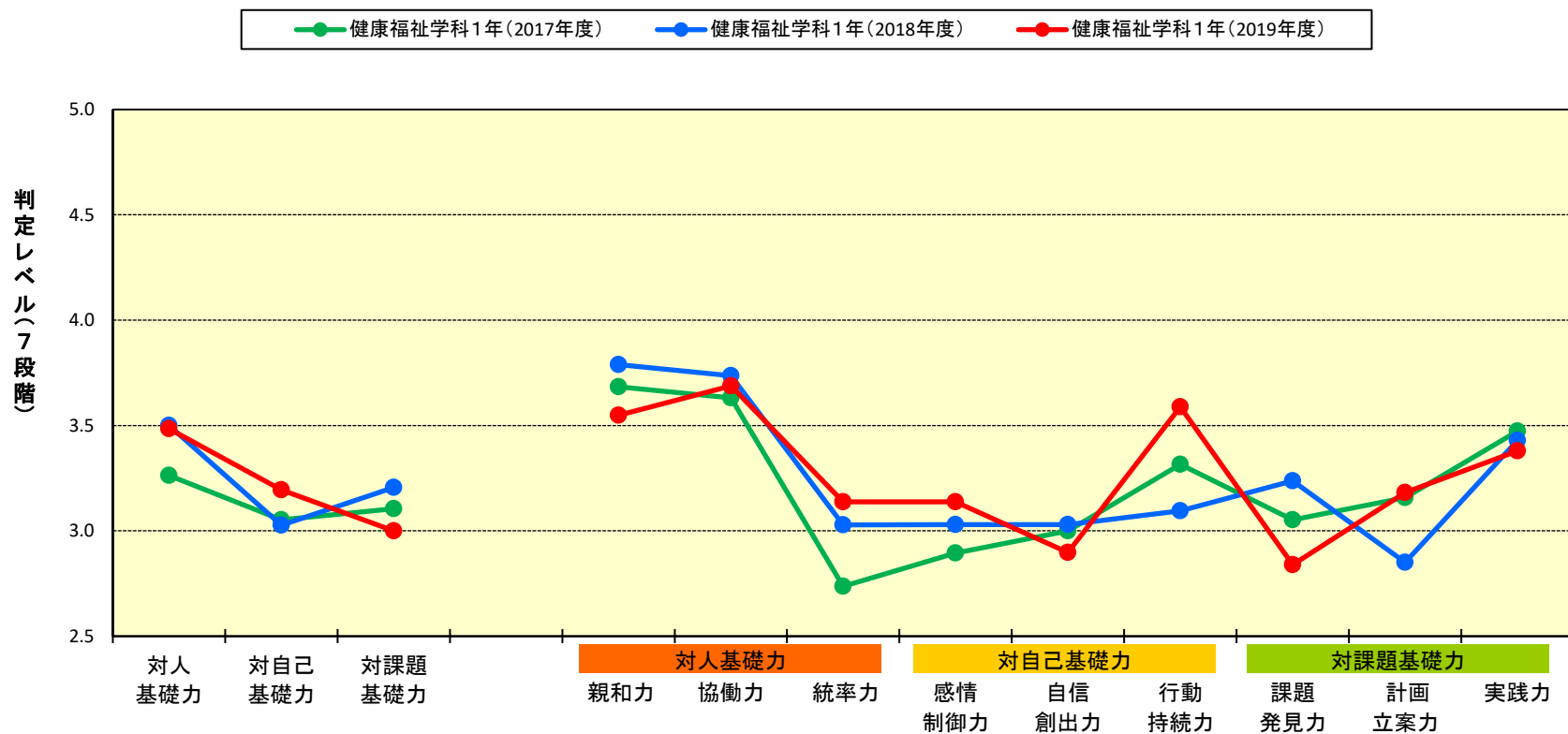


コンピテンシー要素の伸長

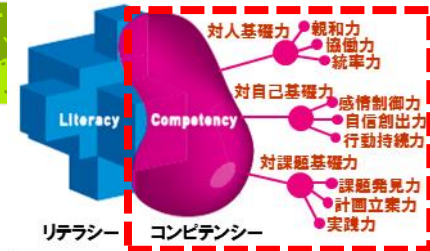




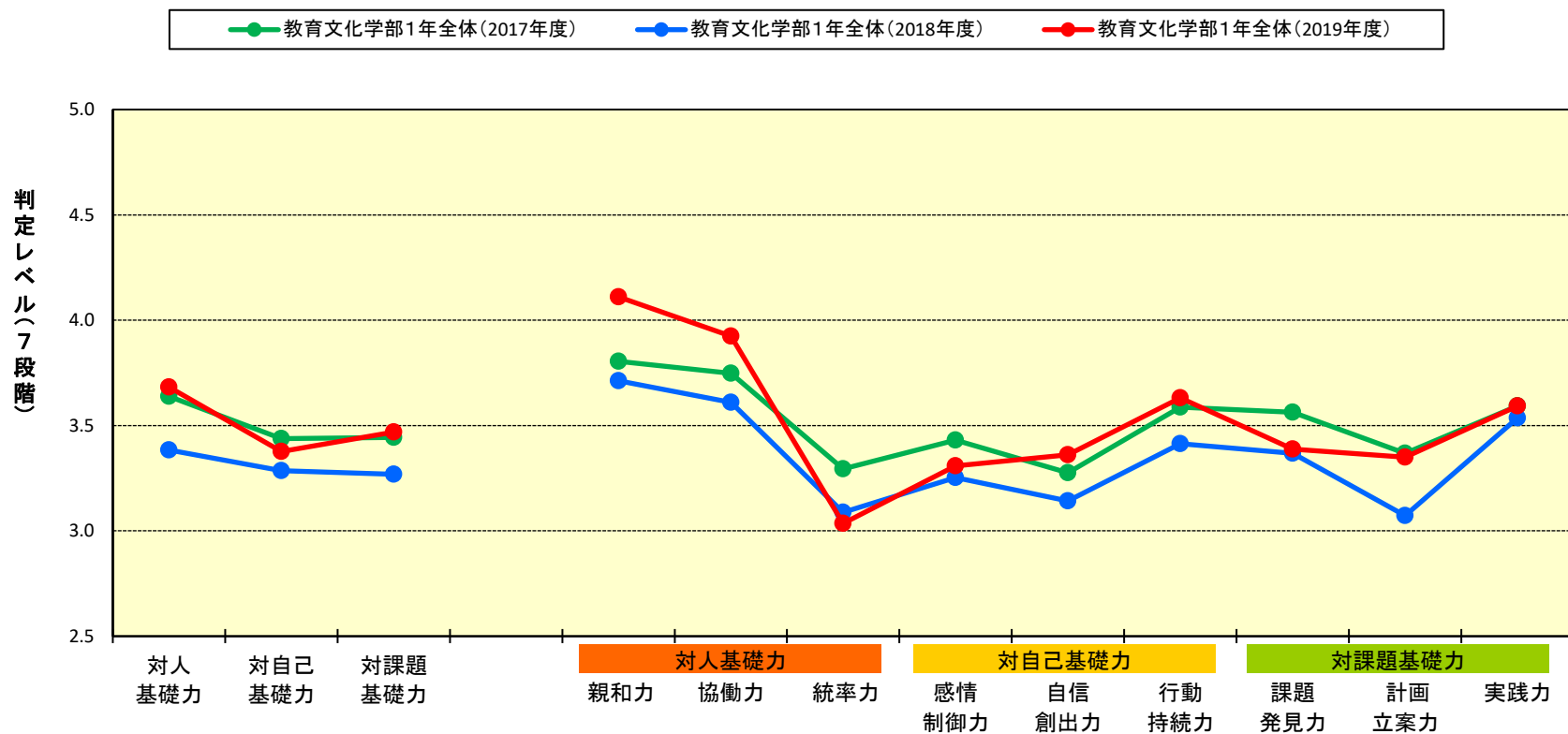
コンピテンシー要素の伸長



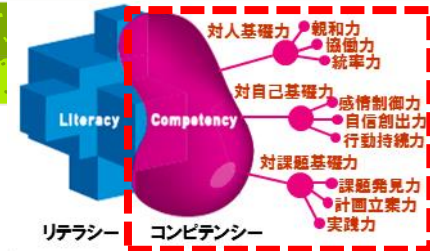
【教育文化学部1年全体】



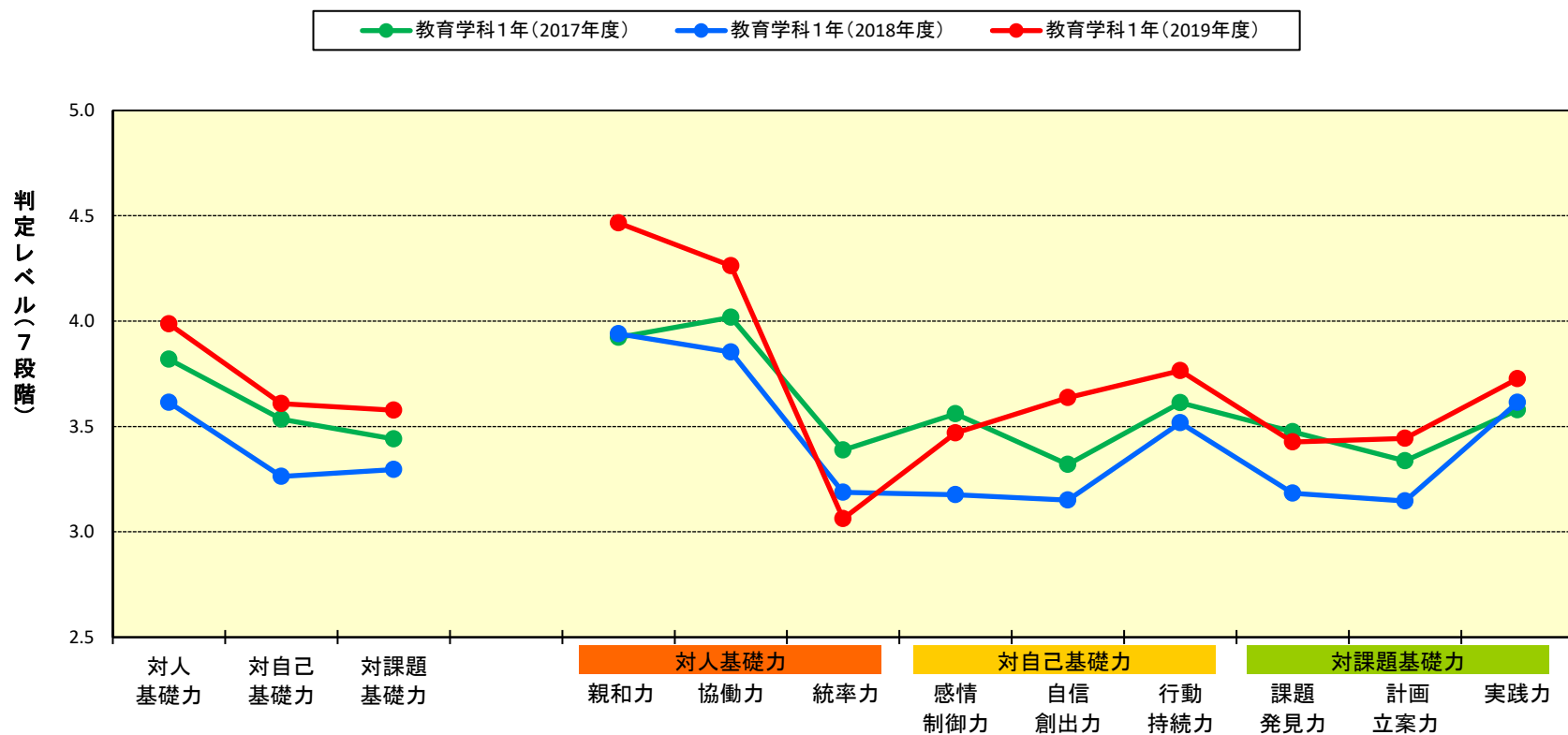
コンピテンシー要素の伸長



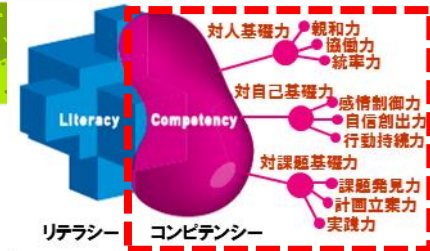
【教育学科1年】



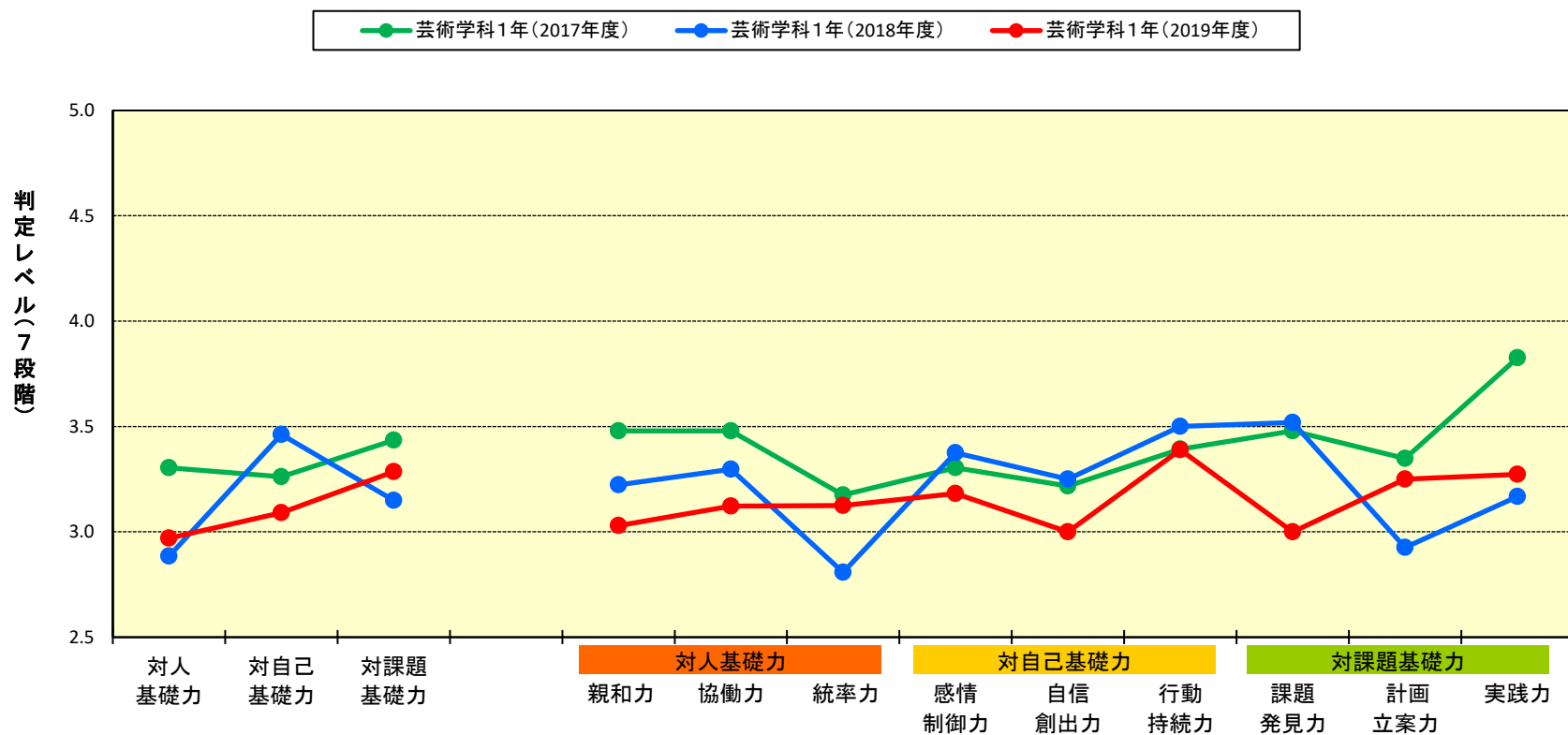
コンピテンシー要素の伸長



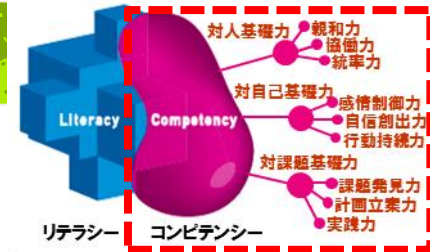
【芸術学科1年】



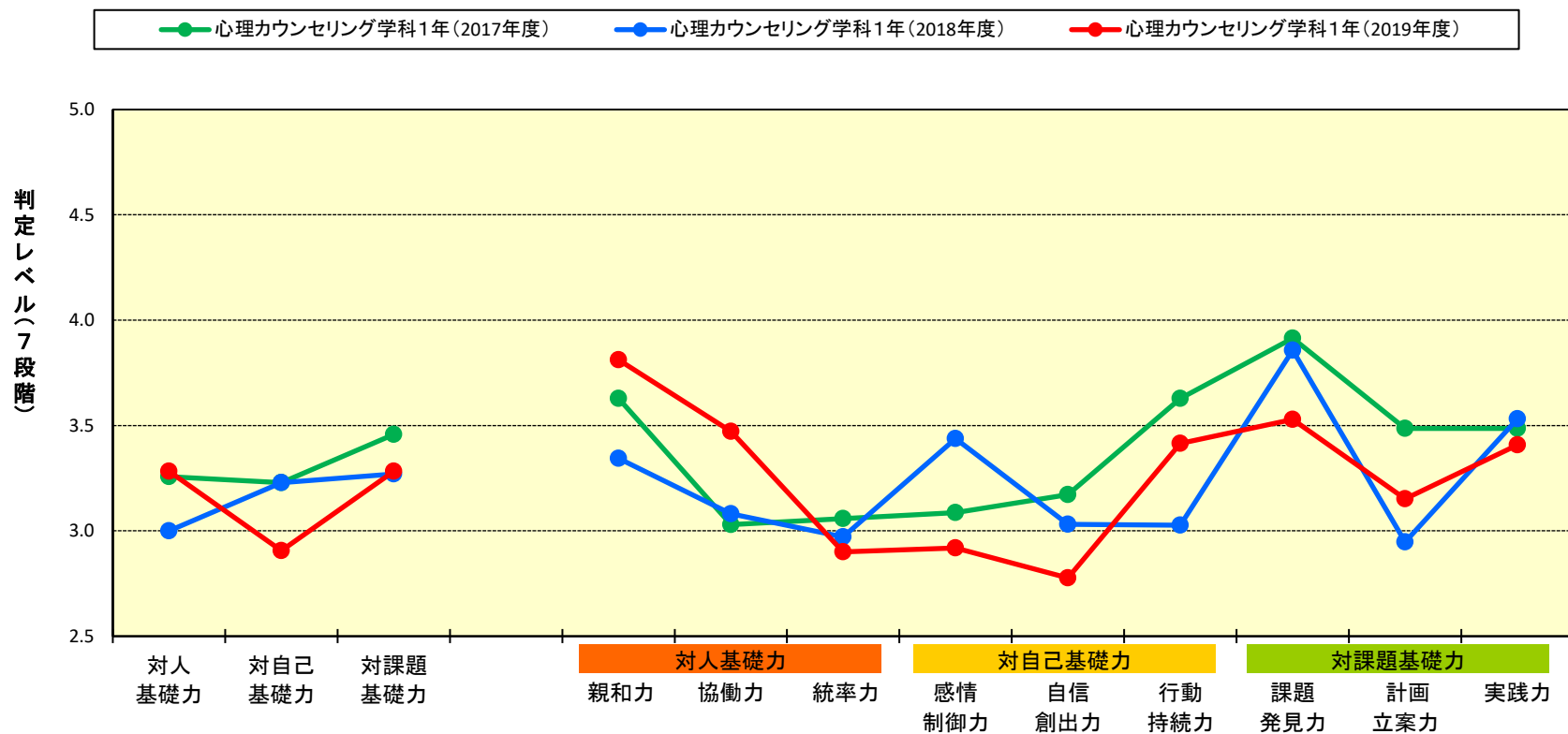
コンピテンシー要素の伸長



【心理カウンセリング学科1年】

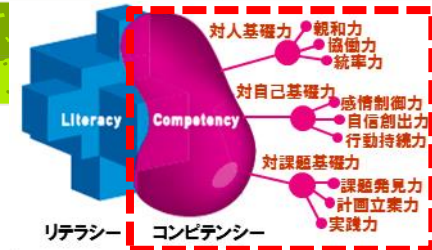


コンピテンシー要素の伸長

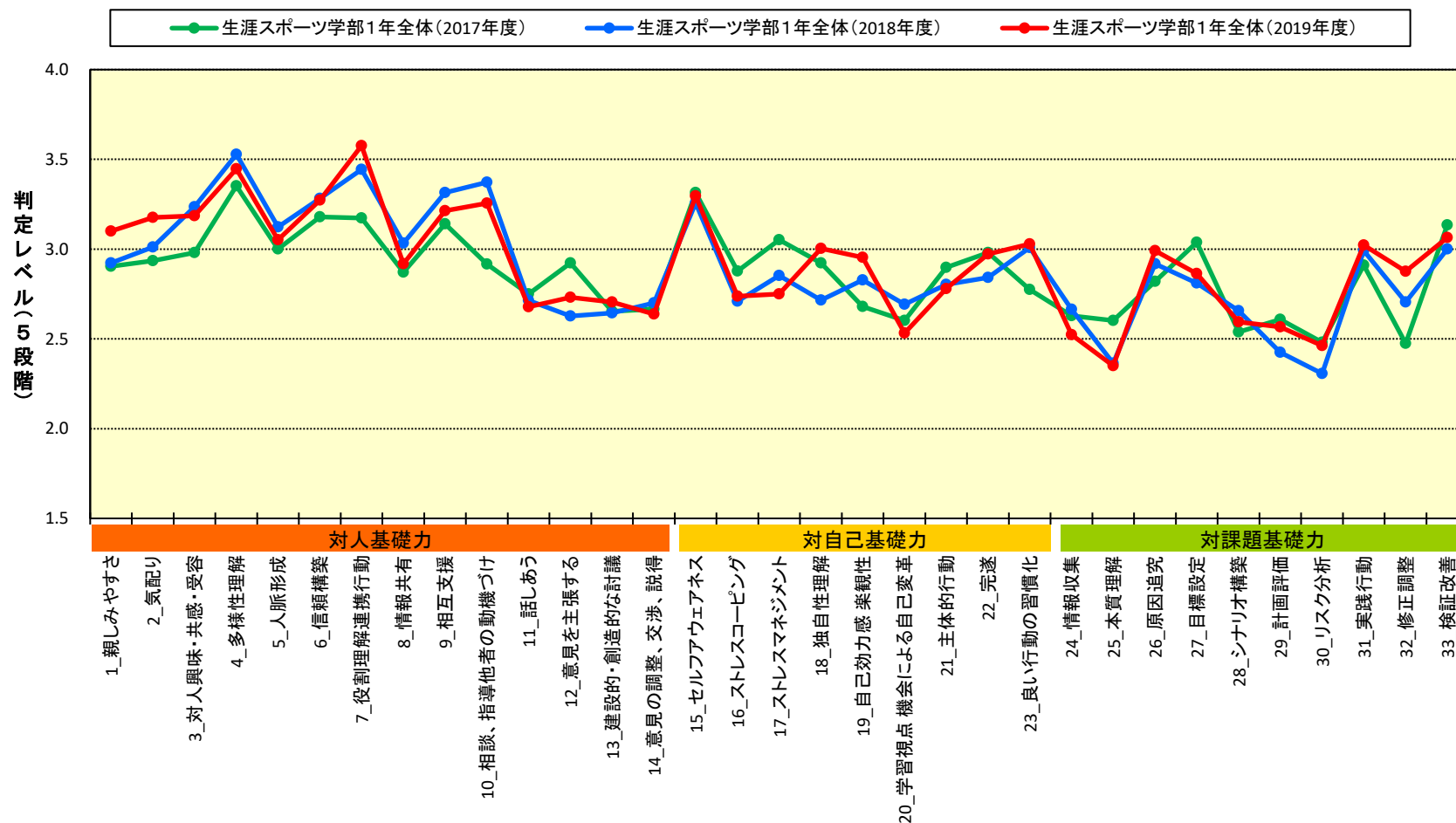


コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

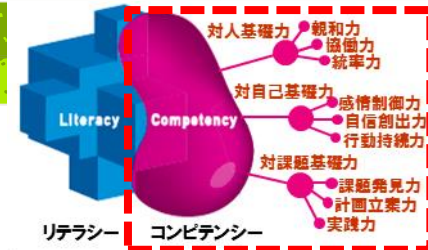
【生涯スポーツ学部1年全体】



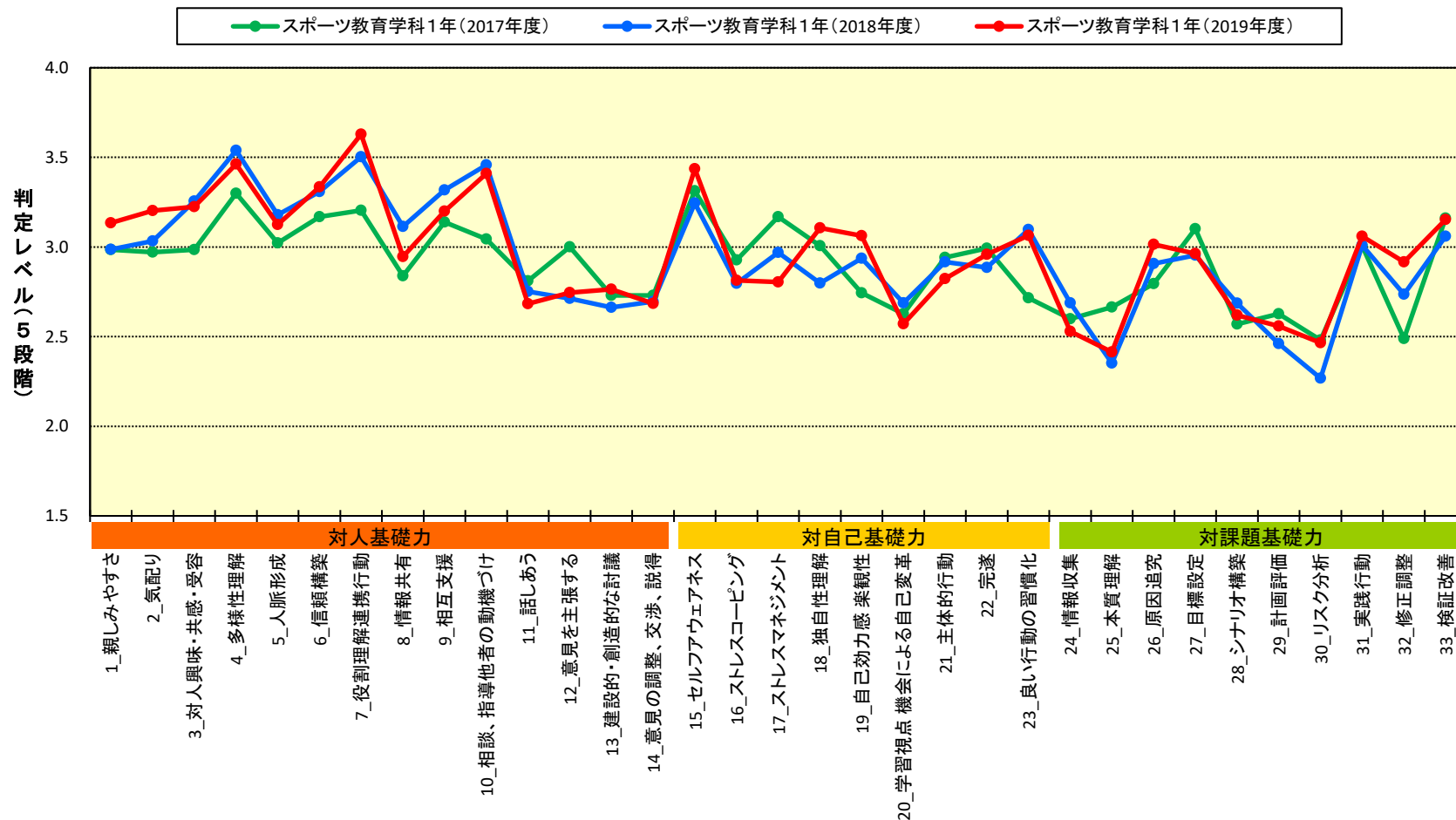
コンピテンシー小分類要素

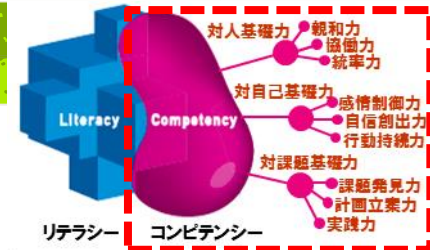


【スポーツ教育学科1年】

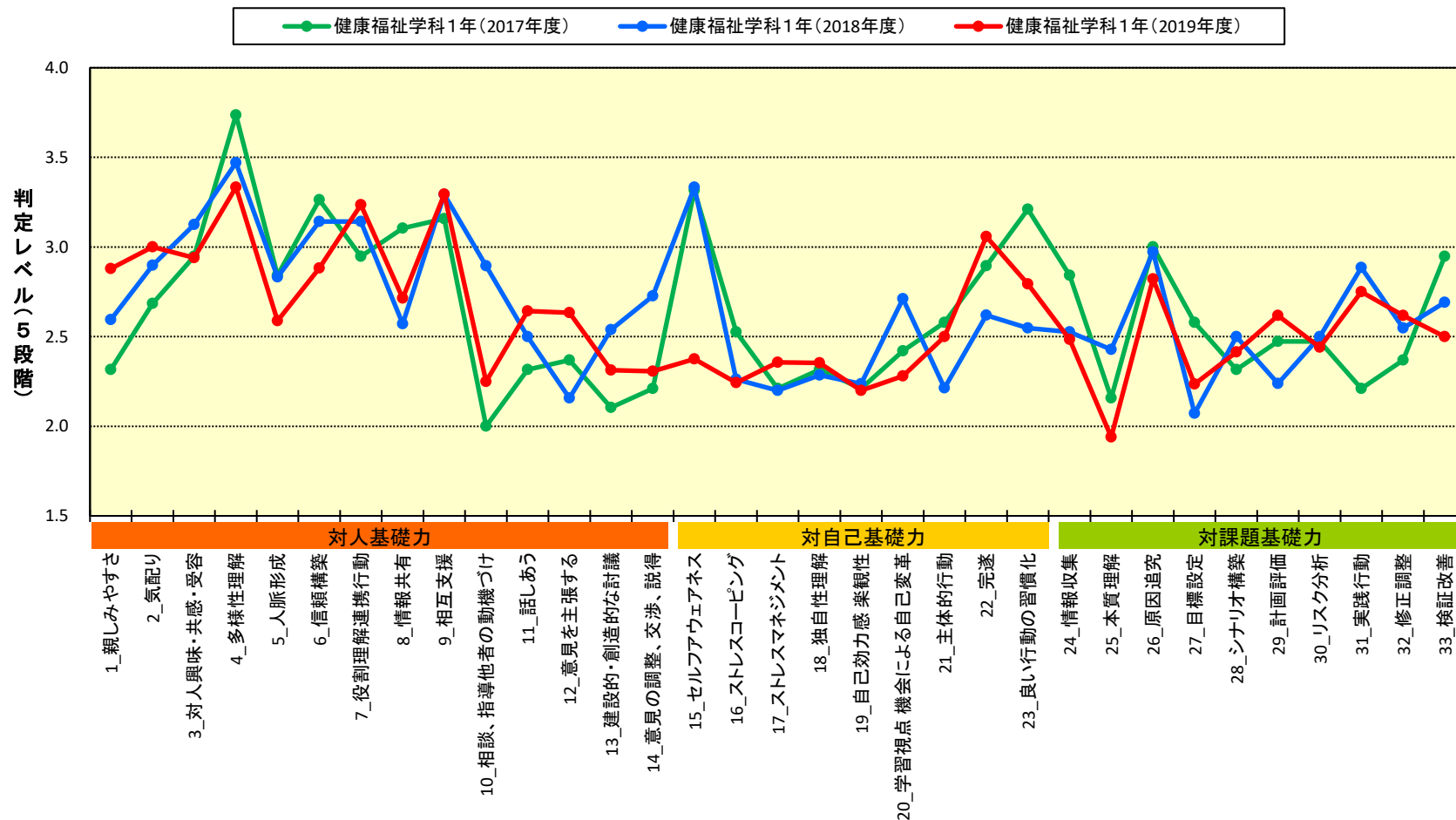


コンピテンシー小分類要素

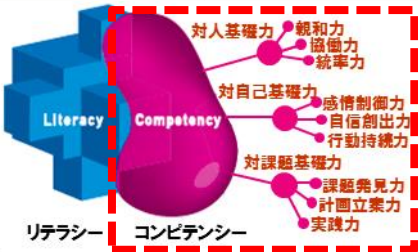




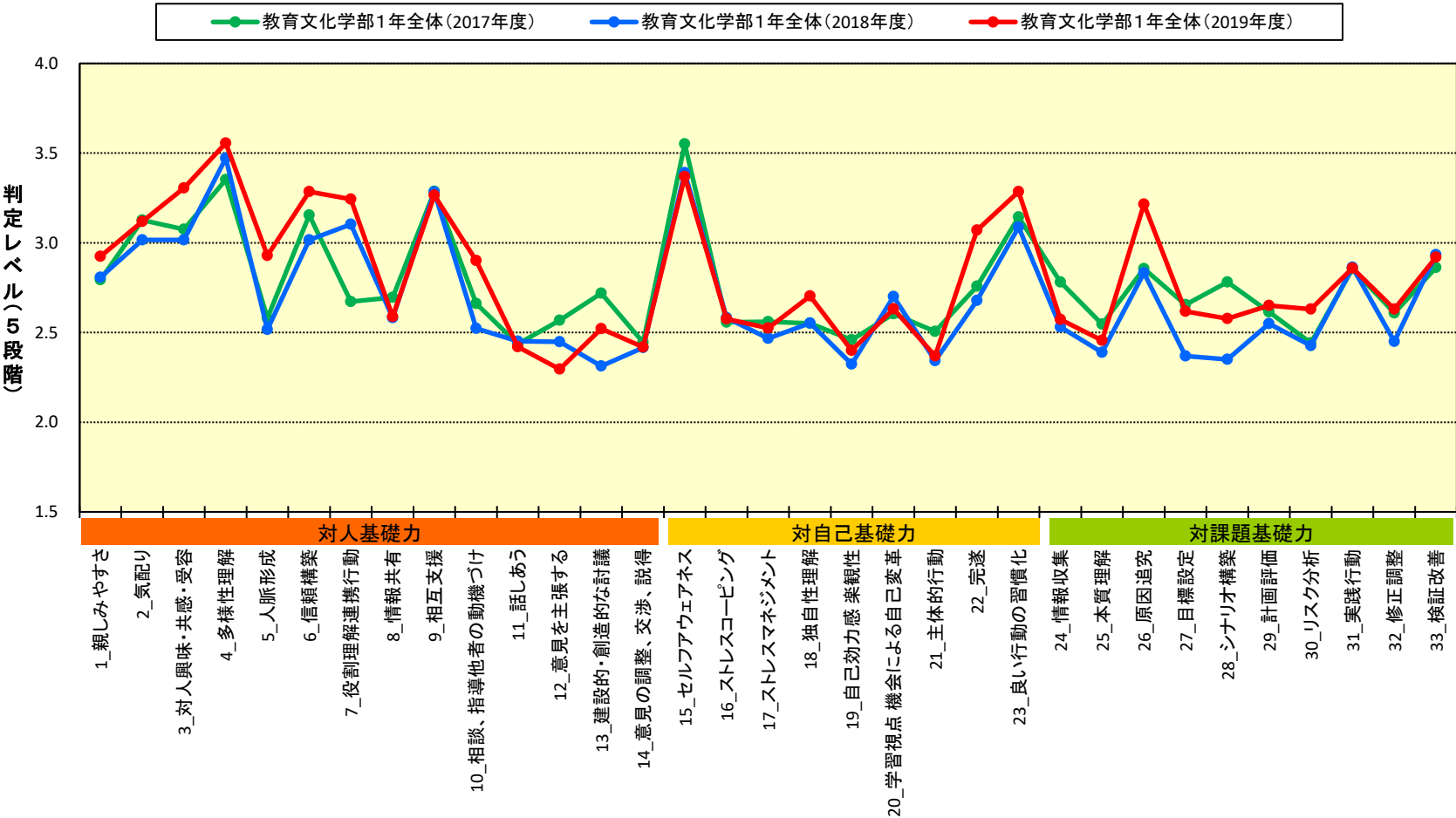
コンピテンシー小分類要素



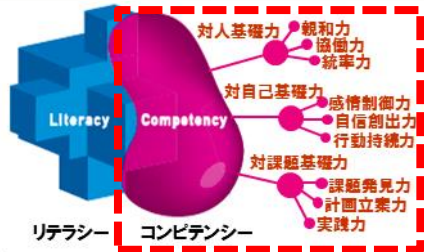
【教育文化学部1年全体】



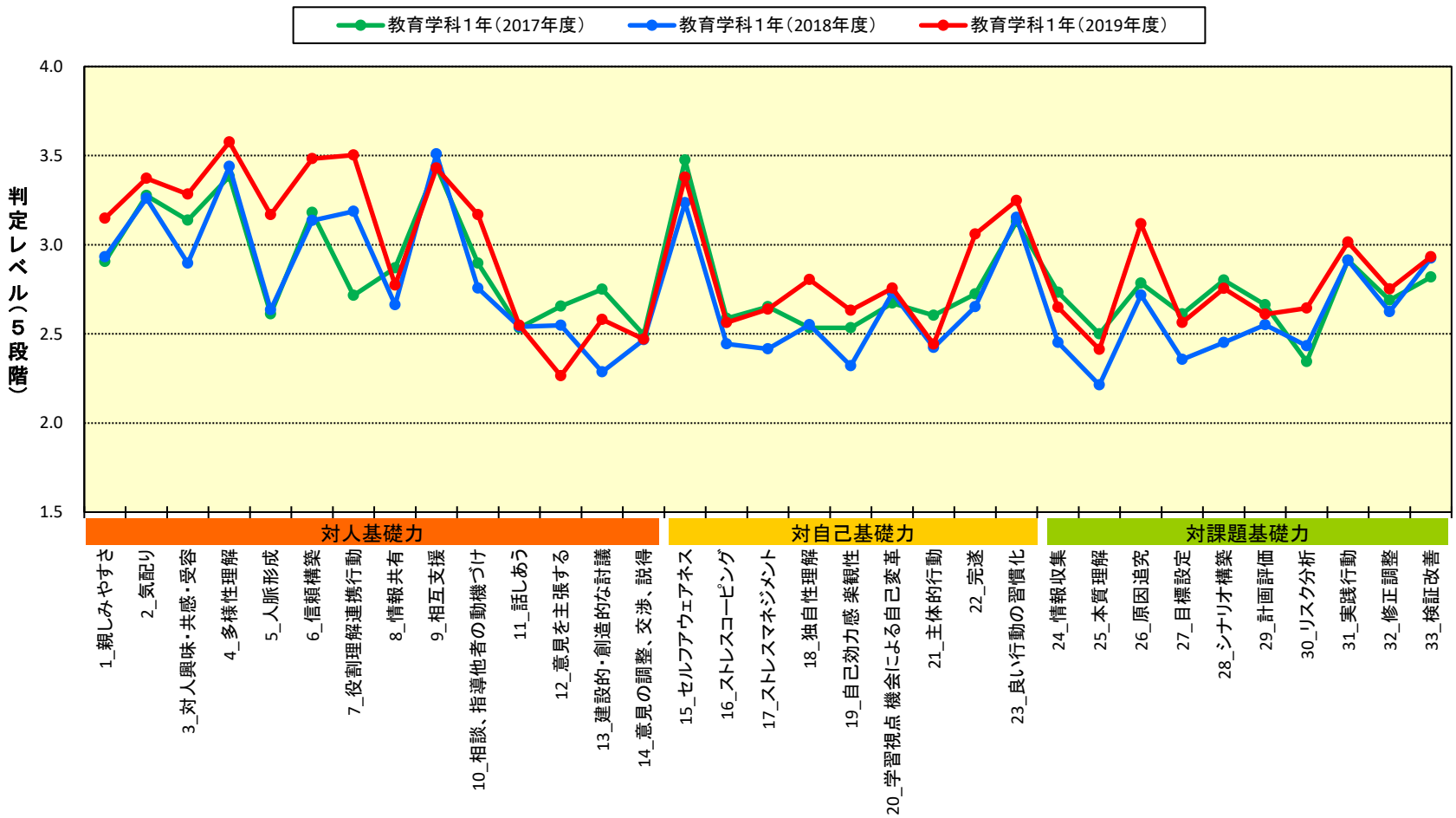
コンピテンシー小分類要素



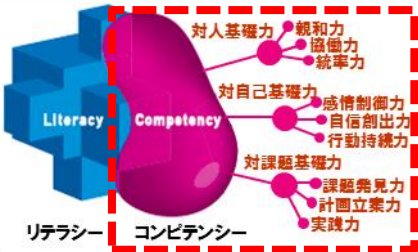
【教育学科1年】



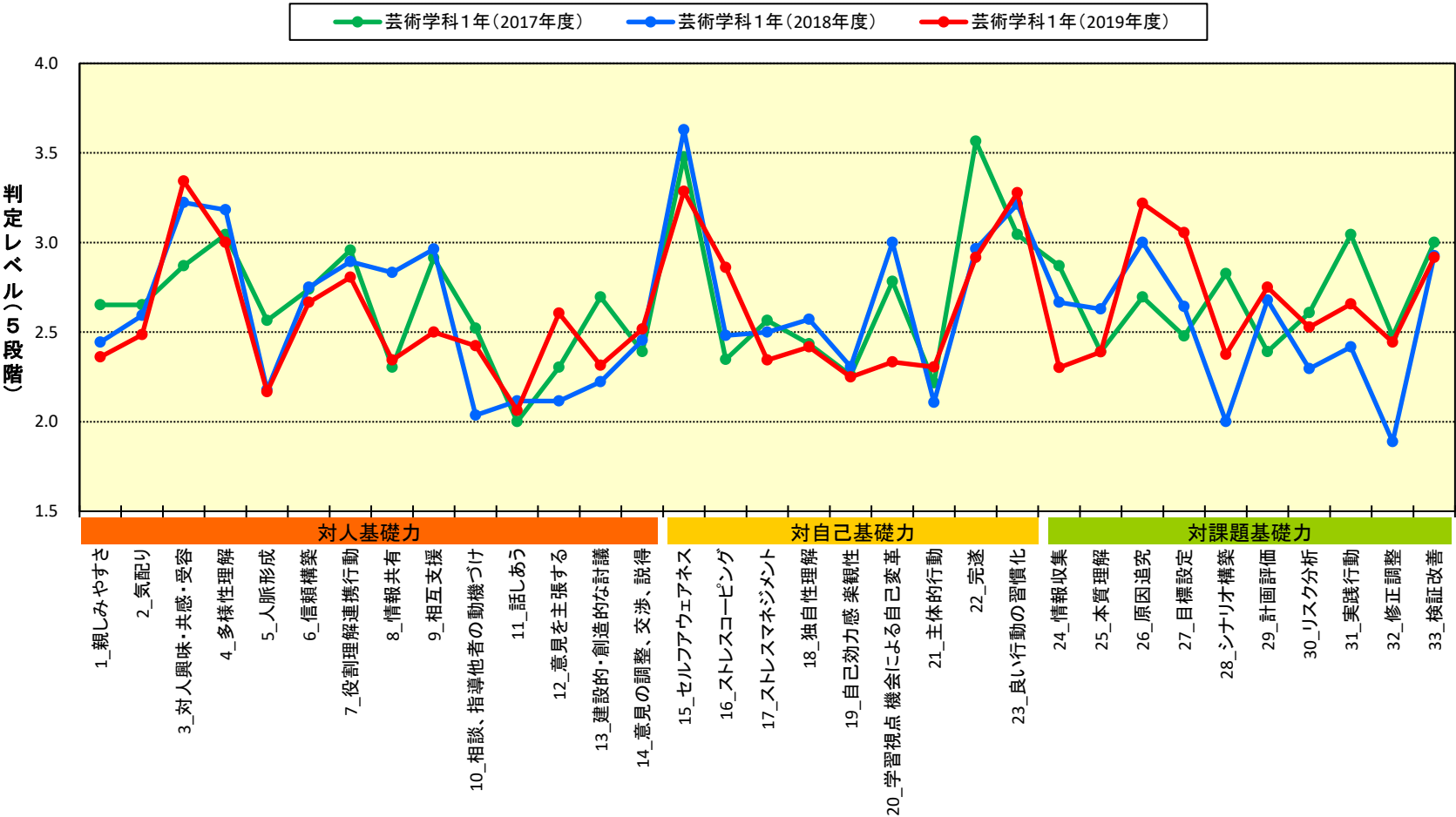
コンピテンシー小分類要素



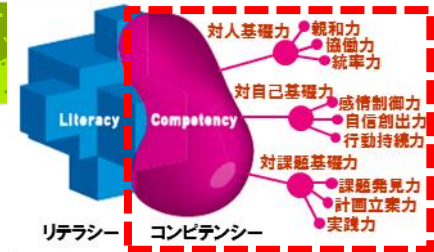
【芸術学科1年】



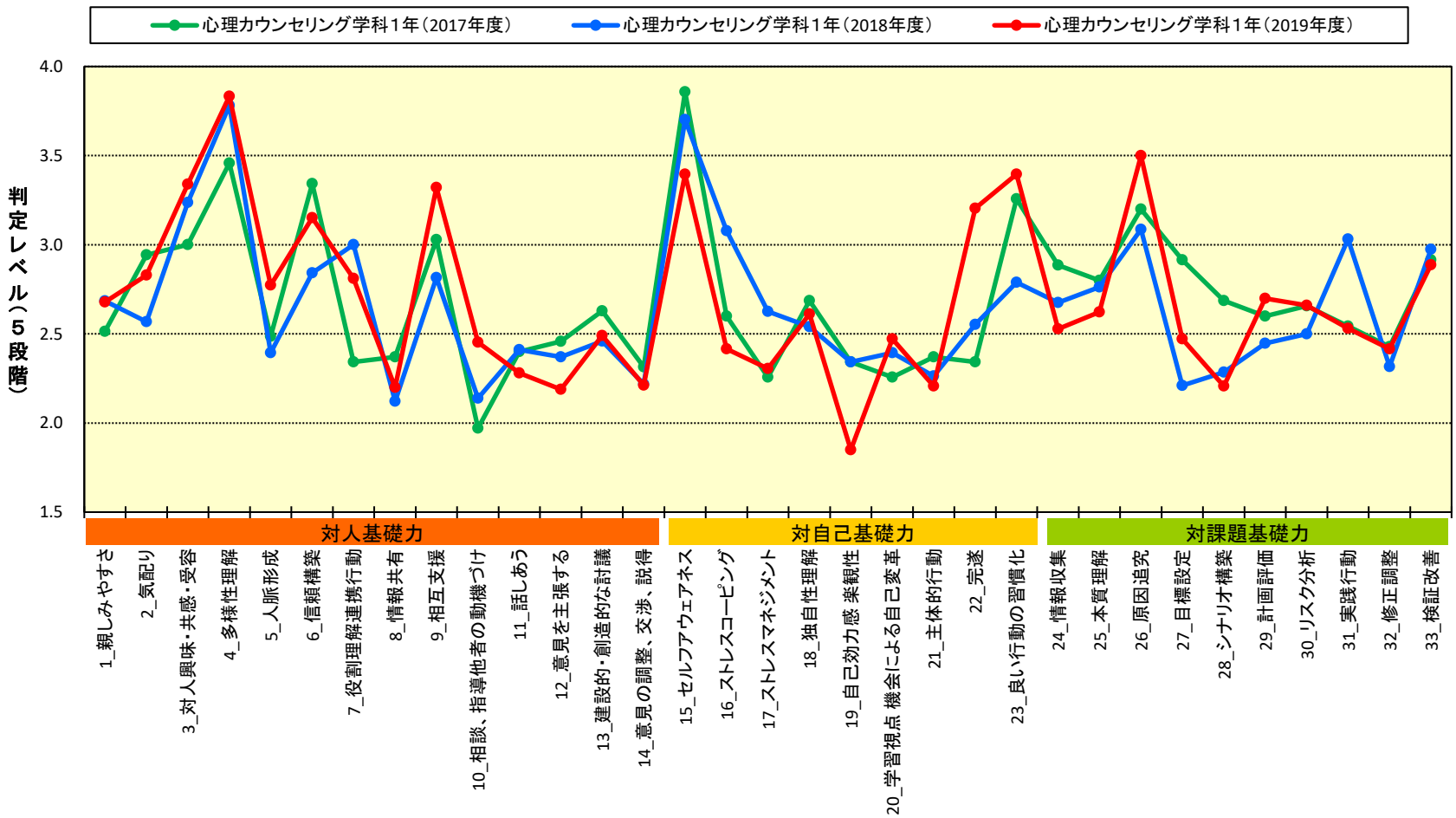
コンピテンシー小分類要素

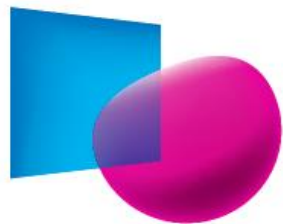


【心理カウンセリング学科1年】



コンピテンシー小分類要素





PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.5

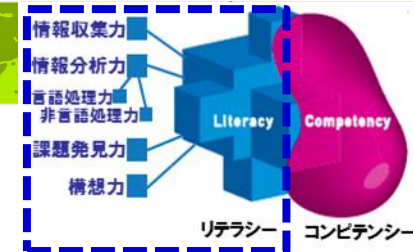
3年生

過去の3年生との比較

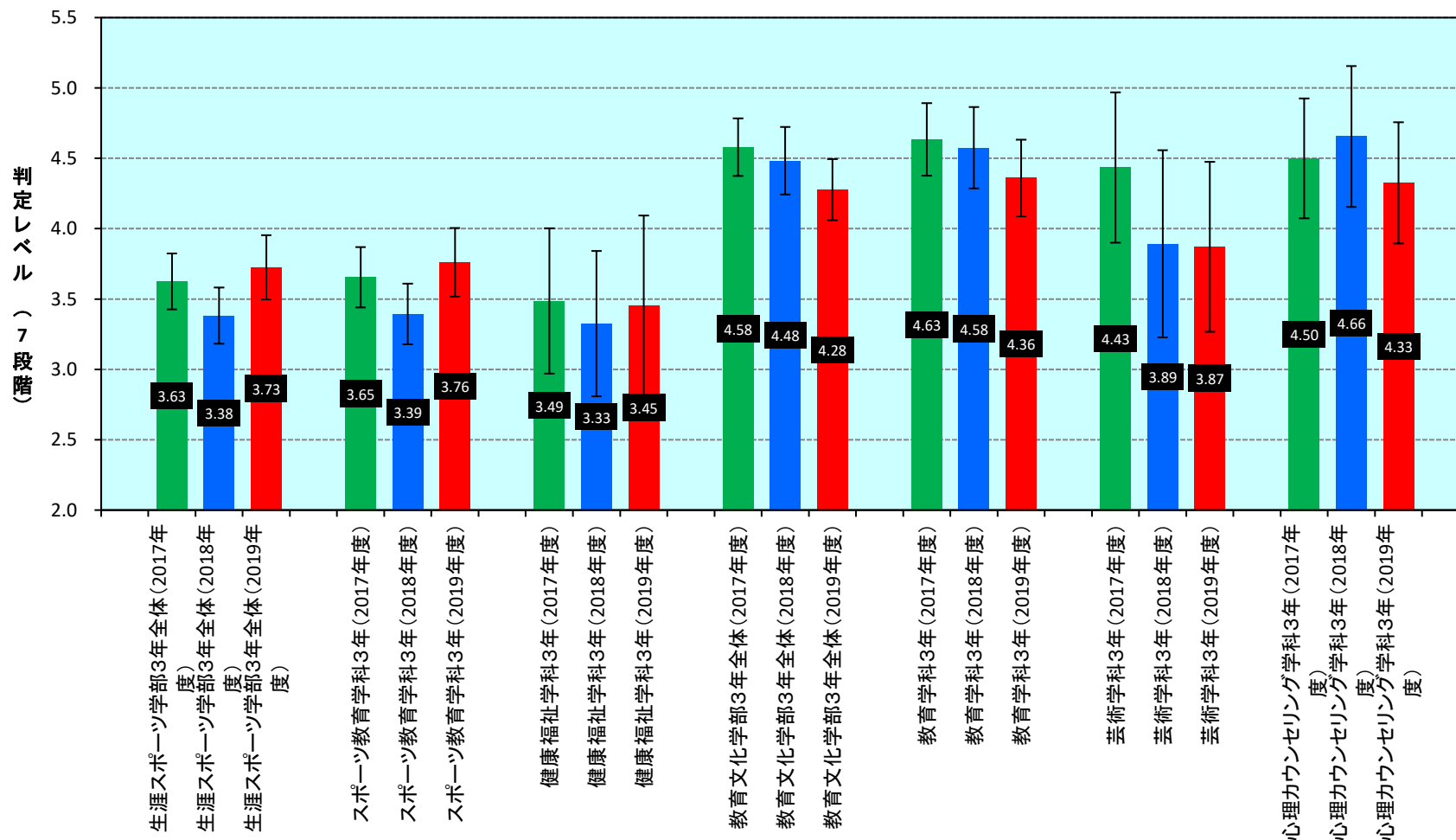
受験者プロフィール

学部	学科	前回(1年次) 2017年12月受験	今回 2019年11月 ～2020年1月受験	集計対象者 (前回・今回 いずれも受験)
生涯スポーツ学部	スポーツ教育学科 3年	182	171	166
	健康福祉学科 3年	24	22	21
		206	193	187
教育文化学部	教育学科 3年	128	125	117
	芸術学科 3年	32	31	29
	心理カウンセリング学科 3年	45	46	44
		205	202	190
合計		411	395	377

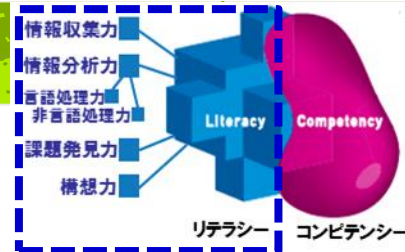
リテラシー総合（過去の受験者との比較）



リテラシー総合

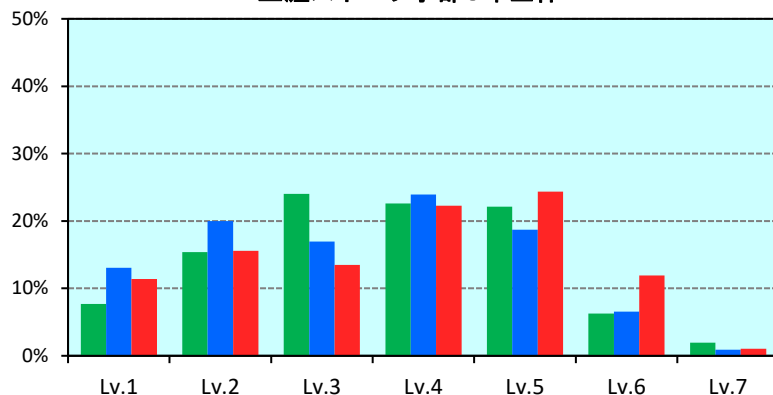


リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ①

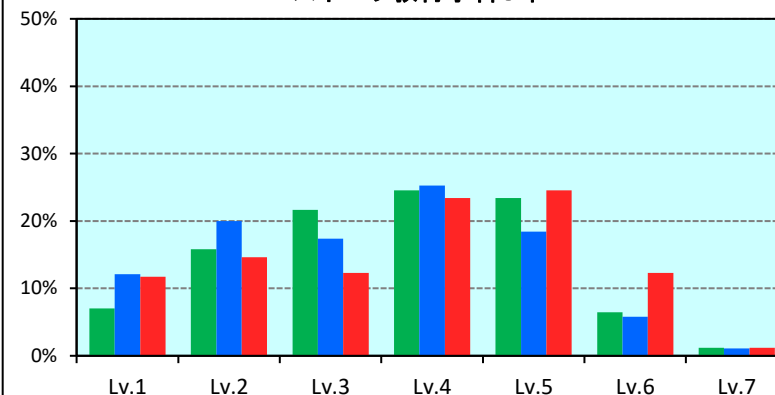


■2017年度 ■2018年度 ■2019年度

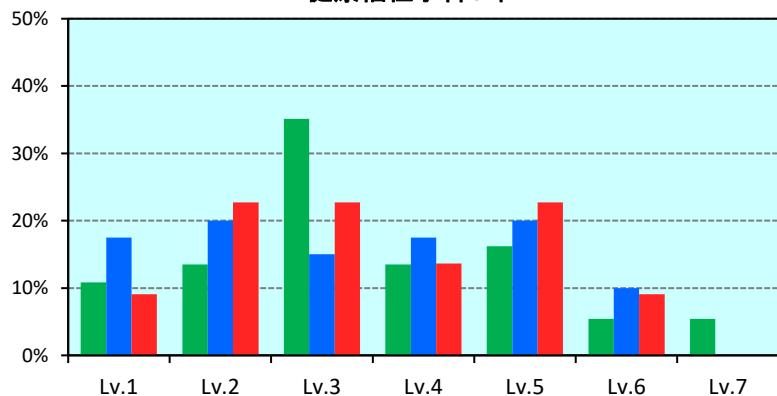
生涯スポーツ学部3年全体



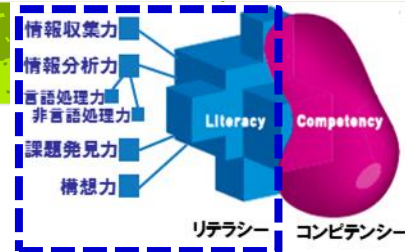
スポーツ教育学科3年



健康福祉学科3年

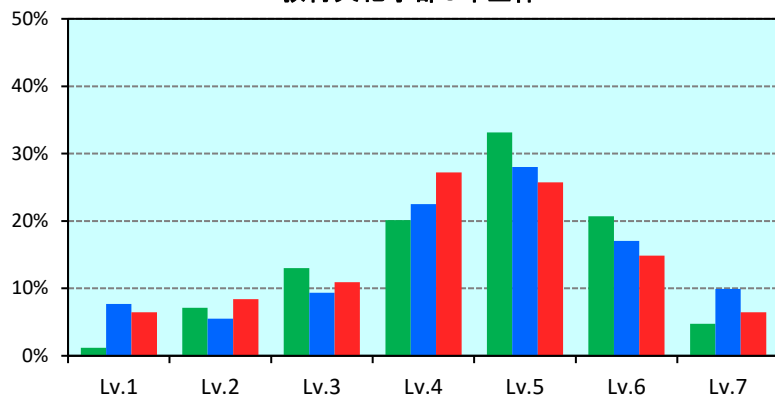


リテラシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較) ②

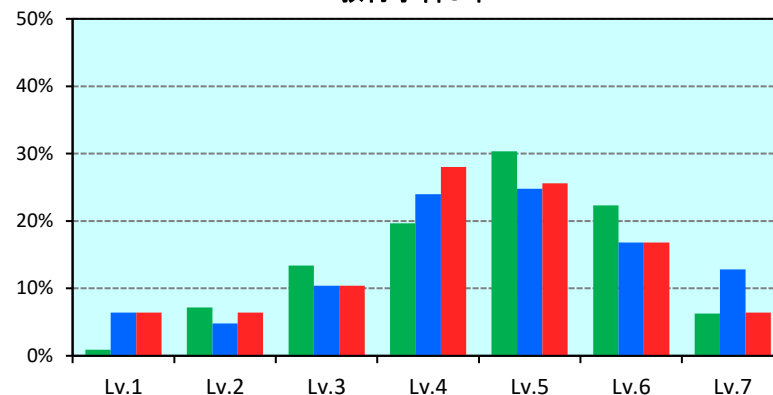


■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

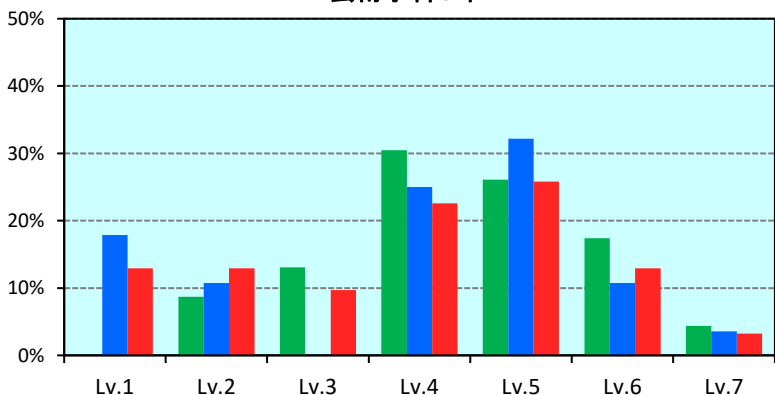
教育文化学部3年全体



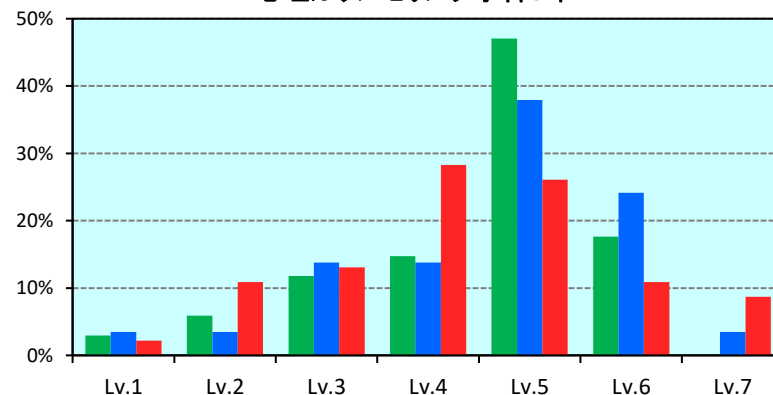
教育学部3年



芸術学部3年

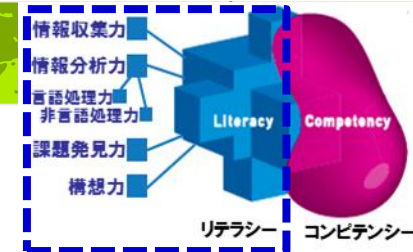


心理カウンセリング学部3年

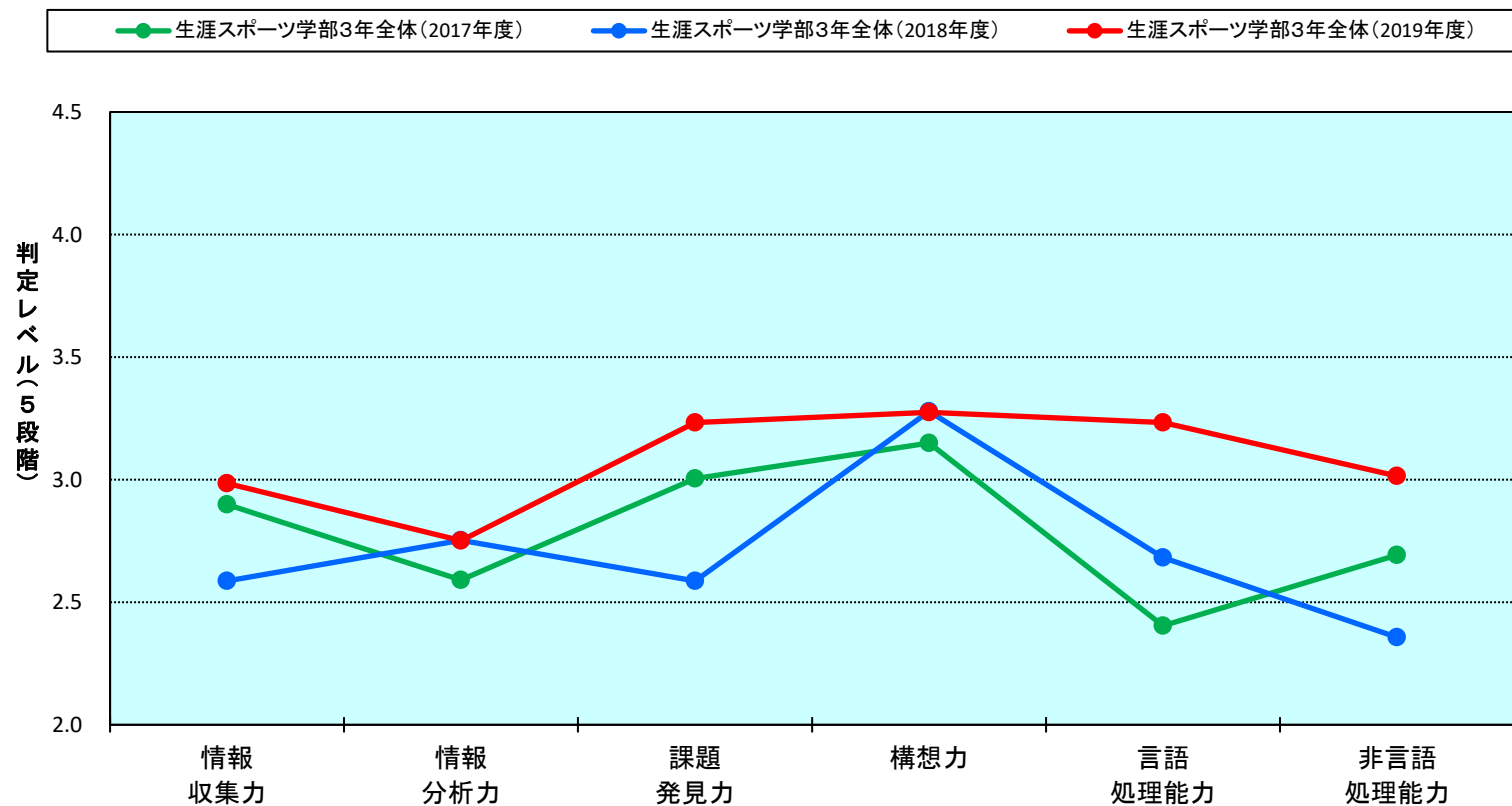


リテラシー要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部3年全体】

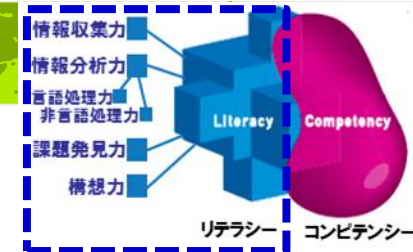


リテラシー要素

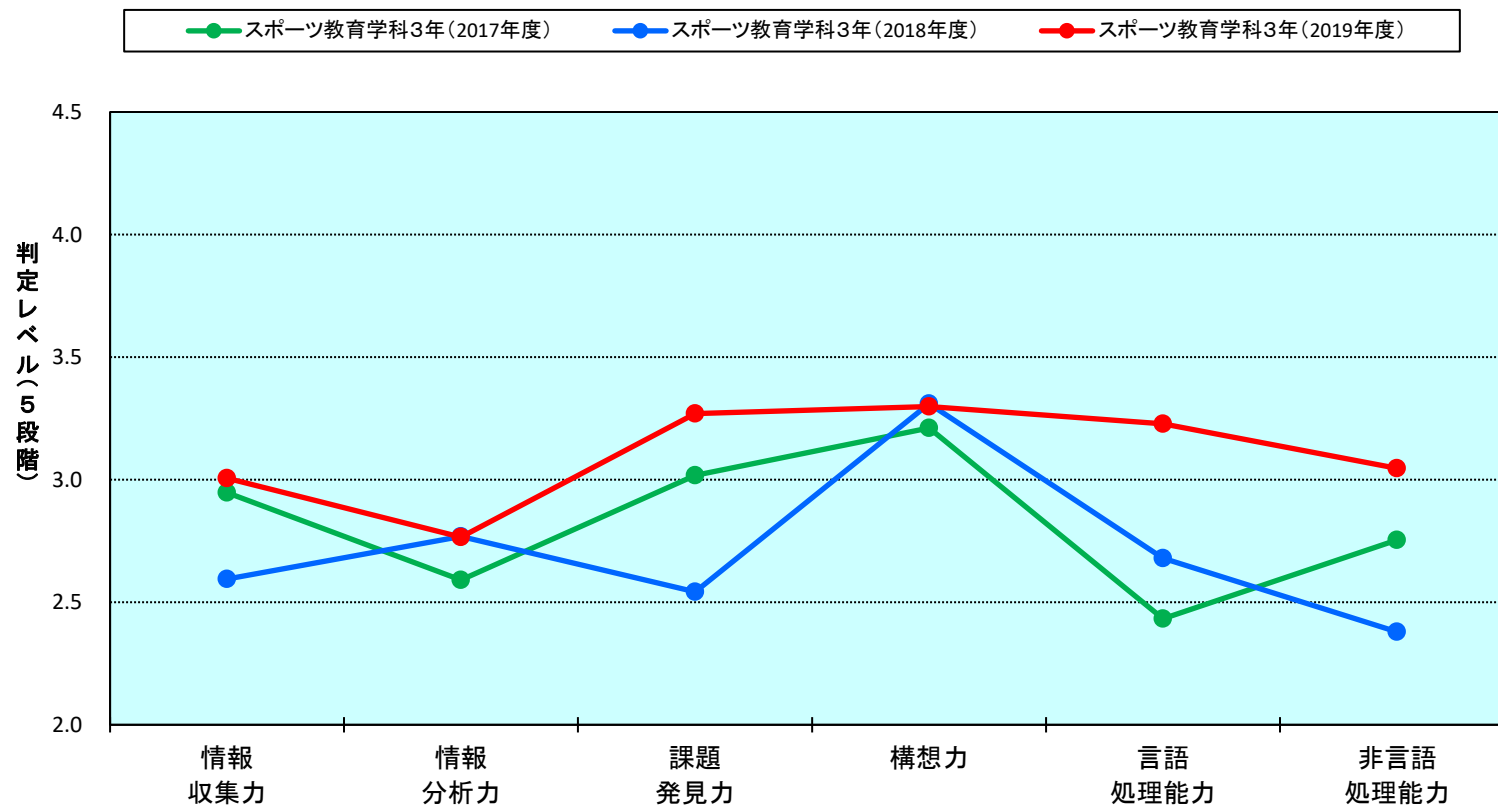


リテラシー要素（過去の受験者との比較）②

【スポーツ教育学科3年】

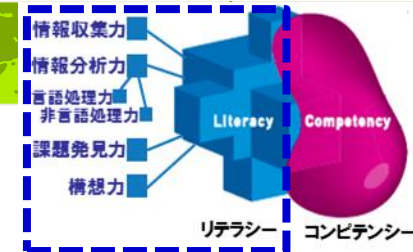


リテラシー要素

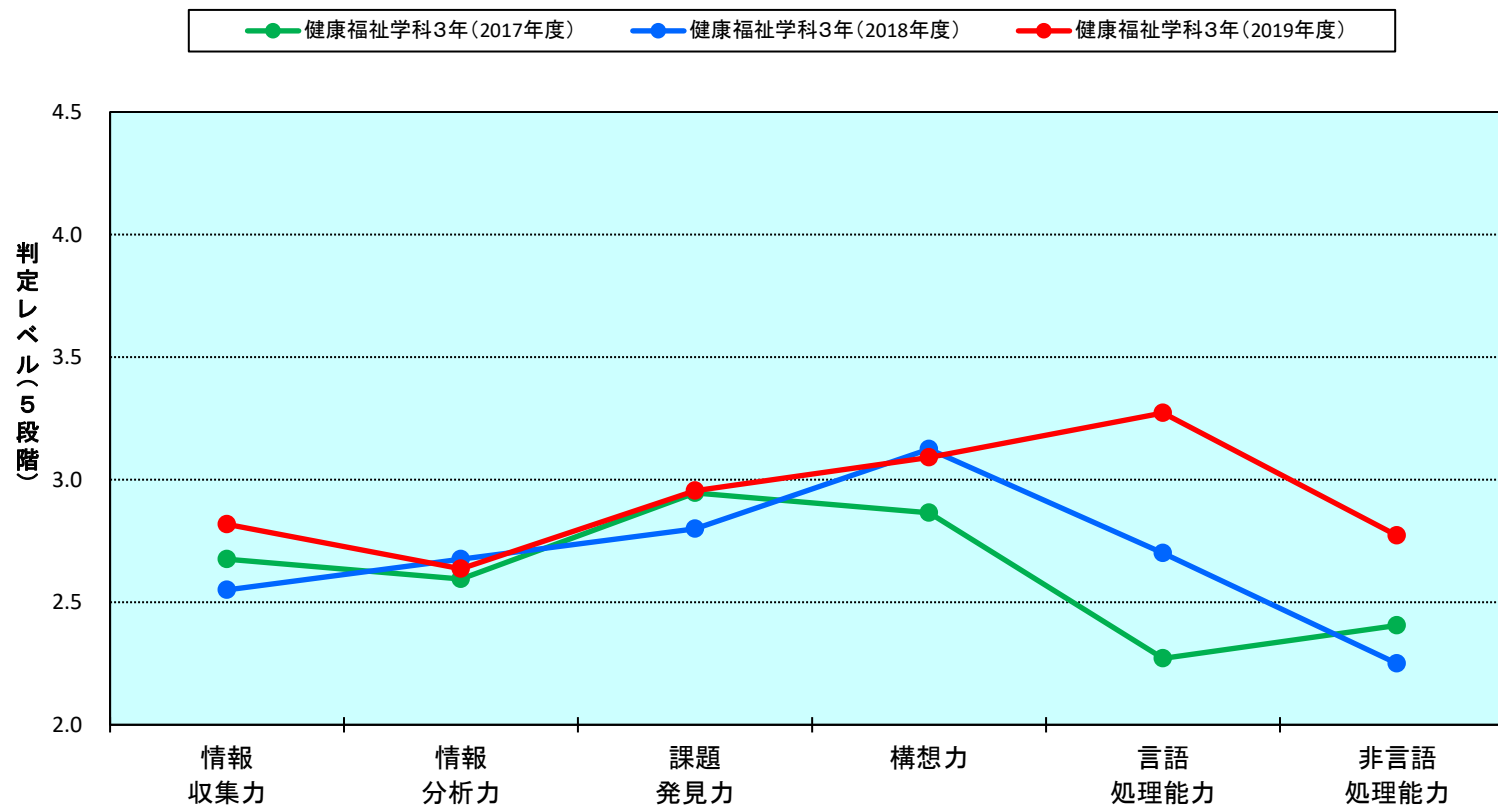


リテラシー要素（過去の受験者との比較）③

【健康福祉学科3年】

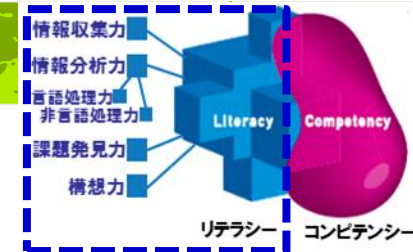


リテラシー要素

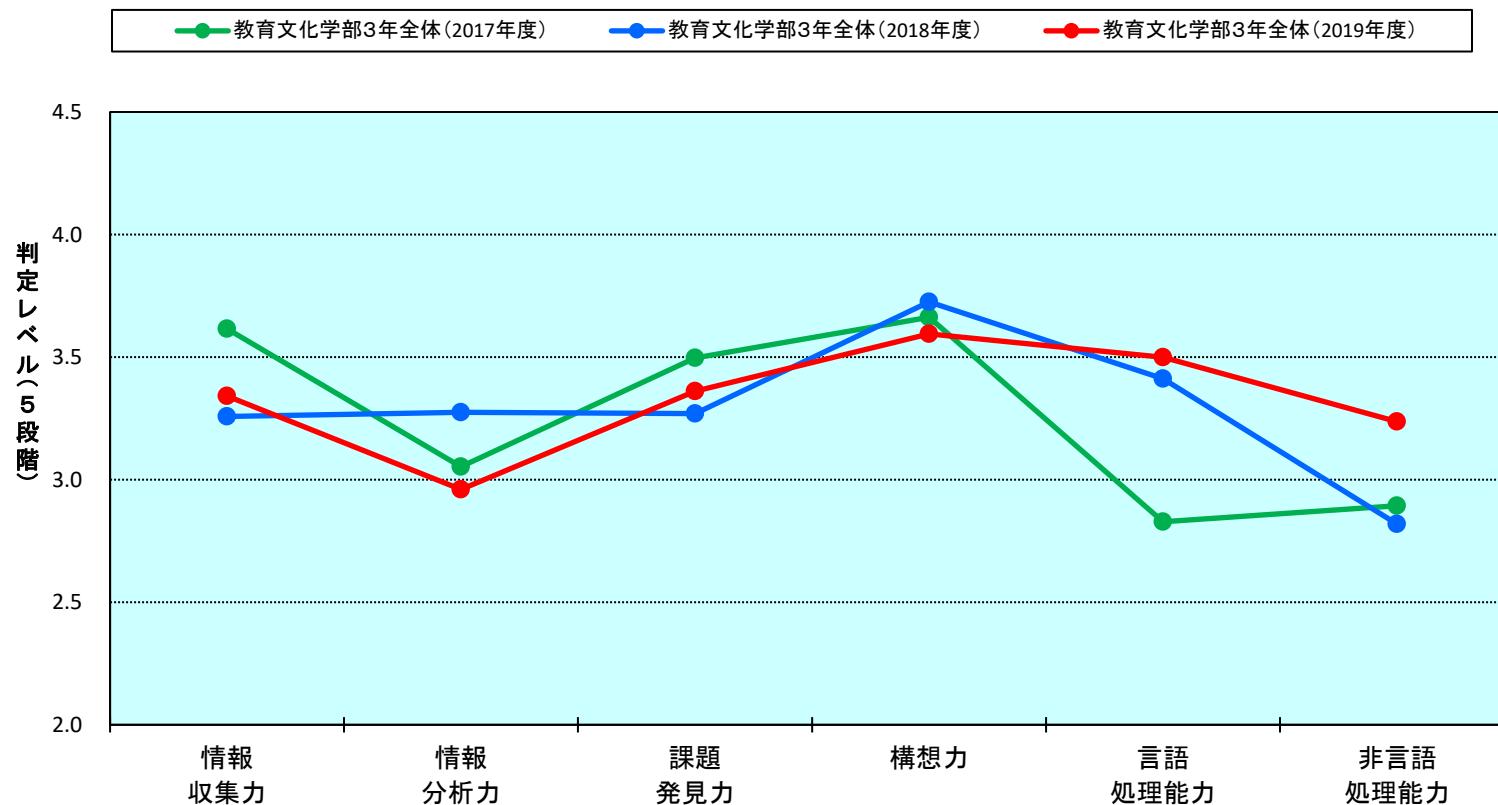


リテラシー要素（過去の受験者との比較）④

【教育文化学部3年全体】

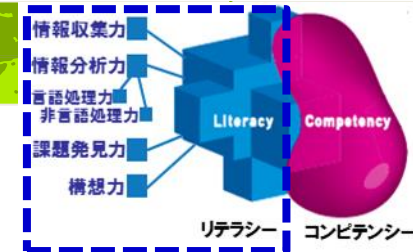


リテラシー要素

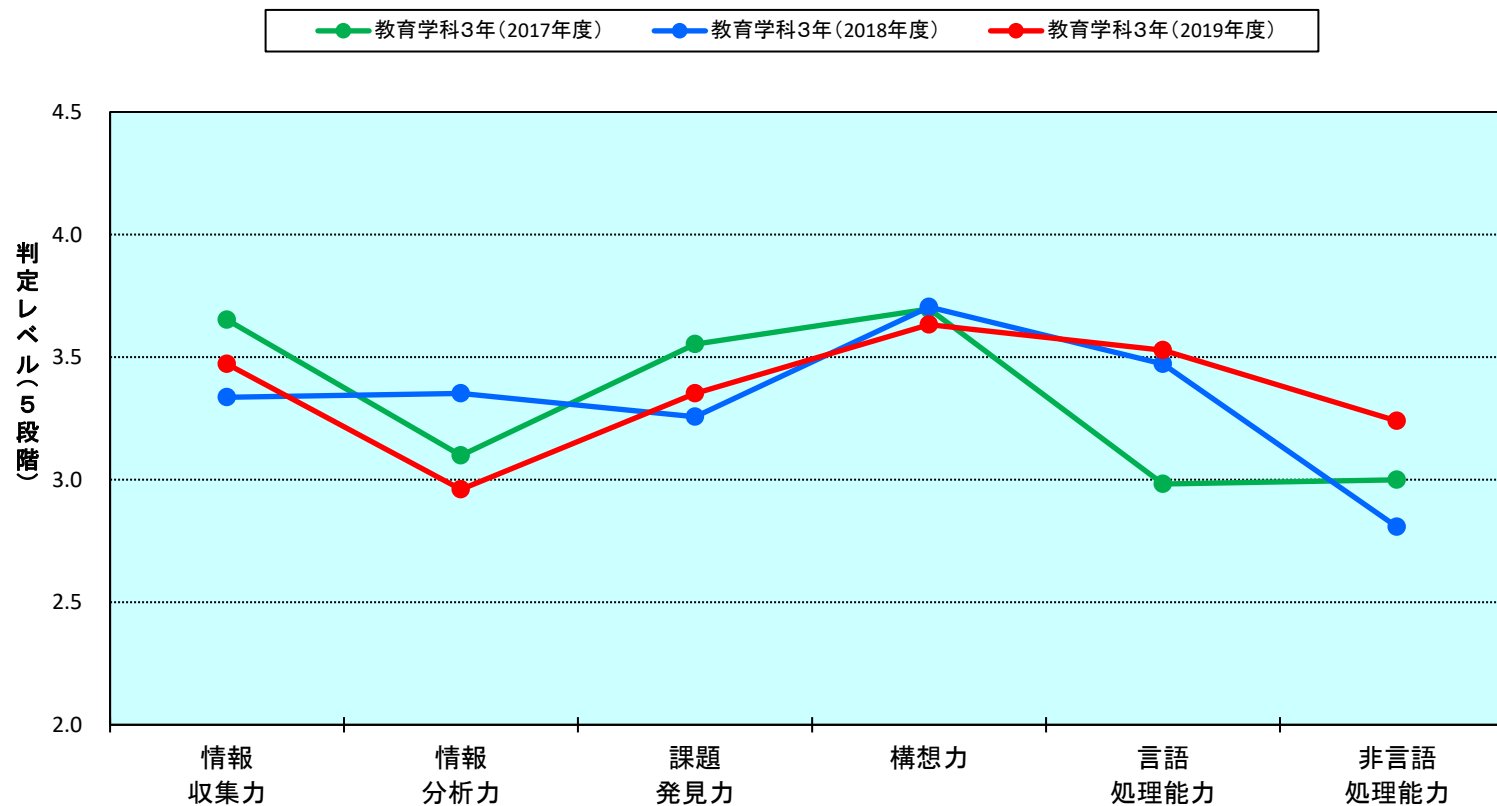


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑤

【教育学科3年】

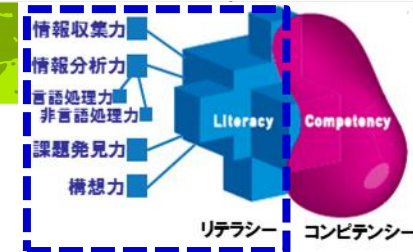


リテラシー要素

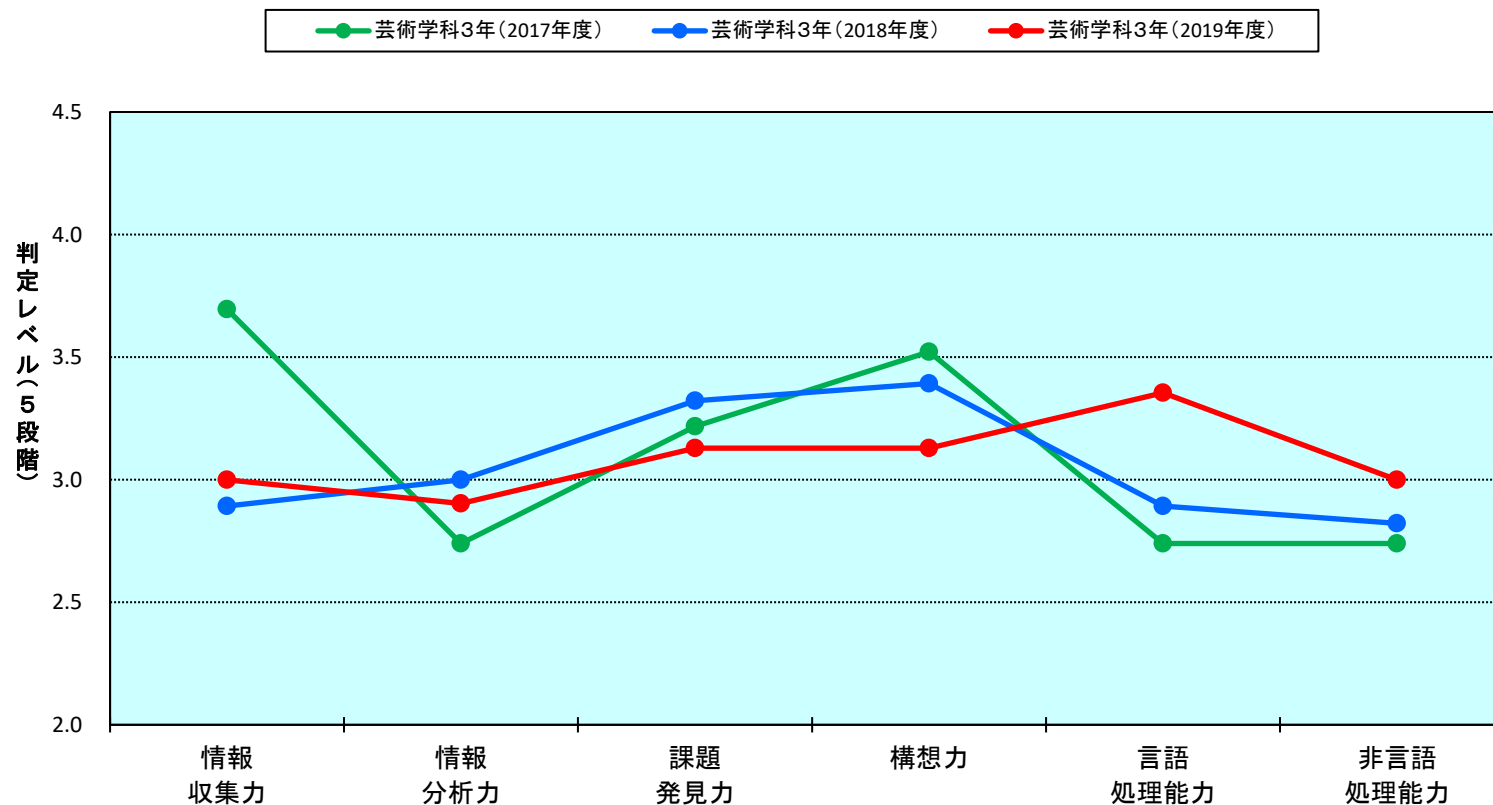


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑥

【芸術学科3年】

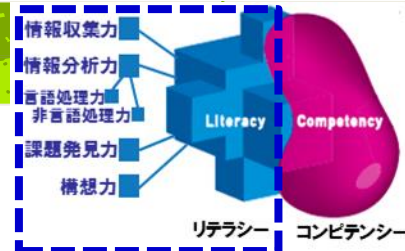


リテラシー要素

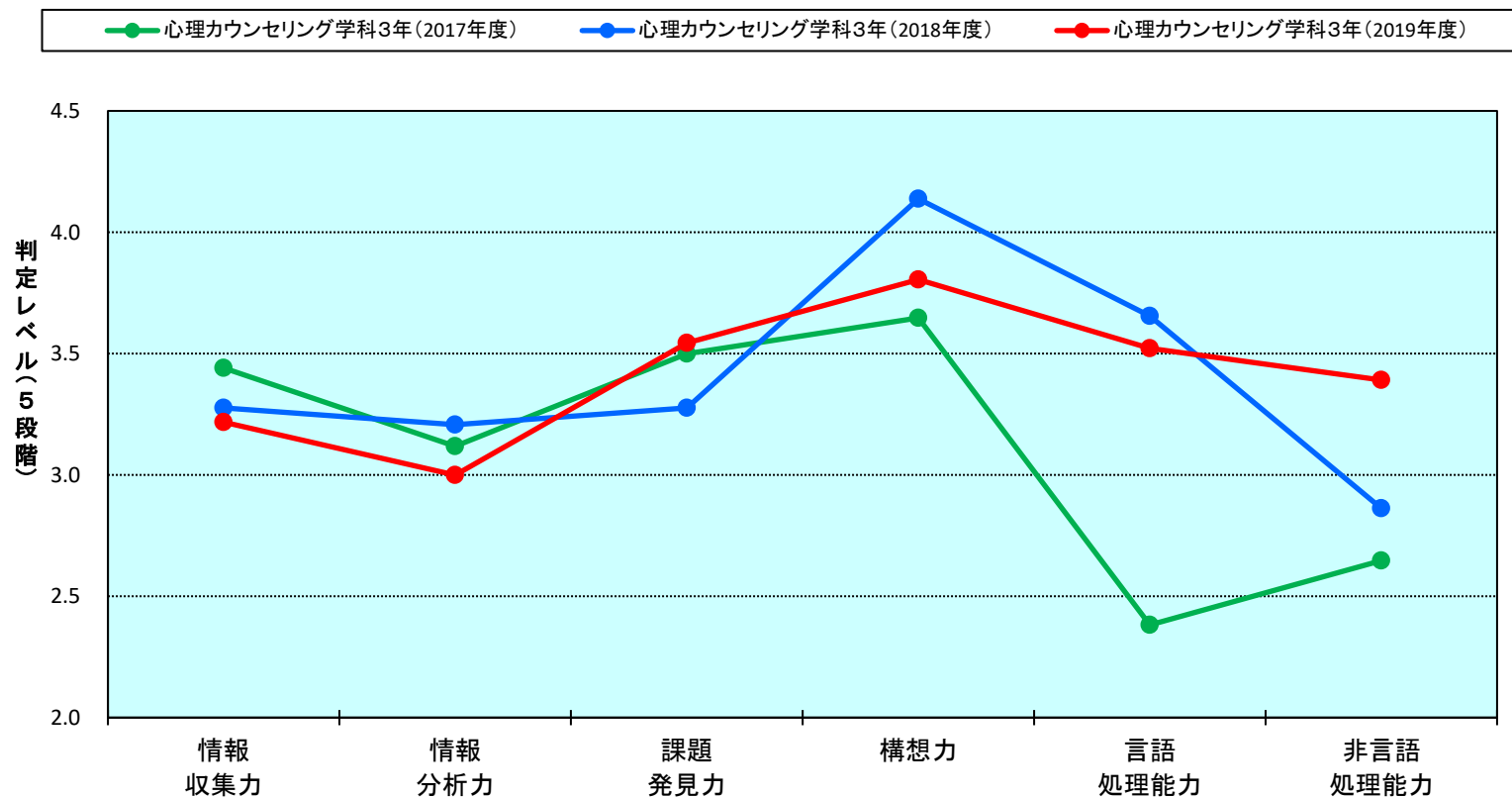


リテラシー要素（過去の受験者との比較）⑦

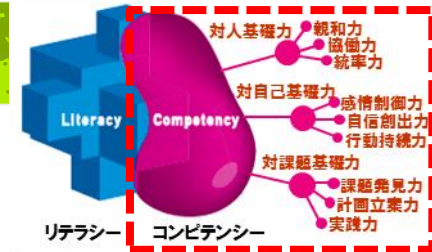
【心理カウンセリング学科3年】



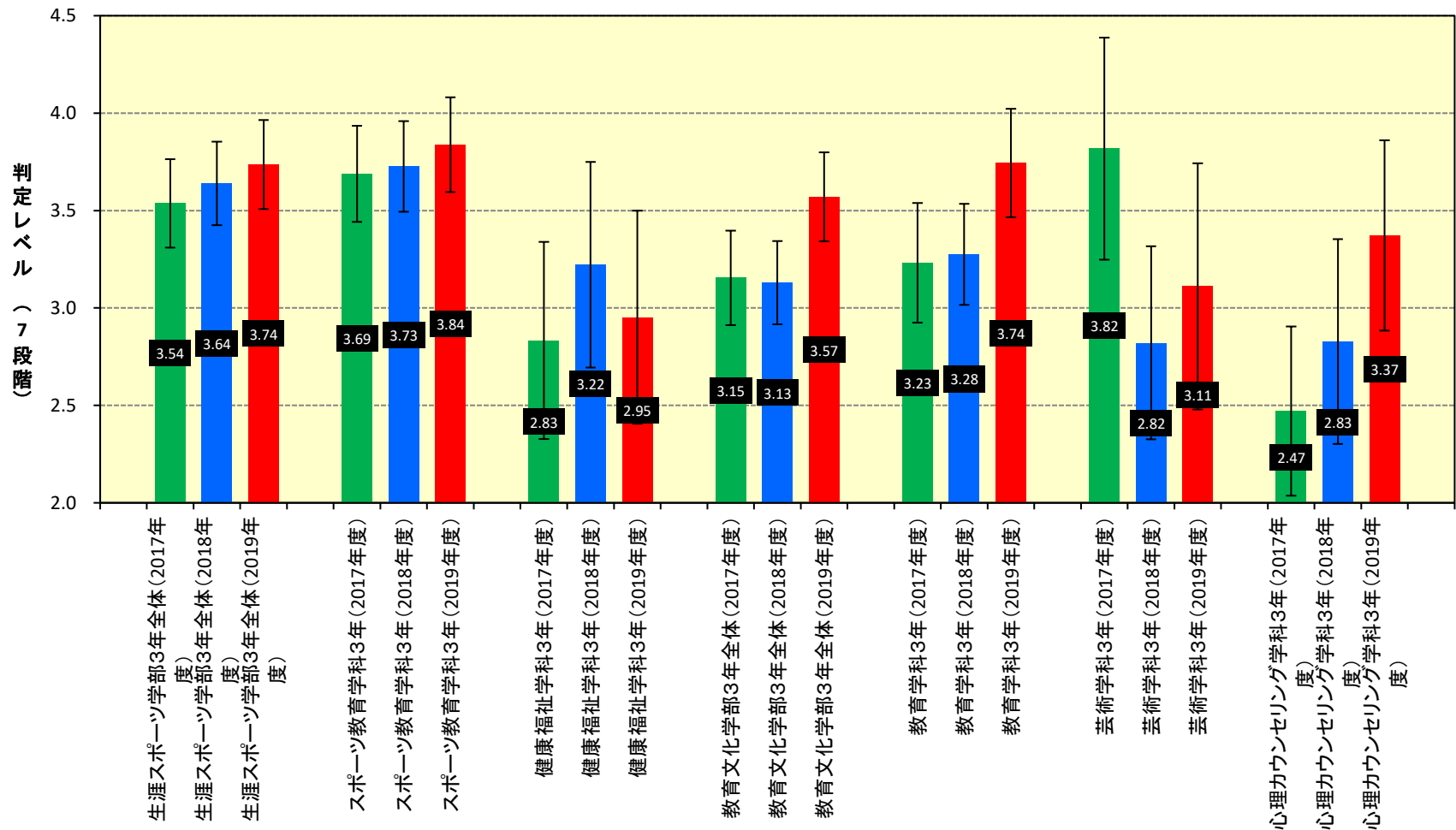
リテラシー要素



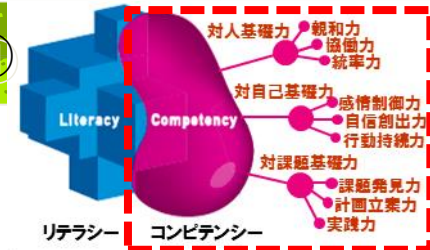
コンピテンシー総合（過去の受験者との比較）



コンピテンシー総合

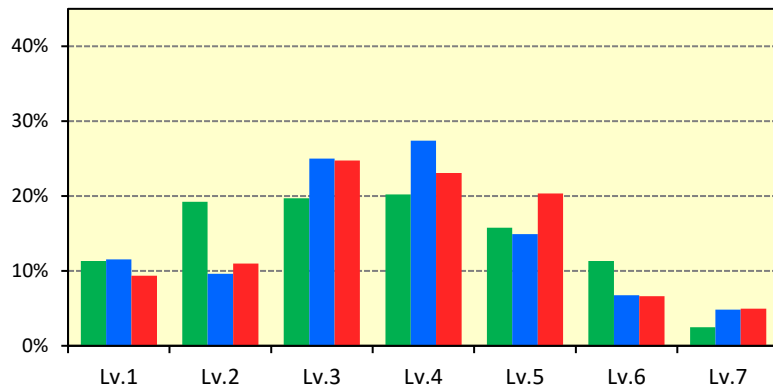


コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)①

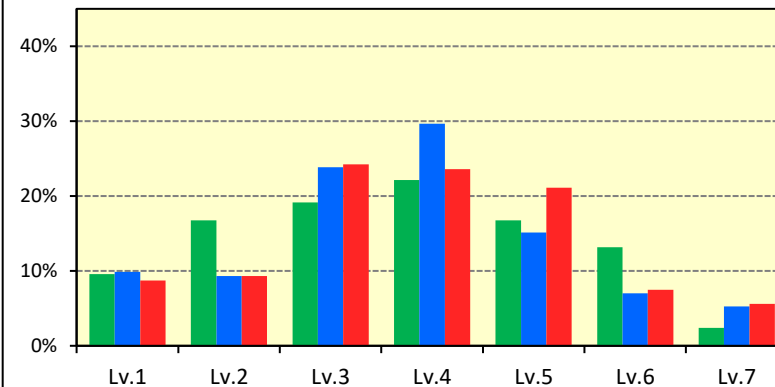


2017年度 2018年度 2019年度

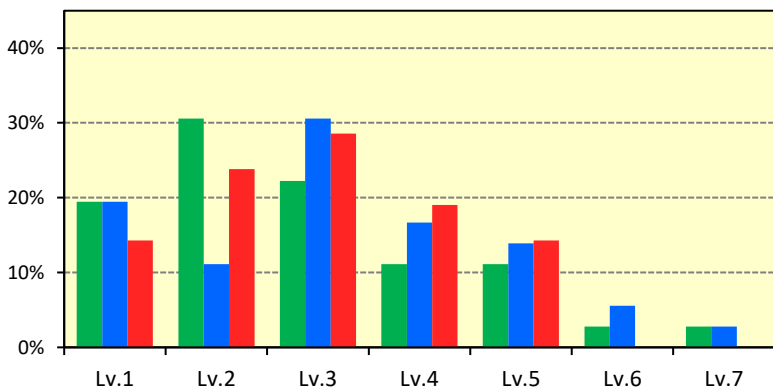
生涯スポーツ学部3年全体



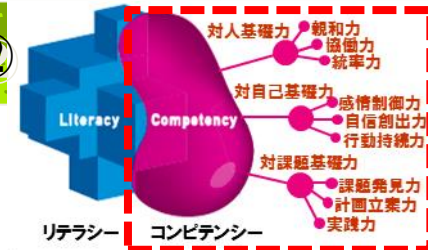
スポーツ教育学科3年



健康福祉学科3年

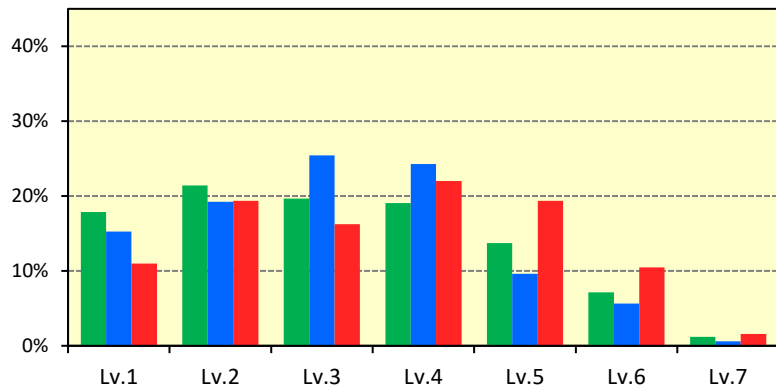


コンピテンシー総合 判定レベルの分布(過去の受験者との比較)②

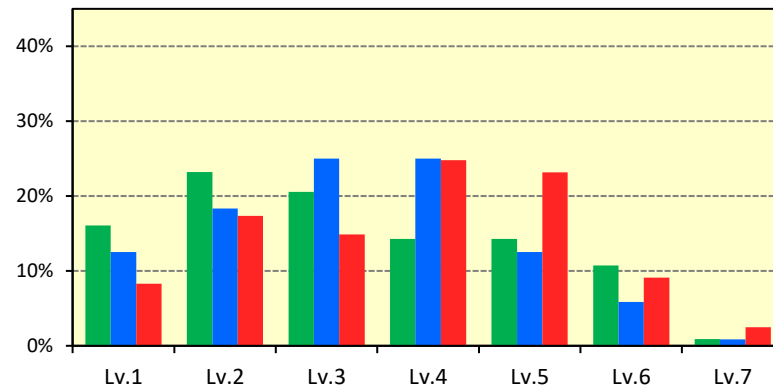


2017年度 2018年度 2019年度

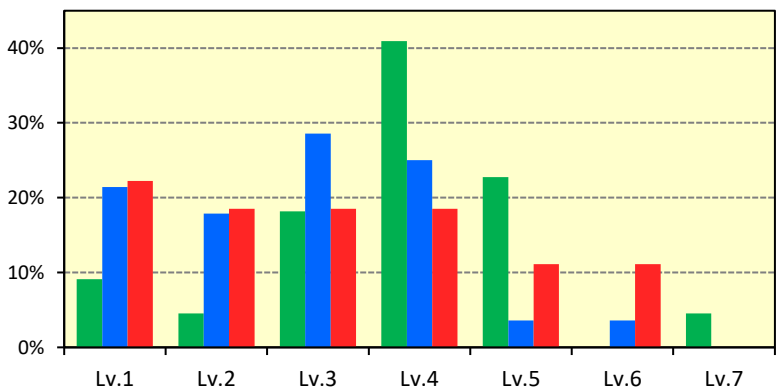
教育文化学部3年全体



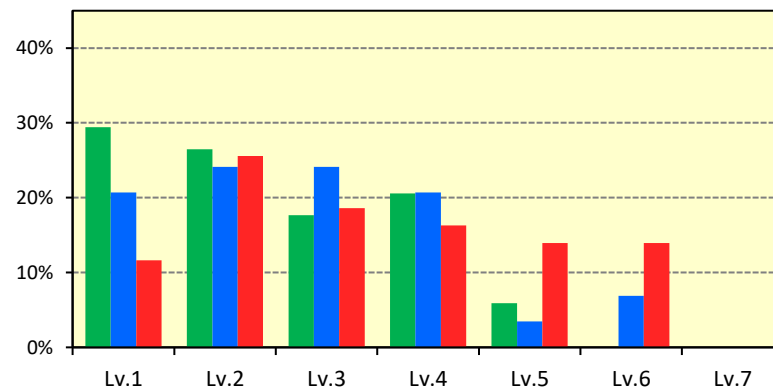
教育学部3年



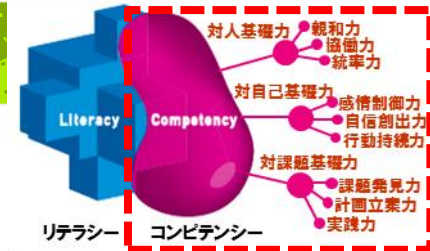
芸術学部3年



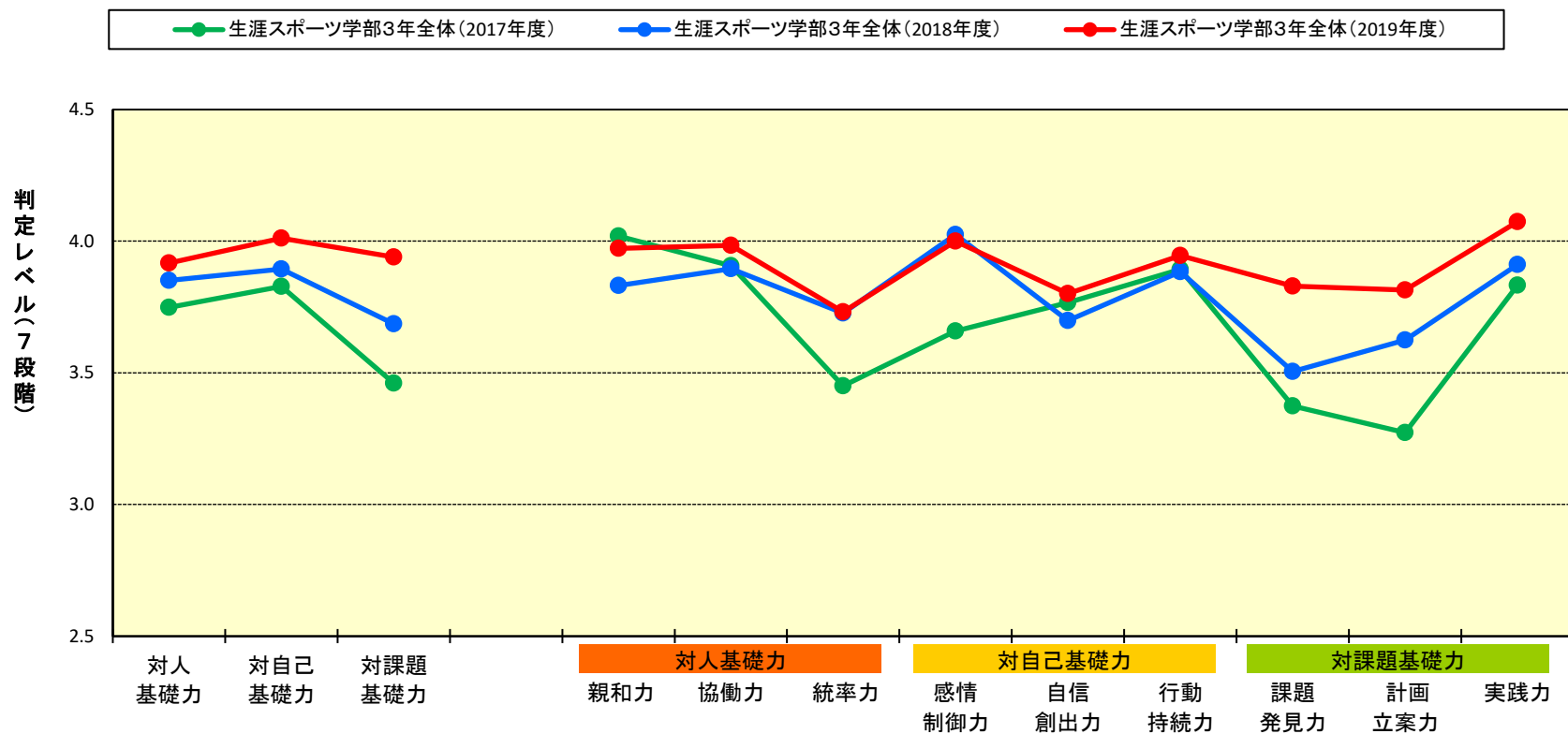
心理カウンセリング学部3年



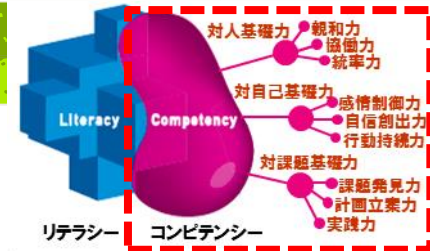
【生涯スポーツ学部3年全体】



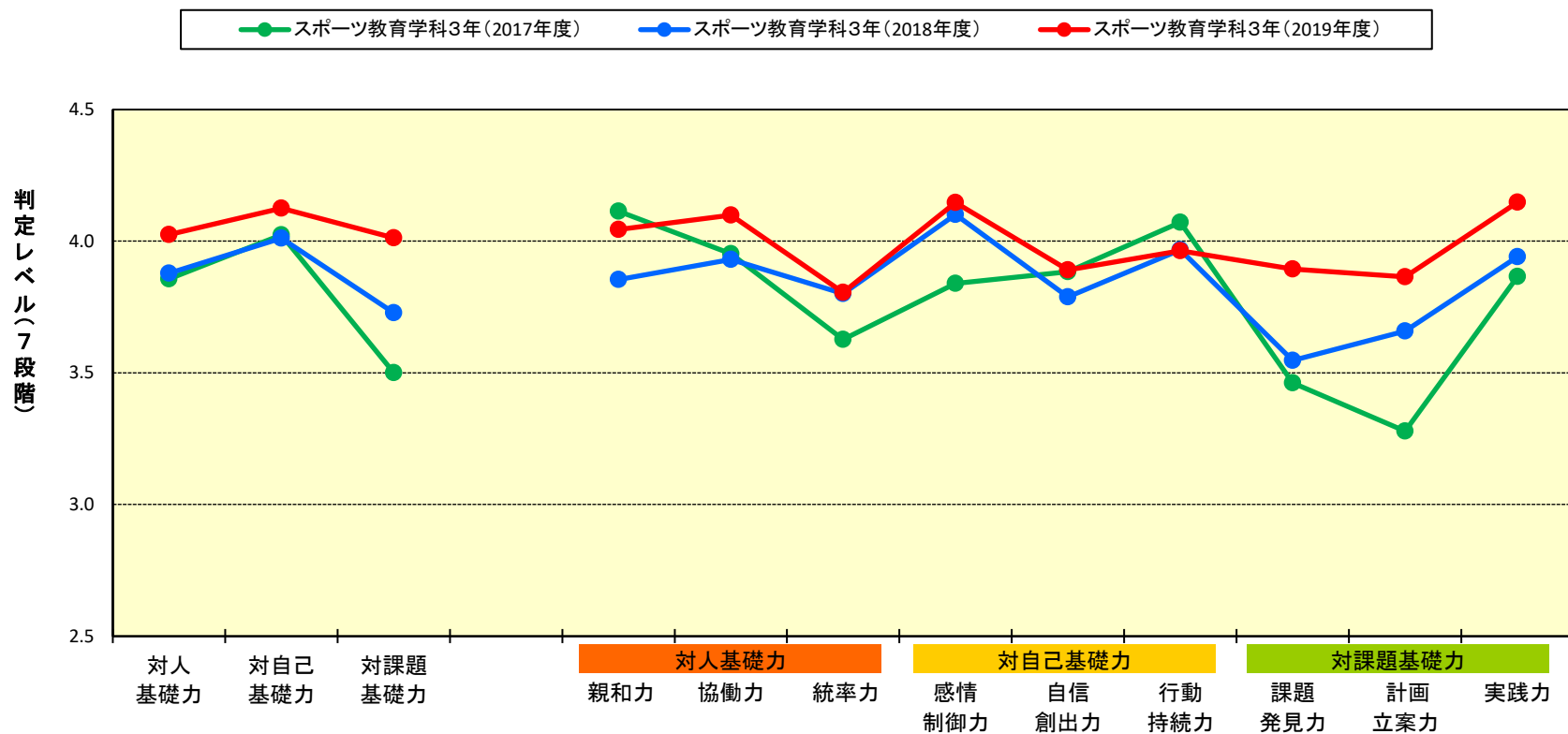
コンピテンシー要素の伸長

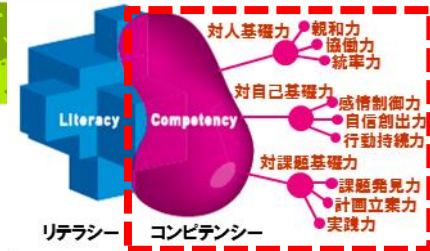


【スポーツ教育学科3年】

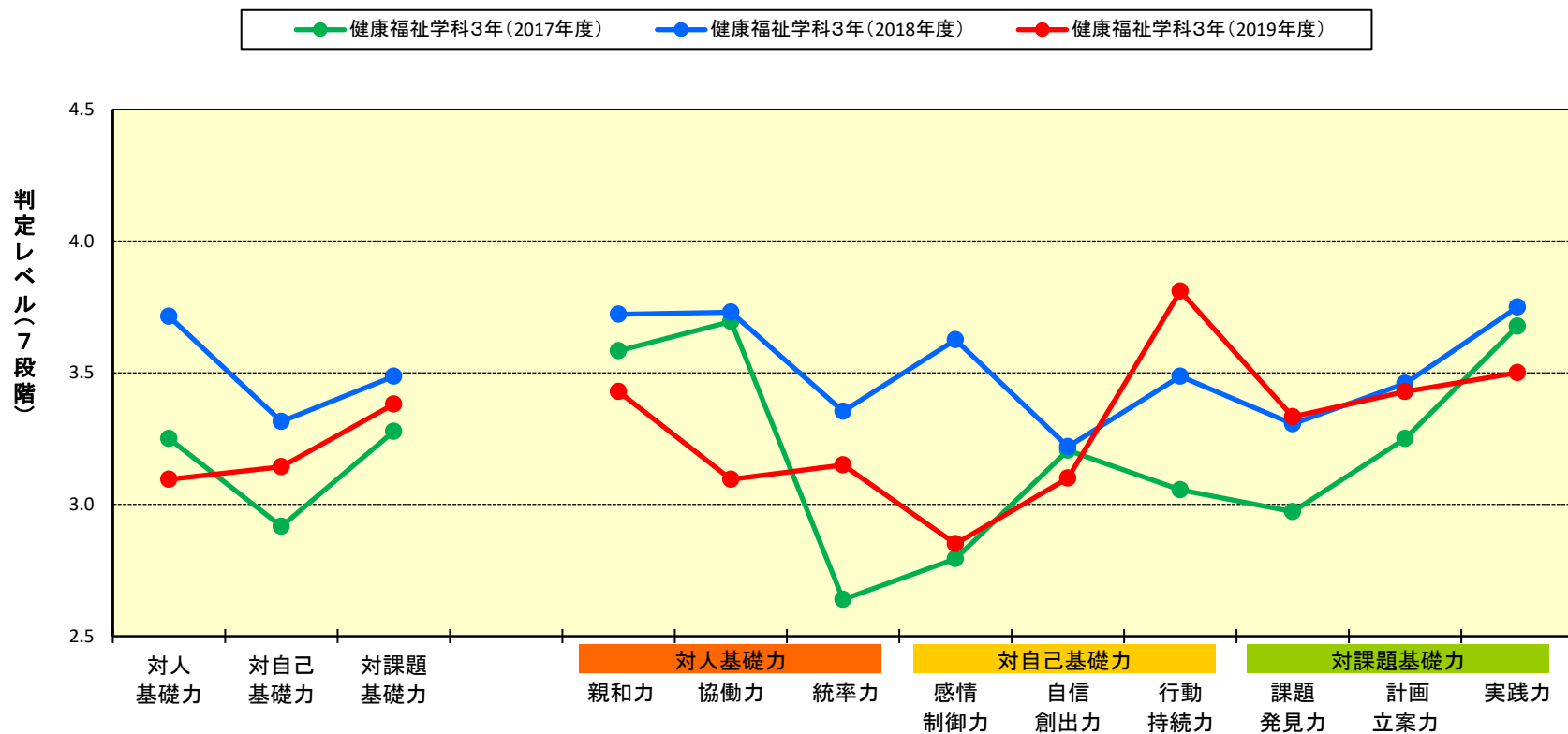


コンピテンシー要素の伸長

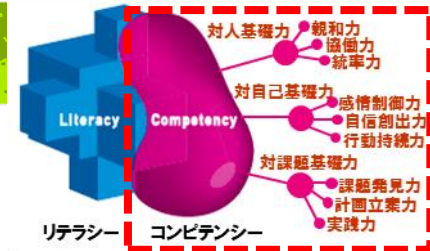




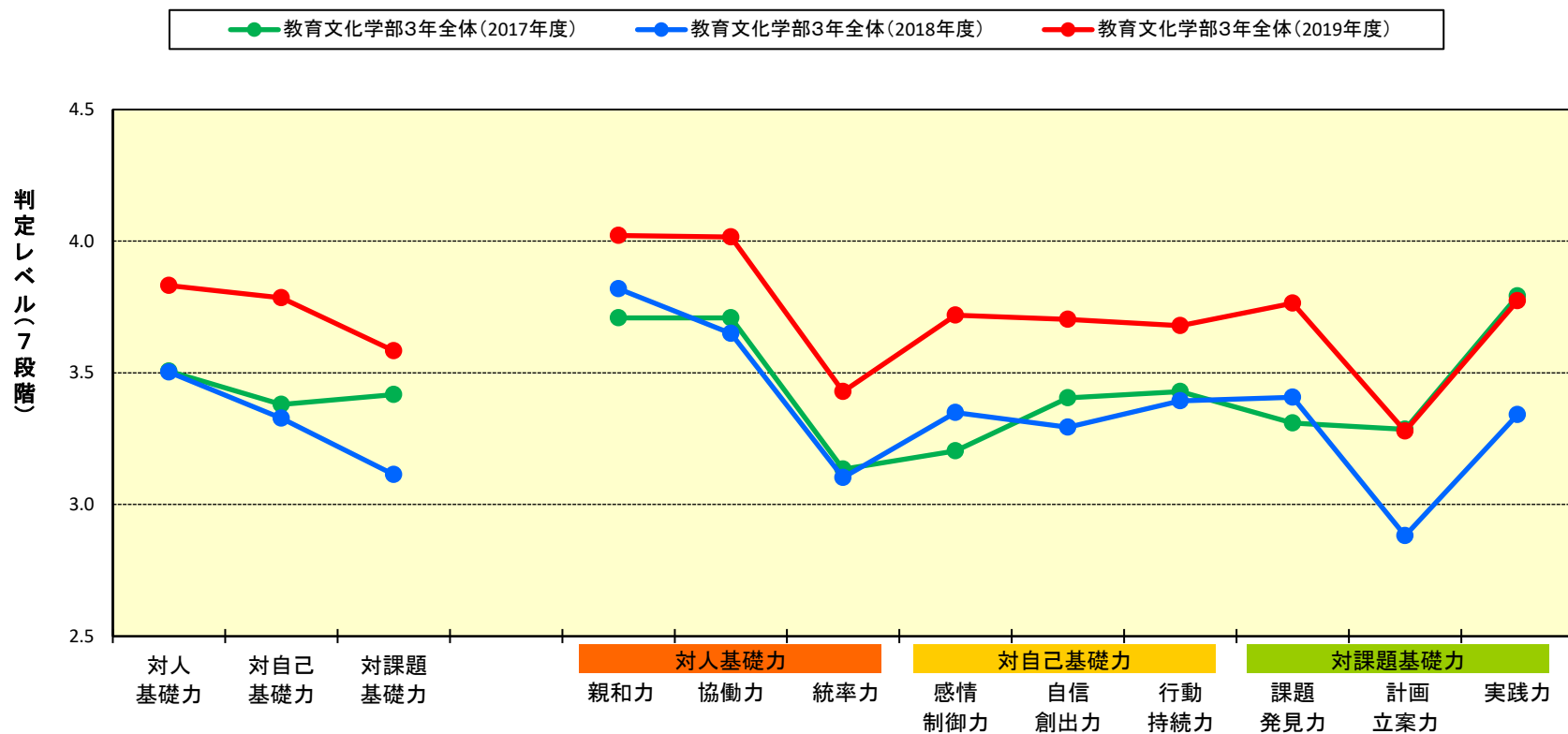
コンピテンシー要素の伸長

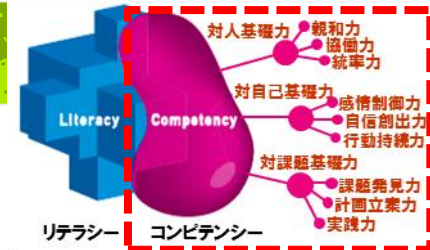


【教育文化学部3年全体】

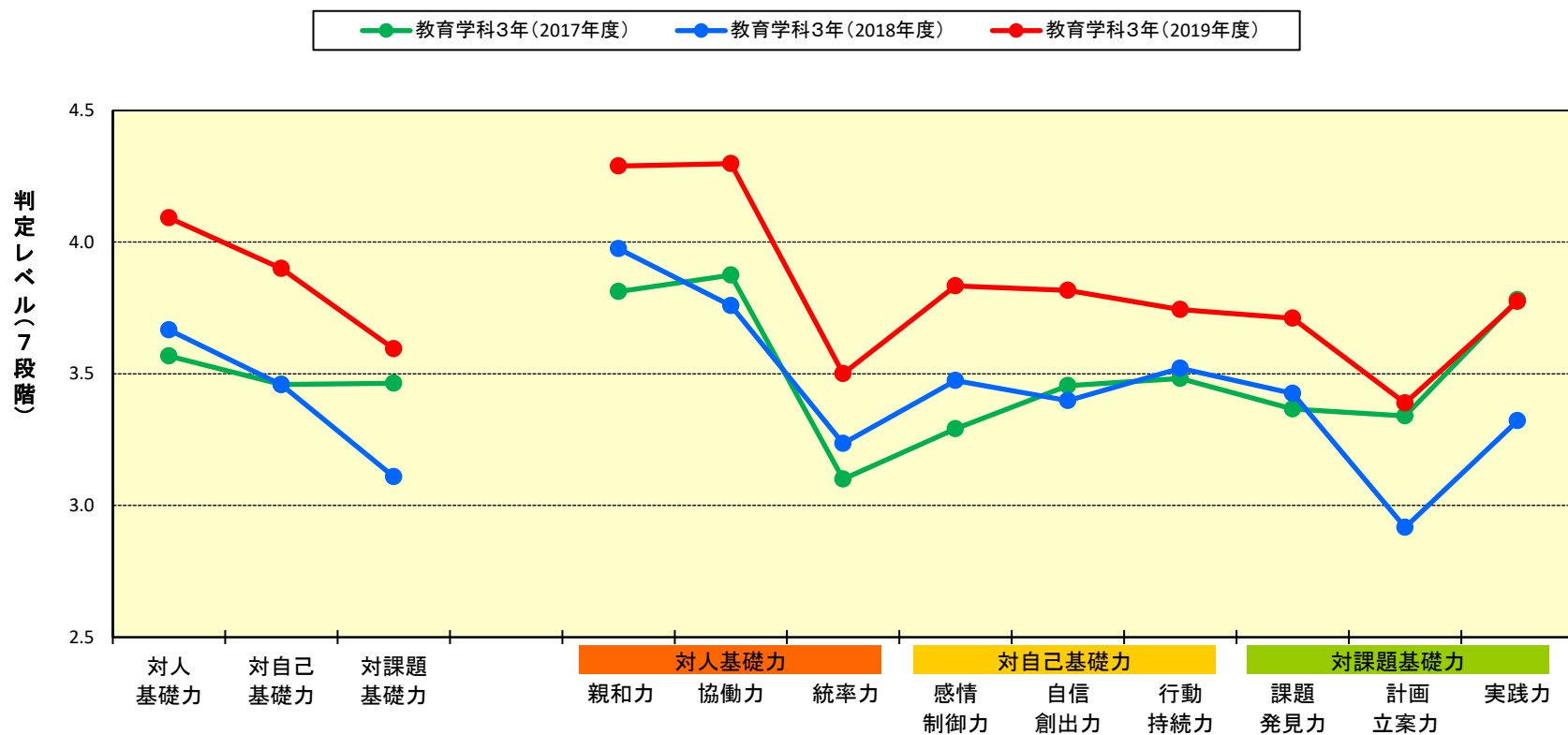


コンピテンシー要素の伸長

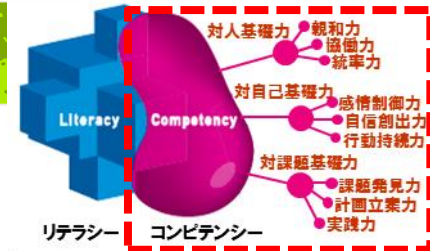




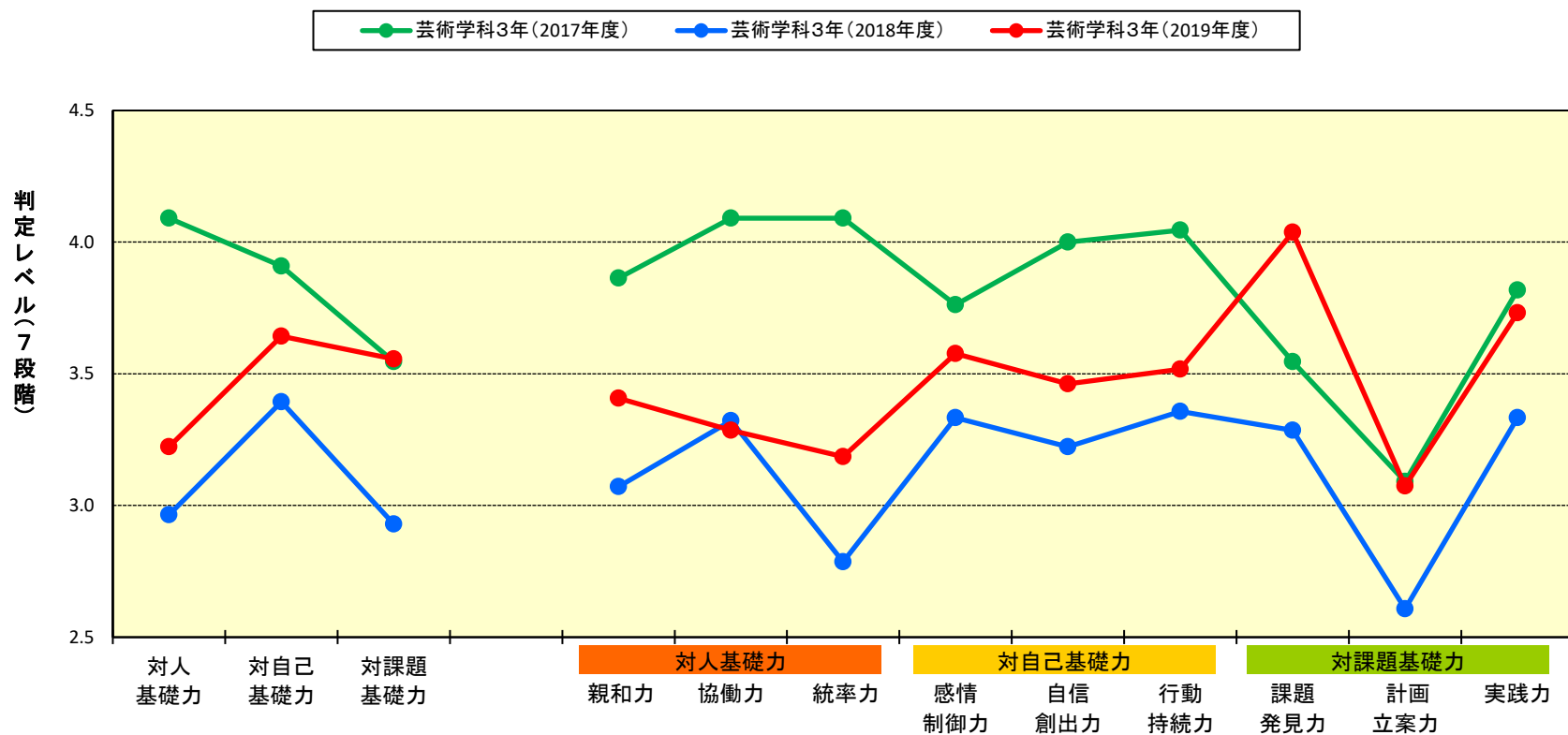
コンピテンシー要素の伸長



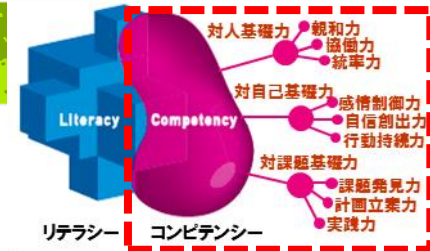
【芸術学科3年】



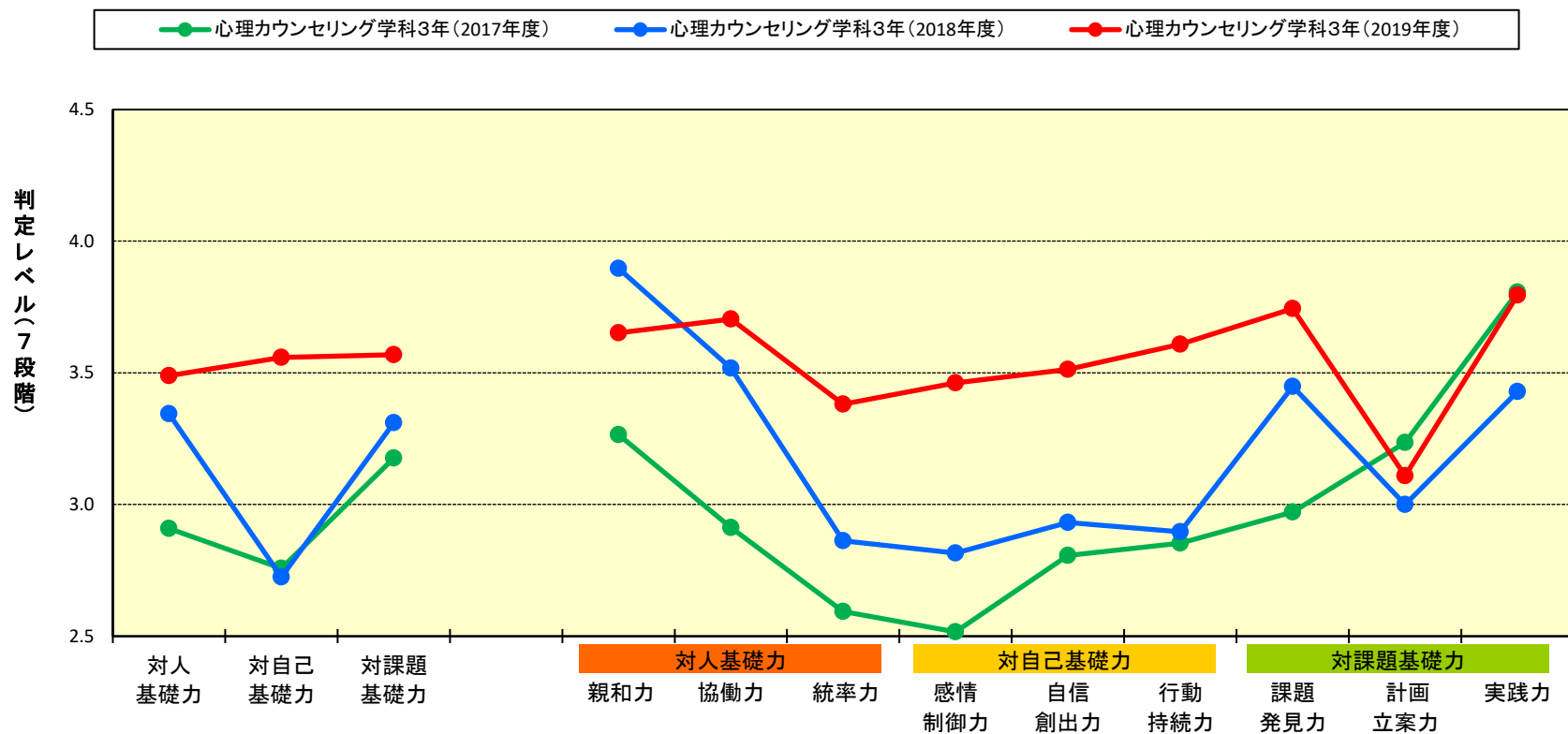
コンピテンシー要素の伸長



【心理カウンセリング学科3年】



コンピテンシー要素の伸長

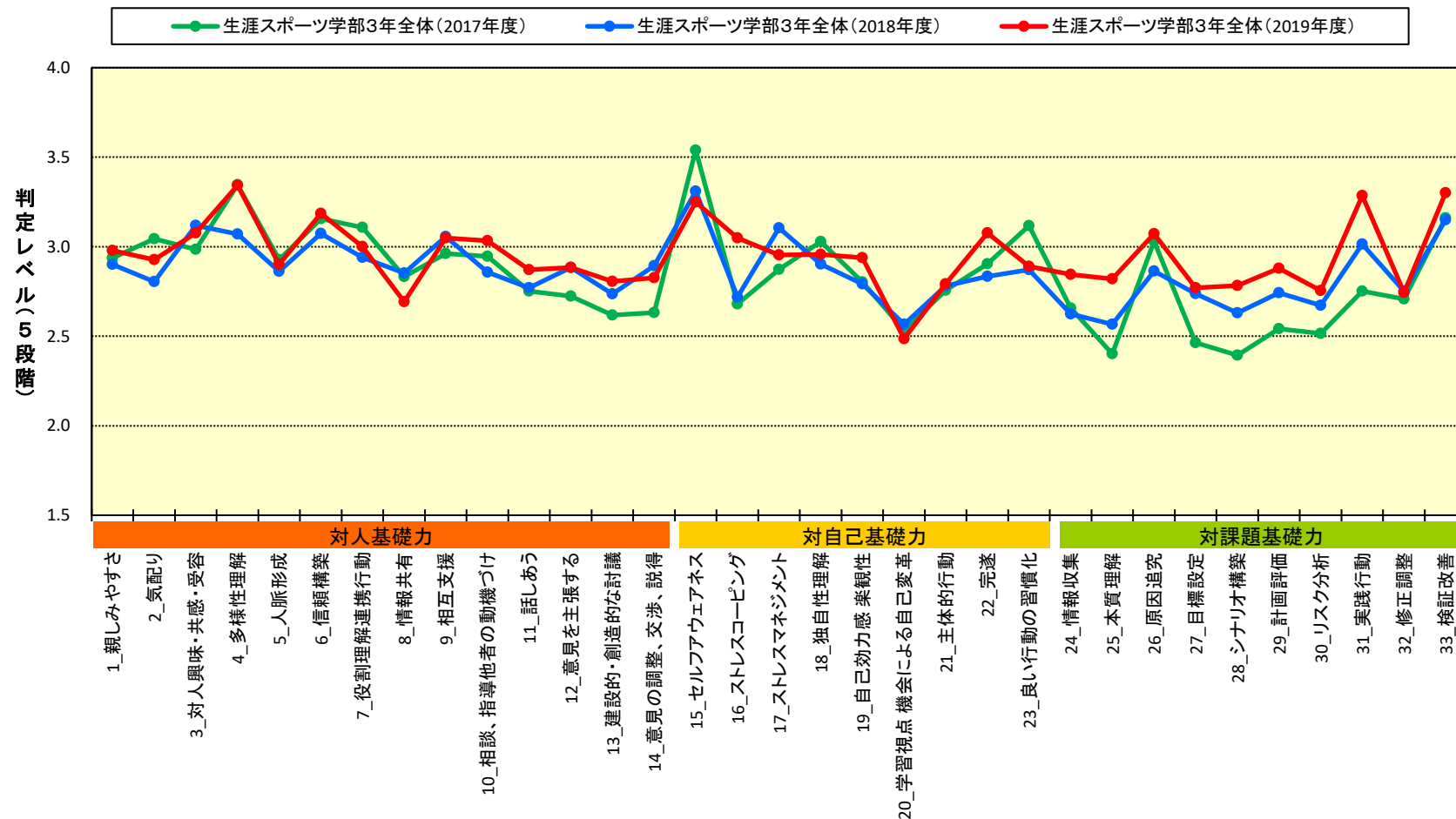


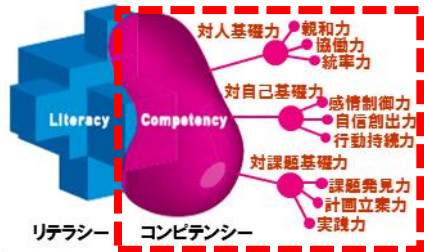
コンピテンシー小分類要素（過去の受験者との比較）①

【生涯スポーツ学部3年全体】

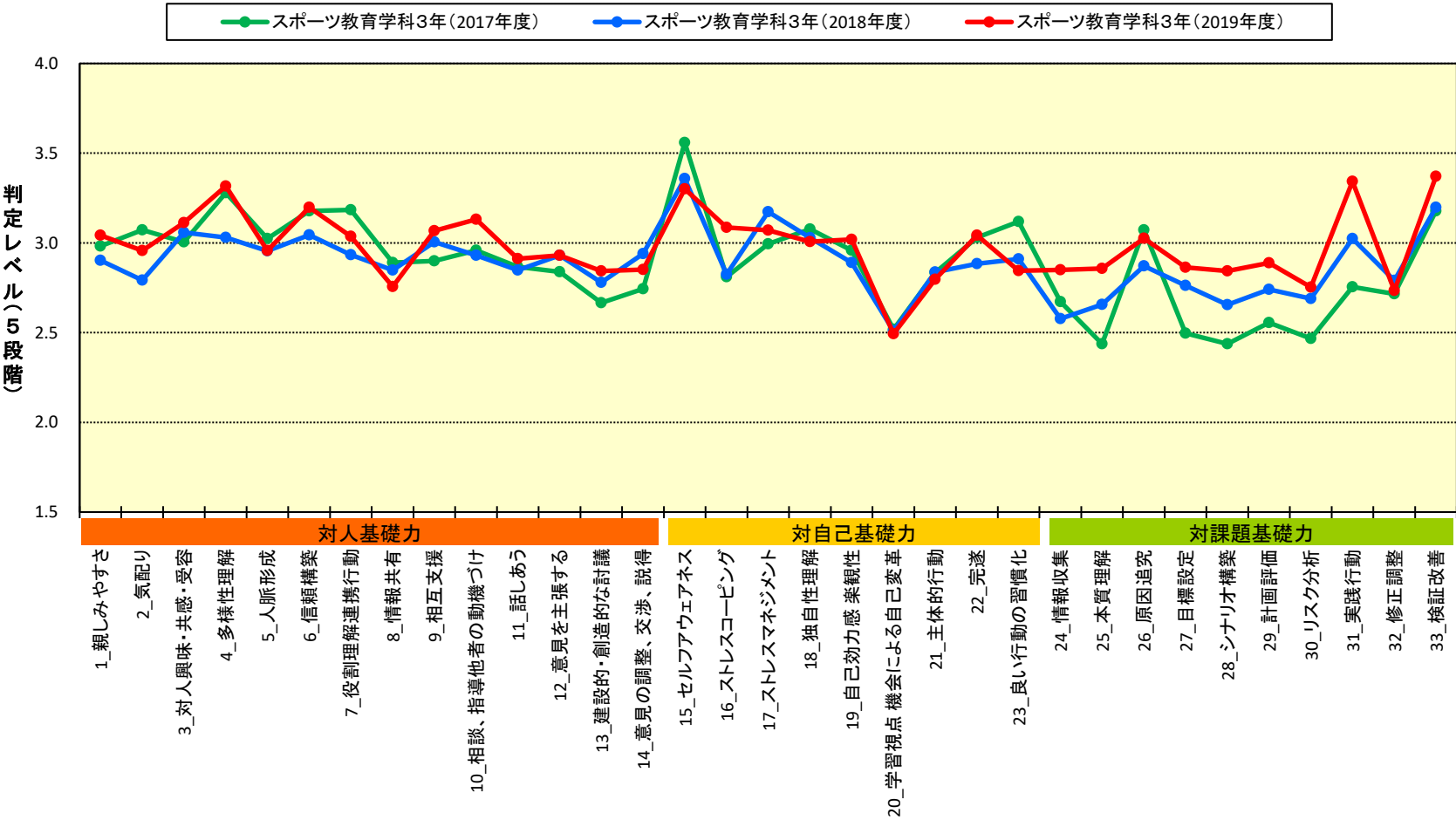


コンピテンシー小分類要素

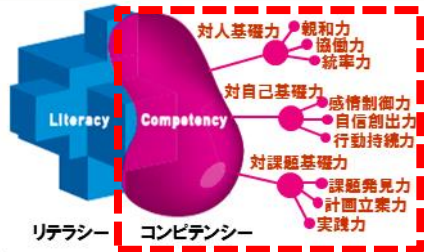




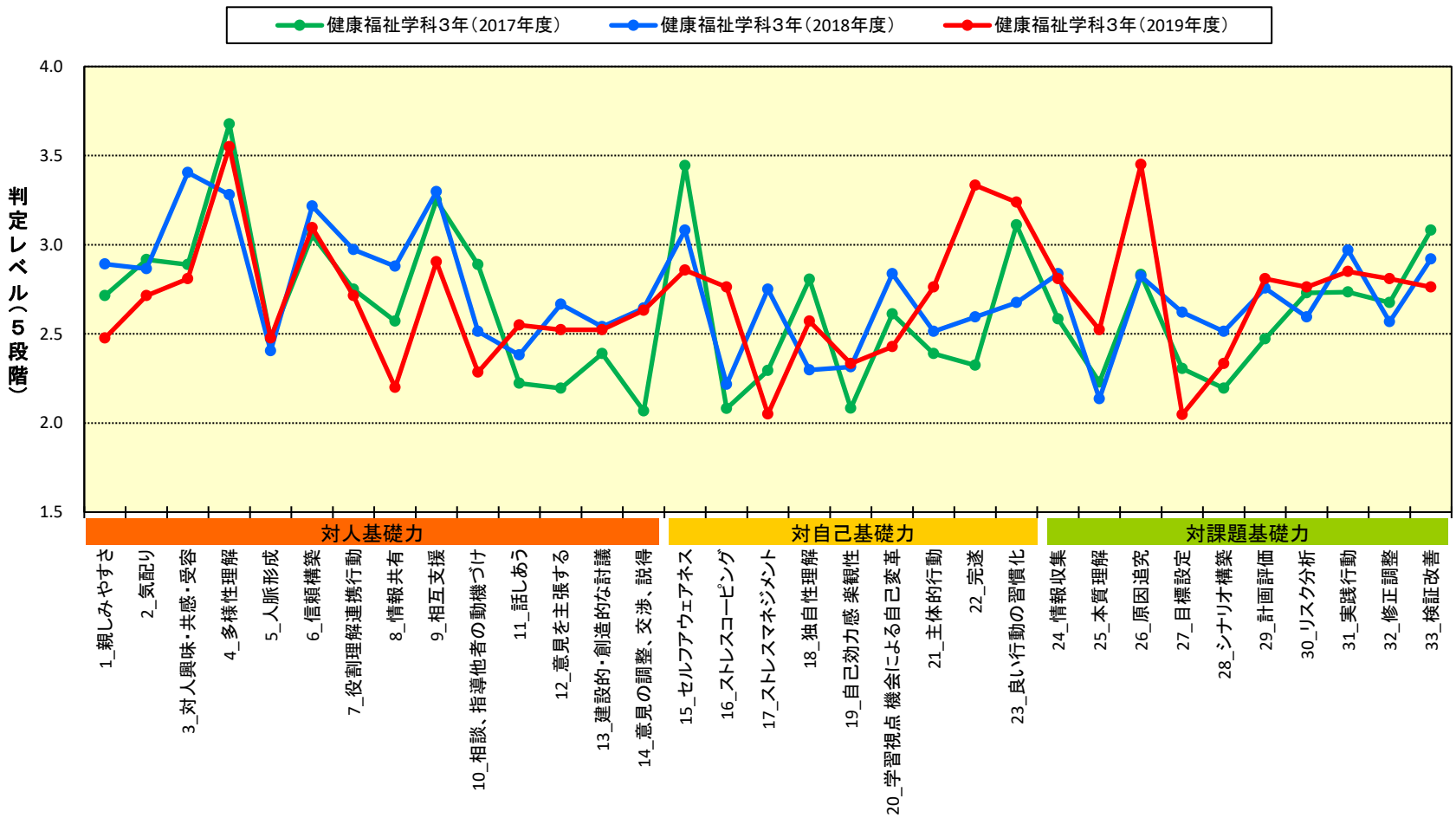
コンピテンシー小分類要素



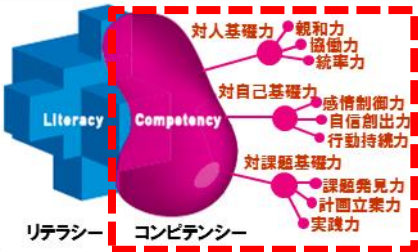
【健康福祉学科3年】



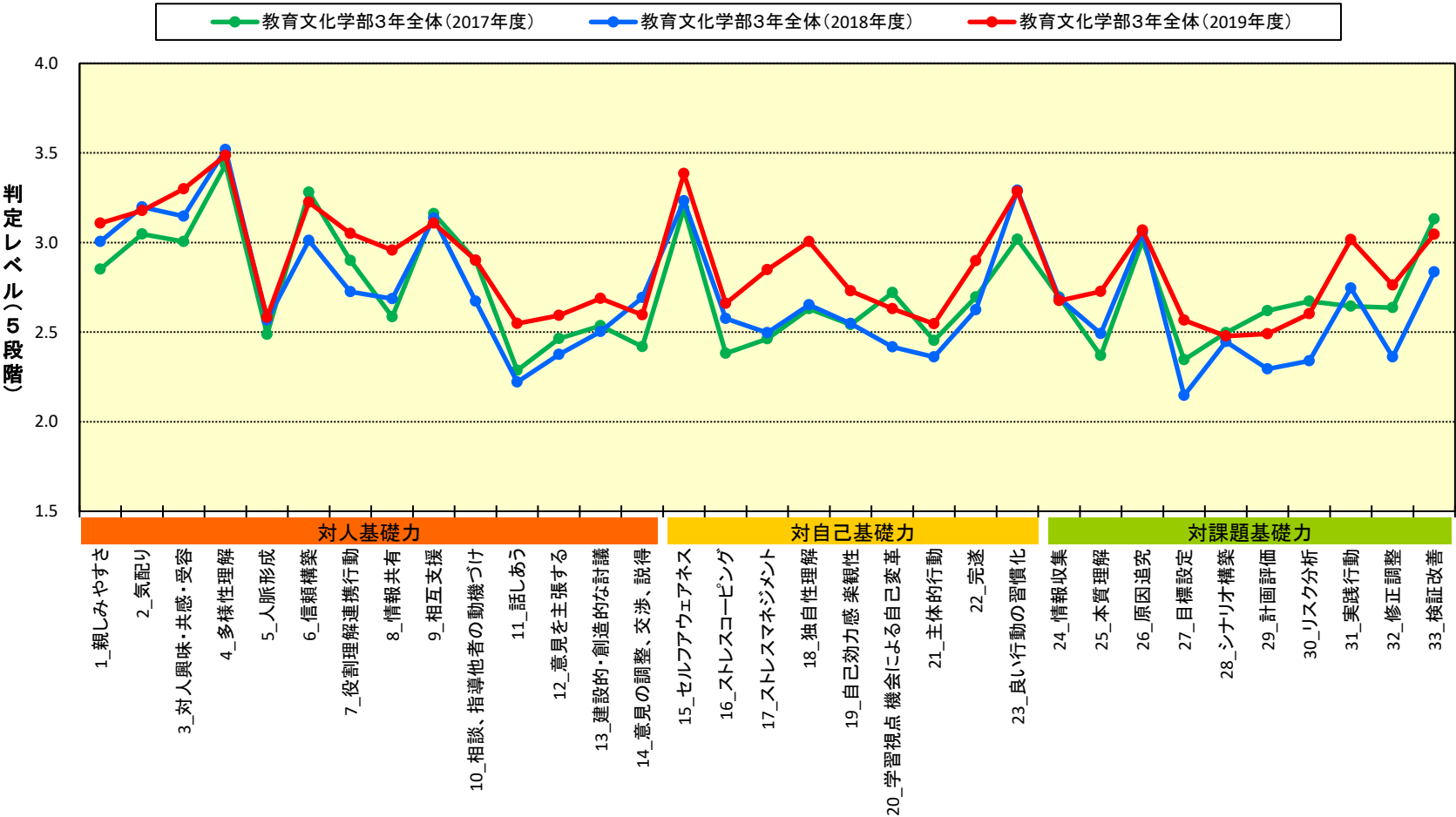
コンピテンシー小分類要素



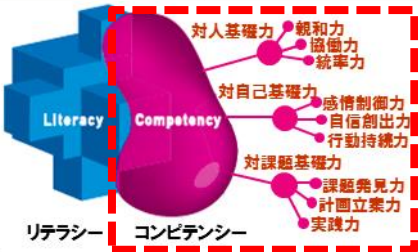
【教育文化学部3年全体】



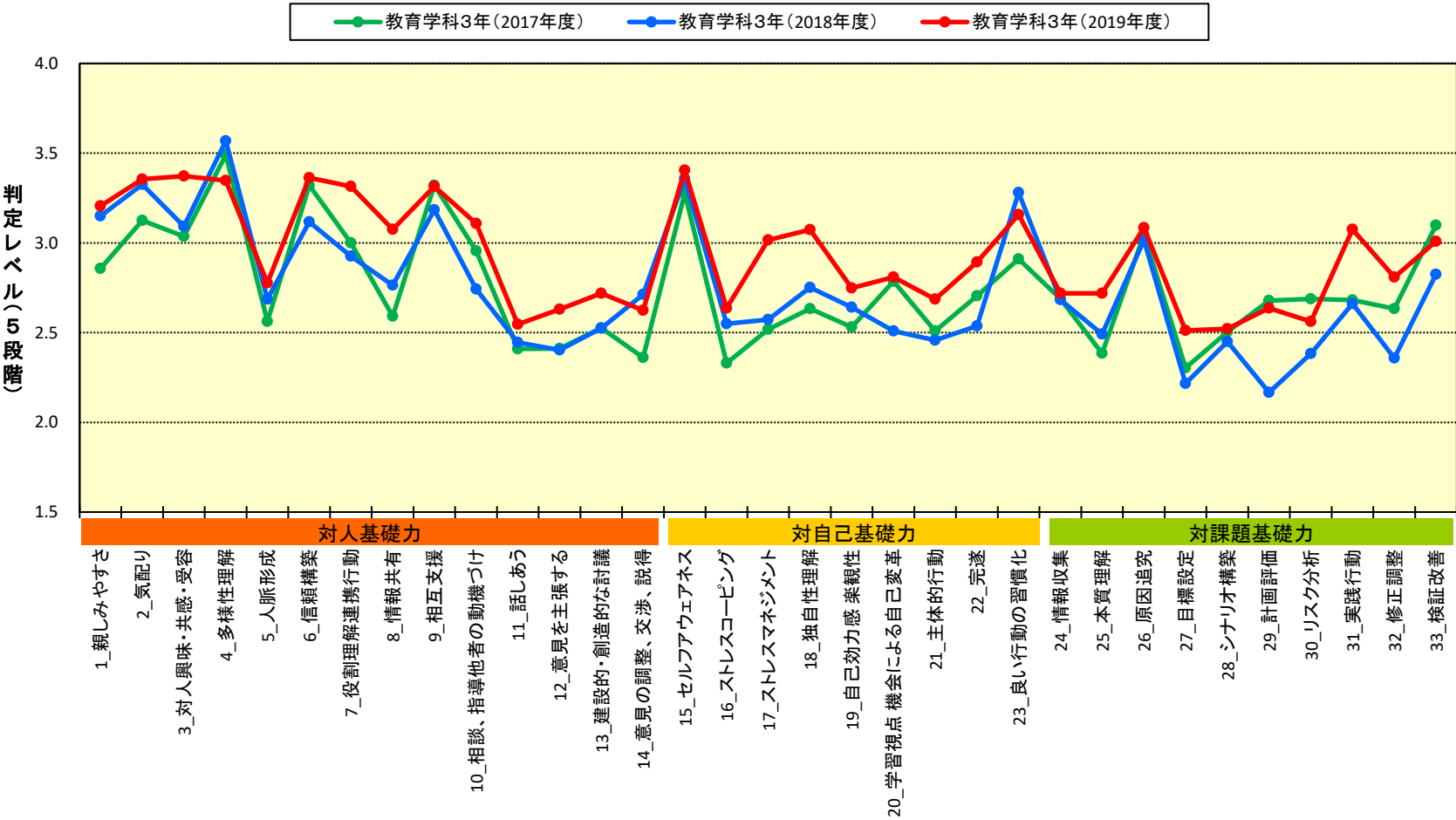
コンピテンシー小分類要素



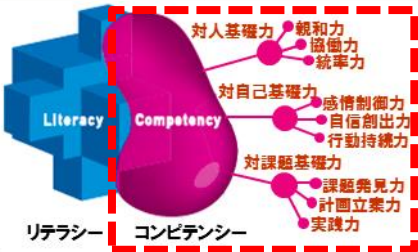
【教育学科3年】



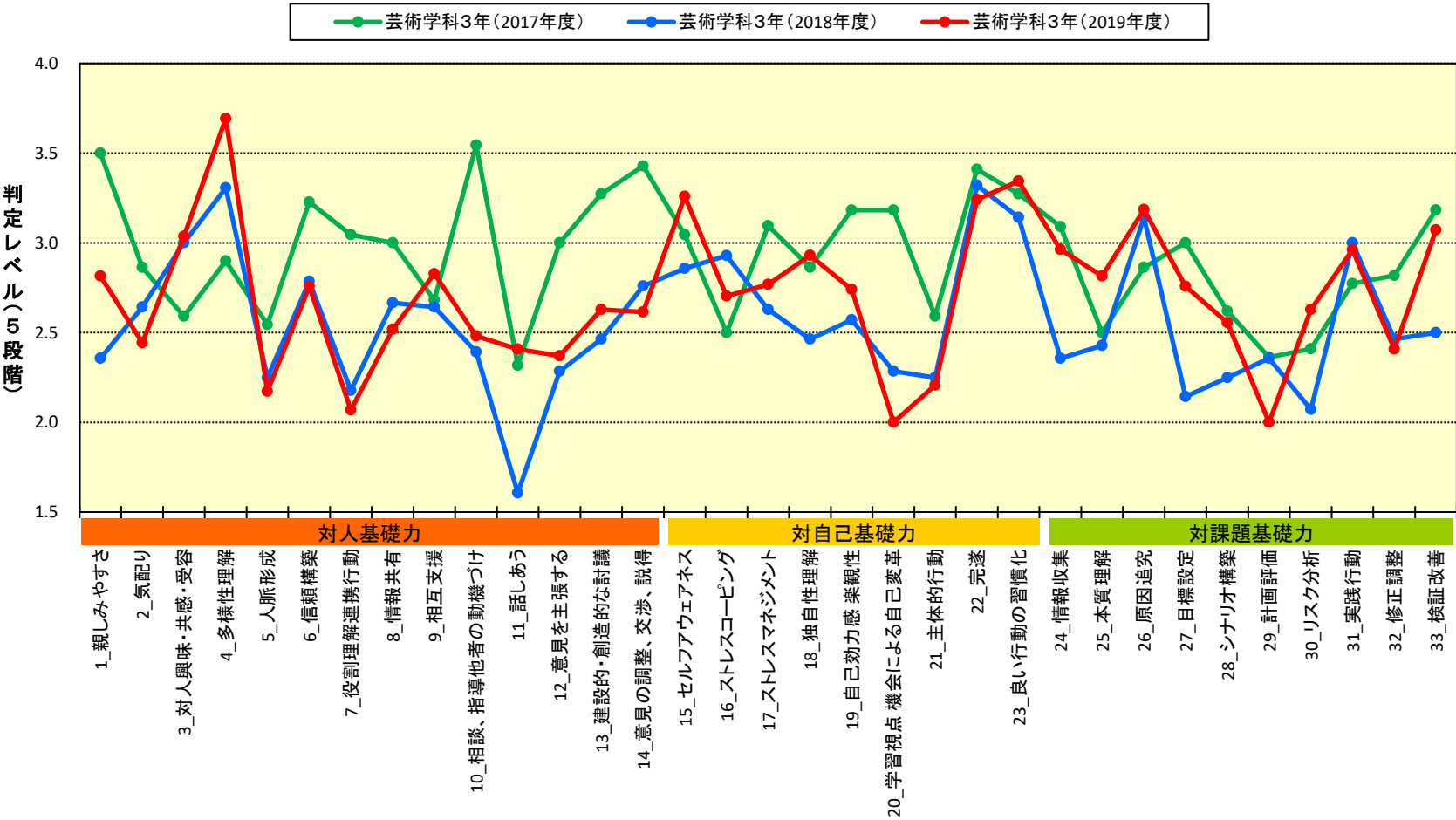
コンピテンシー小分類要素



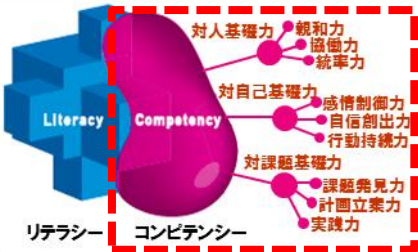
【芸術学科3年】



コンピテンシー小分類要素



【心理カウンセリング学科3年】



コンピテンシー小分類要素

